

日野市

平山遺跡

— 一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 その2 —

第2分冊



2024・8

東京都埋蔵文化財センター

日野市

平山遺跡

— 一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 その2 —

第2分冊



2024・8

東京都埋蔵文化財センター

例 言

1 本文用例等

・本書で掲載・参照した地形図等は、以下のとおりである。

第 617 図：「日野市域小字限り切絵図」（日野市所蔵）

第 1 分冊第 2 図：株式会社ミッドマップ東京「東京都 2,500 デジタル白地図 2015」

（承認番号 6 都市基交著第 25 号及び 6 都市基交測第 61 号）

目 次

IV 遺構と遺物	2) 遺物	363
5 古代	A 陶磁器	363
1) 遺構と遺構出土遺物	B 石製品	363
A 竪穴建物跡	C 金属製品	365
B 掘立柱建物跡・ピット	V 自然科学分析	
C 溝	1 放射性炭素年代測定	367
D 土坑	2 日野市平山遺跡出土土器の残存脂質分析	
E 集石		374
F 焼土跡	3 日野市平山遺跡出土炭化材の樹種同定	383
2) 遺構外出土遺物	4 平山遺跡から出土した炭化種実	388
A 土師器・須恵器	5 平山遺跡から出土した炭化種実(補足)	397
B 研磨片	6 日野市平山遺跡出土土器の圧痕同定 (2)	400
C 金属製品	7 平山遺跡のテフラ分析	415
6 中世	VI 調査の成果と課題	
1) 遺構と遺構出土遺物	1 旧石器時代	421
A 道路跡	2 縄文時代	422
B 土坑	3 弥生時代終末期から古墳時代前期の集落	422
2) 遺構外出土遺物	4 弥生時代終末期から古墳時代前期の土器	426
A 陶器・陶製品	5 古代	435
B 金属製品	6 中世・近世以降	438
7 近世以降	引用・参考文献	441
1) 遺構	報告書抄録	
A 農事関連遺構群		
B 埋喪		

挿図目次

第277図	古代～中世遺構分布図・区割図(1/1,200・1/3,000)	2	第320図	SI22写真(2)	51
第278図	古代～中世遺構分布図区割図(1)(1/500)	3	第321図	SI22出土遺物(1/3)	52
第279図	古代～中世遺構分布図区割図(2)(1/500)	4	第322図	SI22出土遺物写真	53
第280図	古代～中世遺構分布図区割図(3)(1/500)	5	第323図	SI23(1)(1/60)	54
第281図	SI18(1)(1/60)	6	第324図	SI23(2)・遺物出土状況図(1/60)	55
第282図	SI18(2)カマド(1/30)	7	第325図	SI23(3)カマド(1/30)	56
第283図	SI18(3)遺物分布・接合図(1/60)	8	第326図	SI23(4)遺物分布図(1/60)	57
第284図	SI18写真(1)	10	第327図	SI23(5)遺物接合図(土師器)(1/60)	58
第285図	SI18写真(2)	11	第328図	SI23(6)遺物接合図(須恵器)(1/60)	59
第286図	SI18出土遺物(1/3・1/2)	12	第329図	SI23写真(1)	60
第287図	SI18出土遺物写真	13	第330図	SI23写真(2)	61
第288図	SI19(1)(1/60)	14	第331図	SI23出土遺物(1)(1/3)	62
第289図	SI19(2)(1/60)	15	第332図	SI23出土遺物(2)(1/3)	63
第290図	SI19(3)カマド(1/30)	16	第333図	SI23出土遺物写真	64
第291図	SI19(4)遺物分布図(1/60)	18	第334図	SI25(1)(1/60)	67
第292図	SI19(5)遺物接合図(1/60)	19	第335図	SI25(2)カマド(1/30)	68
第293図	SI19写真(1)	20	第336図	SI25(3)遺物分布・接合図(1/60)	69
第294図	SI19写真(2)	21	第337図	SI25写真(1)	70
第295図	SI19出土遺物(1)(1/3)	22	第338図	SI25写真(2)	71
第296図	SI19出土遺物(2)(1/6)	23	第339図	SI25出土遺物(1/3・1/2)	72
第297図	SI19出土遺物写真	24	第340図	SI25出土遺物写真	73
第298図	SI20(1)(1/60)	26	第341図	SI26(1)(1/60)	76
第299図	SI20(2)カマド(1/30)	27	第342図	SI26(2)カマド(1/30)	77
第300図	SI20(3)遺物分布・接合図(1/60)	28	第343図	SI26(3)カマド・遺物分布図(1/60)	78
第301図	SI20写真(1)	30	第344図	SI26(4)遺物接合図(1/60)	79
第302図	SI20写真(2)	31	第345図	SI26写真(1)	80
第303図	SI20出土遺物(1/3)	32	第346図	SI26写真(2)	81
第304図	SI20出土遺物写真	33	第347図	SI26出土遺物(1)(1/3)	82
第305図	SI21(1)(1/60)	34	第348図	SI26出土遺物(2)(1/3)	83
第306図	SI21(2)(1/60)	35	第349図	SI26出土遺物(3)(1/2)	84
第307図	SI21(3)東カマド(1/30)	36	第350図	SI26出土遺物写真(1)	86
第308図	SI21(4)北カマド(1/30)	37	第351図	SI26出土遺物写真(2)	87
第309図	SI21(5)遺物分布・接合図(1/60)	38	第352図	SI27(1)(1/60)	90
第310図	SI21写真(1)	39	第353図	SI27(2)	91
第311図	SI21写真(2)	40	第354図	SI27(3)東カマド(1/30)	92
第312図	SI21写真(3)	41	第355図	SI27(4)北カマド(1/30)	93
第313図	SI21出土遺物(1/3・1/2)	42	第356図	SI27(5)遺物分布・接合図(1/60)	94
第314図	SI21出土遺物写真	43	第357図	SI27写真(1)	95
第315図	SI22(1)(1/60)	45	第358図	SI27写真(2)	96
第316図	SI22(2)(1/60)	46	第359図	SI27写真(3)	97
第317図	SI22(3)カマド(1/30)	47	第360図	SI27出土遺物(1)(1/3)	98
第318図	SI22(4)遺物分布・接合図(1/60)	48	第361図	SI27出土遺物(2)(1/3・1/2)	99
第319図	SI22写真(1)	50	第362図	SI27出土遺物写真(1)	100

第363図	SI27出土遺物写真(2)	101	第409図	SI33写真(2)	154
第364図	SI28(1/60)	103	第410図	SI33写真(3)	155
第365図	SI28写真	104	第411図	SI33出土遺物(1/3・1/2)	156
第366図	SI28出土遺物(1/3)	105	第412図	SI33出土遺物写真	157
第367図	SI28出土遺物写真	105	第413図	SI36(1)(1/60)	160
第368図	SI29(1)(1/60)	106	第414図	SI36(2)カマド(1/30)	161
第369図	SI29(2)(1/60)	107	第415図	SI36(3)遺物分布・接合図(1/60)	162
第370図	SI29(3)北カマド(1/30)	108	第416図	SI36写真(1)	164
第371図	SI29(4)西カマド(1/30)	109	第417図	SI36写真(2)	165
第372図	SI29(5)遺物分布図(1/60)	110	第418図	SI36出土遺物(1)(1/3)	166
第373図	SI29(6)遺物接合図(1/60)	111	第419図	SI36出土遺物(2)(1/2)	167
第374図	SI29写真(1)	112	第420図	SI36出土遺物写真(1)	168
第375図	SI29写真(2)	113	第421図	SI36出土遺物写真(2)	169
第376図	SI29写真(3)	114	第422図	SI40(1)(1/60)	172
第377図	SI29出土遺物(1)(1/3)	115	第423図	SI40(2)	173
第378図	SI29出土遺物(2)(1/3・1/2)	116	第424図	SI40(3)北カマド(1/30)	174
第379図	SI29出土遺物(3)(1/3・1/2)	117	第425図	SI40(4)東カマド(1/30)・焼土・遺物出土状況図(1/60)	175
第380図	SI29出土遺物写真(1)	118	第426図	SI40(5)遺物分布・接合図(1/60)	176
第381図	SI29出土遺物写真(2)	119	第427図	SI40写真(1)	177
第382図	SI29出土遺物写真(3)	120	第428図	SI40写真(2)	178
第383図	SI30(1)(1/60)	123	第429図	SI40写真(3)	179
第384図	SI30(2)カマド(1/30)	124	第430図	SI40出土遺物(1)(1/3)	180
第385図	SI30(3)遺物出土状況図(1/60)	125	第431図	SI40出土遺物(2)(1/3・2/3・1/2)	181
第386図	SI30(4)遺物分布・接合図(1/60)	126	第432図	SI40出土遺物写真(1)	182
第387図	SI30写真(1)	127	第433図	SI40出土遺物写真(2)	183
第388図	SI30写真(2)	128	第434図	SI51(1)(1/60)	186
第389図	SI30写真(3)	129	第435図	SI51(2)カマド(1/30)・遺物分布図(1/60)	187
第390図	SI30出土遺物(1)(1/3)	130	第436図	SI51写真(1)	188
第391図	SI30出土遺物(2)(1/3・1/2)	131	第437図	SI51写真(2)	189
第392図	SI30出土遺物写真(1)	132	第438図	SI51出土遺物(1/3)	190
第393図	SI30出土遺物写真(2)	133	第439図	SI51出土遺物写真	190
第394図	SI32(1)(1/60)	137	第440図	SI53(1)(1/60)	193
第395図	SI32(2)(1/60)	138	第441図	SI53(2)	195
第396図	SI32(3)カマド(1/30)	139	第442図	SI53(3)(1/60)	196
第397図	SI32(4)カマド	140	第443図	SI53(4)遺物分布図(1/60)	198
第398図	SI32(5)遺物分布・接合図(1/60)	141	第444図	SI53(5)遺物接合図(1/60)	199
第399図	SI32写真(1)	142	第445図	SI53写真(1)	200
第400図	SI32写真(2)	143	第446図	SI53写真(2)	201
第401図	SI32出土遺物(1)(1/3)	144	第447図	SI53写真(3)	202
第402図	SI32出土遺物(2)(1/3・1/2)	145	第448図	SI53写真(4)	203
第403図	SI32出土遺物写真(1)	146	第449図	SI53出土遺物(1)(1/3)	204
第404図	SI32出土遺物写真(2)	147	第450図	SI53出土遺物(2)(1/3・1/2)	205
第405図	SI33(1)(1/60)	150	第451図	SI53出土遺物写真	206
第406図	SI33(2)カマド(1/30)	151	第452図	SI54(1)・遺物出土状況図(1/60)	208
第407図	SI33(3)遺物分布・接合図(1/60)	152	第453図	SI54(2)遺物分布・接合図(1/60)	209
第408図	SI33写真(1)	153	第454図	SI54写真(1)	210

第455回	SI54写真(2)	211	第489回	SP582・588・592・597・601・602・605・607(1/40)	249
第456回	SI54出土遺物(1/3)	212	第490回	SP609・612・615・626・627・630・1060・SX21(1/40)	250
第457回	SI54出土遺物写真	213	第491回	SP404・405・406・407・408・409 ・410・411・413・414・416・419・420・421・422写真	251
第458回	SI55(1)(1/60)	215	第492回	SP424・428・429・430・431・433・434 ・435・436・437・438・439・440・441・443・444写真	252
第459回	SI55(2)カマ下(1/30)	216	第493回	SP446・447・449・451・453・455・457 ・458・459・460・461・464・467・468・469写真	253
第460回	SI55(3)遺物分布図(1/60)	217	第494回	SP470・471・472・473・476・480・481・482・483 ・484・485・486(右:掘立柱建物跡跡)・487・488写真	254
第461回	SI55写真(1)	218	第495回	SP492・493・494・495・500・501・502・504 ・505・506・507・509・510・511・512・513・514写真	255
第462回	SI55写真(2)	219	第496回	SP515・518・519・520・521・522・523・524 ・525・529・532・533・534・535・536・537写真	256
第463回	SI75(1)(1/60)	220	第497回	SP538・539・540・541・543・544・545・547 ・548・550・552・556・562・563・564・565・566写真	257
第464回	SI75(2)カマ下(1/30)	221	第498回	SP567・568・569・570・571・573・574 ・578・581・582・588・592・597・601・607写真	258
第465回	SI75(3)遺物分布図(1/60)	222	第499回	SP602・605・609・612・613・615 ・620・626・627・630・1060・SX21写真	259
第466回	SI75写真(1)	223	第500回	SD9・11(1/60・1/30)	264
第467回	SI75写真(2)	224	第501回	SD10(1/80・1/40)	265
第468回	古代遺構間接接合図(1/200・1/600)	227	第502回	SD9・10・11写真	266
第469回	掘立柱建物跡A(1) SP415・425・426 ・427・432・448・450・474・496・497・498・499(1/60)	228	第503回	SK53・54・55・56(1/40)	269
第470回	掘立柱建物跡A(2) SP415・425・426 ・432・427・448・450・474・496・497・498・499	229	第504回	SK57・58・59・60・61(1/40)	270
第471回	掘立柱建物跡A SP415・425・426 ・432・427・448・450・474・496・497・498・499写真	230	第505回	SK62・63・64・65(1/40)	271
第472回	掘立柱建物跡B SP475・477・478・486・489・490・491写真	231	第506回	SK66・67・68・70(1/40)	273
第473回	掘立柱建物跡B(1) SP475・477・478・486・489・490・491(1/60)	232	第507回	SK71・72・73・74・75(1/40)	274
第474回	掘立柱建物跡B(2) SP475・477・478・486・489・490・491	233	第508回	SK76・77・78・80・81(1/40)	275
第475回	掘立柱建物跡C(1) SP553 ・554・555・557・558・559・623・624・625(1/60)	234	第509回	SK85・86・87・88・89(1/40)	276
第476回	掘立柱建物跡C(2) SP553 ・554・555・557・558・559・623・624・625	235	第510回	SK90・91・92・94・95・96(1/40)	278
第477回	掘立柱建物跡C SP553 ・554・555・557・558・559・623・624・625写真	236	第511回	SK97・98・99・100・101・103(1/40)	279
第478回	SP404・405・406・407・408・409・410・411・413(1/40)	238	第512回	SK102・104・105・106(1/40)	280
第479回	SP414・416・419・420・421・422・424・428(1/40)	239	第513回	SK108・109・110・112・114(1/40)	282
第480回	SP429・430・431・433・434・436・437・438(1/40)	240	第514回	SK115・117・118・119・120(1/40)	283
第481回	SP439・440・441・443・444・446・447・449(1/40)	241	第515回	SK121・122・123・124・125(1/40)	284
第482回	SP451・453・455・457・458・459・461・467・468(1/40)	242	第516回	SK126・127・128・129・130・131(1/40)	286
第483回	SP469・470・471・472・473・476・480・481(1/40)	243	第517回	SK132・134・135・136(1/40)	287
第484回	SP482・483・484・485・487・488 ・492・494・495・500・501・502・504(1/40)	244	第518回	SK137・138・139・140・141(1/40)	288
第485回	SP505・509・510・511・512・513・514・515・518(1/40)	245	第519回	SK142・143・144・145(1/40)	289
第486回	SP519・522・523・524・525 ・529・532・533・534・535・537(1/40)	246	第520回	SK146・147・148・149(1/40)	290
第487回	SP539・540・541・542・543 ・545・547・548・549・550(1/40)	247	第521回	SK150・151・152・158・160(1/40)	291
第488回	SP552・556・562・563・566・570・573・578・581(1/40)	248	第522回	SK155(1/40・1/20)	292
			第523回	SK159・162・164・166・171(1/40)	293
			第524回	SK172・174・179・181・209(1/40)	294
			第525回	SK187・300(1/40)	295

第526図	SK53・54・55・56・57・58・59写真	296	第572図	近世以降の遺構分布図(1/1/200)	352
第527図	SK60・61・62・63・64写真	297	第573図	近世以降の遺構分布図(2/1/200)	353
第528図	SK65・66・67・68・69・70・71写真	298	第574図	近世以降の遺構分布図(3/1/200)	354
第529図	SK72・73・74・75・76・77・78・80写真	299	第575図	近世以降の遺構分布図(4/1/200)	355
第530図	SK81・85・86・87・88・89・90・91写真	300	第576図	近世以降の遺構分布図(5/1/200)	356
第531図	SK92・94・95・96・97・98・99・100写真	301	第577図	近世以降の遺構分布図(6/1/200)	357
第532図	SK101・102・103・104・105・106・108写真	302	第578図	SKK196・197・346・347・376・377・381(1/40)	358
第533図	SK109・110・112・114・115・117・118写真	303	第579図	SDK609・839・481・482・483・484・485 +SKK473・SP598・600・SKK1(1/40)	359
第534図	SK119・120・121・122・123・124・125写真	304	第580図	農事関連遺構全景写真(1)	360
第535図	SK126・127・128・129・130・131・132・134写真	305	第581図	農事関連遺構全景写真(2)	361
第536図	SK135・136・137・138・139・140・141写真	306	第582図	農事関連遺構写真	362
第537図	SK142・143・144・145・146・147・148・149写真	307	第583図	SKX1写真	363
第538図	SK150・160・SKK691・151・152・156・157・158写真	308	第584図	SKX1出土遺物(1/6)	364
第539図	SK155写真	309	第585図	近世出土陶磁器写真	364
第540図	SK159・162・164・166・170・171・172写真	310	第586図	近世以降出土遺物(1/3・2/3・1/2)	365
第541図	SK174・179・181・187・299・300写真	311	第587図	近世以降出土遺物写真	365
第542図	SS8・9(1/30)	316	第588図	単体試料の暦年校正結果	371
第543図	SS8・9写真	317	第589図	ウィグルマッピング結果	372
第544図	SS8・9出土遺物(1/3・1/2)	318	第590図	ウィグルマッピング試料の試料写真と年輪計測結果	373
第545図	SS8・9出土遺物写真	318	第591図	土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体組成と C/N比を現生日本産生物データと比較	377
第546図	SK18・19・20(1/30)	319	第592図	ハルミリン酸、ステアリン酸の分子レベル炭素同位体 組成を、現生日本産生物データと比較、現生生物から 推定される各端成分の領域を模写で示した	380
第547図	SK18・19・20写真	320	第593図	炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)	386
第548図	遺構外出出土遺物(1/1/3)	322	第594図	炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)	387
第549図	遺構外出出土遺物(2/1/3)	323	第595図	平山遺跡から出土した炭化種実	396
第550図	遺構外出出土遺物(3/1/2)	324	第596図	平山遺跡から出土した炭化種実(補足)	399
第551図	遺構外出出土遺物写真(1)	325	第597図	弥生時代後期から古墳時代前期の丘倉出土率比較グラフ	403
第552図	遺構外出出土遺物写真(2)	326	第598図	分類群別丘倉SEM写真(1)	408
第553図	金属製品軟X線・X線CT写真(1)	330	第599図	分類群別丘倉SEM写真(2)	409
第554図	金属製品軟X線・X線CT写真(2)	331	第600図	分類群別丘倉SEM写真(3)	410
第555図	SF3(1)(1/80)	334	第601図	種実丘倉SEM写真(報告書掲載土器)(1)	411
第556図	SF3(2)(1/40)	336	第602図	種実丘倉SEM写真(報告書掲載土器)(2)	412
第557図	SF3(3)	337	第603図	種実丘倉SEM写真(報告書掲載土器)(3)	413
第558図	SF3(4)(1/160)	338	第604図	種実丘倉SEM写真(実測図未掲載土器)と土器写真	414
第559図	SF3(5)(1/160)	339	第605図	火山ガラスの屈折率測定結果	417
第560図	SF3写真(1)	340	第606図	堆積物の含水率・含砂量率・粒度組成・鉱物組成の分布図	417
第561図	SF3写真(2)	341	第607図	テフラ試料の1φ篩残渣のマイクロスコブ写真	419
第562図	SF3写真(3)	342	第608図	テフラ粒子の偏光顕微鏡写真	420
第563図	SF3出土遺物(1/6・1/2)	343	第609図	弥生時代終末期～古墳時代前期集落変遷図(1/1,500)	425
第564図	SF3出土遺物写真	344	第610図	平山遺跡の土器分類(1)(1/10)	428
第565図	SK173(1/40)	345	第611図	平山遺跡の土器分類(2)(1/10)	429
第566図	SK173写真	345	第612図	平山遺跡の土器の変遷(1)(1/10)	430
第567図	SK173出土遺物(2/3)	346	第613図	平山遺跡の土器の変遷(2)(1/10)	431
第568図	遺構外出出土陶器・陶製品(1/3・1/2)	347			
第569図	中世出土陶器写真	348			
第570図	遺構外出出土金属製品(2/3)	348			
第571図	近世以降の遺構分布図・区別図(1/1,200・1/3,000)	351			

第614図	平山遺跡の土器の変遷(3)(1/10)	432
第615図	須恵器産地同定集計図	435

第616図	古代墨書土器赤外線写真	437
第617図	字塚岡・調査区と近世以降の遺構(1/2,000)	439

表 目 次

第34表	SI18出土遺物観察表	13
第35表	SI19出土遺物観察表	25
第36表	SI20出土遺物観察表	33
第37表	SI21出土遺物観察表	44
第38表	SI22出土遺物観察表	53
第39表	SI23出土遺物観察表(1)・(2)	65・66
第40表	SI25出土遺物観察表	74
第41表	SI26出土遺物観察表(1)・(2)	88・89
第42表	SI27出土遺物観察表	102
第43表	SI28出土遺物観察表	105
第44表	SI29出土遺物観察表(1)・(2)	120・121
第45表	SI30出土遺物観察表(1)・(2)	134・135
第46表	SI32出土遺物観察表(1)・(2)	148・149
第47表	SI33出土遺物観察表	158
第48表	SI36出土遺物観察表	170
第49表	SI40出土遺物観察表(1)・(2)	184・185
第50表	SI51出土遺物観察表	190
第51表	SI53出土遺物観察表	207
第52表	SI54出土遺物観察表	213
第53表	古代竪穴建物跡一覧表	226
第54表	古代～中世ピット一覧表(1)～(4)	260～263
第55表	古代～中世土坑一覧表(1)～(4)	312～315
第56表	SS8出土土器観察表	318
第57表	遺構外出土遺物観察表(1)～(3)	327～329
第58表	古代土製品観察表	329
第59表	古代研磨片観察表	329
第60表	古代石製品観察表	329
第61表	古代金属製品観察表	332
第62表	SF3出土土製品観察表	344
第63表	SF3出土金属製品観察表	344
第64表	中世陶器・陶製品観察表	349
第65表	中世銭貨観察表	349
第66表	近世以降石製品観察表	366
第67表	近世以降銭貨・金属製品観察表	366
第68表	単体測定試料および処理	367

第69表	ウィグルマッピング 測定試料および処理	368
第70表	単体試料の放射性炭素年代測定および 暦年校正の結果	369
第71表	遺物No.SI34-164の放射性炭素年代測定、 暦年校正、ウィグルマッピングの結果	369
第72表	分析試料一覧	374
第73表	分析装置と標準試料	376
第74表	炭素・窒素安定同位体組成と炭素・ 窒素含有量、C/N比	376
第75表	脂質組成	378
第76表	炭素・窒素安定同位体組成と 炭素・窒素含有量、C/N比	379
第77表	遺構と時期別の樹種同定結果	383
第78表	樹種同定結果一覧	385
第79表	平山遺跡から出土した炭化種実(1)・(2) (括弧内は破片数)	392
第80表	平山遺跡から出土した炭化種実 (現地取上げ試料)	392
第81表	平山遺跡から出土した炭化種実(1)～(3) (括弧内は破片数)	393～395
第82表	現地取上げ炭化種実	398
第83表	遺構別土壌試料水流量と炭化イネ一覧	398
第84表	水洗選別土壌試料から得られた 炭化イネ一覧(括弧内は破片数)	399
第85表	対象資料の点数と重量	400
第86表	弥生時代終末期から古墳時代前期の 遺構、包含層別の圧痕同定結果	402
第87表	弥生時代後期から古墳時代前期の圧痕検出 率(土器10kgあたりの圧痕検出数)	403
第88表	圧痕が確認された土器の一覧(1)・(2) (括弧は残存値を示す)	406・407
第89表	分析試料とその特徴	415
第90表	土壌試料の湿式篩分け・重液分離の 結果	416
第91表	4φ篩残液中の藍物組成	416

5 古代

古代の竪穴建物跡 21 軒の他、古代～中世に帰属する掘立柱建物跡 3 棟、ピット 140 基、溝 3 条、土坑 110 基、集石 2 基、焼土跡 3 基について記載する。

古代の竪穴建物跡は、出土遺物から奈良時代～平安時代にかけての遺構と判断した。他の遺構については、出土する遺物量も少なく、一部を除いて遺物から帰属時期を特定することは困難であることから、覆土や検出面等の様相も含めて検討し、古代から中世に帰属すると見做したものを掲載することとした。

遺物は、竪穴建物跡を中心とする各遺構や包含層等から土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品（紡錘車、管状土鍾）、石器・石製品（台石、磨石、砥石、軽石、有孔石製品）、金属製品（板状青銅製品、鉄鏃、刀子、穂摘具、鉄釘）、鉄滓、炭化材、炭化種実が出土した。

1) 遺構と遺構出土遺物

A 竪穴建物跡（第 281～468・553・554 図、第 34～53・58・60・61 表）

古代の竪穴建物跡は 21 軒が検出された。遺構略号は SI である。

分布は、調査範囲の中央部から南西端にかけて 18 軒、北東部が 3 軒で、西寄りに集中する傾向にあるが、古代の竪穴建物跡どうしの重複は見られなかった。

帰属時期は、SI18・19・20・22・23・26・27・28・51・54 の 10 軒が奈良時代、SI21・25・29・30・32・33・36・40・53 の 9 軒が平安時代、出土遺物が少なく判然としないものが SI55・75 の 2 軒で、調査区南西寄りに奈良時代、中央部に平安時代のものが比較的纏まっていると言える。

以下、検出時に付加された遺構番号順に記す。

SI18（第 281～287・553 図、第 34・61 表）

遺構 調査区南西部の 30P・26・27・36・37 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、東側半分は掘削により大きく破壊され、床面と東壁が消滅している。また、近世以降の SDK60、SKK159・160・175 の各遺構に壁の一部を切られている他、南側 320cm には SI22、南西 400cm には SI23、北側 480cm には SI27 がそれぞれ隣接している（いずれも奈良時代）。

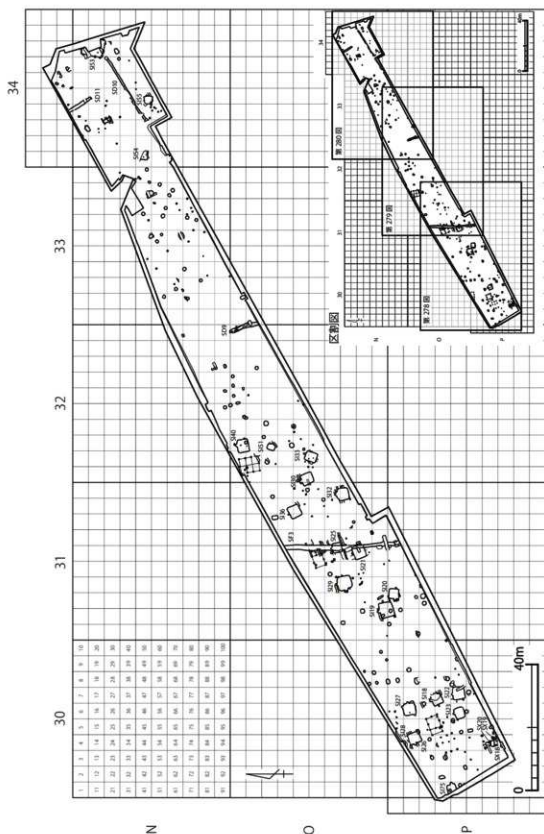
平面形態は方形で、東西 345cm、南北 404cm、検出面から床面までの深さは 67cm を測る。壁は垂直に立ち上がっている。主軸方向は N-26°-W を指す。

床面は貼床で、小さな凹凸を有する。残存範囲内においてはほぼ全面が硬化し、壁溝はカマド部分を除いて全周する。カマドは北壁のやや東寄りに構築されていた。主柱穴やその他の施設は確認されなかった。

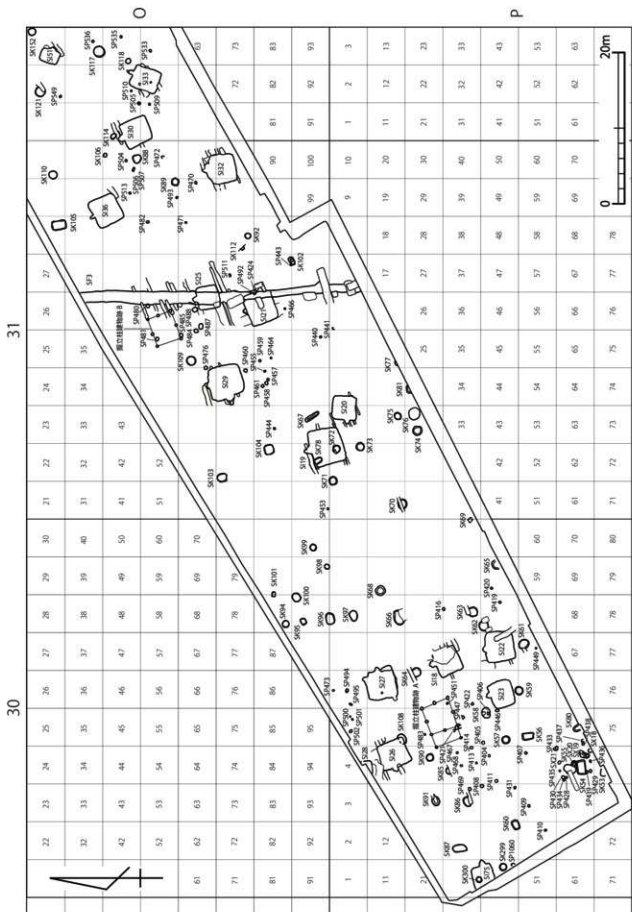
床面までの覆土は 10 層に分けられ、いずれも黒色土もしくは黒褐色土を主体とする。広範に堆積する 1・2・9 層と、壁際を中心に堆積するその他の層がある。また、11～13 層は壁溝内の覆土で、ロームブロックを多く含んでいる。

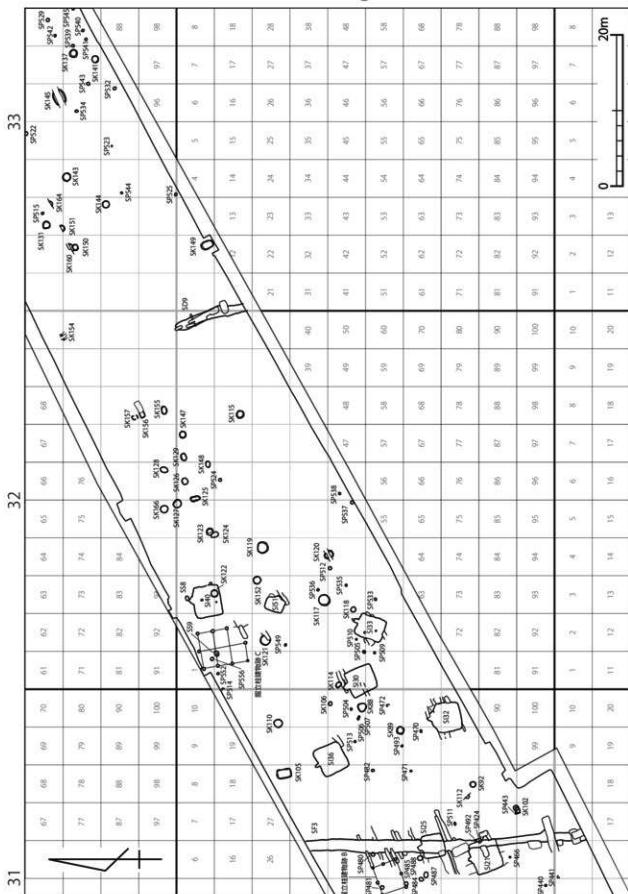
掘り方は VS 層まで掘り込まれており、全体に不規則な凹凸を有している。掘り方の覆土は 3 層に分けられ、上層の 14 層はⅢ層土がベースでロームブロックや同粒子が混入し、下層の 15 層はロームブロックがより多く含まれている。16 層は掘り方底面で検出されたピット状の窪みの覆土である。

壁溝は、前述の通り床面残存範囲内ではカマド部分を除いて検出されている他、カマド東側の掘削

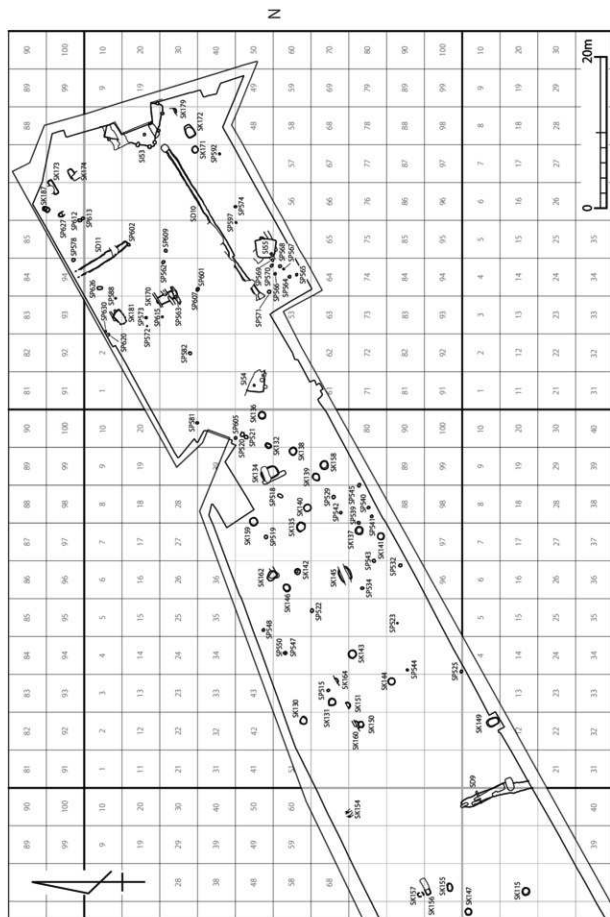


第 277 図 古代～中世遺構分布図・区劃図 (1/1,200・1/3,000)

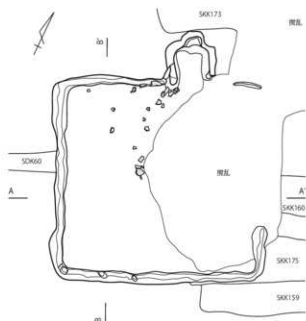




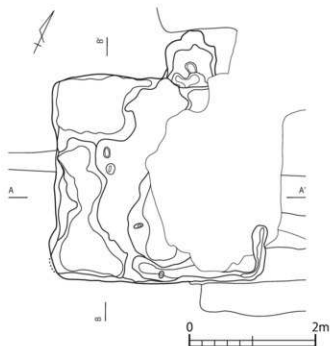
第 279 図 古代～中世遺構分布図(2)(1/500)



第 280 図 古代～中世遺構分布図剖面 (3)(1/500)

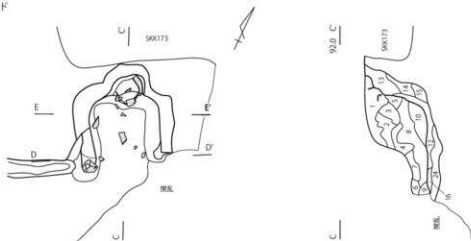


掘り方

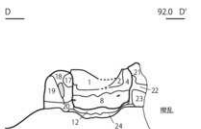


- SI18
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の灰色スコリア 1%未満、直径 2 ~ 5mm の焼土粒子 1%、直径 4mm 以下の砂粒 1%を含む。締まり・粘性やや弱。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2 ~ 3mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 1mm 未満の赤色スコリア 1%、直径 2 ~ 70mm のロームブロック 2%、直径 2 ~ 5mm の焼土粒子 1%を含む。締まりやや強、粘性やや弱。
 3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、ローム粒子 1%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1%未満を含む。締まりやや強、粘性やや弱、粘り強い。
 4. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 2 ~ 3mm のローム粒子 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
 5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 7mm 以下のローム粒子 5%を含む。締まりやや強、粘性やや弱。
 6. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子・焼土粒子各 1%未満を含む。締まりやや強、粘性やや弱。
 7. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
 8. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2 ~ 3mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 2 ~ 20mm のロームブロック 2%、直径 5mm 以下の焼土粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱。
 9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2 ~ 3mm の黄褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 2 ~ 5mm のローム粒子 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
 10. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 2 ~ 10mm のロームブロック 10%を含む。締まり・粘性やや弱、粘り強い。
 11. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 15mm 以下のロームブロック 10%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1%、含む。締まり・粘性やや弱。
 12. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 10mm 以下のロームブロック 25%を含む。締まり・粘性やや弱。
 13. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 10mm 以下のロームブロック 10%を含む。締まり・粘性やや弱。
 14. 10YR2.5/1 黒褐色土層 堅床土、層土をベースとし、直径 4mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4.6) 7%、ローム粒子 15%、直径 30mm 以下のロームブロック 7%を含む。締まり硬、粘り強い、粘り強い。
 15. 10YR3/1 黒褐色土層 堅床土、直径 4mm 以下の赤褐色スコリア 5%、ローム粒子 25%、直径 70mm 以下のロームブロック 10%を含む。締まり粘り強い、粘り強い。
 16. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 15%、直径 10mm 以下のロームブロック 2%を含む。締まり硬、粘り強い、粘り強い。

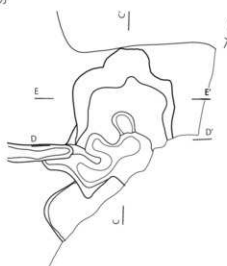
カマド



E 92.0 E'



掘り方

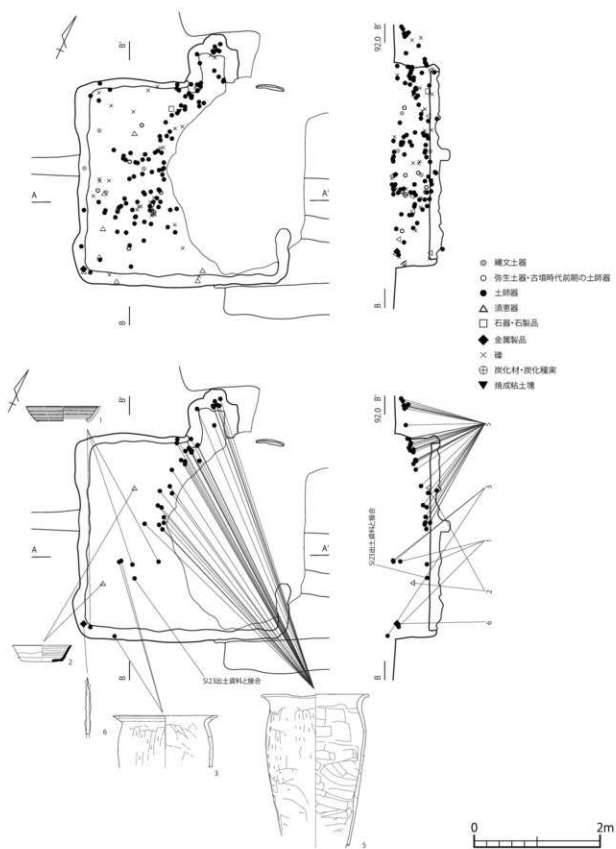


カマド

1. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土(2.5Y3/2)15%。直径2～10mmの焼土ブロック1%。長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強・粘性やや強。
2. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～5mmの焼土粒子3%。直径3mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
3. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土3%。直径2～20mmの焼土ブロック3%。長さ10mm以下の炭化物1%を含む。締まり・粘性やや強。
4. 7.5YR7/2 暗褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～10mmの焼土ブロック2%。長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
5. 7.5YR5/3 に近い黄褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。直径5～20mmの焼土ブロック3%。直径3～5mmの炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。
6. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層 砂質粘土(2.5Y6/2)30%。直径2～10mmの焼土ブロック1%。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
7. 2.5YR5/3 に近い赤褐色土層 砂質粘土ベース。直径3～20mmの焼土ブロック1%。長さ2～10mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性やや強。
8. 7.5YR4/4 褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。黒褐色土(7.5YR3/1)12%。直径3～10mmの焼土ブロック7%。長さ3～20mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性強。
9. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層 直径3～10mmのロームブロック1%。直径3～20mmの砂質粘土ブロック10%を含む。締まり・粘性やや強。
10. 7.5YR4/4 褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。直径3～30mmの焼土ブロック10%。長さ3～20mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性強。
11. 7.5YR4/2 灰褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。黒褐色土(7.5YR3/1)13%。直径2～10mmの焼土ブロック3%。長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
12. 7.5YR4/4 褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。直径20mm以下の焼土ブロック5%。直径3～5mmの炭化物粒子1%を含む。層上部に灰のくさまり・堆積あり。締まり・粘性やや強。
13. 7.5YR5/3 に近い黄褐色土層 焼結した砂質粘土ベース。黒褐色土7%。直径3～10mmの焼土ブロック2%。長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
14. 7.5YR5/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土30%。直径3～10mmの焼土ブロック3%を含む。締まり・粘性やや強。
15. 7.5YR5/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土20%。直径3～10mmの焼土ブロック5%を含む。締まり・粘性やや強。
16. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径2～5mmの砂質粘土粒子1%。直径3～10mmの焼土ブロック2%を含む。締まり・粘性やや強。
17. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土(2.5Y3/1)3%。直径2～5mmの焼土粒子2%。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
18. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土5%。直径2～5mmの焼土粒子3%を含む。締まり・粘性やや強。
19. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径3～20mmの黒褐色土ブロック(2.5Y3/1)3%。直径2～5mmの焼土粒子3%。長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。カマド燃焼室部は焼結により赤化。
20. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土7%。直径3～15mmの焼土ブロック3%を含む。締まり・粘性やや強。
21. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土3%。直径2～5mmの焼土粒子1%。長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
22. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～20mmの焼土ブロック5%。長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり強・粘性やや強。
23. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～5mmの焼土粒子2%。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり強・粘性やや強。
24. 1.0YR3/1 黄褐色土層 直径2～30mmの焼土ブロック5%。直径2～5mmの焼土粒子3%を含む。締まり・粘性やや強。
25. 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土(2.5Y4/2)30%。直径2～10mmの焼土ブロック2%を含む。締まり・粘性やや強。
26. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土5%。直径3～10mmの焼土ブロック3%を含む。締まり・粘性やや強。
27. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～20mmの焼土ブロック3%。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性強。
28. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土3%。直径2～3mmの焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。
29. 2.5Y5/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。直径2～3mmの焼土粒子2%。長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
30. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土ベース。黒褐色土2%。直径3～10mmの焼土ブロック1%を含む。締まりやや強。粘性強。

0 1m

第282図 S118(2)カマド(1/30)



第 283 図 SI18(3) 遺物分布・接合図 (1/60)

内においても、一部でその痕跡が確認された。幅は 11cm、床面からの深さは 15cm を測る。

カマドは 1 基で、北壁の中央よりやや東寄りをコ字状に掘り込んで構築されており、右袖部分は擾乱により破壊されていた。砂質粘土で構築された左袖と側壁・奥壁は、天井部を除き概ね残存していた。燃焼室内の堆積状況から、天井部は崩落したものと思われる。火床部は明確には検出できなかった。

出土遺物 土師器 119 点、須恵器 9 点、焼成粘土塊 1 点、石器 1 点、礫 30 点、金属製品 1 点、炭化物 1 点の他、縄文土器 5 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 8 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にわたって遺物が散在していた。図示した遺物のうち、第 286・287 図 5 の甕はカマド内からカマド前面の覆土下層にかけて、破片が散乱した状態で検出され、2 の須恵器環は覆土中層と床面出土の破片 1 の土師器環は覆土上層と下層の破片が接合した。3 の甕及び 6 の鉄釘は覆土の最上層から出土した。なお、4 の出土位置は不明である。

土器 第 286・287 図 1 は盤状環と称される土師器環で、内外面に赤色塗彩が施されている。推定口径は 15cm を超えるが、器高は低い。口径部内面に沈線がめぐり、底部外面はヘラケズリ調整が施される。2 は須恵器環である。還元が十分とはいえず、色調はにぶい黄橙色を呈する。体部下端から底部は回転ヘラケズリ調整が施され、口径は 15cm 弱を測る。東金子窯産須恵器と思われる。3～5 土師器甕である。3・5 の土師器甕は長胴形態で、口径部に最大径を有している。胴部の縦方向のヘラケズリ調整が特徴的で、内面はナデ調整され、器壁が厚い。4 は土師器甕の底部片である。器壁は厚手で、外面はヘラケズリ調整が施される。

金属製品 第 286・287 図 6 は鉄釘である。遺存する長さは 60mm、断面は 4×4 mm の方形を呈している。

炭化種実 (点上げ) モモの核が 1 点出土した。

盤状環の年代観 (福田 1978、山口 1985)、近年の須恵器編年研究 (服部他 2011)、南比企窯跡群鳩山編年 (渡辺 1990) の H II 期末から III 期前半に類似する東金子窯産の須恵器環等の出土から、遺構の時期は 8 世紀前葉から中葉と想定される。

SI19 (第 288～297 図、第 35・60 表)

遺構 調査区中央部南西寄りの 310-92・93、31P-2・3 グリッドに位置する。検出面は III 層上で、覆土の上面で古代の土坑 SK72・78 が検出された他、近世以降の溝 SDK137・138・141・142・147・148・243 に壁の上部を切られている。また、東南東 330cm には同時期の SI20 が位置している。

平面形態は長方形で、東西 497cm、南北 520cm で、検出面から床面までの深さは 57cm を測る。壁は垂直気味に立ち上がっている。主軸方向は N-17°-W を指す。

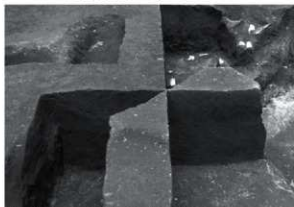
床面は貼床で、比較的平坦である。ほぼ全面で硬化が確認された。壁溝はカマド付近で途切れる以外は全周する。カマドは北壁の中央に構築されている。主柱穴は確認されなかったが、掘り方底面で矩形に並ぶ 4 基のピットが確認された。

床面までの覆土は 18 層に分けられ、カマドや壁際を除いて、比較的レベルに堆積している。最下層の堆積 (10～15 層) は覆土の締めりも強く、この層上が、一時期何らかの用途で使用された痕跡を示している可能性もある。また、カマド付近の中～下層を中心に、カマドの構築材であったと思われる砂質粘土の混入が認められた。18～20 層は壁溝内の覆土である。

掘り方は VS 層まで掘り込まれ、全体に凹凸を有している他、北西隅をはじめ部分的に一段深くなっ



1. SI18 全景 (南南東から)



2. SI18 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI18 掘り方土層断面 B-B' (東北東から)



4. SI18 遺物出土状況 (南南東から)



5. SI18 掘り方全景 (南南東から)

第 284 図 SI18 写真 (1)



1. SI18 カマド全景 (南南東から)



2. SI18 カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI18 カマド土層断面 C-C' (東から)



4. SI18 カマド土層断面 D-D' (南南東から)



5. SI18 カマド土層断面 E-E' (南南東から)



6. SI18 カマド掘り方土層断面 C-C' (東から)

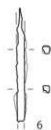
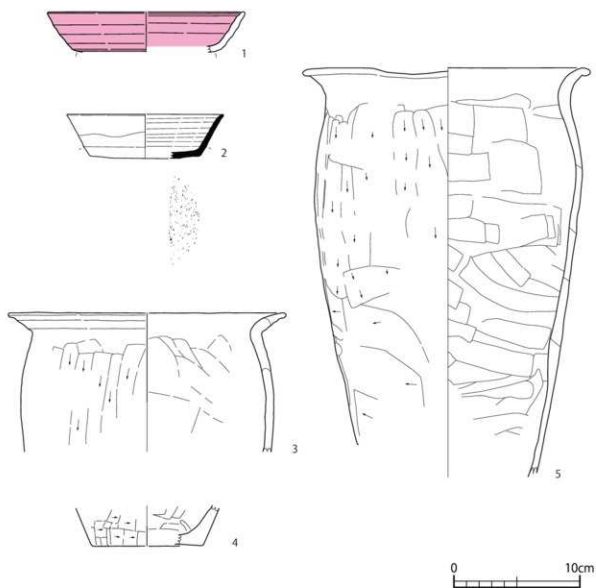


7. SI18 カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)



8. SI18 カマド掘り方土層断面 E-E' (南南東から)

第 285 図 SI18 写真 (2)



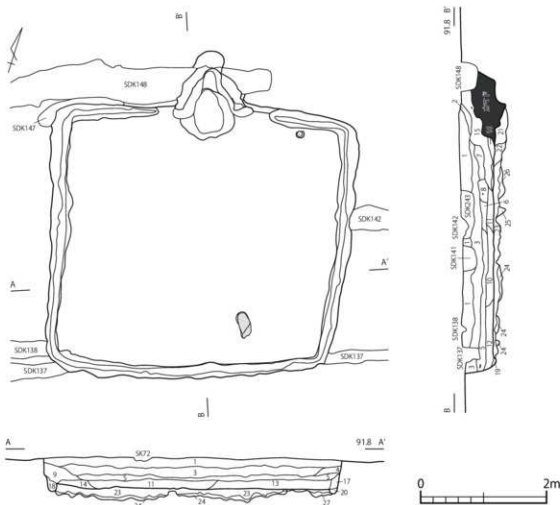
第286図 SI18出土遺物(1/3・1/2)



第287図 SI18出土遺物写真

第34表 SI18出土土器観察表

図番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第286・287図	1	覆土上層・下層	土師器 片	(15.5) 3.2 (10.3)	底部から体部へと直線的に立ち上がる。口縁部内面に一条の波線がめぐる。	回転力利用の成形。底部の調整は手持ちヘラケズリ調整と思われる。	小礫 チャート 白色粒	やや軟質	5YR5/6 明赤褐色	内外面赤色塗彩 盤状杯
	2	覆土中層・下層	土師器 片	(14.8) 4.2 (10.6)	底部から口縁部へと直線的に立ち上がり、口縁部内面の外反はみられない。	体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施される。体部に粘土縫合痕が観察される。	小礫 石英	やや軟質	10YR6/4 にふい黄褐色	東金子葉産
	3	覆土上層	土師器 片	(21.7) — —	口縁部は短く外反し、最大径を持つ。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は縦方向にヘラケズリ調整。内面は斜方向のナデ調整が施される。器壁等は厚い。	小礫 石英 白色粒	良好	外面 5YR6/6 褐色 内面 7.5YR5/3 にふい黄褐色	
	4	覆土	土師器 片	— (8.8)	底径は大きく、器壁は厚い。	胴部下端は横方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はヘラナデ調整が施される。	小礫 石英 白色粒	良好	10YR6/4 にふい黄褐色	底部片
	5	覆土下層・カマド	土師器 片	22.3 — —	口縁部は外反し、最大径を有する。胴部膨らみは、胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は上平が縦方向、下平が横方向や斜方向にヘラケズリ調整され、内面は横方向や斜方向のヘラナデ調整が施されている。器壁は厚い。	小礫 雲母 石英 白色粒	良好	外面 7.5YR6/4 にふい黄褐色 内面 10YR3/2 黒褐色	

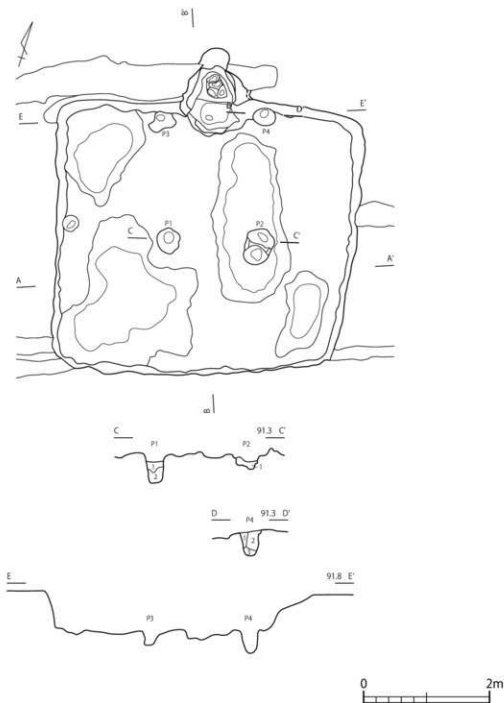


S19

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑7mm以下のローム粒子1%、直徑2～15mmの焼土ブロック1%を含む。細まり・粘性やや強。
2. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑3mm以下の砂質粘土粒子1%、焼土粒子1%未満、直徑2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強。粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑2～15mmのロームブロック1%未満、直徑10mm以下の砂質粘土ブロック・焼土ブロック各1%未満を含む。細まりやや強。粘性やや強。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑3mm以下のローム粒子1%、直徑5mm以下の焼土粒子1%、直徑3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強。粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑3～5mmのローム粒子1%、直徑3～7mmの焼土粒子1%を含む。細まり・粘性やや強。
6. 10YR2/1 黒色土層 直徑3mm以下のローム粒子1%未満、直徑10mm以下の砂質粘土ブロック2%、直徑15mm以下の焼土ブロック1%、長さ5～20mmの炭化物1%未満を含む。細まり・粘性やや強。粘土やや強。粘土やや強。
7. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑30mm以下の砂質粘土ブロック10%、直徑20mm以下の焼土ブロック1%、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。細まりやや強。粘性強。
8. 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土塊、黒色土(10YR2/1)20%。直徑2mm以下の焼土粒子1%未満、直徑5mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性強。
9. 10YR2/1 黒色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑2～5mmのローム粒子1%、直徑5mm以下の焼土粒子1%未満を含む。細まりやや強。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑2～20mmのロームブロック1%未満、直徑10mm以下の焼土ブロック1%、長さ3～15mmの炭化物1%未満を含む。細まり強。粘性やや強。
11. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑3～30mmのロームブロック1%、直徑3～10mmの砂質粘土ブロック1%、直徑2～3mmの焼土粒子1%を含む。細まり強。粘性やや強。
12. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～30mmのロームブロック1%、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。細まり強。粘性やや強。
13. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～20mmのロームブロック1%、直徑2～5mmの焼土粒子1%未満、長さ10mmの炭化物1%未満を含む。細まり強。粘性やや強。
14. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑5mm以下のローム粒子1%、直徑3mmの焼土粒子1%未満、直徑3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
15. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑30mm以下の砂質粘土ブロック5%、直徑20mm以下の焼土ブロック1%、長さ30mmの炭化物1%を含む。細まり・粘性やや強。
16. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2～10mmのロームブロック1%、直徑20mm以下の砂質粘土ブロック3%、直徑2～10mmの焼土ブロック1%、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。細まり強。粘性やや強。
17. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑3～15mmのロームブロック2%、直徑2mmの焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
18. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%、直徑15mm以下のロームブロック3%を含む。細まり・粘性やや強。
19. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑3mmの赤褐色スコリア1%、直徑2～20mmのロームブロック2%を含む。細まり・粘性やや強。
20. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑3～5mmの赤褐色スコリア1%、直徑3～20mmのロームブロック5%を含む。細まり・粘性やや強。
21. 10YR3/2 黒褐色土層 直徑20mm以下のロームブロック2%、直徑10mmの焼土ブロック2%、長さ30mmの炭化物1%を含む。細まり・粘性強。
22. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑3～40mmのロームブロック5%、直徑30mmの焼褐色土ブロック(10YR3/2)2%を含む。細まり強。粘性やや強。
23. 10YR3/1 黒褐色土層 焼土。直徑3～5mmの赤褐色スコリア2%、直徑2～50mmのロームブロック10%を含む。細まり強。粘性やや強。
24. 10YR4/4 焼土土層 ロームブロック土塊、直徑3～7mmの赤褐色スコリア2%、暗褐色土(10YR3/2)10%を含む。細まりやや強。粘性やや強。粘土やや強。
25. 10YR5/6 黄褐色土層 ロームブロック土塊、直徑3～7mmの赤褐色スコリア2%、暗褐色土10%を含む。細まりやや強。粘性やや強。粘土やや強。
26. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑3～5mmの赤褐色スコリア1%、直徑2～20mmのロームブロック5%を含む。細まり・粘性やや強。粘土強い。
27. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑3～7mmの赤褐色スコリア1%、直徑2～50mmのロームブロック20%を含む。細まり・粘性やや強。

第288図 S19(1)(1/60)

掘り方



P1

1. 10YR3/1 黒褐色土層
性やや弱、粘子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層

直径3～5mmの赤褐色スコリア 1%未満、直径30mm以下のロームブロック 20%、直径2～3mmの炭化物粒子 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粘子粗い。

P2

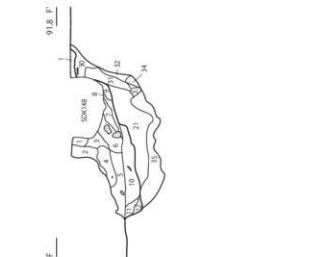
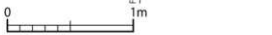
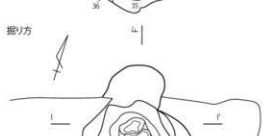
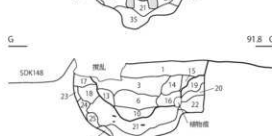
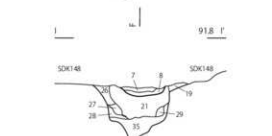
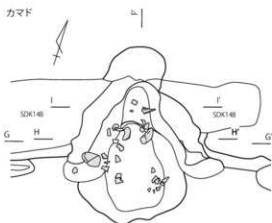
1. 10YR2/1 黒色土層

直径3～5mmの赤褐色スコリア 1%未満、直径40mm以下のロームブロック 20%を含む。締まり弱、粘性やや弱、粘子粗い。

P4

1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土層 直径2～5mmの赤褐色スコリア 1%未満、直径2～15mmのロームブロック 5%、直径10mmの黒色土ブロック (10YR2/1) 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粘子やや粗い。
2. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土層 直径5mmの赤褐色スコリア 1%未満、直径2～10mmのロームブロック 2%、直径10mmの黒色土ブロック 1%未満、直径2～5mmの焼土粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱、粘子粗い。
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土層 直径3～5mmの赤褐色スコリア 1%未満、直径7mm以下のローム粒子 3%、直径3～5mmの焼土粒子 1%未満を含む。締まり弱、粘性やや弱、粘子粗い。

第289図 SI19(2)(1/60)



- カマド
- 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑2~20mmの砂質粘土ブロック5%、直徑2~5mmの焼土粒子2%、長さ5~20mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土と黒色土の混合土。直徑5mm以下の焼土粒子2%、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/4 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~7mmの焼土粒子2%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑5~5mmの焼土粒子1%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~3mmの焼土粒子2%、直徑3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/4 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~10mmの焼土ブロック2%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~10mmの焼土ブロック3%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 7.5YR6/4 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑5~10mmの焼土ブロック10%、長さ3~20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 7.5YR5/4 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~15mmの焼土ブロック5%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土層。直徑2~7mmの焼土粒子3%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土と黒色土の混合土。直徑2~10mmの焼土ブロック5%を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/4 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑5~10mmの焼土ブロック5%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑3~10mmの焼土ブロック3%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑5mm以下の焼土粒子1%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~5mmの焼土粒子1%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/113%、直徑3~10mmの焼土ブロック2%、長さ5~20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/113%、直徑2~20mmの焼土ブロック5%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/113%、直徑3~5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/113%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑5~20mmのロームブロック2%、直徑3~5mmの砂質粘土土層。直徑2~5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 7.5YR4/4 褐色土層 焼けた砂質粘土土層。直徑2~20mmの焼土ブロック20%、長さ3~30mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性強。粘性強。
 - 10YR3/3 暗褐色土層 直徑2~5mmの焼土粒子1%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性強。粘性強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑7mm以下の砂質粘土土層。直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 10YR3/3 暗褐色土層 直徑3mm以下の砂質粘土土層。直徑7mm以下の焼土粒子3%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 10YR4/3 に近い褐色土層 直徑2~15mmのロームブロック10%、直徑10YR2/1110%、直徑10mm以下の焼土ブロック3%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 7.5YR3/1 褐色土層 直徑3~10mmのロームブロック3%、直徑10mm以下の焼土ブロック5%、長さ10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性強。
 - 7.5YR4/3 褐色土層 焼けた砂質粘土土層。直徑20mm以下の焼土ブロック20%、長さ3~20mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~7mmのローム粒子1%、直徑10mm以下の焼土ブロック3%を含む。締まりやや強。粘性やや強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑7mm以下の焼土粒子5%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑2~3mmの焼土粒子2%、直徑5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/113%、直徑3~20mmの砂質粘土土層。直徑3mm以下の焼土ブロック5%、長さ3~10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑5~10mmのロームブロック1%、直徑3mmの砂質粘土土層。直徑2~5mmの焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/112%、直徑3~7mmの焼土粒子2%、長さ3~10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 10YR5/4 に近い褐色土層 直徑3mmの炭質スクリュー1%未満、直徑3~20mmのロームブロック20%、直徑10YR2/1125%、直徑5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性やや強。
 - 7.5YR3/2 褐色土層 直徑2~20mmのロームブロック3%、直徑20mm以下の焼土ブロック5%、長さ3~20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。粘性強。
 - 10YR5/6 黄褐色土層 砂質粘土土層。直徑10YR2/110%、直徑2~10mmの焼土ブロック3%、直徑3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。

第290図 SI19(3) カマド(1/30)

ている。掘り方の覆土は7層に分けられ、大小のロームブロックを多く含む黒褐色土が主体である。

ピットは掘り方の底面で4基が確認された。平面形態は不定形もしくは楕円形で、規模はP1が長軸41cm、短軸38cm、P2が長軸58cm、短軸46cm、P3が長軸44cm、短軸31cm、P4が長軸36cm、短軸23cmを測る。いずれも小形であるが、柱間の距離は東西161cm、南北192cmで矩形に配置され、カマド中心を通る建物跡の主軸と南北の軸が一致している。床面やカマドの構造等からは確認できなかったが、SI19については、拡張を伴う建て替えが行われた可能性が考えられる。

カマドは1基で、北壁の中央をV字状に掘り込んで構築されていた。砂質粘土で構築された左右の袖が部分的に残存しており、左袖からは、凝灰質砂岩の芯材も確認された。同じく砂質粘土で構築された側壁・奥壁の上部はSDK148により破壊されていたが、下部は良好に残存していた。側壁・奥壁共に砂質粘土が被熱、赤化していた。天井部は残存していなかった。火床部は明確には検出できなかったが、カマド底面中心部付近で2点の礫が左右に並んで出土した。支脚として使用したと考えられる。カマド袖の掘り方からは、左右共にピット状の掘り込みが検出された。カマドの造り替えが行われ、その際に抜き取られた袖芯材の痕跡の可能性はある。

出土遺物 土師器773点、須恵器28点、土製品2点、焼成粘土塊14点、石器1点、石製品1点、凝灰質砂岩切片1点、礫433点、炭化物1点の他、縄文土器10点と弥生土器・古墳時代前期の土師器35点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にわたって遺物が多量に出土した。特に土師器片が多く、カマド周辺や南西隅付近に集中している。図示した遺物のうち、5の土師器環は覆土上～下層の破片が接合、13の土師器甕は中～下層の破片が接合した。床面付近では、1の土師器環はカマド付近の床面に据え置かれた状態で、2の環は床面の小範囲に破片が纏まった状態で出土した。カマド付近では、17の甕はカマド覆土上部から、15の甕はカマド掘り方から破片の状態で出土した。また19の台石は、下部が床面に埋設された状態で出土しており、使用時の状態を留めているものと思われる。

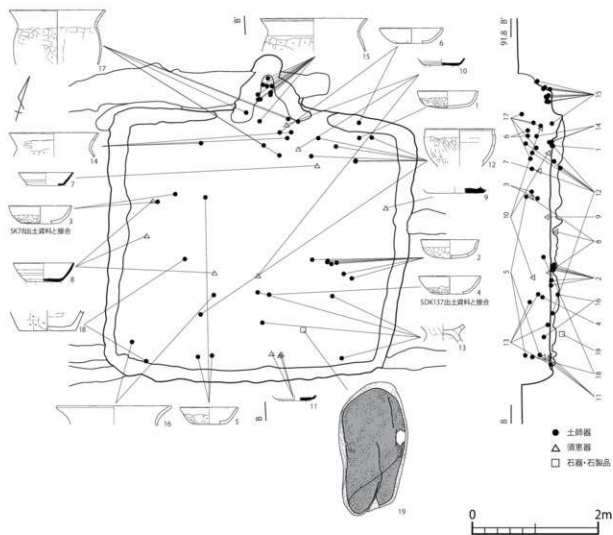
なお、4の土師器甕は、SK78出土の破片との接合が確認された。

土器 第295・297図1～6は土師器環である。1・2は弧状ないし丸底気味の底部形態を有し、口径は12cm台で、口縁部と体部の境にわずかに稜が巡る。口縁部はヨコナデ、体部から底部にかけてヘラケズリ調整されている。3～6はいわゆる相模型環と思われる。底部は平底形態で、口径は3・4・6が13cm台、5が12cm台、底径は3・4が8cm台、5・6が7cm台を測る。口縁部はヨコナデ、体部外面がヘラケズリ調整、内面がナデ調整、底部がヘラケズリ調整される。胎土は粉状で粘土質のもので、焼成は軟質な印象を受ける。

7・8・10・11は須恵器環である。回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラケズリ調整が加わるが、11は手持ちヘラケズリ調整と判断している。推定口径は7が13.7cm、8が12.7cmを測り、10・11の推定底径は7cm台である。9は須恵器短頸甕の底部片と思われる。底部外面は特に調整は施されていないように見えるが、一部にヘラナデ状の調整も観察される。内面はナデ調整痕が目立っている。7・10・11は東金子窯産、8・9は南比企窯産と推定される。12は土師器碗で、体部外面はヘラケズリ調整され、口唇部内面に一条の凹線がめぐる。13は土師器台付甕の脚部片で、器壁は厚い。14・15・17は土師器甕で、いわゆる武蔵型甕となろう。器壁が薄く、おおむね赤褐色に焼き上げられる。口縁部はく字状に外反し、胴部上半は横方向等のヘラケズリ調整が顕著である。16は土師器



第 291 図 SI19(4) 遺物分布図 (1/60)



第 292 図 SI19(5) 遺物接合図 (1/60)



1. SI19 全景 (南南東から)



2. SI19 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI19 土層断面 B-B' (東北東から)



4. SI19 掘り方全景 (南南東から)



5. SI19 遺物出土状況 (南南東から)

第 293 図 SI19 写真 (1)



1. SI19 カマド全景 (南南東から)



2. SI19 カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI19 カマド土層断面 F-F' (東北東から)



4. SI19 カマド土層断面 G-G' (南南東から)



5. SI19 カマド掘り方遺物出土状況 (南南東から)



6. SI19 カマド掘り方土層断面 H-H' (南南東から)

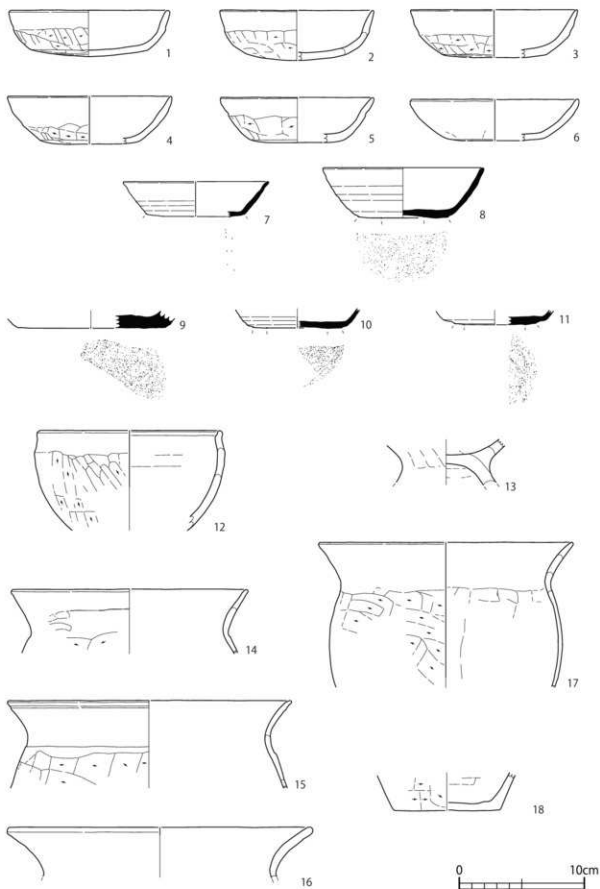


7. SI19 カマド掘り方土層断面 I-I' (南南東から)

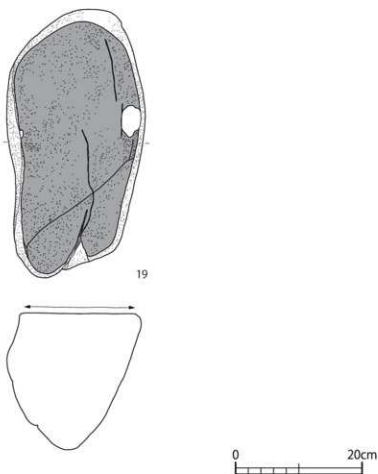


8. SI19 カマド掘り方土層断面 F-F' (東から)

第 294 図 SI19 写真 (2)



第295図 SI19出土遺物(1)(1/3)



第296図 SI19出土遺物(2)(1/6)

甕の口縁部片、18は土師器長胴甕の底部片である。16の口縁部はヨコナデ、18の胴部下端や底部外面はヘラケズリ調整されている。16・18とも武蔵型甕より器壁が厚い。

石製品 19は大型の台石である。石質は砂岩で、全長約42cm、重量は25kgを量る。断面三角形状の一面が平坦面をなし、幅15～20cmの範囲で摩擦痕が広がっていた。

炭化種実（点上げ） オニグルミの核が1点出土した。

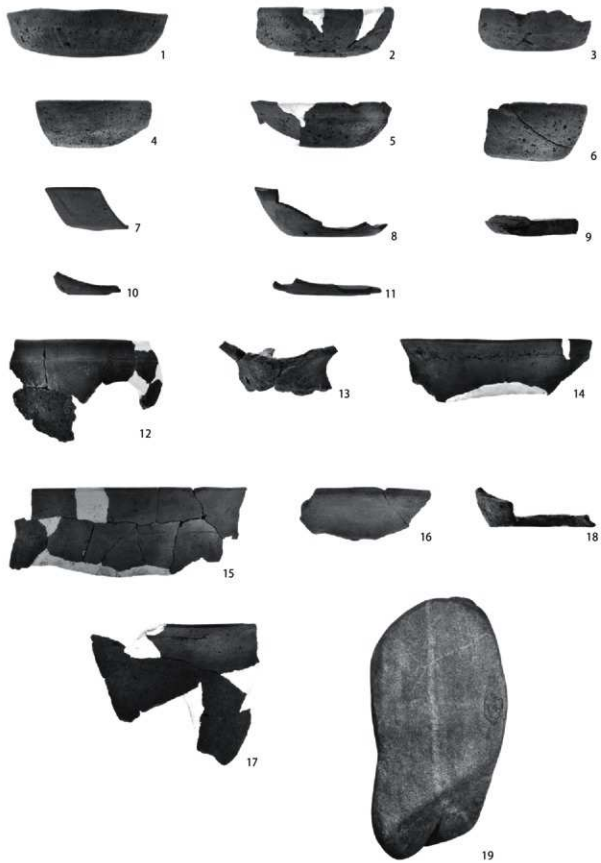
炭化種実（水洗選別） カマドからイネとオオムギが検出された。

相模型坏や南比企窯跡群鳩山編年HⅢ期やHⅣ期に類似する須恵器坏の出土等から、遺構の時期は8世紀後葉と考えられる。

SI20（第298～304図、第36表）

遺構 調査区中央部南西寄りの310・3・4グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降の溝SDK127・128・130・131・132・133・135・137及び攪乱に壁やカマドの一部を切られている。また、西北西330cmには同時代のSI19が位置している。

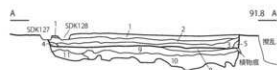
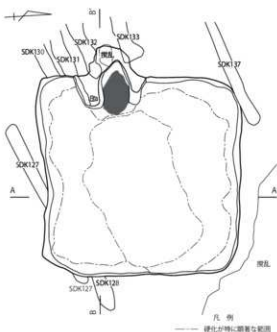
平面形態は方形で、東西365cm、南北327cmを測る。検出面から床面までの深さは25cmで、



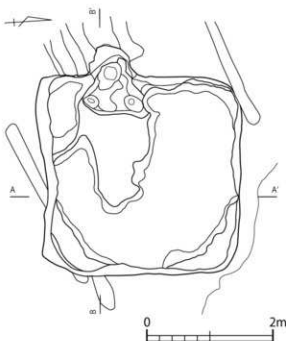
第297图 SI19出土遗物写真

第35表 SI19出土土器観察表

図番号	部位	器種	法量	形状の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第29号・ 297号	1 床面	土師器 環	12.5 3.7 9.4	底部は瓶状凸部、底部は内湾気味に立ち上がる。口縁部と底部の境によい境がめぐる。	口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整されている。	小礫 長石 褐色粒	良好	7.5YR6/4 にぶい・橙	ほぼ完全	
	2 覆土床面	土師器 環	(12.1) 4.0 —	丸底気味の底部から体部へと内湾気味に立ち上がる。口縁部と体部の境によい境がめぐる。	口縁部はヨコナデ。体部・底部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。	小礫 チャート 褐色粒	良好	7.5YR7/4 にぶい・橙		
	3 覆土中層・ 5K78 覆土	土師器 環	(13.2) 3.8 (8.3)	底部は平底。体部から口縁部へと内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はヨコナデ。体部・底部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。	小礫 長石 褐色粒	軟質	5YR6/6 橙	遺構間接合 粗線型環	
	4 覆土中層・ SDK137 覆土	土師器 環	(13.0) 3.8 (8.0)	平底の底部から体部・口縁部へと内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部は外面ヨコナデ。体部・底部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。	小礫 白色粒	軟質	5YR7/6 橙	遺構間接合 粗線型環	
	5 覆土上層 ～下層	土師器 環	(12.1) 3.6 (7.3)	底部は平底。口縁部と体部の境には、強いヨコナデによる境が通っている。	口縁部はヨコナデ。体部・底部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。	小礫 白色粒	やや軟質	5YR6/6 橙	内面にスス付着 粗線型環	
	6 覆土上層	土師器 環	(13.2) 3.3 (7.3)	平底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	内外面とも軟質で、調整技法は判然としないが、内面はナデ調整と思われる。	小礫 石英 白色粒 雲母	軟質	5YR7/6 橙	粗線型環	
	7 覆土中層	須恵器 環	(13.7) 3.3 (9.3)	体部は直線的に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転ヘラケズリ調整されている。	小礫 長石	軟質	2.5Y8/1 灰白	東金子産	
	8 覆土中層 ～下層・ 臥床覆土	須恵器 環	(12.7) 4.0 7.1	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央には回転糸切り痕が残る。	海綿動物骨付 小礫 白色粒	良好	2.5Y6/1 黄灰	内面にスス付着 南北企業産	
	9 床面	須恵器 短直筒	— (11.8)	底部は平底。	底部外面の一部にヘラナデ状の調整が観察される。	海綿動物骨付 小礫 白色粒	良好	N5/0 灰	底部片	南北企業産
	10 覆土中層 ～下層	須恵器 環	— (7.2)	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、外面には回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 長石 黒色粒	良好	2.5Y6/1 黄灰	底部片	東金子産
	11 覆土下層・ 臥床覆土	須恵器 環	— (7.4)	底部は平底。体部下端がくぼみ状に加曲する。	底部は回転糸切りで切り離され、外周に手持ちヘラケズリ調整が加わる。	白色粒	良好	2.5Y7/1 灰白	底部片	東金子産
	12 覆土中層 ～下層・ 臥床覆土	土師器 鉢	(14.3) —	体部は内湾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口内面内面下に一案の沈線状のくぼみがめぐる。	口縁部はヨコナデ。体部外面は縦方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。	石英 白色粒	良好	5YR4/3 にぶい・赤		
	13 覆土上層 ～下層・ 覆土床面・ 臥床覆土	土師器 台付盃	— —	底部はハ字状に広がる。	胴部下層外面はヘラケズリ調整、内面は横方向のナデ調整されている。	小礫 長石 石英 白色粒	良好	2.5YR6/6 橙	胴部片	
	14 覆土中層・ 臥床覆土	土師器 盃	(18.0) —	口縁はく字状にゆるやかに外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部は横方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。	雲母 角閃石 白色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐	内面にスス付着 武蔵型盃	
	15 床面・ カマド・ カマド脚 方	土師器 盃	(22.4) —	口縁部はく字状に外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向にヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	角閃石 白色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐	武蔵型盃	
	16 覆土下層・ 臥床覆土	土師器 盃	(24.1) —	口縁部は大きく外反している。	口縁部はヨコナデ。器壁は厚い。	小礫 雲母 白色粒	やや軟質	5YR5/6 明赤褐		
	17 覆土上層 ～中層	土師器 盃	(20.1) —	口縁部はく字状にゆるやかに外反し、胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部は斜方向や横方向のヘラケズリ調整、内面はへら状工具等によるナデ調整が施される。	小礫 雲母 角閃石 白色粒	良好	5YR5/4 にぶい・赤	内面にスス付着 武蔵型盃	
	18 覆土中層・ 床面	土師器 盃	— (8.5)	底部は平底。底径は比較的大きい。	胴部下層は横方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。	小礫 長石 白色粒	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 7.5YR5/6 明褐	内面にスス付着	



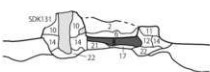
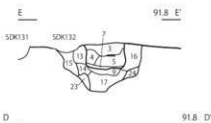
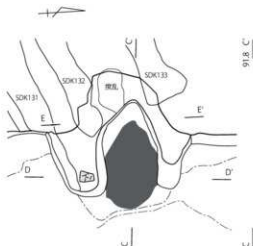
置り方



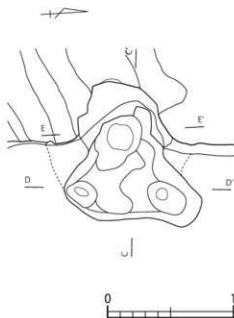
S20

1. IOYR3/1 黒褐色土層 直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
2. IOYR3/2 黒褐色土層 直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径3～40mmのロームブロック1%、直径5～30mmの暗褐色土ブロック (IOYR3/3) 1%、直径2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
3. IOYR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～5mmのローム粒子1%、直径5～30mmの暗褐色土ブロック (IOYR3/3) 3%、直径2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
4. IOYR3/2 黒褐色土層 直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直径1mmの赤褐色スコリア1%未満、直径2～5mmのローム粒子2%を含む。細まり・粘性やや強。
5. IOYR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径3～30mmのロームブロック15%を含む。細まり弱。粘性やや強。
6. IOYR3/2 黒褐色土層 直径2～5mmのローム粒子1%、直径2～5mmの焼土粒子3%、直径2～10mmの焼土ブロック3%を含む。細まりやや強。粘性やや強。
7. IOYR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア・ローム粒子各1%未満、暗褐色土 (IOYR3/3) 3%を含む。細まり・粘性やや強。粒子やや細かい。
8. IOYR3/2 黒褐色土層 腐床上、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～5mmのローム粒子1%、直径5mmの焼土粒子1%未満、暗褐色土 (IOYR3/3) 5%を含む。細まり・粘性やや強。粒子やや細かい。
9. IOYR2/1 黒色土層 腐地上、黒色土をベースとし、直径5mm以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6) 3%、ローム粒子5%、直径40mm以下のロームブロック2%を含む。細まりは強く表面は硬固。粘性有り。粒子細かい。
10. IOYR3/1 黒褐色土層 腐地上、黒褐色土をベースとし、直径5mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子15%、直径30mm以下のロームブロック3%を含む。細まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
11. IOYR4/2 灰黄褐色土層 腐地上、黄褐色土をベースとし、直径5mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子15%、直径30mm以下のロームブロック3%を含む。細まり・粘性有り。粒子細かい。
12. IOYR17/1 黒色土層 腐地上、黒褐色土をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子5%、直径10mm以下の膠軟化したロームブロック1%を含む。細まり・粘性有り。粒子細かい。
13. IOYR4/3 にぶい黄褐色土層 腐地上、N層土をベースとし、直径5mm以下の赤褐色スコリア5%、直径20mm以下のロームブロック5%を含む。細まり・粘性有り。粒子細かい。

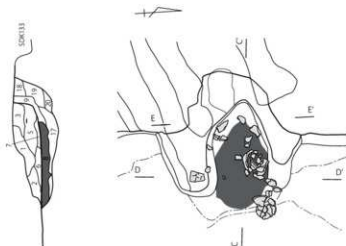
カマド



掘り方



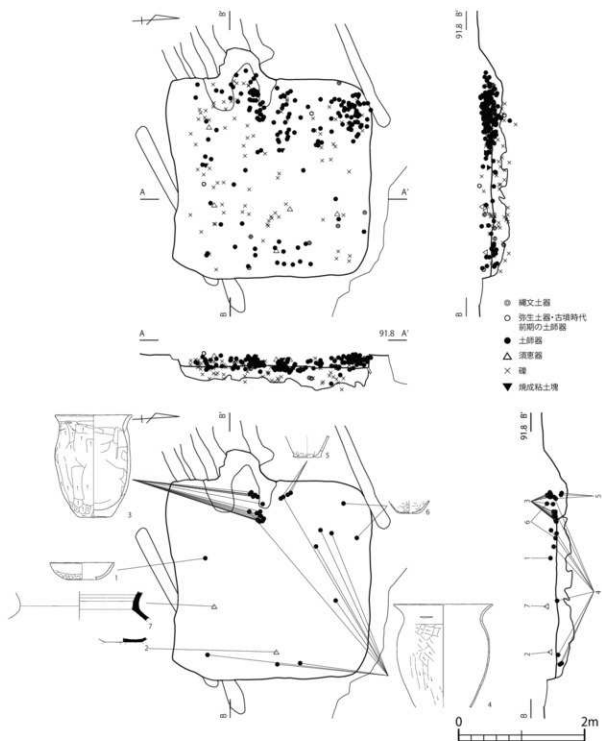
遺物出土状況

凡例
—— 硬化が特に顕著な範囲

カマド

1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土層 直径3～30mmの砂質粘土ブロック5%、直径2～15mmの焼土ブロック3%、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。細まりやや弱、粘性やや強、粘子やや弱い。
2. 7.5YR4/3 褐色土層 直径3～10mmの砂質粘土ブロック2%、直径2～20mmの焼土ブロック15%、長さ2～10mmの炭化物1%を含む。細まりやや弱、粘性やや強、粘子やや弱い。
3. 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土主体、黒色土(2.5Y3/1)3%、直径3～20mmの焼土ブロック3%を含む。細まり・粘性やや強。
4. 7.5YR4/2 灰褐色土層 焼土した砂質粘土主体、直径2～10mmの焼土ブロック5%を含む。細まりやや弱、粘性やや強、粘子やや弱い。
5. 7.5YR4/3 褐色土層 焼土した砂質粘土主体、直径3～10mmの焼土ブロック3%、直径2～5mmの炭化物1%を含む。細まり・粘性やや弱、粘子やや弱い。
6. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径2～10mmの焼土ブロック3%、長さ2～10mmの炭化物1%を含む。細まり、粘性やや弱、粘子弱い。
7. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径2～10mmの焼土ブロック3%、直径2～5mmの炭化物1%を含む。細まり・粘性やや強。
8. 7.5YR3/2 黒褐色土層 灰床部、直径3～10mmの焼土ブロック15%、直径3～20mmの焼土ブロック5%を含む。細まり強、粘性やや強、粘子強い。
9. 5YR4/3 に近い赤褐色土層 焼土した砂質粘土主体、直径20mm以下の焼土ブロック7%、粘土ブロック10%を含む。細まり・粘性強、粘子強い。
10. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主体、黒色土(10YR3/1)40%、直径2～10mmの焼土ブロック3%を含む。細まり強、粘性やや強。
11. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土主体、黒色土(10YR2/1)20%、直径5～20mmの焼土ブロック5%、直径5mm以下の炭化物1%未満を含む。細まり強、粘性やや強。
12. 2.5Y3/2 黄褐色土層 直径2～30mmの砂質粘土ブロック15%、直径2～10mmの焼土ブロック2%を含む。細まり・粘性やや強。
13. 2.5Y3/2 黄褐色土層 直径2～7mmの粘土粒子2%、直径3mm以下の焼土粒子2%を含む。細まり・粘性やや強、粘子弱い。
14. 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土主体、直径10～30mmの黒色土(10YR2/1)10%、直径2～30mmの焼土ブロック10%、直径2～5mmの炭化物1%未満を含む。細まりやや強、粘性強。
15. 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土と黒色土の混合土、直径2～3mmの焼土粒子1%、直径2～5mmの炭化物1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
16. 2.5Y6/3 に近い褐色土層 砂質粘土主体、黒色土10%、直径5mm以下の焼土粒子2%、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。細まり・粘性強。
17. 10YR3/1 黄褐色土層 直径3～20mmのロームブロック2%、直径3～10mmの砂質粘土ブロック3%、直径2～5mmの焼土粒子2%を含む。細まりやや弱、粘性やや強、粘子やや弱い。
18. 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土主体、直径2～10mmの焼土ブロック3%、長さ2～20mmの炭化物1%を含む。細まりやや強、粘性強。
19. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直径2～15mmの砂質粘土ブロック7%、直径2～5mmの焼土粒子3%を含む。細まり・粘性やや強。
20. 2.5Y5/3 黄褐色土層 直径2～20mmのロームブロック2%、直径2～20mmの砂質粘土ブロック10%、直径2～10mmの焼土ブロック2%を含む。細まり・粘性やや強。
21. 10YR3/1 黄褐色土層 直径2～5mmの砂質粘土粒子3%、直径2～3mmの焼土粒子2%を含む。細まり・粘性やや強。
22. 10YR5/6 黄褐色土層 直径3～7mmの赤褐色スコリア1%、直径30mm以下のロームブロック40%、黒色土10%を含む。細まり強、粘性やや強。
23. 10YR5/6 黄褐色土層 ロームブロック主体、直径3～7mmの赤褐色スコリア1%未満、黒色土15%を含む。細まり強、粘性やや強。
24. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土と黒色土の混合土、直径2～3mmの焼土粒子2%を含む。細まり・粘性やや強。

第299図 S120(2) カマド (1/30)



第 300 図 SI20(3) 遺物分布・接合図 (1/60)

比較的浅い。壁は垂直気味に立ち上がっている。主軸方向は N-87°-W を指す。

床面は貼床で、比較的平坦である。壁際を除くほぼ全面が硬化しており、特にカマド前面から東壁にかけての幅 160cm 程の範囲が、顕著に硬化していた。壁溝は確認されていない。カマドは西壁の南寄りに構築され、主柱穴やその他の施設は確認されなかった。

床面までの覆土は 7 層に分けられた。北壁側で検出された 6 層を除き、いずれも黒褐色土がベース

となっている。

掘り方はVS層まで掘り込まれており、全体に凹凸を有している他、カマドの前面が一段高くなっている。掘り方の覆土は6層に分けられ、Ⅲ層土やⅣ層土がベースの土壌に大小のロームブロックが混入している状況である。

カマドは1基で、西壁の南寄りをU字状に掘り込んで構築されていた。上部は削平され、また近世以降の溝により部分的に損壊しているものの、遺存状況は良好であった。砂質粘土を主体に構築された左右の袖が比較的良好に残存し、左袖には砂岩が芯材として埋め込まれていた。同じく砂質粘土で構築された側壁・奥壁も良好に残存し、共に燃焼室に面した砂質粘土が被熱、赤化していた。天井部は残存していなかったが、カマド内の覆土の状況から、崩落したものと想定される。火床部は焼土と粘土のブロックが縮まった状態で確認された。掘り方では、左右共にカマド袖の下部でビット状の掘り込みが検出された。右袖にも当初は芯材が埋め込まれていたものと推測される。

出土遺物 土師器 167点、須恵器 5点、焼成粘土塊 3点、礫 93点、炭化物 1点の他、縄文土器 5点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 3点が出土した。

遺物出土状況 カマドの前面や床面の北西隅を中心に土師器が集中して出土した。図示した遺物は、いずれも覆土の下層や床面直上から出土した。そのうち、3の甕はカマドの燃焼室内から右袖前面付近にかけて破片が散乱した状態で、4の甕は破片が床面の各所に散乱した状態であった。

土器 第303・304図1は土師器環で、相模型環と思われる。推定口径13.4cm、推定底径7.2cmを測り、平底形態である。2の須恵器環は南比企窯産で、底部が回転ヘラケズリ調整され、推定底径は8.1cmである。

3は成形がやや粗雑な土師器甕で、器壁も厚い。口縁部はヨコナデ、胴部は縦方向のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整される。4・5・6は土師器甕である。4・6は器壁の薄い武蔵型の範疇に入る甕で、胴部や底部の外側はヘラケズリ調整される。5は相模型甕となろう。底部外面に木葉痕が残り、胴部下半はナデ調整と思われる。7は胴部上端から口頸部が遺存する須恵器甕で、小片ではあるが、つくりは堅緻なものである。

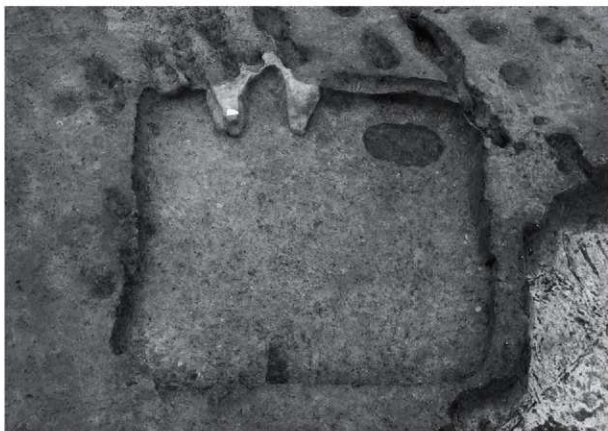
相模型環や底部が回転ヘラケズリ調整される須恵器環、武蔵型甕等8世紀後葉の土器群が出土している。遺構の時期も8世紀後葉と想定される。

SI21 (第305～314・553図、第37・61表)

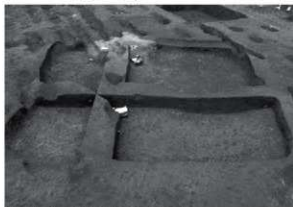
遺構 調査区中央部南西寄りの310-76・86・87グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古代のSP424、中世のSF3、近世以降のSKK233及び攪乱に切られている。特にSF3については東壁及び東カマドを大きく削平している。また、北側305cmには同時代のSI25が位置している。

平面形態は長方形で、東西430cm、南北466cmを測る。東壁は、カマドの南側と北側で位置が異なり、北側の方が南側より30cm奥まっている。検出面から床面までの深さは41cmで、壁はやや開き気味に立ち上がっている。主軸方向はN-70°-Eを指している。

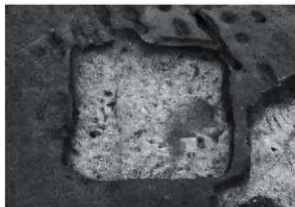
床面は貼床で、平坦である。壁際を除き、ほぼ全面が硬化している。壁溝は、廃絶時には東カマド部分を除いて全周していた。東カマドは東壁のやや南寄りに構築される。また、東カマド構築前に使用されていたと考えられる北カマドは、北壁の中央に構築されていた。主柱穴やその他の施設は確認されなかった。



1. SI20 全景(東から)



2. SI20 土層断面 A-A'(東から)



3. SI20 掘り方全景(東から)



4. SI20 掘り方土層断面 A-A'(東から)

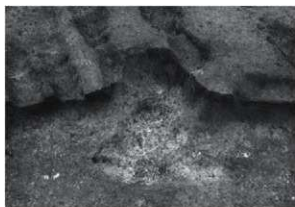


5. SI20 掘り方土層断面 B-B'(南から)

第 301 図 SI20 写真(1)



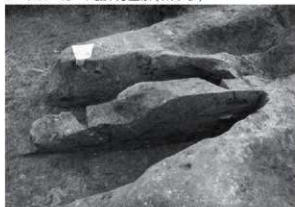
1. SI20 カマド全景 (東から)



2. SI20 カマド掘り方全景 (東から)



3. SI20 カマド遺物出土状況 (東から)



4. SI20 カマド土層断面 C-C' (北から)



5. SI20 カマド土層断面 D-D' (東から)



6. SI20 カマド土層断面 E-E' (東から)

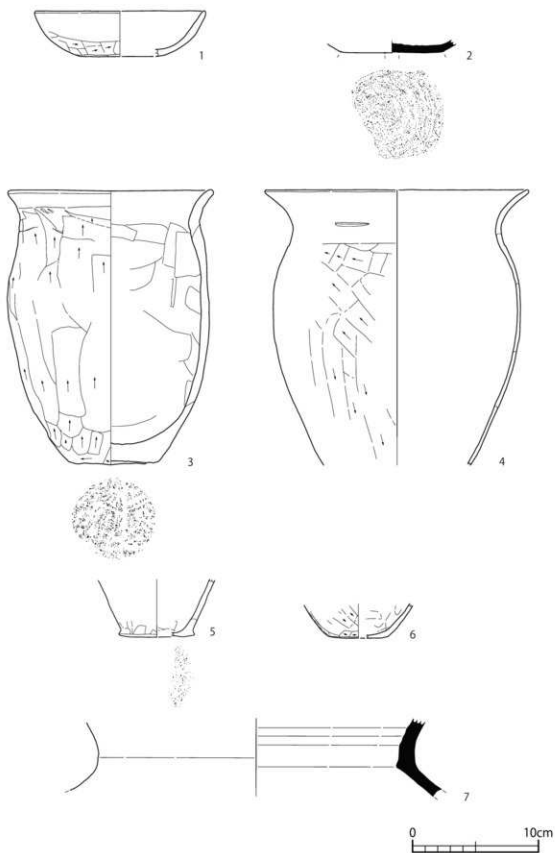


7. SI20 カマド掘り方土層断面 D-D' (東から)

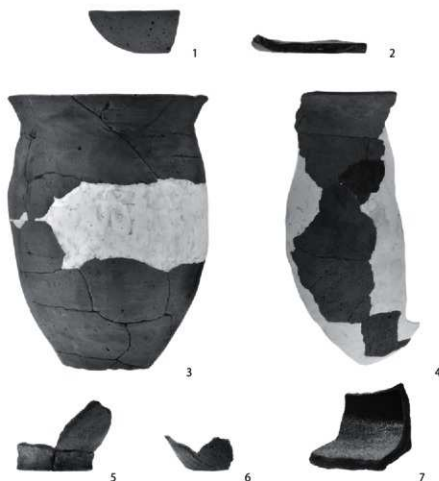


8. SI20 カマド掘り方土層断面 E-E' (東から)

第 302 図 SI20 写真 (2)



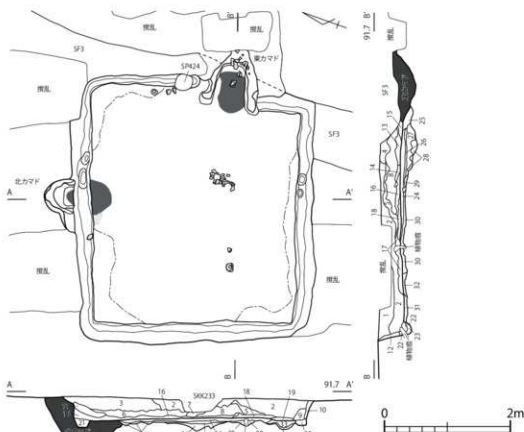
第303図 SI20出土遺物(1/3)



第304図 SI20出土遺物写真

第 36 表 SI20 出土土器観察表

図1番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第303～304図	1	甕土中割	土師器 環 (13.4) 3.6 (7.2)	体部から口縁部へ内傾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はヨコナデ。体部・底部はヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	小礫 長石 白色粒	軟質	7.5YR6/6 橙		外面にヌズビトハギツ圧痕 粗線型環
	2	甕土中割	直歯器 環 (8.1)	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、回転ヘラケズリ調整を施すが、中央に糸切り痕がわずかに残っている。	海綿動物骨針 小礫 石英 雲母	良好	2.5Y5/2 暗灰黄	底部片	南比企産
	3	甕土下割・カマド	土師器 甕 16.2 21.5 6.7	口縁部の外反は小さく、胴部の膨らみも少ない。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は縦方向のヘラケズリ調整。内面はヘラ状工具によるナデ調整。底部には木炭痕が残る。器壁は薄い。	小礫 石英 白色粒	軟質	5YR6/6 橙		
	4	床面・カマド付近	土師器 甕 (20.8) —	口縁部は大きく外反し、最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は斜方向、縦方向等のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器壁は薄い。	白色粒 角閃石	良好	5YR5/4 に濃い赤褐		武蔵型甕
	5	甕土下割	土師器 甕 (6.9)	底部は平底。胴部下端は直線気味に開いて立ち上がる。	外面・内面ともナデ調整か。調整技法は判然としない。底部に木炭痕が残る。	白色粒 雲母	良好	5YR5/6 明赤褐		粗線型甕
	6	甕土中割へ下割	土師器 甕 (4.7)	底径は小さい。	胴部下端は斜方向や横方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整が施される。内面はナデ調整される。器壁は薄い。	角閃石 白色粒	良好	5YR5/6 明赤褐		武蔵型甕
	7	甕土中割	直歯器 甕 —	口頸部は逆ハズに広がる。内面の口頸部と胴部の境は鋭く屈曲する。	口頸部は横方向の回転ナデ調整が施される。	海綿動物骨針 長石	良好	N3/O 暗灰		外面に暗灰 南比企産

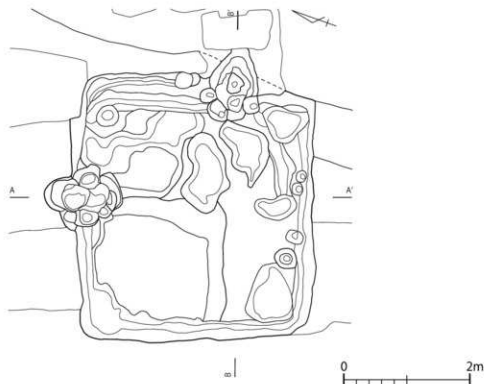


521

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～3mmの黄褐色スコリア1%未満、直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑5～10mmのロームブロック1%未満、直徑7mm以下の焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや弱。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑15mm以下のロームブロック1%未満、直徑2～10mmの焼土ブロック1%、長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑10mm以下のロームブロック1%未満、直徑2～7mmの砂質粘土粒子1%未満、直徑2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑4～10mmのロームブロック1%未満、直徑2～5mmの砂質粘土粒子1%、直徑2～10mmの焼土ブロック1%、長さ5～20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや弱、粘性弱。
5. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑10mm以下のロームブロック1%未満、直徑3～15mmの砂質粘土ブロック(2.5Y6/2)1%、直徑2～5mmの焼土粒子1%、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
6. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑7mm以下のローム粒子・砂質粘土粒子各1%、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強。
7. 10YR2/1 黒褐色土層 粘性やや弱。直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑5mm以下のローム粒子・砂質粘土粒子各1%、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強。
8. 2.5Y3/1 黄褐色土層 砂質粘土土体。直徑5～15mmのロームブロック1%、直徑2～20mmの焼土ブロック2%未満、長さ2～20mmの炭化物1%未満を含む。黒色土40%を均質に含む。締まり・粘性やや弱。
9. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの赤褐色スコリア1%未満、直徑3mm以下の焼土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
10. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
11. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑3mm以下の砂質粘土粒子1%、直徑2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
12. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
13. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑5mm以下の砂質粘土粒子2%、長さ2～10mmの炭化物1%を含む。締まり強、粘性やや弱。
14. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2～10mmの砂質粘土ブロック2%、直徑5mm以下の焼土粒子1%炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
15. 2.5Y4/2 暗灰色土層 砂質粘土土体の混合。直徑5mm以下の焼土粒子2%、長さ2～10mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性弱。
16. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2～10mmの砂質粘土ブロック3%、直徑3～20mmの焼土ブロック3%、長さ2～10mmの炭化物1%を含む。焼土30%を均質に含む。締まり強、粘性やや弱、粒子やや粗い。
17. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑5mm以下のローム粒子1%・砂質粘土粒子20%、直徑30mm以下の砂質粘土ブロック1%、直徑3mm以下の焼土粒子1%未満、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
18. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑2～20mmの砂質粘土ブロック10%、直徑2～10mmの焼土ブロック1%未満を含む。締まり強、粘性やや弱、粒子やや粗い。
19. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強、粘性やや弱。
20. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑10～30mmの暗褐色土ブロック(10YR3/2)2%を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。
21. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑5mm以下の砂質粘土粒子2%、直徑3mm以下の焼土粒子2%、直徑2～5mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性弱、粒子やや粗い。
22. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑5～40mmのロームブロック40%を含む。締まり・粘性やや弱。
23. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑2～10mmのロームブロック2%、直徑30mm以下の砂質粘土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。
24. 10YR2/2 黒褐色土層 厚床土。直徑10mm以下のロームブロック2%、直徑5～30mmの暗褐色土ブロック3%、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強、粘性やや弱。
25. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑30mm以下のロームブロック3%、直徑5mm以下の砂質粘土粒子2%、直徑2～5mmの焼土粒子2%を含む。締まり・粘性やや弱。
26. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑10mm以下のロームブロック25%、直徑7mm以下の砂質粘土ブロック1%、直徑10mmの焼土ブロック1%を含む。締まり強、粘性やや弱。
27. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑20mm以下のロームブロック3%、直徑10～30mmの暗褐色土ブロック5%、直徑2～10mmの焼土ブロック1%、直徑2～5mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。
28. 10YR4/4 暗褐色土層 ローム土体。直徑5mmの赤褐色スコリア1%未満、直徑2～30mmの黒色土ブロック(10YR2/1)10%を含む。締まり・粘性やや弱。
29. 10YR4/3 暗褐色土層 ロームブロック土体。直徑30～50mmの暗色土ブロック30%、直徑2～10mmの焼土ブロック2%を含む。締まり・粘性やや弱。
30. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑3～5mmの赤褐色スコリア1%未満、直徑3～20mmのロームブロック3%、暗褐色土(10YR3/2)10%を含む。締まり強、粘性強。
31. 10YR3/1 暗褐色土層 直徑3～30mmのロームブロック3%、直徑2～3mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強、粘性やや弱。
32. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑5mmの赤褐色スコリア1%未満、直徑3～20mmのロームブロック1%を含む。締まり・粘性やや弱。
33. 10YR3/1 暗褐色土層 直徑3～10mmのロームブロック1%、直徑3mm以下の砂質粘土粒子・焼土粒子各1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
34. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直徑3～20mmのロームブロック5%を含む。締まり・粘性やや弱。
35. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑2～10mmのロームブロック1%、直徑7mm以下の砂質粘土ブロック1%、直徑2～10mmの焼土ブロック1%を含む。締まり・粘性強。
36. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑3～20mmのロームブロック3%、直徑3～30mmの暗褐色土ブロック3%を含む。締まり・粘性やや弱。

第305図 SI21(1)(1/60)

掘り方



第306図 SI21(2)(1/60)

床面までの覆土は19層に細分された。東カマド付近には砂質粘土を含有する層が複数見られ、特に砂質粘土を主体とする8層等は、同カマドを廃絶した際に流出した砂質粘土が堆積したものと思われる。20～23層は壁溝内の覆土である。

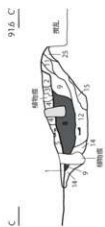
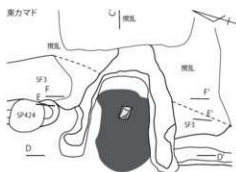
掘り方は概ねⅣ層まで掘り込まれており、深い部分ではⅤ層にまで達している。全体的に凹凸を有している他、南側を中心に、ピット状の掘り込みが複数確認された。掘り方の覆土は13層に細分され、ロームブロックを含有する黒褐色土や暗褐色土がベースの土壌が主体となっている他、砂質粘土の粒子やブロックを含む層も複数見られる。

壁溝は断面が逆台形状を呈し、幅25cm、深さ14cmを測る。東カマド使用時には、東カマド部分を除き、旧カマドである北カマド部分も含めて周溝が巡っていた。

前述の通り、カマドは新旧2基が確認された。北カマドが古く、東カマドが新しい。

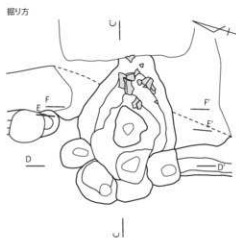
東カマドは、東壁のやや南寄りをV字状に掘り込んで構築されていた。上部は中世の道路跡SF3や攪乱に大きく削平されていた。調査時には、下部のみであるが、砂質粘土を主体に構築された左右の袖と側壁・奥壁が、良好に残存していた。側壁と奥壁は、火床部と共に強く被熱、赤化していた。天井部は残存していなかったが、火床部上の覆土の状況から、天井部は崩落したものと想定される。また、火床部の中央には、凝灰質砂岩製の支脚が埋め込まれていた。掘り方では左右袖の位置でピット状の掘り込みが検出されたことから、本来は両袖共に芯材が存在していた可能性がある。また、カマド北側の建物跡掘り方には同南側の壁溝の延長線上に溝の痕跡が確認できる。このことから、建物構築当初の東壁はカマド南側と同じラインであったが、カマドを東壁に移築した際に、東カマド北側の壁のみ東へ拡幅した可能性が考えられる。

北カマドは、北壁の中央にU字状に掘り込んで構築されていた。東カマド構築以前に使用されて

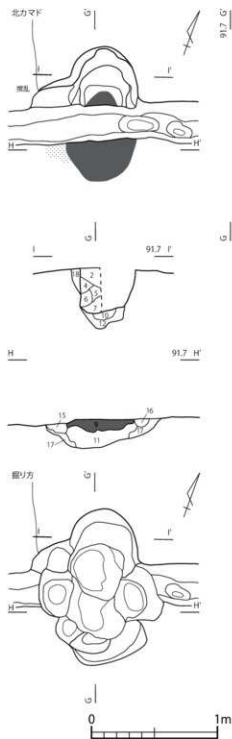


電力資料

- 23.2.Y3Y1 黒色炭土質 直径3～5mmの焼土ブロック3%, 直径3～5mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y4M4 褐色土質 砂質炭土土粒子25/53/20%, 直径20mm以下の焼土ブロック2%, 直径2～3mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 砂質炭土土粒子1%, 直径3～20mmの焼土ブロック3%, 長さ2～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y5/3 低い褐色土質 直径3～10mmの炭土質土粒子10%, 直径5mmの砂粒10%, 長さ2～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5M2 灰褐色土質 焼結強化した炭土質土, 直径2～20mmの炭土質土粒子10%, 長さ2～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5M4/3 褐色土質 直径5～10mmの砂質炭土ブロック25/52/25%, 直径2～10mmの炭土質土ブロック5%を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 直径2～20mmの焼土ブロック10%, 長さ3～20mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 直径5～10mmの炭土質土粒子20%, 直径15mm以下の焼土ブロック10%, 長さ2～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。直径3～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ。粘り、土面が硬直化して上硬くなる。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 砂質炭土土粒子, 直径20mm以下の焼土ブロック5%, 直径2～10mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘り性、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5M2 灰褐色土質 直径炭土土粒子30%, 直径7mm以下の砂質炭土ブロック1%, 直径2～10mmの炭土質土ブロック10%, 直径3mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 直径2～10mmの炭土質土粒子20%, 直径30mmの炭土質土粒子1%を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y4/3 褐色土質 直径2～20mmの焼土ブロック3%, 長さ30mmの炭土質土粒子1%を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y2 暗灰色炭土質 直径25mm以下の硬質炭土コア1%未満、焼土土粒子2%, 直径2mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y4 褐色土質 直径3～10mmの炭土質土ブロック3%, 直径2～10mmの炭土質土ブロック3%, 直径3～5mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y3 黒色炭土質 直径3～30mmの砂質炭土土粒子20%, 直径2～7mmの砂粒土粒子3%を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y3 黒色炭土質 直径3～30%, 直径2～10mmの炭土質土ブロック5%, 直径2～5mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y1 炭土質土 直径3～10mmのロームブロック3%, 直径2～7mmの焼土土粒子10%, 直径3～5mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y1 炭土質土 直径3～5mmの砂質炭土土粒子5%, 焼土土粒子1%を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y4/3 低い褐色土質 砂質炭土土粒子, 直径2～5mmの炭土質土粒子1%未満、直径2～3mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ。
- 23.2.Y5Y4/3 低い褐色土質 直径3～5mmの炭土質土土粒子1%未満、直径5～10mmの焼土ブロック2%, 直径5mmの炭土質土土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y2 暗灰色炭土質 直径3～7mmの炭土質土粒子25/53Y1/20%, 直径3～5mmの炭土質土土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y3 黒色炭土質 直径3～5mmの炭土質土粒子2%, 直径5～7mmの焼土土粒子1%を含む。細りや粘性や中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y1 黒色炭土質 直径5～30mmの砂質炭土ブロック1%, 直径5～10mmの炭土質土ブロック2%, 長さ30mmの炭土質土粒子1%未満を含む。細りや粘性や中やれ、粘り性。
- 23.2.Y5Y3 褐色土質 直径5～30mmの炭土質土土粒子5%, 直径2～20mmの炭土質土土粒子5%, 直径5mmの炭土質土土粒子1%未満を含む。細りや中やれ、粘りや中やれ。
- 23.2.Y5Y3 黒色炭土質 直径3～10mmの炭土質土土粒子7%, 直径2～3mmの炭土質土土粒子2%を含む。細りや粘性や中やれ、粘りや中やれ。

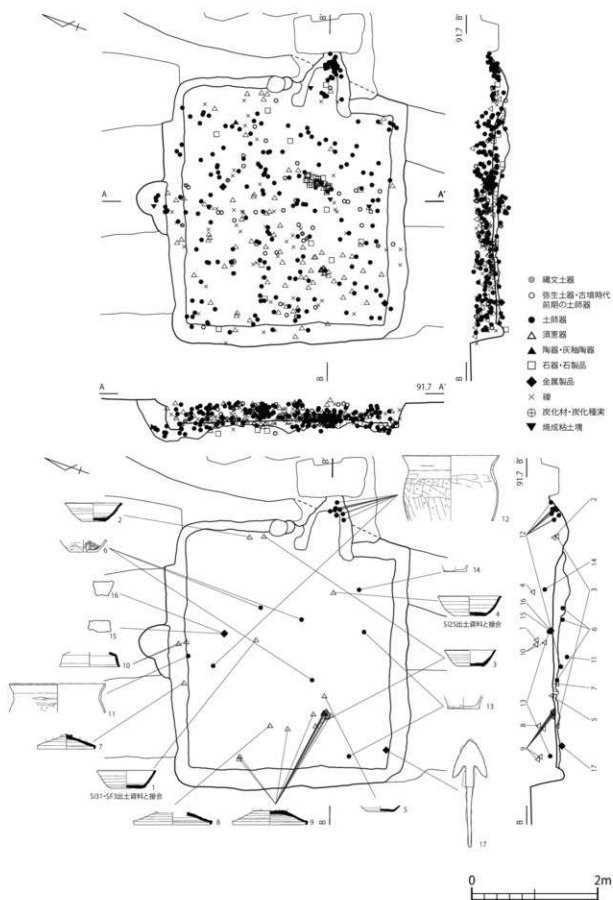


第 307 図 SI21(3) 東カマド (1/30)



- 北カマド
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/2)3%, 焼土粒子5%, 直径2mmの炭化物粒子1%未満, 砂粒3%を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子やや粗い。
 2. 5YR3/1 黒褐色土層 直径2~5mmの砂質粘土粒子5%, 直径5mm以下の焼土粒子7%, 直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子粗い。
 3. 2.5YR3/1 暗赤褐色土層 直径5mm以下の砂質粘土粒子5%, 直径4mm以下の焼土粒子10%を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子粗い。
 4. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径2~5mmの砂質粘土粒子2%, 直径2~10mmの焼土ブロック5%, 直径3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子やや粗い。
 5. 2.5YR4/3 に近い赤褐色土層 焼土主体, 直径5mm以下の砂質粘土粒子2%, 直径2~20mmの焼土ブロック1%を含む。締まりやや弱, 粘性弱, 粒子やや粗い。
 6. 2.5Y4/2 暗灰褐色土層 直径2~10mmの砂質粘土ブロック(2.5Y6/2)3%, 焼土ブロック7%を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子粗い。
 7. 2.5YR4/4 に近い赤褐色土層 直径2mm以下の砂質粘土粒子1%未満, 直径2~10mmの焼土ブロック10%, 直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性弱, 粒子やや粗い。
 8. 2.5YR4/3 に近い赤褐色土層 直径2~5mmの砂質粘土粒子2%, 直径7mm以下の焼土粒子5%, 直径3mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子粗い。
 9. 2.5YR4/6 赤褐色土層 大床部, 焼熱して変色(7.5YR5/2)した砂質粘土主体, 黒褐色土(2.5Y3/1)10%, 直径2~5mmの砂質粘土粒子5%, 直径2~10mmの焼土ブロック25%, 直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり強, 粘性やや強, 粒子極めて粗い。
 10. 2.5YR4/4 に近い赤褐色土層 砂質粘土主体, 直径2~5mmの砂質粘土粒子3%, 直径2~7mmの焼土粒子10%, 直径5mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや弱, 粒子粗く砂質。
 11. 10YR5/2 灰黄褐色土層 砂質粘土主体, 直径3~10mmのロームブロック1%, 砂質粘土ブロック2%, 直径2~7mmの焼土粒子2%を含む。黒褐色土30%を鉄炭に含む。締まりやや強, 粘性強。
 12. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3~10mmのロームブロック2%, 直径2~5mmの砂質粘土粒子30%, 直径3mm以下の焼土粒子3%を含む。締まり・粘性やや強。
 13. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の砂質粘土粒子1%未満, 直径2~20mmの焼土ブロック10%を含む。締まりやや強, 粘性やや強, 粒子やや粗い。
 14. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mmの砂質粘土粒子1%未満, 直径2~5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強, 粒子粗い。
 15. 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土。直径2~7mmの焼土粒子3%を含む。締まり・粘性強。
 16. 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土主体, 直径15mm以下の砂質粘土ブロック25%, 直径2~10mmの焼土ブロック7%, 直径2~3mmの炭化物粒子1%を含む。締まり強, 粘性やや強。
 17. 10YR3/1 黒褐色土層 直径10mm以下のロームブロック2%, 直径5mm以下の砂質粘土粒子3%, 直径5mm以下の焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強, 粒子やや粗い。
 18. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2~5mmの砂質粘土粒子3%, 直径2~7mmの焼土粒子3%, 直径5mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強, 粒子やや粗い。
 19. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2~20mmのロームブロック2%, 直径2~10mmの砂質粘土ブロック1%未満を含む。締まり・粘性やや強, 粒子やや粗い。

第308図 SI21(4)北カマド(1/30)





1. SI21 全景 (西南西から)



2. SI21 土層断面 A-A' (東北東から)



3. SI21 土層断面 B-B' (南南東から)



4. SI21 掘り方土層断面 A-A' (東北東から)



5. SI21 掘り方全景 (西南西から)

第 310 図 SI21 写真 (1)



1. SI21 東カマド全景 (西南西から)



2. SI21 東カマド掘り方全景 (西南西から)



3. SI21 東カマド土層断面 C-C' (南南東から)



4. SI21 東カマド土層断面 F-F' (西南西から)



5. SI21 東カマド掘り方土層断面 C-C' (南南東から)



6. SI21 東カマド掘り方土層断面 D-D' (西南西から)



7. SI21 東カマド掘り方土層断面 E-E' (西南西から)



8. SI21 東カマド掘り方遺物出土状況 (西南西から)

第 311 図 SI21 写真 (2)



1. SI21 北カマド全景 (南南東から)



2. SI21 北カマド土層断面 G-G' (東北東から)



3. SI21 北カマド掘り方土層断面 G-G' (東北東から)



4. SI21 北カマド掘り方土層断面 H-H' (南南東から)



5. SI21 遺物出土状況 (西南西から)



6. SI21 遺物出土状況 (南南東から)

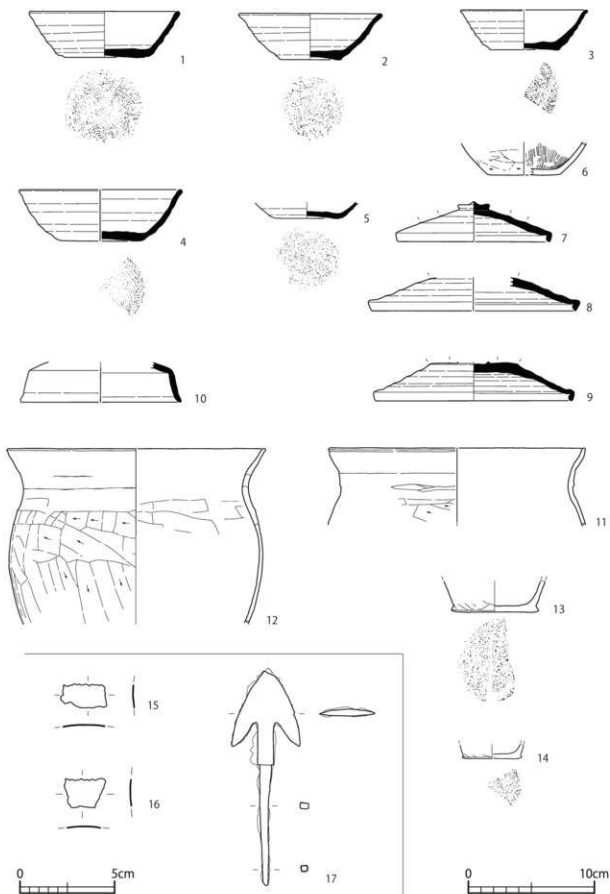


7. SI21 遺物出土状況 (西南西から)



8. SI21 遺物出土状況 (南南東から)

第 312 図 SI21 写真 (3)



第313图 SI21出土遺物(1/3・1/2)



第314図 SI21出土遺物写真

いたとみられ、本カマドの廃絶時には煙道部分等は埋め込まれて建物の壁が構築され、火床部には壁溝も掘られていた。側壁・奥壁共に構築材は残存していなかったが、袖があったと思われる位置では、床面下で砂質粘土の遺存が確認された。砂質粘土等は、再利用するために取り外されたものと推察される。

出土遺物 土師器 216 点、須恵器 88 点、灰釉陶器 1 点、焼成粘土塊 5 点、石器 3 点、石製品 1 点、

第 37 表 SI21 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	注記	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 313・314 図	1	覆土上層・SF3・SF3 覆土	(12.1) 3.8 6.5	体部・口縁部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反はみられない。	回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	N5/O 灰	ほぼ完全	遺構間接合 敷金子葉産
	2	覆土下層	(11.7) 3.9 5.2	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	5Y5/1 灰		敷金子葉産
	3	覆土下層	(10.6) 3.4 (5.9)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 長石 白色粒	良好	5Y5/1 灰		敷金子葉産
	4	覆土上層・SF2 カマド 崩り方	(13.0) 4.2 (6.6)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	長石 白色粒	やや軟質	10YR5/3 に近い黄褐色		遺構間接合 敷金子葉産
	5	覆土下層	— 6.1	底部は平底。	回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	N5/O 灰	底部片	敷金子葉産
	6	貼床覆土	土師器 蓋 (5.7)	底部は平底。体部下層はやや内湾気味に立ち上がる。	体部下層はヘラズリ調整、その上部は回転ナデ調整。底部の調整は判然としないう。体部内面は縦方向にミガキ調整が施されている。	小礫 褐色粒	良好	2.5YR6/6 褐色		甲斐型片
	7	貼床覆土	土師器 蓋 (12.0) 3.2	口縁部は短く屈曲し、天井部は直線的に立ち上がる。覆土形状のつまみが付く。	天井部に回転ヘラズリ調整を施し、つまみを取り付けている。	長石 白色粒	良好	N6/O 灰		敷金子葉産
	8	覆土中層	土師器 蓋 (16.1)	口縁部は短く屈曲する。	天井部上半には回転ヘラズリ調整が施されている。	海胆動物骨針 長石 白色粒 黒色粒	良好	5Y5/1 灰		南北企業産
	9	覆土上層・下層	土師器 短頸色蓋 (15.5)	口縁部は短く屈曲する。天井部の中央は平たい。	天井部上半に回転ヘラズリ調整を施している。つまみを取り付けた痕跡が観察される。	石英 白色粒	やや軟質	2.5YR/2 灰黄	ほぼ完全	敷金子葉産
	10	覆土中層	土師器 短頸色蓋 (12.6)	天井部は屈曲し、口縁部は三角形になる。	回転力を利用した成形。シャープなつくりである。	長石	良好	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 7.5R3/1 暗赤灰		外面暗灰 産地不明
	11	北カマド	土師器 甕 (20.1)	口縁部はコナデに外反する。	口縁部はコナデ、胴部外面はヘラズリ調整、内面はナデ調整される。	長石 雲母 角閃石 白色粒	良好	5YR4/8 赤褐色		武蔵型甕
	12	覆土床面・東カマド 崩り方	土師器 甕 (20.3)	口縁部はく字状にゆるやかに外反する。	口縁部はコナデ、胴部上半は横方向や斜方向、中央以下が縦方向や斜方向のヘラズリ調整、内面は横方向のヘラズリ調整等が施される。	小礫 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	7.5YR5/4 に近い黄褐色		武蔵型甕
	13	覆土下層	土師器 甕 (— 6.9)	底部は平底。底部は台状に少し突出する。	胴部下端にヘラナデ調整がみられる。内面はナデ調整される。底部外面に木炭痕が残る。	小礫 雲母 白色粒	良好	5YR5/6 明赤褐色		底部外面にスス付着 粗織型甕
	14	覆土中層	土師器 甕 (5.8)	底部は平底。底部は台状に少し突出する。	胴部下端にヘラナデ調整がみられる。内面の調整は判然としない。底部外面に木炭痕が残る。	石英 雲母 白色粒	やや軟質	7.5YR6/4 に近い黄褐色		粗織型甕

凝灰質砂岩切片 40 点、礫 53 点、炭化物 2 点の他、縄文土器 6 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 35 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて出土した。図示した遺物は、土師器が床面付近、須恵器が覆土中層から出土している傾向がある。第 313・314 図 6 の土師器環、7 の須恵器蓋は、いずれも貼床内からの出土である。12 の甕は主にカマド内から破片の状態で出土した。凝灰質砂岩の切片は床面中央部で複数検出された。カマドの構築材であったものが廃絶時に外され、遺棄されたと思われる。3 点の須恵器蓋は、床面西半の覆土中～下層より出土した。15・16 の板状青銅製品は北カマド前の床面から検出され、17 の鉄鏝は床面南西隅の壁溝調査時に鏝身部の先端が露出したもので、貼床内からの出土である。

土器 第313・314図1～5は須恵器環で、回転系切りで切り離され、底部に調整は施されていない。いずれも東金子窯産須恵器と推定される。須恵器環の口径は1が12.1cm、2が11.7cm、3が10.6cm、4が13.0cm、底径は1が6.5cm、2が5.2cm、3が5.9cm、4が6.6cm、5が6.1cmをそれぞれ測る。形態からみれば、底径の大きな1と4は古相を示すといえようか。6は土師器環で、甲斐型環と推定される。内面にミガキ調整が施され、緻密な胎土で橙色に仕上げられている。7～9は須恵器蓋で、大きさには大小があるが、いずれも口縁端部が屈曲する形態である。7は口径12.0cmを測り、天井部には回転ヘラケズリ調整が施され、擬宝珠形のつまみが付く。8は口径が16.1cm、9は口径が15.5cmを測り、ともに天井部に回転ヘラケズリ調整が施されている。7・9は東金子窯産、8は南比窯産須恵器になるだろう。10は須恵器短頸壺の蓋と思われる。外面に厚く降灰を受け、口縁端部は三角形状につまみ出されている。生産地は不明である。11・12は武蔵型の土師器甕である。11の口縁部形態はコ字状に近く、12はく字状に緩やかに外反する。12の口縁部はヨコナデ、胴部上半は横方向や斜方向、中央以下が斜方向や縦方向にヘラケズリ調整され、内面はナデ調整が施されている。13・14は土師器甕の底部片で、ともに相模型甕となるだろう。底部は台状に少し突出し、胴部下端にはヘラナデ状の調整痕がわずかに残っているが、全体にナデ調整されると思われる。底部外面には木葉痕が残っている。

金属製品 第313・314図15・16は青銅製品の破片で、薄い板状を呈している。製品名等、詳細は不明と言わざるを得ない。15は23×12mm、16は21×15mmを測り、厚さはともに0.5mm以下と極めて薄い。元素組織成分の分析によれば、錫の含有量は15が52.9%、16が50.2%となっている。ともに錫の割合が大きい佐波理と呼ばれる合金となろう。17は鐵身部の先端をごく一部欠損するが、ほとんど完形の鉄簾である。全長は11.3cm、簾身部は三角形状を呈する短頸(閤)竈被面丸造腸袂長三角形簾となるだろう。

炭化種実(点上げ) モモの核が1点出土した。

出土した須恵器環には、南比企窯跡群鳩山編年のHVI期やHVII期に類似する東金子窯産の須恵器環がみられ、武蔵型甕や相模型甕も共伴する。遺構の時期は9世紀中葉から後葉と考えられる。

SI22(第315～322図、第38表)

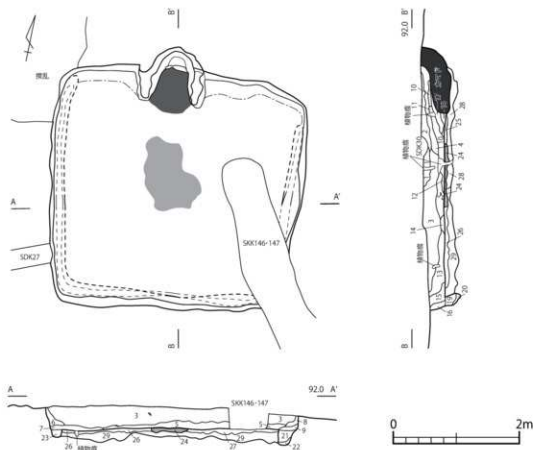
遺構 調査区南西部の30P-47・48グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、弥生時代終末期のSI24を切り、近世以降のSKK146・147に床面の一部を削られ、同じくSDK27・30及び撓乱には壁や覆土の一部を切られている。また、同時代の遺構は、北側320cmにはSI18が、西側270cmにはSI23がそれぞれ隣接している。

平面形態は長方形で、東西409cm、南北419cmを測る。主軸方向は、N-12°-Wを指す。検出面から床面までの深さは51cmで、壁はやや開き気味に立ち上がっている。

床面は貼床で、ほぼ全面が硬化していたが、締まりは全体的にやや弱い。壁溝は、カマド部分を除いて全周していたと思われる。カマドは北壁に構築されている。

床面までの覆土は18層に細分された。主に黒色土や暗褐色土がベースとなっており、一部の層位には、焼土や炭化物の粒子がわずかに含まれている。また、カマド付近では砂質粘土粒子の混入が見られる。19～23層は壁溝内の覆土である。

掘り方は概ねIV層まで掘り込まれ、一部の深いところではVS層にまで達している。全体に凹凸を

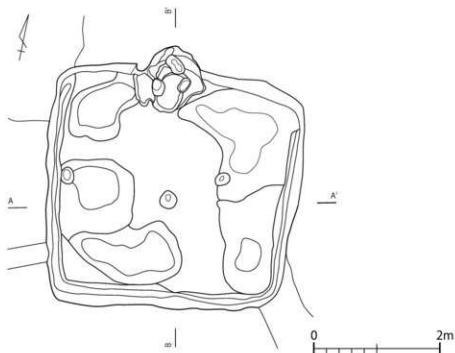


522

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満、直徑 1mm の赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～5mm の焼土粒子 1% を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
2. 10YR2/3 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満、黒色土 (10YR2/1) 10%、砂質粘土 (2.5Y4/2.5/3)、直徑 2～10mm の焼土ブロック 1%、長さ 3～20mm の炭化物 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm の黄褐色スコリア 3%、直徑 2～10mm のロームブロック 1% 未満、直徑 2～5mm の焼土粒子 2%、直徑 3～5mm の炭化物 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑 2～3mm のローム粒子 1%、砂質粘土 (2.5Y4/2.5/3)、直徑 5mm 以下の焼土粒子 1%、長さ 3～10mm の炭化物 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土層 直徑 5mm のローム粒子 1% 未満、暗褐色土 (10YR3/3) 3%、直徑 2～15mm の焼土ブロック 1%、長さ 2～10mm の炭化物 1% を含む。締まり・粘性やや強。
6. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～3mm のローム粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
7. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑 2～10mm のロームブロック 1%、黒色土 5%、直徑 2～5mm の焼土粒子 1% 未満を含む。締まり強、粘性やや強。
8. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満、直徑 1mm の赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～5mm の炭化物粒子 1% 未満を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
9. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2～3mm のローム粒子 1%、暗褐色土 (10YR3/3) 5%、直徑 2～5mm の炭化物粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
10. 2.5Y/1 黒色土層 直徑 3～30mm の砂質粘土 (2.5Y6/3/2)、直徑 2～7mm の焼土粒子 2%、長さ 3～10mm の炭化物 1% 未満を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
11. 2.5Y/2 暗褐色土層 直徑 2～10mm のロームブロック 3%、長さ 3～10mm の炭化物 1% を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
12. 10YR3/3 暗褐色土層 黒色土 15%、直徑 3～20mm の焼土ブロック 3% を含む。締まり強、粘性やや強。
13. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直徑 1mm の赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～5mm のローム粒子 1% 未満、直徑 2～3mm の焼土粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
14. 10YR3/3 暗褐色土層 黒色土 5%、直徑 2～5mm の焼土粒子 1% を含む。締まり・粘性やや強。
15. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満、直徑 1mm の赤色スコリア 1% 未満、直徑 5～20mm のロームブロック 1% を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
16. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm の黄褐色スコリア 1% 未満、直徑 1mm の赤色スコリア 1% 未満、暗褐色土 (10YR3/3) 5% を含む。締まりやや弱、粘性やや強。
17. 2.5Y/3 暗褐色土層 暗褐色土 (2.5Y3/1) 10%、直徑 3～7mm の焼土粒子 1%、長さ 3～10mm の炭化物 1% 未満を含む。締まりやや弱、粘性強。
18. 5YR4/4 暗褐色土層 暗褐色土 (2.5Y3/1) 5%、直徑 7mm 以下の焼土粒子 3%、直徑 2～5mm の炭化物粒子 1% を含む。締まりやや弱、粘性強。
19. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3～5mm のローム粒子 1% 未満、直徑 2mm 以下の焼土粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
20. 10YR4/3 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の赤色スコリア 1%、直徑 2～20mm のロームブロック 30% を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
21. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、赤色スコリア 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強。
22. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直徑 2～15mm のロームブロック 5% を含む。締まり・粘性やや強。
23. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直徑 2～10mm のロームブロック 5% を含む。締まり・粘性やや強。
24. 10YR2/1 黒色土層 焼土ブロックを含む暗褐色土。直徑 3～10mm のロームブロック 1%、直徑 2～10mm の砂質粘土ブロック 2%、直徑 2～30mm の焼土ブロック 7%、長さ 2～10mm の炭化物 1% を含む。締まり・粘性やや強。
25. 2.5Y/1 暗褐色土層 灰味土。砂質粘土 (2.5Y6/3/7)、直徑 2～3mm の焼土粒子 1%、直徑 2～5mm の炭化物粒子 1% を含む。締まり・粘性強。
26. 10YR3/3 暗褐色土層 灰味土。直徑 2～30mm のロームブロック 2%、直徑 5～30mm の黒色土硬化ブロック (10YR2/1) 10%、直徑 2～3mm の焼土粒子 1% 未満、直徑 2～5mm の焼土粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性強。
27. 10YR3/3 暗褐色土層 灰味土。直徑 2～10mm のロームブロック 1%、直徑 5～30mm の黒色土硬化ブロック 10%、直徑 2～3mm の焼土粒子・焼土粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性強。
28. 10YR2/1 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～20mm のロームブロック 2%、直徑 5～40mm の黒色土ブロック (10YR2/1) 3% を含む。締まり・粘性強。
29. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の赤色スコリア 1% 未満、直徑 2～30mm のロームブロック 3%、直徑 3～50mm の黒色土ブロック 7% を含む。締まり・粘性強。

第 315 図 SI22(1)(1/60)

掘り方



第316図 SI22(2)(1/60)

有し、建物跡の中心部がやや浅くなっている。掘り方覆土は6層に分層される。建物跡中心にみられる24層は、焼土ブロックを斑状にやや多く含んでおり、貼床を構築する土壌の一部に、焼土を多く含むものをを用いたと考えられる。それ以外の層は、ロームブロックを含有する暗褐色土がベースとなっている。

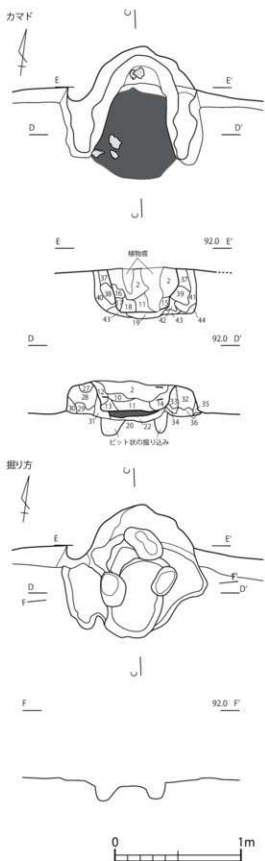
壁溝は、床面の精査時には確認できなかったが、掘り方調査時にベルトの断面や掘り方の底面で確認された。掘り方底面の形状から、本来は、少なくとも東壁を除いた部分には巡っていたと推定される。ベルト部分においては断面が逆台形もしくは箱状を呈し、広いところで幅24cm、深さ25cmを測る。

カマドは、北壁のやや西寄りを半円状に掘り込んで構築された。砂質粘土を主体に構築された左右の袖が良好に遺存し、側壁・奥壁も確認された。天井部は残存していなかったが、両袖間の覆土堆積状況から、天井部は崩落したものと考えられる。カマドの掘り方では左右袖に近い位置でビット状の掘り込みが検出された。調査時の袖の位置よりは内側に位置していることから、平成27・28年度調査地点のSI12（東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集所収）に見られるように燃焼室に芯材を配していたか、カマドの造り替え、拡張等が行われたものと思われる。

出土遺物 土師器320点、須恵器18点、焼成粘土塊2点、礫49点、炭化物2点の他、縄文土器4点と弥生土器・古墳時代前期の土師器25点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて、平面的にも全面にわたって出土した。図示した遺物は、覆土中層から床面付近にかけて出土している傾向がある。第321・322図1の土師器坏及び2～4の須恵器坏は覆土下層から、5・7の土師器甕の口縁部は覆土中～下層から、6の甕はカマド左袖付近から建物中心部にかけて破片が散布された状態で、8の甕は床面西側の広い範囲で上層から下層にかけて破片が散布されたような状況で出土した。

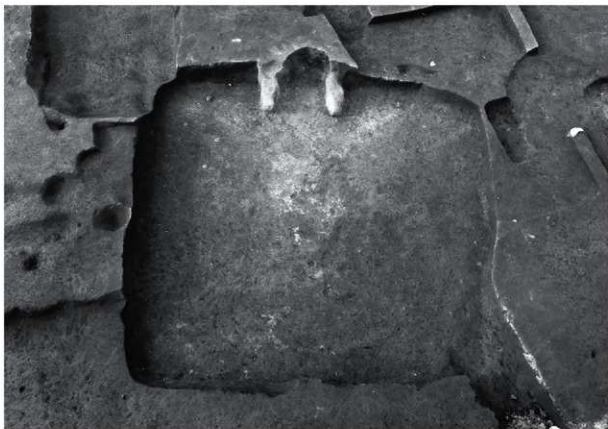
また、西側に隣接するSI23出土の土師器片と接合する事例も2点あった。



- カマド
- 92.0 C
- 92.0 D'
- 92.0 F'
- 0 1m
- カマド
- 7.5YR4/3 褐色土層 黒色土(7.5YR2/1)20%、直徑2~30mmの焼土ブロック7%、長さ3~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強、粘性やや強、粘子やや強い。
 - 7.5YR5/3 赤褐色土層 砂質粘土(2.5Y3/1)15%、直徑2~30mmの焼土ブロック10%、長さ2~10mmの炭化物1%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 7.5YR5/3 赤褐色土層 直徑2~10mmの焼土ブロック3%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強、粘性強、粘子強い。
 - 7.5YR3/1 黒褐色土層 直徑3~5mmの砂質粘土(2.5Y4/2)91%、直徑2~10mmの焼土ブロック3%を含む。締まりやや強、粘性やや強、粘子強い。
 - 7.5YR5/4 赤褐色土層 直徑2~20mmの焼土ブロック7%、長さ3~10mmの炭化物1%を含む。締まり弱、粘性やや強、粘子強い。
 - 2.5Y4/1 黄褐色土層 砂質粘土と黒褐色土の混合土。直徑2~5mmの焼土粒子2%、直徑2~5mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 10YR5/3 赤褐色土層 黒褐色土(2.5Y3/1)10%、砂質粘土(2.5Y5/3)30%、直徑2~10mmの焼土ブロック3%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 2.5Y7/4 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~7mmの焼土粒子2%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性強、粘子やや強い。
 - 7.5YR4/3 褐色土層 直徑2~30mmの焼土ブロック20%、長さ3~10mmの炭化物1%を含む。締まり粘性やや強。
 - 7.5YR5/4 赤褐色土層 直徑2~20mmの焼土ブロック15%、長さ2~15mmの炭化物1%を含む。締まり粘性やや強。
 - 7.5YR5/4 赤褐色土層 砂質粘土土。直徑2~20mmの焼土ブロック7%、長さ2~10mmの炭化物1%を含む。締まり粘性やや強。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土層 黒色土(7.5YR2/1)10%、直徑2~5mmの焼土粒子10%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%を含む。締まり弱、粘性やや強、粘子やや強い。
 - 7.5YR5/3 赤褐色土層 直徑2~7mmの焼土粒子5%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性やや強、粘子やや強い。
 - 7.5YR4/2 褐色土層 直徑3mm以下の焼土粒子5%、長さ2~30mmの炭化物1%を含む。締まり粘性やや強、粘子やや強い。
 - 7.5YR4/3 褐色土層 直徑3~20mmの砂質粘土ブロック(2.5Y6/3)10%、直徑2~5mmの焼土粒子5%、直徑2~3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強、粘性やや強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2~5mmの砂質粘土(2.5Y6/3)3%、直徑2~7mmの焼土粒子3%を含む。締まりやや強、粘性やや強、粘子強い。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑5mm以下の砂質粘土粒子10%、直徑2~5mmの焼土粒子3%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土10%、直徑3mm以下の焼土粒子2%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 7.5YR4/2 褐色土層 灰褐色、直徑5mm以下の焼土粒子5%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 7.5YR5/3 赤褐色土層 灰褐色、直徑10mm以下の焼土ブロック5%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%を含む。締まりやや強、粘性強、粘子強い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2~20mmのロームブロック2%、直徑2~5mmの砂質粘土粒子2%、直徑5mm以下の焼土粒子2%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土。直徑3mm以下の焼土粒子2%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑2~5mmの砂質粘土(2.5Y6/3)2%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 黒褐色土と砂質粘土の混合土。直徑2~5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まりやや強、粘性やや強、粘子強い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑3~15mmのロームブロック2%、直徑3mm以下の砂質粘土粒子2%、直徑2~5mmの焼土粒子3%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土。直徑5mm以下の焼土粒子3%を含む。黒褐色土(10YR2/1)10%を均等に含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/2 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~7mmの焼土粒子1%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑3~5mmの焼土粒子3%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~10mmの焼土ブロック3%を含む。締まりやや強、粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~15mmの焼土ブロック20%、直徑3~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y5/3 赤褐色土層 砂質粘土土。直徑2~15mmの焼土ブロック5%を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~10mmの焼土ブロック7%を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 直徑5mm以下の焼土粒子3%を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~7mmの焼土粒子3%を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 黒褐色土と砂質粘土の混合土。直徑2~3mmの焼土粒子2%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土。直徑5mm以下の焼土粒子2%、直徑2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑2~10mmの焼土ブロック5%、長さ3~7mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土土。直徑7mm以下の焼土粒子10%、長さ2~10mmの炭化物1%未満を含む。締まり粘性強。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直徑30mm以下の砂質粘土粒子3%、直徑2~3mmの焼土粒子1%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑3mm以下の砂質粘土粒子3%、直徑5mm以下の焼土粒子2%を含む。締まり粘性やや強、粘子やや強い。
 - 2.5Y3/3 黄褐色土層 砂質粘土土。直徑3mm以下の焼土粒子2%を含む。締まり粘性強、粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑3mm以下の砂質粘土粒子3%、直徑5mm以下の焼土粒子2%を含む。締まり粘性やや強。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直徑2mm以下の焼土粒子1%未満を含む。締まり粘性やや強。



第 318 図 SI22(4) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI22 全景 (南から)



2. SI22 掘り方全景 (南から)

第 319 図 SI22 写真 (1)



1. SI22 土層断面 A-A'(南から)



2. SI22 土層断面 B-B'(東から)



3. SI22 カマド全景 (南から)



4. SI22 カマド掘り方全景 (南から)



5. SI22 カマド土層断面 C-C'(東から)



6. SI22 カマド土層断面 D-D'(南から)

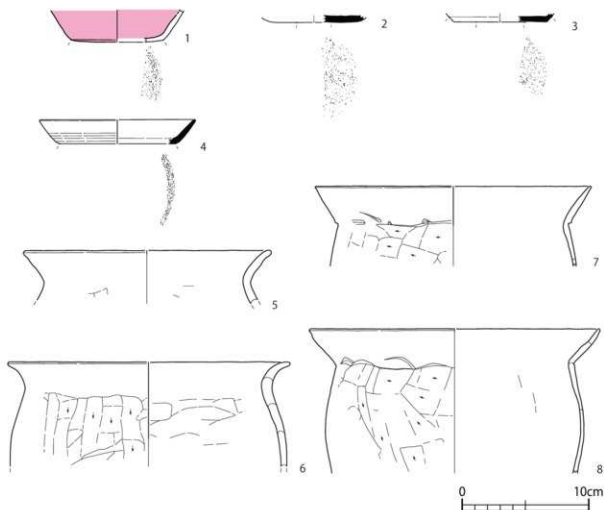


7. SI22 カマド掘り方土層断面 C-C'(東から)



8. SI22 カマド掘り方土層断面 D-D'(南から)

第 320 図 SI22 写真 (2)



第321図 SI22出土遺物(1/3)

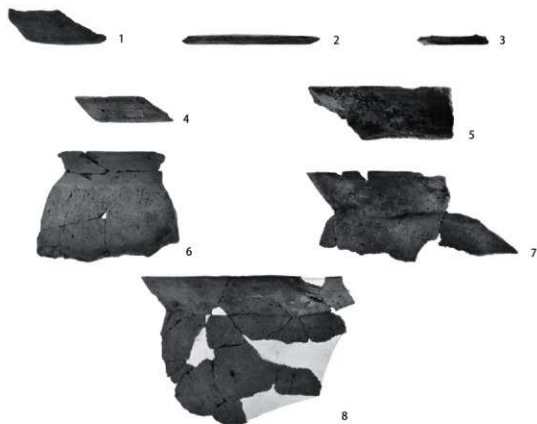
土器 第321・322図1は土師器環、いわゆる盤状環である。内外面に赤色塗彩を施し、底部は手持ちヘラケズリ調整される。2～4は須恵器環で、いずれも底部に回転ヘラケズリ調整が施されている。2・3は小片で、全体の器形はわからないが、推定される底径は2が8.9cm、3が9.0cmを測る。4は器高が低く、盤状の形態の須恵器環となろう。推定口径は14.2cm、器高は2.2cm、推定底径は10.6cmを測る。2は東金子窯産、3・4は南比企窯産須恵器と推定される。土師器甕は器壁の厚いタイプと薄いタイプが認められる。5・6は厚手の土師器甕で、口縁部はヨコナデ、6の胴部は縦方向にヘラケズリ調整されている。7・8の器壁は薄く、武蔵型甕となろう。ともに口縁部はく字状に外反し、胴部の膨らみが小さい。口縁部はヨコナデ、胴部上半は横方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整され、赤褐色系に焼き上げられている。

炭化種実（点上げ） モモの核が1点出土した。

出土した盤状環と南比企窯跡群鳩山編年HⅡ期の南比企窯産須恵器環等から、本遺構の時期は8世紀前葉から中葉に相当すると考えられる。

SI23（第323～333図、第39表）

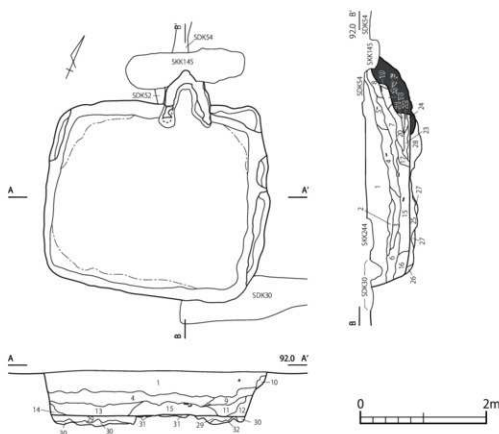
遺構 調査区南西部の30P-45・46グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、弥生時代終末期の



第322図 SI22出土遺物写真

第 38 表 SI22 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 322 図	1	甕土下層・包含層 (30P-47・II層)	土師器 平	— — (8.2)	底部は平底。体部は直線的に立ち上がる。	回転力利用の成形。底部は手持ちヘラケズリ調整が施される。	小礫 雲母 白色粒	良好	5YR3/6 暗赤褐	内外面赤色律彩 盤状片
	2	甕土下層	土師器 平	— — (8.9)	底部は平底。	体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転系切り筋が現る。	雲母 白色粒 褐色粒	良好	外面 5Y7/2 灰白 内面 5YR6/4 にぶい橙	底部片 東金子窯産
	3	甕土下層	土師器 平	— — (9.0)	底部は平底。	体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に糸切り痕が現る。	海綿動物骨針 石英 白色粒	軟質	2.5Y8/1 灰白	底部片 内外面に火押痕 南比企業産
	4	甕土下層	土師器 平	(14.2) 2.2 (10.0)	体部から口縁部へと直線的に立ち上がる。器高は低い。	回転力利用の成形。底部はヘラケズリ調整が施される。	小礫 長石 石英 白色粒	軟質	2.5Y7/1 灰白	— 南比企業産の可能性
	5	甕土中へ下層	土師器 甕	(19.2) — —	口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器厚は厚い。	雲母 石英 白色粒	良好	5YR6/6 橙	口縁部片 口縁部外面スス付着
	6	甕土上へ下層・カマド付近	土師器 甕	(22.4) — —	口縁部は強く外反し、胴部は少し膨らむ。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向にヘラケズリ調整。内面はヘラナデ調整される。器厚は厚い。	石英 白色粒	良好	7.5YR6/6 橙	— ヒエ鍋更止版
	7	甕土中へ下層	土師器 甕	(21.6) — —	口縁部と胴部の境にヘラケズリ調整による段が現る。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向にヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器厚は薄い。	石英 雲母 白色粒	良好	5YR3/4 暗赤褐	内外面スス付着 武蔵型甕
	8	甕土上へ下層	土師器 甕	(23.0) — —	口縁部はく字状に外反し、上半はやや内傾する。口縁部に最大径を有し、胴部の細らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向や斜方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整が施される。器厚は薄い。	小礫 石英 白色粒	良好	2.5YR4/6 赤褐	— 武蔵型甕

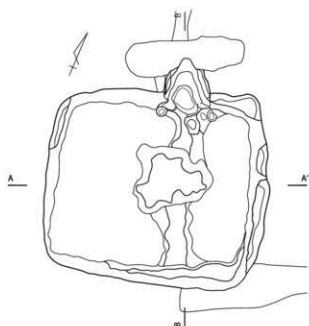


923

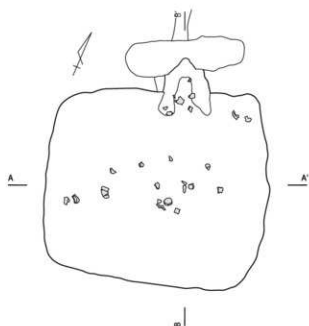
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2～3mmの黒褐色スコリア1%、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～10mmのロームブロック1%未満、直径2～5mmの焼土粒子1%、長さ5～20mmの炭化物1%未満を含む。結まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2～3mmの黒褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径3mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y5/2)1%未満、直径2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。結まりやや強、粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径2～3mmの黒褐色スコリア1%未満、直径20mm以下のロームブロック3%、直径20mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y5/2)1%未満、直径2～3mmの焼土粒子1%未満、長さ2～30mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径2mmの黒褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%、直径3mm以下のローム粒子1%未満、直径7mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直径2～7mmの焼土粒子1%未満を含む。結まり粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子1%未満、直径15mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y5/2)3%、直径7mm以下の焼土粒子1%、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強、粒子粗い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径3mmの黒褐色スコリア1%未満、直径2～7mmのローム粒子1%未満、直径5mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直径2～7mmの焼土粒子1%未満、長さ5～10mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強。
7. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径10mm以下の砂質粘土ブロック5%、直径2～10mmの焼土粒子1%、長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強。
8. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径20mm以下の砂質粘土ブロック10%、焼土ブロック2%、長さ2～20mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの黒褐色スコリア1%未満、直径2～10mmのロームブロック1%未満、直径5～10mmの砂質粘土粒子1%未満、直径2～7mmの焼土粒子1%未満を含む。結まり粘性やや強。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黒褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径5mm以下の砂質粘土粒子1%未満を含む。結まり粘性やや強。
11. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子1%、直径5mm以下の焼土粒子1%未満を含む。結まり強、粘性やや強、粒子やや粗い。
12. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～10mmのロームブロック2%、直径5～20mmの焼土粒子1%未満、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
13. 10YR2/1 黒色土層 直径3～20mmのロームブロック1%、直径3mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直径3～7mmの焼土粒子1%未満、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
14. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2～20mmのロームブロック5%、直径3～20mmの焼土粒子1%未満、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
15. 10YR2/1 黒色土層 直径3～10mmのロームブロック1%未満、直径3mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直径2～5mmの焼土粒子1%未満、長さ20mmの炭化物1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
16. 10YR2/1 黒色土層 直径3～30mmのロームブロック2%、焼土粒子2%、直径5mm以下の砂質粘土粒子1%未満、長さ2～10mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強、粒子粗い。
17. 10YR2/1 黒色土層 直径10mmのロームブロック1%未満、直径3～20mmの砂質粘土ブロック3%、長さ3～10mmの炭化物1%未満を含む。結まり粘性やや強。
18. 10YR3/1.5 灰褐色土層 直径15mm以下の砂質粘土ブロック2%、砂質粘土粒子7%、直径7mm以下で同色の砂質粘土ブロック3%、直径7mm以下の焼土粒子10%を含む。結まり粘性やや強、粘性やや強。
19. 10YR4/1.5 灰褐色土層 砂質粘土粒子50%、焼土粒子2%、直径3mm以下の焼土ブロック2%を含む。結まり粘性有り、粒子比較的細かい。
20. 2.5Y5/2 灰褐色土層 砂質粘土をベースとし、直径10mm以下の焼土ブロック7%を含む。結まりやや強、粘性有り、粒子比較的細かい。
21. 7.5YR3/2 黒褐色土層 砂質粘土粒子10%、直径15mm以下で同色の砂質粘土ブロック3%、直径7mm以下の焼土ブロック15%を含む。結まり粘性有り、粒子比較的細かい。
22. 7.5YR3/1 黒褐色土層 砂質粘土粒子7%、直径5mm以下で同色の砂質粘土ブロック3%、焼土粒子3%、直径5mm以下の焼土ブロック3%を含む。結まり粘性有り、粒子粗い。
23. 10YR3/7.1 黒色土層 砂質粘土粒子3%、直径7mm以下で同色の砂質粘土ブロック2%、焼土粒子3%、直径5mm以下の焼土ブロック3%を含む。結まり粘性有り、粒子粗い。
24. 7.5YR4/1 灰褐色土層 砂質粘土粒子30%、直径10mm以下で同色の砂質粘土ブロック2%、焼土粒子3%、直径7mm以下の焼土ブロック5%を含む。結まり粘性有り、粒子粗い。
25. 10YR2/1 黒色土層 灰床土。直径2～50mmのロームブロック5%、直径5～30mmの焼土土ブロック(10YR3/3)3%、直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
26. 10YR4/3 土に多い黒褐色土層 ロームブロック主体。直径5mmの赤褐色スコリア1%未満、黒色土3%を含む。結まり粘性やや強。
27. 10YR6/6 暗褐色土層 直径3～7mmの赤褐色スコリア1%未満、直径40mm以下のロームブロック40%を含む。結まり強、粘性やや強。
28. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3～10mmの赤褐色スコリア1%、直径2～70mmのロームブロック30%を含む。結まり強、粘性やや強。
29. 10YR6/6 暗褐色土層 ロームブロック主体。直径3～7mmの赤褐色スコリア1%、黒色土10%を含む。結まり強、粘性やや強。
30. 10YR3/2 黒褐色土層 直径5mmの赤褐色スコリア1%未満、直径5～10mmのロームブロック20%、直径2～5mmの焼土粒子1%未満を含む。結まり強、粘性やや強。
31. 10YR4/3 土に多い黒褐色土層 ロームブロック主体。直径10mmの赤褐色スコリア1%未満、黒色土(10YR3/1)20%を含む。結まり粘性やや強。

第323図 SI23(1)/(1/60)

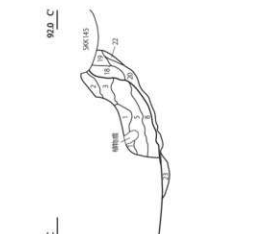
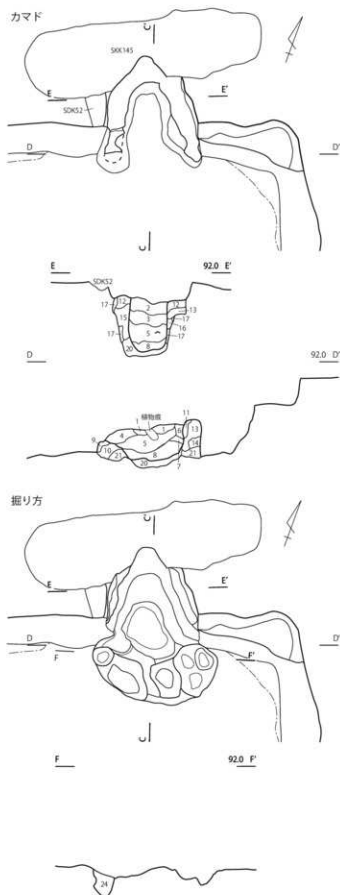
掘り方



遺物出土状況

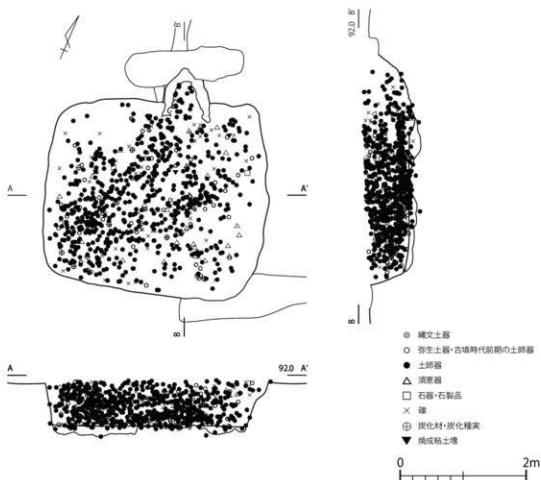


第 324 図 SI23(2)・遺物出土状況図 (1/60)



- カマド
- 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主層。直径2～10mmの焼土ブロック3%。直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径5mm以下の砂質粘土粒子5%。直径10mm以下の焼土ブロック2%。直径3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや弱。粘性やや強。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の砂質粘土粒子2%。直径15mm以下の焼土ブロック5%。直径2～5mmの炭化物粒子1%を含む。締まりやや弱。粘性やや強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土主層。直径10mm以下の焼土ブロック10%を含む。締まり・粘性やや強。粘土質の多い。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径20mm以下の焼土ブロック主層。直径2～5mmの砂質粘土粒子3%。長さ30mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり強。粘性なし。粘土質の多い。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主層。直径10mm以下の焼土ブロック10%。直径3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。粘土質の多い。
 - 7.5YR4/2 灰褐色土層 砂質粘土主層。直径3mm以下の焼土粒子2%。直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。粘土質の多い。
 - 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径2～5mmの砂質粘土粒子3%。直径5mm以下の焼土粒子5%。長さ20mmの炭化物1%未満を含む。締まり強。粘性やや弱。粘土質の多い。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径20mm以下の砂質粘土ブロック30%。直径2～5mmの焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の砂質粘土粒子2%。直径5mm以下の焼土粒子5%。直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。粘土質の多い。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土主層。直径3～10mmの焼土ブロック2%。長さ30mmの炭化物3%を含む。締まりやや強。粘性強。粘土質の多い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径3mm以下の焼土粒子5%。直径5mm以下の焼土粒子1%。長さ20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y5/3 黄褐色土層 砂質粘土主層。直径2～7mmの焼土粒子2%。直径2～3mmの炭化物粒子2%を含む。締まり・粘性強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主層。直径2～5mmの焼土粒子2%。長さ30mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。粘土質の多い。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径2～20mmの焼土ブロック1%。長さ20mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径2～20mmの焼土ブロック10%。直径3mm以下の砂質粘土粒子5%を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径20mmのロームブロック1%。直径2mm以下の砂質粘土粒子2%を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主層。直径2～20mmの焼土ブロック5%。長さ3～10mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性やや強。粘土質の多い。
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土主層。直径2～10mmの焼土ブロック2%。直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径2～10mmの焼土ブロック5%。長さ10～30mmの炭化物1%を含む。締まりやや強。粘性やや強。粘土質の多い。
 - 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径3～15mmのロームブロック3%未満。直径3mm以下の砂質粘土粒子2%。直径2～5mmの焼土粒子3%を含む。締まり・粘性やや強。粘土質の多い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径3～10mmのロームブロック1%。直径3mm以下の焼土粒子1%未満。直径2～5mmの焼土粒子1%。長さ20mmの炭化物1%未満を含む。締まりやや強。粘性強。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 砂質粘土と黒色の混合土。直径5～20mmのロームブロック3%。直径2～3mmの砂質粘土粒子2%。直径3～7mmの焼土粒子2%を含む。締まり・粘性やや強。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの赤褐色スクリップ1%未満。直径2mm以下のローム粒子1%未満。直径1mmの砂質粘土粒子1%未満を含む。締まり・粘性強。粘土質の多い。

第325図 SI23(3) カマド (1/30)



第 326 図 SI23(4) 遺物分布図 (1/60)

SI24 を切り、近世以降の SDK30・52・54、SKK145・244 に覆土や壁、カマドの一部を切られている。また、同時代の竪穴建物跡としては南西 400cm に SI18、東 270cm に SI22 がそれぞれ隣接している。

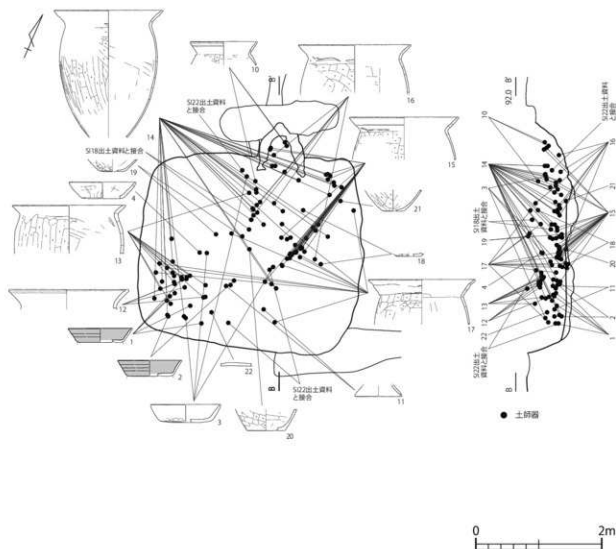
平面形態は長方形で、東西 359cm、南北 368cm を測る。主軸方向は、N-23°-W を指す。検出面から床面までの深さは 78cm で、壁は開き気味に立ち上がっている。また壁では、北壁のカマド東側に棚状の施設が確認されたが、壁の崩落により生じた段差である可能性も考えられる。類似する段差は東壁や西壁の一部でも確認されたが、こちらは崩落による可能性が高い。

床面は貼床で、壁際を除くほぼ全面が硬化していた。やや凹凸が目立ち、壁溝やピットは無い。カマドは北壁に構築されている。

床面までの覆土は 24 層に細分された。主に黒色土や黒褐色土がベースとなっており、カマド付近では、崩落したカマドからの流れ込みと考えられる砂質粘土粒子や焼土粒子の混入が見られる。

掘り方は概ね V 層まで掘り込まれていて、底面は全体に凹凸を有し、建物跡の中心部では非常に浅く、壁寄りには深く掘り込まれている。掘り方は 8 層に分層される。いずれの層位も大型のロームブロックを含んでいる。

カマドは、北壁のやや東寄りを V 字状に掘り込んで構築されていた。砂質粘土を主体に黒色土等

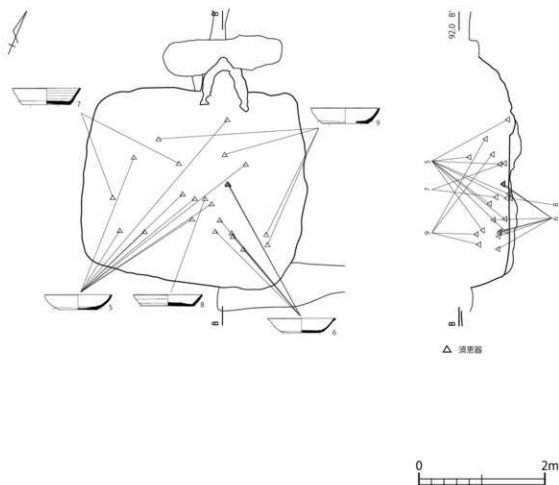


第 327 図 SI23(5) 遺物接合図 (土師器) (1/60)

を混入させた素材で築かれた左右の袖が遺存していた。右袖の方が、遺存状況は良好である。側壁・奥壁でも砂質粘土が確認された。両袖間の覆土堆積状況から、天井部は、左袖と共に崩落したものと考えられる。掘り方では左右袖に近い位置でピット状の掘り込みが検出された。調査時には遺存していなかったが、本来は袖の芯材が存在していたが、カマド廃絶時に取り去られたと考えられる。

出土遺物 土師器 660 点、須恵器 43 点、焼成粘土塊 4 点、石器 1 点、石製品 1 点、礫 63 点、炭化物 12 点の他、縄文土器 8 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 50 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて、平面的にも広範囲にわたって出土した。図示した遺物に関しても、土師器・須恵器共に、上層から下層にかけて、広範囲に散乱した状態の破片が複数接合した。例えば、第 331・333 図 14 の甕は、建物跡の北東隅から南東隅にかけて破片が散乱し、15 の甕についても、カマド内から床面中央にかけて破片が散乱していた。また、隣接する SI18 や



第 328 図 SI23(6) 遺物接合図 (須恵器) (1/60)

SI22 出土土師器片との接合例も確認されている。これらのことから、遺物の多くは建物跡の周辺から、土壌と共に投棄された可能性が考えられる。

須恵器について、は 6・7 の坏が覆土下層から、8 の坏が床面直上から出土している。

土器 第 331・333 図 1～4 は土師器坏である、1・2 はいわゆる盤状坏で、内外面ともに赤色塗彩が施されている。口径は 13.5cm 前後で、底部にはヘラケズリ調整が施されている。3・4 はともに平底形態で、体部から口縁部へ直線的に立ち上がっている。3 は初源形態の南武蔵型坏と思われ、4 は相模型坏で、体部内面に「×」の線刻がみられる。

5～9 は須恵器坏である。5・6・9 は体部が内湾気味に立ち上がり、7・8 は直線的に立ち上がっており、8 は器高が低く、盤状形態を呈する。口径は 5 が 13.9cm、その他は 14cm 台、底径は 5・6 が 7cm 台、9 が 9cm 台、7・8 が 10cm 台となっている。底部は回転ヘラケズリ調整されるが、



1. SI23 全景 (南南東から)



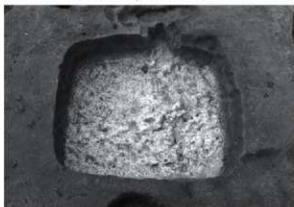
2. SI23 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI23 土層断面 B-B' (東北東から)



4. SI23 遺物出土状況 (南南東から)



5. SI23 掘り方全景 (南南東から)

第 329 図 SI23 写真 (1)



1. SI23 カマド全景 (南南東から)



2. SI23 カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI23 カマド遺物出土状況 (南南東から)



4. SI23 カマド土層断面 C-C' (東から)



5. SI23 カマド土層断面 D-D' (南南東から)



6. SI23 カマド土層断面 E-E' (南南東から)

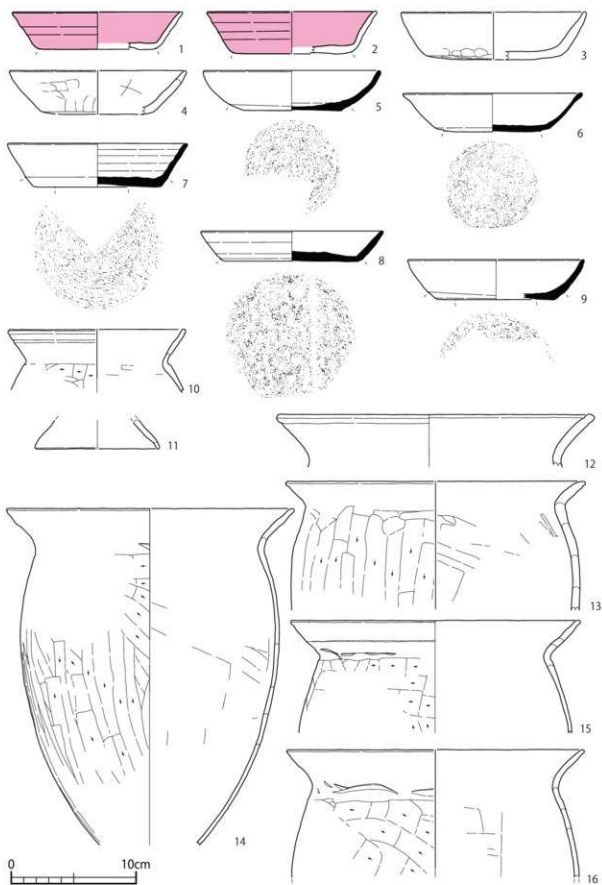


7. SI23 カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)

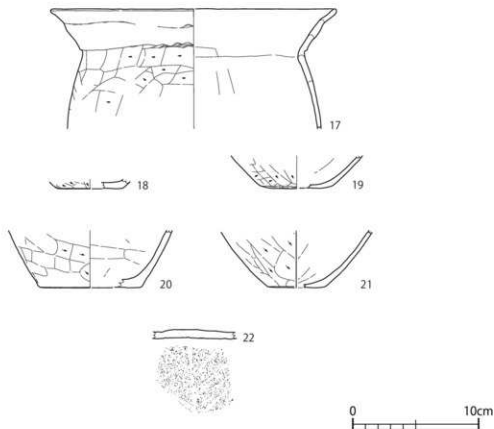


8. SI23 カマド掘り方土層断面 E-E' (南南東から)

第 330 図 SI23 写真 (2)



第331図 SI23出土遺物(1)(1/3)



第332図 SI23出土遺物(2)(1/3)

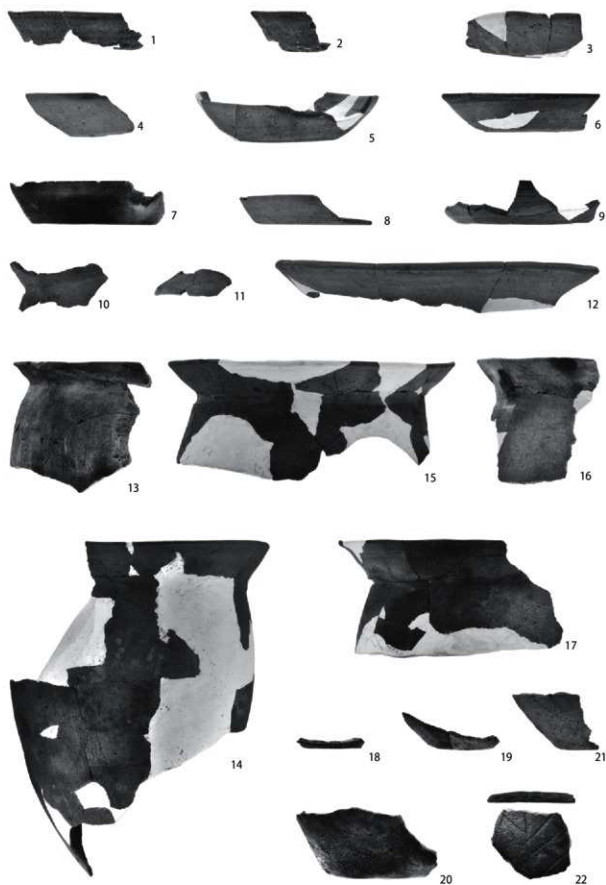
8は手持ちヘラケズリ調整と思われる。5・6・9は回転ヘラケズリ調整が全面に及ぶが、7・9は中央に回転系切り痕が残っている。産地同定の検討によれば、5・6・8・9は東金子窯産須恵器、7は南比企窯産須恵器である。

10・11は土師器台付甕となろう。ともに武蔵型甕と思われ、器壁が薄い。10の口縁部はく字状に外反し、胴部上半は横方向にヘラケズリ調整されている。

第331・333図12～16、第332・333図17～22は土師器甕である。12・13は器壁が厚手の土師器甕で、口縁部はヨコナデ調整され、13の胴部外面は縦方向にヘラケズリ調整が施されている。14～17は武蔵型甕で、口縁部から胴部にかけて遺存する甕である。口縁部はく字状に外反し、口縁部に最大径を有している。胴部上半は横方向や斜方向、中央が縦方向や斜方向にヘラケズリ調整される。いずれも器壁が薄い。18～22は土師器甕の底部片である。18・19・21は器壁の薄い武蔵型甕で、胴部や底部外面にヘラケズリ調整が施されている。20は器壁が厚手の土師器甕の底部片で、胴部下端は横方向にヘラケズリ調整されている。22は外面に木葉痕が残る底部片で、相模型甕となろう。

炭化種実（点上げ） モモの核が2点出土した。

盤状杯、初源形態の南武蔵型杯、相模型杯、南比企窯跡群岡山編年のHⅡ期に類似する東金子窯産須恵器杯や南比企窯産須恵器杯、武蔵型甕と相模型甕、さらに器壁が厚手の伝統的な土師器甕と、8世紀前葉から中葉の土器組成をよく示しており、遺構も同じ時期と想定できる。



第333図 SI23出土遺物写真

第39表 SI23出土土器観察表(1)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第331・332図	1	覆土下層	土師器 杯	(13.5) 3.0 (9.5)	底部は平底。体部から口縁部へ直線的に立ち上がる。	回転力利用の成形。底部はヘラケズリ調整が施される。	小礫 チャート 石英	良好	5YR4/8 赤褐色		内外面赤色塗彩 盤状杯
	2	覆土下層	土師器 杯	(13.4) 3.4 (9.5)	底部は平底。体部から口縁部へ直線的に立ち上がる。	回転力利用の成形。底部は手持ちヘラケズリ調整が施される。	小礫 石英	良好	2.5YR5/8 明赤褐色		内外面赤色塗彩 盤状杯
	3	覆土下層 ～床面 ・包合層 (30P-46・ II期)	土師器 杯	(14.0) 3.8 (9.7)	底部は平底。体部から口縁部へ直線交角に立ち上がる。	口縁部はヨコナデ。体部の調整は判然としないが、体部にもヨコナデ調整が施される。底部はヘラケズリ調整されている。	小礫 石英 白色粒 褐色粒	良好	5YR7/6 褐色		南武蔵型杯
	4	覆土中層	土師器 杯	(14.0) 3.5 (8.9)	底部は平底。体部・口縁部は大きく開いて立ち上がる。	口縁部はヨコナデ。底部はヘラケズリ調整と思われるが、体部外面の調整は判然としない。内面はナデ調整される。	小礫 雲母	軟質	5YR6/6 褐色		体部内面に「×」 の彫刻 粗輪型杯
	5	覆土上層 ～床面	灰土器 杯	13.9 3.5 7.8	体部から口縁部へと内湾して立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	体部下端から底部全面に回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 長石	軟質	5Y7/1 灰白	平定形	東金子産
	6	覆土下層	灰土器 杯	(14.2) 3.5 7.7	体部は内湾交角に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部全面に回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰	平定形	東金子産
	7	覆土下層	灰土器 杯	14.2 3.5 10.3	体部は内湾交角に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	体部下端から底部外周にかけて回転ヘラケズリ調整されるが、中央には回転糸切り痕が残る。	海綿動物骨針 小礫 石英	良好	10YR4/2 灰黄褐色	平定形	内外面にスス付 着 南比企産
	8	覆土床面	灰土器 杯	(14.4) 2.4 (10.5)	体部から口縁部へと直線的に立ち上がる。底部が低く、内面の足元部分が顕著。	体部下端から底部に手持ちヘラケズリ調整が施される。	チャート・ 長石	軟質	2.5Y8/1 灰白	平定形	外面に火押痕 東金子産
	9	覆土上へ 中層	灰土器 杯	(14.3) 3.3 (9.5)	体部は内湾交角に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	体部下端から底部外周に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に糸切り痕が残る。	小礫 白色粒 褐色粒	やや軟質	2.5Y4/1 黄灰		東金子産
	10	覆土中層 ～カマド内	土師器 台付甕	(11.8)	口縁部はく字状に外反する。口縁部外面にくぼみがめぐる。	口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	小礫 角閃石 白色粒	良好	2.5YR4/8 赤褐色		武蔵型甕
	11	覆土下層	土師器 台付甕	— (9.8)	胴部はハ字状に開き、底部は内縮する。	横方向のナデ調整が施されている。	雲母 白色粒	良好	2.5YR4/8 赤褐色	脚部片	武蔵型甕
	12	覆土上へ 中層	土師器 甕	27.8 — —	口縁部は大きく外反する。口部内面は沈線状にくぼむ。	口縁部はヨコナデ。器壁は厚い。	石英 白色粒 黒色粒	やや軟質	5YR6/6 褐色		
	13	覆土上層	土師器 甕	(23.0) — —	口縁部は短く外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部は縦方向にヘラケズリ調整。内面はヘラナデ調整される。器壁は厚い。	小礫 石英 白色粒	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色		
	14	覆土上へ 下層	土師器 甕	(22.8) — —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部上平は横方向や斜方向。中央から下平は縦方向のヘラケズリ調整。内面にはヘラナデ調整が施される。器壁は薄い。	小礫 石英 角閃石 雲母 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR6/6 褐色		武蔵型甕
	15	覆土中へ 下層・ カマド内	土師器 甕	21.7 — —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上平は横方向。中央は縦方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整が施される。器壁は薄い。	小礫 角閃石 雲母 白色粒	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色		武蔵型甕
	16	覆土上層 ～床面 ・カマド内 ・包合層 (30P-47・ II期)	土師器 甕	(23.5) — —	口縁部はく字状に外反する。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部上平は横方向や斜方向のヘラケズリ調整。内面はヘラナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 角閃石 雲母 白色粒	良好	5YR4/8 赤褐色		武蔵型甕
	17	覆土上層 ～下層	土師器 甕	(22.4) — —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部は横方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。口縁部に粘土線接合痕が顕著。器壁は薄い。	小礫 角閃石 白色粒	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい褐色 内面 5YR4/6 赤褐色		内外面にスス付 着 武蔵型甕

第 39 表 SI23 出土土器観察表 (2)

図 番号	層位	器種	注記	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 332・333 図	18	覆土上層・床面	— (5.3)	底部は平底。	胴部下端は斜方向、底部外面もヘラケズリ調整される。内面はナデ調整される。	角閃石 白色粒	良好	外面 7.5YR1.7/1 黒 内面 7.5YR4/6 黒	底部片	武蔵型甕
	19	覆土上層・床面	— (5.7)	底部は平底。	胴部下端は斜方向、底部外面もヘラケズリ調整され、内面はナデ調整が施される。	小礫 角閃石 雲母 白色粒	良好	7.5YR6/4 にふい・橙	底部片	武蔵型甕
	20	覆土床面	— (8.1)	底部は平底。胴部下端は直線突縁に開いて立ち上がる。	胴部は斜方向や横方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整される。器壁は厚い。	小礫 石英 雲母 白色粒 褐色粒	良好	5YR5/4 にふい・赤黒	底部片	外面にスス付着
	21	覆土床面	— (4.6)	底部は平底。胴部下端は内湾突縁に立ち上がる。	胴部は斜方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整される。	小礫 角閃石 白色粒	良好	7.5YR6/6 橙	底部片	
	22	覆土中層	—	底部は平底。	底部外面に木葉痕が現る。	小礫 石英 白色粒 褐色粒	良好	10YR2/1 黒	底部片	外面にスス付着 粗模型甕

SI25 (第 334～340・553 図、第 40・61 表)

遺構 調査区中央部南西寄りの 310・66・67・76・77 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、中世の道路跡 SF3 が SI25 の中心を南北に貫いて大きく削平している他、北壁の一部が攪乱に切られている。南側 305cm には同時代の SI21 が位置している。

平面形態は方形で、東西 309cm、南北 362cm を測る。主軸方向は、N-8°-W を指す。検出面から床面までの深さは 38cm で、壁はやや開き気味に立ち上がっている。

床面は貼床で、壁際を除く広い範囲が硬化していた。壁溝やピットは無い。カマドは北壁に構築されている。

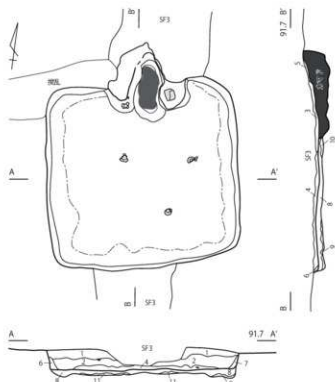
床面までの覆土は 7 層に分層された。床面直上の 4 層は、砂質粘土粒子や焼土粒子が目立ち、崩落したカマドからの流れ込み、壁際の 6・7 層は壁面の崩落土と考えられる。

掘り方は概ねⅢ3～Ⅳ層まで掘り込まれており、中心部がやや浅くなっている。掘り込みは、深いところでも床面から 16cm と浅い。掘り方の覆土は 4 層に分層された。いずれもロームの混入が見られず、床面を形成する 8 層には、硬化した黒色土のブロックが多く含まれていた。

カマドは、北壁の中央を V 字状に掘り込んで構築されていた。前述の通り、SF3 によって大きく破壊されており、特に右袖については、芯材と袖の下部がわずかに遺存するだけであった。左袖の状況からすると、カマドは砂質粘土を主体に構築されていたものと思われる。右袖には切石の凝灰質砂岩、左袖には大型の砂岩を用いた芯材が埋め込まれていた。側壁や奥壁も砂質粘土により構築されていたものと思われる。遺存状況が悪いため廃絶過程は不明確であるが、前述の通りカマド前面の床面直上の覆土に粘土の混入が見られたことから、自然崩落もしくは人為的な破壊による崩落後も、大規模な粘土の持ち出しは無かったものとみられる。火床部は床面よりもやや低い位置にあり、比較的良好に遺存していた。

出土遺物 土師器 168 点、須恵器 103 点、焼成粘土塊 3 点、石器 1 点、凝灰質砂岩切片 1 点、礫 50 点、金属製品 2 点の他、縄文土器 6 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 23 点が出土した。

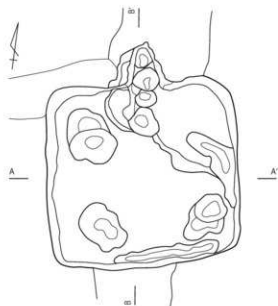
遺物出土状況 SF3 に破壊された部分を除いて、覆土の上層から下層にかけて遺物が出土してい



505

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%, 直径3mm以下の焼土粒子1%未満, 直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性弱。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%, 直径2~3mmの焼土粒子1%未満, 直径3mm以下の焼土粒子1%未満, 直径2~4mmの炭化物1%未満を含む。締まり・粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径2~10mmの粘土ブロック20%, 直径2~5mmの焼土粒子2%を含む。締まり・粘性やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径10mm以下の粘土ブロック3%, 直径5mm以下の焼土粒子3%を含む。締まり・粘性やや強。粒子やや粗い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子1%, 直径2mm以下の焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。粒子やや粗い。
6. 10YR3/2 黒褐色土層 炭灰土ベース。直径1mmの黄褐色スコリア1%未満を含む。締まりやや強。粘性やや強。
7. 10YR3/2 黒褐色土層 直径1mmの黄褐色スコリア1%未満, 直径2~3mmの焼土粒子1%を含む。締まり・粘性やや強。
8. 10YR3/1 黒褐色土層 厚床土。直径1mmの黄褐色スコリア1%未満, 直径2mm以下の赤色スコリア1%, 直径10~30mmの黒色土硬化ブロック(10YR2/1)20%, 直径2~5mmの焼土粒子1%未満を含む。締まり強。粘性やや強。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの黄褐色スコリア1%未満, 直径2mmの赤色スコリア1%未満, 黒色土(10YR2/1)20%を含む。締まりやや強。粘性やや強。粒子やや粗い。
10. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子(2.5Y5/3)2%, 直径2~10mmの粘土ブロック1%を含む。締まり・粘性やや強。
11. 10YR3/3 暗褐色土層 直径2mmの赤色スコリア1%未満, 直径5~20mmの黒色土ブロック(10YR2/1)5%を含む。締まり強。粘性やや強。

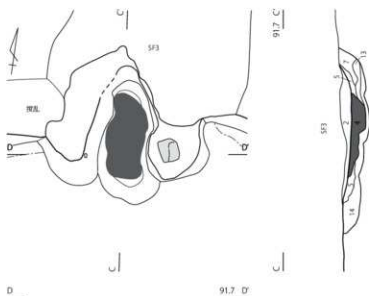
掘り方



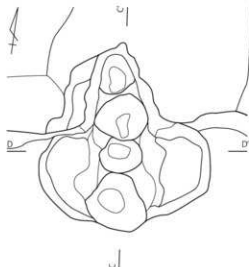
0 2m

第334図 SI25(1)(1/60)

カマド



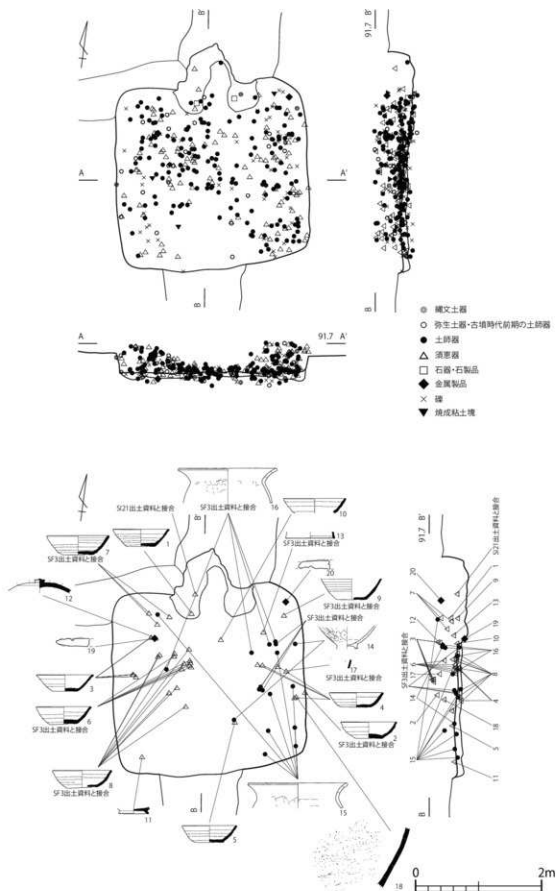
掘り方



カマド

1. 2.5Y3/1 黒褐色土層
 2. 2.5Y3/1 黒褐色土層
 3. 7.5YR4/2 灰褐色土層
 4. 7.5YR4/2 灰褐色土層
 5. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層
 6. 2.5Y3/3 黄褐色土層
 7. 7.5YR4/2 灰褐色土層
 8. 7.5YR4/2 灰褐色土層
 9. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層
 10. 2.5Y3/3 黄褐色土層
 11. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層
 12. 2.5Y3/1 黒褐色土層
 13. 7.5YR3/1 黒褐色土層
 14. 7.5YR3/1 黒褐色土層
- 砂質粘土 (2.5Y4/2.5)20%, 直径4mm以下の焼土粒子5%, 直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まり弱, 粘性やや強。
- 直径3～30mmの砂質粘土ブロック2%, 直径2～3mmの焼土粒子2%, 直径2mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まり弱, 粘性やや強。
- 黒褐色土 (2.5Y3/1)10%, 砂質粘土30%, 直径2～7mmの焼土粒子7%, 直径3～3mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まりやや強, 粘性やや強。
- 灰床部, 直径2～5mmの焼土粒子5%, 直径2～15mmの炭化物粒子15%を含む, 締まり・粘性やや強, 粒子粗い。
- 砂質粘土土塊, 直径3mm以下の焼土粒子1%, 直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まり・粘性やや強。
- 砂質粘土土塊, 黒褐色土15%, 直径2mm以下の焼土粒子3%, 直径2～4mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まりやや強, 粘性やや強, 粒子やや粗い。
- 直径2mmの黒褐色土粒子2%, 直径2～5mmの焼土粒子3%, 直径2mmの炭化物粒子1%未満を含む, 締まり・粘性やや強。
- 直径7mm以下の焼土粒子7%を含む, 締まり・粘性やや強。
- 黒褐色土25%, 砂質粘土15%, 直径2～4mmの焼土粒子1%未満を含む, 締まり・粘性やや強。
- 黒褐色土7%, 直径2～5mmの焼土粒子3%を含む, 締まり・粘性やや強。
- 黒褐色土15%, 直径2mm以下の焼土粒子3%を含む, 締まり・粘性やや強。
- 砂質粘土25%, 直径3～5mmの焼土粒子1%未満を含む, 締まり・粘性やや強。
- 直径2mmの赤色スコリア1%未満, 直径2～7mmの焼土粒子3%, 直径2～5mmの焼土粒子3%を含む, 締まり・粘性やや強。
- 直径5mm以下の焼土粒子3%, 焼土粒子を5%含む, 締まり・粘性やや強, 粒子やや粗い。

第335図 SI25(2) カマド (1/30)



第 336 図 SI25(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI25 全景 (南から)



2. SI25 掘り方全景 (南から)

第 337 図 SI25 写真 (1)



1. SI25 土層断面 A-A'(南から)



2. SI25 遺物出土状況 (南から)



3. SI25 遺物出土状況 (東から)



4. SI25 遺物出土状況 (東から)



5. SI25 カマド全景 (南から)



6. SI25 カマド掘り方全景 (南から)

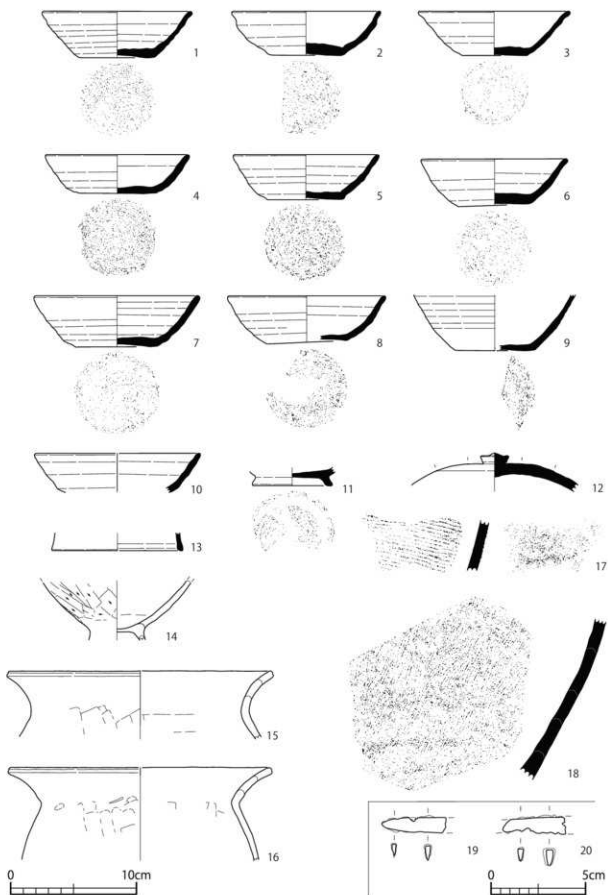


7. SI25 カマド掘り方土層断面 C-C'(東から)

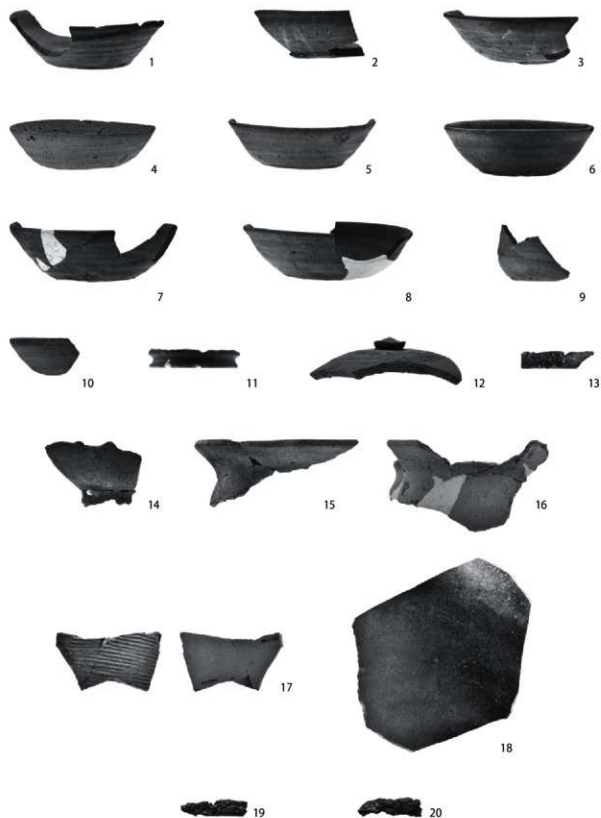


8. SI25 カマド掘り方土層断面 D-D'(南から)

第 338 図 SI25 写真 (2)



第339図 SI25出土遺物(1/3・1/2)



第340図 SI25出土遺物写真

第40表 SI25 出土土器観察表

図番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	カマド 左輪土	須置器 環	11.7 3.7 6.1	底部は直線的に立ち上がり、口縁部の外反は小さい。ロクロ目が強い。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 石英 白色粒	良好	10YR6/3 に赤・黄緑	ほぼ完形	口縁部に降灰 東金子産
2	甕土上層 ・SF3甕土	須置器 環	(11.6) 3.5 6.0	底部は内湾して立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 黒色粒 白色粒	良好	5Y4/1 灰		遺構間接合 内外面に火押痕 東金子産
3	甕土上層	須置器 環	(11.8) 3.5 5.2	底部は内湾して立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 黒色粒	良好	2.5Y6/1 黄灰	平完形	内外面に火押痕 東金子産
4	床面	須置器 環	11.2 3.1 6.2	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒	良好	2.5Y7/1 灰白	ほぼ完形	東金子産
5	甕土下層	須置器 環	11.3 3.6 6.4	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰	平完形	東金子産
6	甕土中へ 下層	須置器 環	11.4 3.8 5.8	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。底部は厚く、歪みつつりである。ロクロ右回転。底部下層にへらによる洗線状の調整がみられる。	小礫 長石 白色粒	良好	N4/0 灰	ほぼ完形	遺構間接合 口縁部外面降灰 東金子産
7	甕土中層 ・SF3甕土	須置器 環	12.8 4.1 6.6	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	平完形	遺構間接合 口縁部外面降灰 東金子産
8	甕土下層 ・SF3甕土	須置器 環	12.3 3.8 6.4	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反は小さい。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒	やや軟質	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 7.5YR5/4 に赤・黄	平完形	遺構間接合 東金子産
9	床面 ・SF3甕土	須置器 環	— (6.4)	底部はやや内湾気味に立ち上がり、部高は高い。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰		遺構間接合 体部外面降灰 東金子産
10	甕土下層	須置器 環	(12.9) —	口縁部の外反はみられない。	回転力利用の成形。	小礫 白色粒	やや軟質	7.5YR6/6 粉	口縁部片	東金子産
11	甕土下層 ・包含層 (310.55 ・B 類)	須置器 環	— 6.5	高台が外側にハ字状に張り出す。	底部は高台を取り付け、ナデ調整を加えている。	小礫 白色粒	良好	5YR4/3 に赤・赤褐		東金子産
12	甕土上層	須置器 蓋	— —	扁平な宝珠形のつまみが付く。	天井部は回転ヘラケズリ調整を施し、つまみを取り付け、ナデ調整を加えている。	小礫 白色粒	良好	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 N4/0 灰		東金子産
13	甕土下層 ・SF3甕土	須置器 不明	(10.2) —	底部は尖り、外側が陥穽する。	回転力利用の成形。	長石 白色粒 黒色粒	良好	7.5Y4/1 灰		遺構間接合 外面と底部断面 に降灰 南北企業産の可能性
14	甕土上層 ・下層 ・付灰層	土師器 —	— —	胴部下平は内湾気味に立ち上がり、胴部が付く。	胴部下平は斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。胴部内面もナデ調整が施されている。	小礫 角閃石 白色粒	良好	外面 7.5YR4/1 暗灰 内面 7.5YR6/6 粉		武蔵型製
15	甕土上層 ・床面	土師器 —	(20.7) —	口縁部はく字状にゆるく外反する。	口縁部はヨコナデ、胴部上端にはく字状の痕跡、内面はナデ調整される。	長石 雲母 白色粒	やや軟質	7.5YR6/3 に赤・黄		
16	甕土上層 ・下層 ・SF3甕土	土師器 —	(20.6) —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。	口縁部はヨコナデ、胴部の調整は判然としなが、上端にはヘラナデ上の痕跡がみられる。内面はヘラナデ調整とされる。	小礫 雲母 白色粒	良好	7.5YR6/6 粉		遺構間接合
17	甕土上層 ・SF3甕土	須置器 —	— —	胴部は丸みを有する。	胴部外面は平行叩き、内面にはわずかに同心円状に黄緑が現る。	白色粒 黒色粒	良好	5Y5/1 灰	胴部片	遺構間接合 胴内面産
18	甕土上層	須置器 —	— —	胴部はやや内湾気味に立ち上がり、丸みを有する。	胴部外面は平行タキの痕跡がみられ、内面はナデ調整、粘土結核がみられる。	小礫 白色粒	良好	外面 N5/0 灰 内面 5Y5/1 灰	胴部片	東金子産

る。覆土下層から床面にかけての覆土からは須恵器環の出土が目立つ他（第339・340図4～6・9～11）、カマド左袖直上からも須恵器環（1）が出土している。金属製品は2点出土しており、貼床内から19の刀子が、覆土上層からは20の刀子がそれぞれ出土している。

なお、SF3出土遺物との接合が多数確認されており、それらはSI25を破壊してSF3が構築された際に掘り上げられたものが、SF3に埋没したものと考えられる。

土器 第339・340図1～10は須恵器環である。1～9の底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。口径は1～6は11cm台、7・8・10は12cm台と纏まっている。底径は3・6が5cm台で、その他は6cm台を測る。器高は3cm台が多く、7は4.1cmで、9も器高が高い製品となろう。いずれの須恵器環も産地は東金子窯と推定される。11は須恵器甕で高台を有する。高台を取り付け、ナデ調整を施している。底部は回転糸切りで切り離されられると思われるが、その後の調整がよくわからない。但し、糸切り痕は観察できない。12は須恵器蓋である。天井部に回転ヘラケズリ調整が施され、小型の扁平な擬宝珠状のつまみが付く。11・12とも東金子窯産須恵器となるだろう。13の須恵器は短頸壺の蓋や埴輪の高台部等の推定はできるが、器種は不明と言わざるを得ない。南比企窯産の可能性もある。

14は武蔵型の土師器台付甕である。胴部下半に斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施されている。15・16は土師器甕である。ともに胴部上端にヘラナデ状の痕跡が認められるが、調整は判然としなない。口縁部はく字状に外反し、器壁はやや厚手となろう。

17・18は須恵器甕の胴部片である。ともに胴部外面に平行叩きの痕跡が残し、17の内面はわずかに同心円のあて具痕も残っている。須恵器の産地同定の検討によれば、1～12・18は東金子窯産、13は南比企窯産の可能性があり、17は東海地方の湖西窯産である。

金属製品 第339・340図19・20はともに鉄製品の刀子である。19は刃部の先端部で、長さ35mm、厚さ3mm、20は刃部が遺存し、長さ33mm、厚さ0.35mmを測る。いずれも平造である。

出土した須恵器環は、南比企窯跡群鳩山編年のHⅦ期やHⅧ期に類似する東金子窯産須恵器環が主体である。本遺構の時期は9世紀中葉から後葉に相当するだろう。

SI26（第341～351・553図、第41・61表）

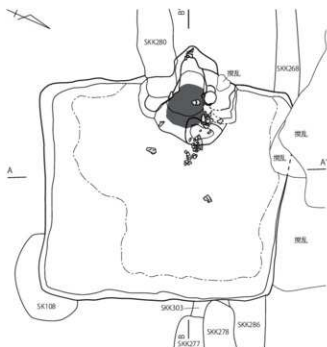
遺構 調査区中央部南西寄りの30P-14・15・24・25グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古墳時代前期の方形周溝墓S22の周溝内側に位置し、古代のSK108、近世以降のSDK200、SKK268・280・286・303及び掘乱しに壁やカマドの一部を切られている。また、同時代の遺構として、北側130cmにはSI28、東側560cmにはSI27が位置している。

平面形態は長方形で、東西404cm、南北403cmを測る。主軸方向は、N-114°-Wを指す。検出面から床面までの深さは39cmで、壁は床面から開きながら立ち上がっている。

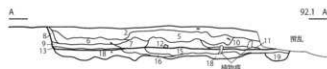
床面は貼床で、壁際及び南東部を除いた範囲で硬化が確認された。カマドは西壁中央のやや北寄りに構築されていた。壁溝や柱穴は確認されなかった。

床面までの覆土は14層に分けられる。このうち、カマド前面の12層等には砂質粘土粒子を多く含まれている。

掘り方はⅣ～Ⅴ層上面まで掘り込まれている。全体に凹凸を有するが、カマドの前面が一段高くなっている。掘り方の覆土5層に分層され、下層の18層には大小のロームブロックが多く含まれている。

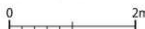
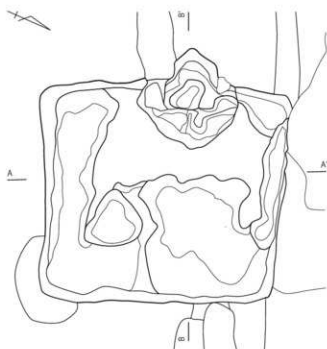


92.1 B



92.1 A'

掘り方



526

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の粘土粒子 2%、直径 20mm 以下の焼土粒子 1%を含む。粘まりやや弱、粘性やや強。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%未満、直径 2～5mm の粘土粒子 1%未満・焼土粒子 1%・炭化物粒子 1%未満を含む。粘まりやや弱、粘性弱。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満、直径 5mm 以下の粘土粒子・焼土粒子各 1%未満、長さ 3～15mm の炭化物 1%未満、砂粒 3%を含む。粘まり・粘性やや強。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の焼土粒子 1%を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
5. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の粘土粒子 1%、直径 2～5mm の焼土粒子 1%、直径 2～5mm の炭化物粒子 1%未満を含む。粘まりはやや強いが 2層より強、粘性やや強。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 5mm 以下の粘土粒子・焼土粒子各 1%未満を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
7. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%未満、直径 10mm 以下の焼土・ブロック 10%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1%を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
8. 10YR3/1 黒褐色土層 Ⅱ層土ベース、直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%未満を含む。粘まり・粘性やや強。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%未満、直径 2mm 以下の粘土粒子 1%未満を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%未満、直径 10mm 以下の焼土・ブロック 2%を含む。粘まり・粘性やや強。
11. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の粘土粒子 1%、直径 5mm 以下の焼土粒子 1%を含む。粘まり・粘性やや強。
12. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 5mm 以下の粘土粒子 7%、直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 3～5mm の炭化物粒子 1%未満を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
13. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 30mm 以下の黒土・ブロック 10%、直径 2～4mm の焼土粒子 2%、砂粒 3%を含む。粘まりやや強、粘性やや強。
14. 10YR2/1 黒色土層 直径 3～5mm の粘土粒子 1%未満、直径 3～10mm の黄褐色土・ブロックを含む。粘まり強、粘性やや強。
15. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア・赤色スコリア・焼土粒子各 1%未満を含む。粘まり・粘性強。
16. 2.5Y3/1 黒褐色土層 厚床土、直径 3～40mm のローム・ブロック 3%、直径 2～30mm の焼土・ブロック 2%、粘土 (2.5Y5/2) を薄く層状に 3%を含む。粘まり極めて強く硬化している。粘性やや強。
17. 10YR2/1 黒色土層 厚床土、直径 2～20mm のローム・ブロック 3%、直径 5mm 以下の焼土粒子 1%を含む。粘まり極めて強、粘性やや強。
18. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径 2～3mm の赤色スコリア 1%、直径 3～30mm のローム・ブロック 5%を含む。粘まり・粘性やや強。
19. 10YR2/1 黒褐色土層 直径 3mm 以下の赤色スコリア 1%、直径 2～80mm のローム・ブロック 20%を含む。粘まりやや強、粘性やや強。

第 341 図 SI26(1)(1/60)

カマド

1. 2.5Y4/1 黄灰色土層
2. 2.5Y5/3 黄褐色土層
3. 2.5Y5/3 に近い黄褐色土層
4. 2.5Y6/3 砂質粘土主層。直径10mm以下の焼土粒子7%を含む。締まり・粘性強。
5. 7.5YR4/2 灰褐色土層
6. 7.5YR4/2 灰褐色土層
7. 7.5YR4/2 灰褐色土層
8. 7.5YR4/2 灰褐色土層
9. 5YR4/6 赤褐色土層
10. 10YR3/1 黒褐色土層
11. 7.5YR4/4 褐色土層
12. 5YR4/4 に近い赤褐色土層
13. 2.5Y4/1 黄灰色土層
14. 2.5Y5/4 黄褐色土層
15. 2.5Y5/4 黄褐色土層
16. 2.5Y4/1 黄灰色土層
17. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層
18. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層
19. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層
20. 2.5Y5/2 暗灰黄褐色土層
21. 2.5Y5/4 黄褐色土層
22. 2.5Y5/4 黄褐色土層
23. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層
24. 10YR4/1 灰褐色土層
25. 2.5Y5/3 黄褐色土層
26. 2.5Y5/2 灰褐色土層
27. 2.5Y3/1 黒褐色土層
28. 2.5Y5/3 黄褐色土層
29. 7.5YR4/4 褐色土層
30. 2.5Y6/3 に近い黄褐色土層
31. 7.5Y4/3 暗マゼンタ色土層
32. 10YR4/3 に近い黄褐色土層
33. 2.5Y3/2 黒褐色土層
34. 2.5Y3/1 黒褐色土層
35. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土層

砂質粘土主層。直径2～3mmの焼土粒子2%。直径3～5mmの炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性や中強。

砂質粘土主層。直径5mm以下の焼土粒子2%。長さ2～10mmの炭化物1%を含む。締まり・粘性強。

砂質粘土主層。直径5mm以下の焼土粒子3%。直径2～5mmの炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性強。

砂質粘土主層。直径10mm以下の焼土粒子7%を含む。締まり・粘性強。

直径2～20mmの焼土ブロック15%。直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりや中強。粘性弱。

直径10mm以下の焼土ブロック20%。直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径2～5mmの焼土粒子10%。直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりや中強。粘性弱。

直径15mm以下の焼土ブロック25%。直径2～5mmの炭化物1%。微量の炭を含む。締まり・粘性や中強。

灰床基。直径3～10mmの焼土ブロック10%。直径2～30mmの焼土ブロック15%。長さ5～7mmの炭化物1%未満を含む。締まり弱。粘性なし。

直径2～4mmの焼土粒子3%。直径2mm以下の焼土粒子1%。直径3mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径5mm以下の焼土粒子3%・炭化物粒子1%未満を含む。締まりや中強。粘性弱。

直径2～10mmの焼土ブロック15%。直径15mm以下の焼土ブロック10%。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径10mm以下の焼土ブロック5%。直径3mm以下の炭化物粒子1%を含む。締まりや中強。粘性や中強。

直径3～10mmの黒褐色土ブロック(10YR3/1)2%。直径3mm以下の焼土粒子2%。直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径5～10mmの黒褐色土ブロック1%。直径5mm以下の焼土粒子3%。直径2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まりや中強。粘性強。

直径3～10mmの焼土ブロック20%。直径2～4mmの焼土粒子1%。直径2～3mmの炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性や中強。

砂質粘土主層。直径2～5mmの焼土粒子2%。直径2mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径3mm以下の焼土粒子2%。直径2～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性や中強。

直径2～10mmの焼土ブロック2%。直径3～5mmのローム粒子1%未満を含む。締まりや中強。粘性や中強。

砂質粘土主層。黒褐色土(10YR3/1)15%。直径3mm以下の焼土粒子1%を含む。締まりや中強。粘性や中強。

直径5mm以下の焼土粒子3%を含む。締まり・粘性や中強。

黒褐色土20%。直径2～3mmの焼土粒子2%を含む。締まり・粘性や中強。

砂質粘土主層。直径2mmの赤色スコリア1%未満。黒褐色土30%。直径3mm以下の焼土粒子2%を含む。締まりや中強。粘性や中強。

直径3mmの赤色スコリア1%未満。直径3～7mmのローム粒子2%。直径3～30mmの焼土ブロック(2.5Y6/3)25%。直径2～3mmの焼土粒子2%を含む。締まりや中強。

砂質粘土主層。黒褐色土10%。直径2～15mmの焼土ブロック5%を含む。締まりや中強。粘性強。

砂質粘土主層。黒褐色土20%。直径3～5mmの焼土粒子1%を含む。締まり弱。粘性や中強。

直径10mm以下の焼土ブロック5%。直径10mm以下の焼土ブロック3%を含む。締まり・粘性や中強。

砂質粘土主層。黒褐色土10%。直径2～5mmの焼土粒子2%を含む。締まり・粘性や中強。

直径2～10mmの焼土ブロック40%を含む。締まり弱。粘性なし。粒子粗い。

砂質粘土主層。直径3～20mmの暗灰黄褐色土ブロック(2.5Y4/2)15%。直径2～5mmの焼土粒子2%。直径3mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。

硬質した砂質粘土主層。直径5～20mmの黒褐色土ブロック3%。直径2～5mmの焼土粒子5%。炭化物1%未満を含む。締まりや中強。粘性や中強。

直径2～3mmの焼土粒子1%。直径3～5mmのローム粒子2%。直径2～10mmの焼土ブロック1%未満。直径2～5mmの焼土粒子1%を含む。

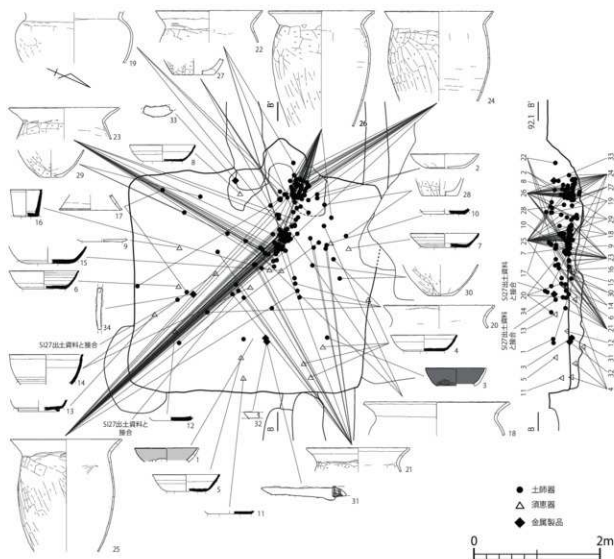
直径3～10mmの焼土ブロック5%。直径3mm以下の焼土粒子3%を含む。締まり・粘性や中強。

直径2～5mmの焼土粒子3%。直径2～10mmの焼土ブロック1%を含む。締まり・粘性や中強。

直径2mmの赤色スコリア1%未満。黒褐色土20%を含む。締まり・粘性や中強。



第 343 図 SI26(3) カマド・遺物分布図 (1/60)



第 344 図 SI26(4) 遺物接合図 (1/60)

カマドは、西壁中央のやや北寄りをV字状に掘り込んで構築されている。一部がSKK280や攪乱に壊されているものの、全体としては比較的良好に遺存していた。袖は、左右共に上部を砂質粘土、下部を主に黒褐色土を含有する砂質粘土で構築されており、芯材として、右袖には逆位に置かれた長胴甕、左袖には大型の礫が用いられていた。左袖の礫は砂岩で、被熱とススの付着が認められた。右袖の一部は、芯材の長胴甕の上部と共に攪乱されているが、後世に、上層から長胴甕を掘り出そうとした痕跡と推察される。側壁は、袖と同じく砂質粘土を主体に構築されているが、奥壁は砂質粘土の含有が少ない。側壁は強く被熱し、火床部は良好に遺存していた。燃焼室内の覆土を見ると、火床部の直上に砂質粘土主体層があることから、天井は崩落したものと推察される。

出土遺物 土師器 727点、須恵器 82点、焼成粘土塊 2点、石器 2点、礫 162点、金属製品 4点、炭化物 2点の他、縄文土器 2点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 13点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて、多数の遺物が出土している。その中でも、カマド右袖から前面にかけては、土師器甕が複数個体出土している。第348・350図24・26はカマド右袖の芯材として用いられたものである。23・第348・351図25・26の甕は、カマド前の床面を中心



1. SI26 全景 (東北東から)



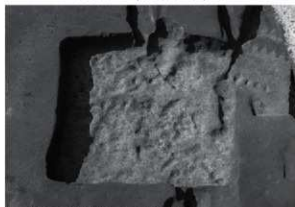
2. SI26 土層断面 A-A' (東北東から)



3. SI26 土層断面 B-B' (北北西から)



4. SI26 掘り方土層断面 B-B' (北北西から)



5. SI26 掘り方全景 (東北東から)

第 345 図 SI26 写真 (1)



1. SI26 カマド全景 (東北東から)



2. SI26 カマド掘り方全景 (東北東から)



3. SI26 カマド土層断面 C-C' (北北西から)



4. SI26 カマド土層断面 E-E' (東北東から)



5. SI26 カマド掘り方土層断面 C-C' (北から)



6. SI26 カマド掘り方土層断面 D-D' (東北東から)

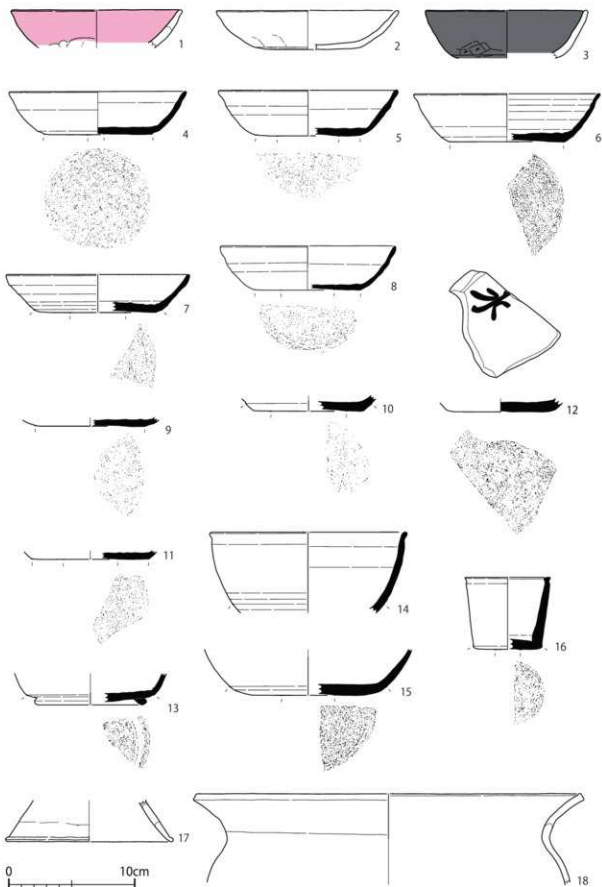


7. SI26 カマド掘り方土層断面 E-E' (東北東から)

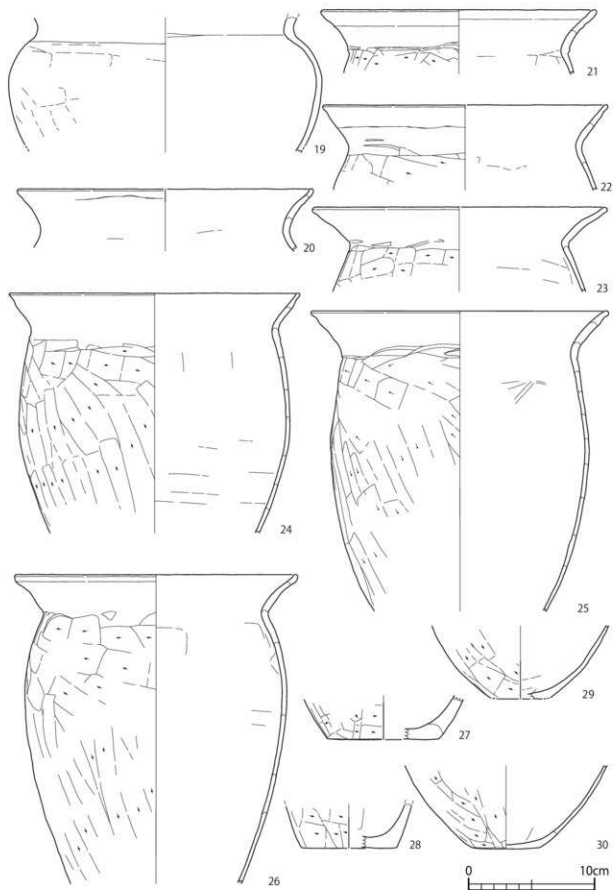


8. SI26 カマド袖遺物出土状況 (北北西から)

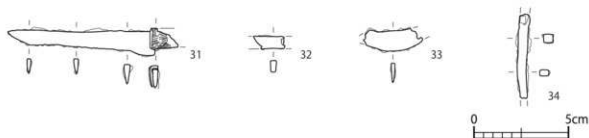
第 346 図 SI26 写真 (2)



第347図 SI26出土遺物(1)(1/3)



第348図 SI26出土遺物(2)(1/3)



第349図 SI26出土遺物(3)(1/2)

に破片が散布していた。須恵器は、第347・350図5・10・11・13は覆土の中～上層、7・12・14～16の坏は床面や床面付近から出土し、4の坏は掘り方覆土内から出土した。また、2の土師器坏、8の須恵器坏は、カマドの袖内から出土した。金属製品も4点が出土していて、第349・351図31の刀子と32の刀子とみられる金属製品は、近接して床面で検出された。33の穂摘具はカマド左袖付近の覆土中層、34の鉄釘は覆土上層から出土している。また、SI27との接合も2点が確認されている。

土器 第347・350図1～3は土師器坏である。1は落合型坏で、口縁部から内面にかけ赤色塗彩が施されている。2は相模型坏と判断する。底部外面はヘラケズリ調整され、体部外面も器壁が粉状にもろく判然としない面もあるが、ヘラケズリ調整と思われる。3は内外面が黒色処理されており、体部や底部はヘラケズリ調整されている。口縁部や内面は横方向にナデ調整され、一部体部外面にも及んでいる。東北地方の栗罎式土器に類似している点を指摘したい。

4～12は須恵器坏である。口径は13cm台の8を除いて14cm台、底径は8・9cm台を測る。底部は回転ヘラケズリ調整が施されている。6・9・12は全面回転ヘラケズリ調整されるが、4・5・7・8・10・11は中央に回転糸切り痕が残っている。12の底部内面には、「永」とと思われる墨書が認められた。13は高台の付く須恵器坏である。底部は回転ヘラケズリ調整を施して高台を取り付け、ナデ調整を加えている。14・15は須恵器坏である。14は口縁部が短く外反する形態で、体部下端がヘラケズリ調整される。15は底径も大きく、大振りな器形になるものと思われる。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が加わり、底部中央には回転糸切り痕が残っている。16はコップ形の須恵器である。拵として使用された可能性が考えられる。精巧なつくりで、胎土も緻密である。平底の底部から口縁部・体部は直線的に立ち上がる。口縁部はやや肥厚し、内外面ともくぼみ状になる。体部最下端から底部に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転糸切り痕を残している。これらの須恵器は、4・6・8・10・11・15・16が南比企窯産、5・7・9・12・14は東金子窯産、13は湖西窯産と推定される。

17は土師器台付甕の脚部片と思われ、内面が横方向にナデ調整されている。18・第348・350図19は土師器甕で、ともに胴部の調整技法が判然とせず、全体の質感が似ている。18の口縁部は外上方に大きく外反し、19の胴部は膨らんでいる。20～24・第348・351図25・26は口縁部がく字状に外反する武蔵型甕である。胴部の膨らみはそれほど小さくなく、いずれも口縁部に最大径を持つ器形となろう。口縁部はヨコナデ、胴部上半が横方向や斜方向、中央以下が斜方向や縦方向にヘラケズリ調整が施され、内面はナデ調整やヘラナデ調整される。器壁が薄く焼成されている。27～30は土師器甕の底部片である。27・28は器壁が厚手で、胴部下半に横方向等のヘラケズリ調整が施さ

れている。29・30は武蔵型甕の底部片で、底径が小さく、器壁が薄い。外面は斜方向等のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整やナデ調整されている。

金属製品 第348・351図31は平造の刀子で、茎部の大部分は欠損するが、その他は完存する。遺存する長さはほぼ90mmで、茎部には木質が遺存している。刃部と茎部の境の下段に間があり、片間の刀子となろう。32は小片で、器種は判然としなが、刀子の茎部と思われる。断面は3×6mmの長方形である。33も小片で判断はむずかしいが、穂摘具の刃部と判断したい。長さ31mm、刃部の厚さは2mmを測る。34は鉄釘となろう。現存長は44mmで、上端部と先端を欠損している。

出土した須恵器環は、南比企窯跡群鳩山編年のHⅡ期に類似したものが多く、一部HⅢ期に類似するものもみられる。さらに、落合型環、東北地方の栗岡式土器類似の土師器環、湖西窯産の高台付須恵器環、南比企窯産の須恵器コップ形の出土もみられる。土師器甕はく字状の口縁部形態をもつ武蔵型甕が主体である。本遺構の時期は、8世紀前葉から中葉に相当すると思われる。

SI27 (第352～363・553図、第42・61表)

遺構 調査区南西部の30P-6・16・17グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降のSDK220・229、SKK293及び攪乱に壁や床面の一部を切られている。西側560cmには同時代のSI26が位置している。

平面形態は方形で、後述する棚状の部分を含んだ規模は東西430cm、南北443cmを測る。主軸方向はN-80°Eを指す。検出面から床面までの深さ59cmで、壁は床面から垂直に立ち上がり、検出面に近い高さに棚状の段差を有している。この段差が棚状の施設なのか壁の崩落によるものなのかは不明である。この段差は、北壁、西壁、南壁では底部のラインに沿うように幅13～28cm程度で確認できるが、東壁では、カマドの南側部分では、底部端に沿う低い段差と、一段高く建物跡の主軸ラインとは軸を異にする最大幅80cm程度の段差の2段となっている。

床面は貼床で、壁際を除くほぼ全面が硬化していた。壁溝は、東カマド、北カマド部分を除いて確認された。カマドは東壁の東カマドと北壁の北カマドが検出された。主柱穴は確認されなかったが、西壁寄りの中央部で梯子穴の可能性のあるP1を検出した。

床面までの覆土は27層に細分されるが、大きくは、外部からの投げ込みと考えられるブロック状に堆積した覆土、カマド構築材が流れ出したとみられる砂質粘土が混入した覆土、壁の崩落土と考えられる壁際の堆積に分けられる。

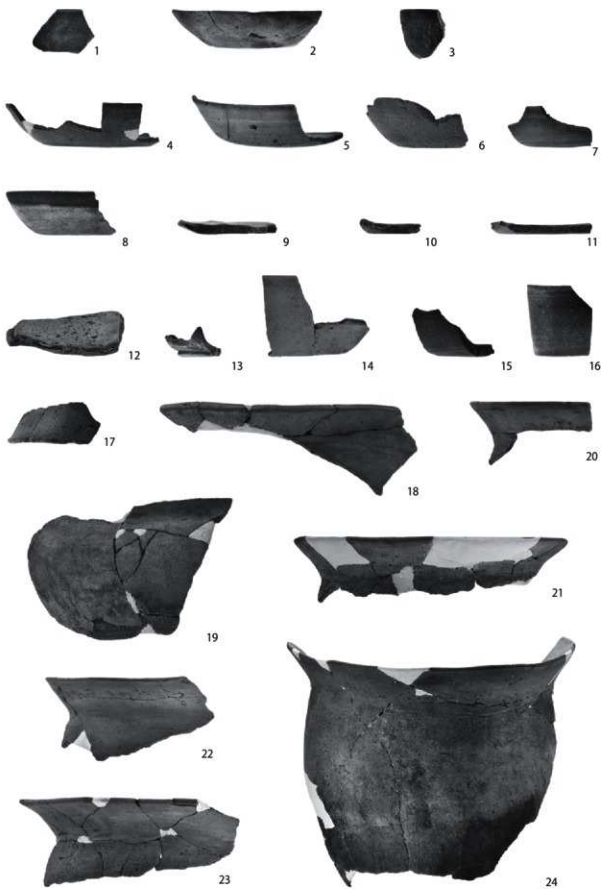
壁溝は、前述の通り新旧2基のカマド部分を除いて巡っており、南壁沿いの東寄りでは、鍵の手状に屈曲している。断面形態は概ね逆台形を呈し、幅23～25cm、深さ15～20cmを測る。壁溝の覆土はロームブロックや同粒子を多く含んでいる。

掘り方は概ねⅤ層上らへまで掘り込まれ、底面は全体的に凹凸を有する。掘り方の覆土は3層に分層された。主に床面を構築している31層はロームブロックを多量に含み、極めて強く締め固められている。下層の33層は、大小のロームブロックが主体の層である。

P1は、その位置から梯子穴の可能性が考えられる。円形を呈し、長軸22cm、短軸21cm、床面からの深さ21cmを測る。底面には段差を有し、覆土は2層に分かれる。

カマドは新旧2基が確認された。北カマドが古く、東カマドが新しい。

東カマドは、東壁のやや北寄りをV字状に掘り込んで構築されていた。比較的良好に遺存しており、



第350图 SI26出土遺物写真(1)



第351図 SI26出土遺物写真(2)

第 41 表 SI26 出土土器観察表(1)

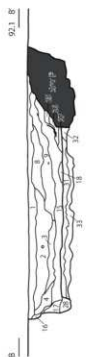
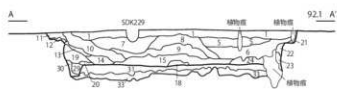
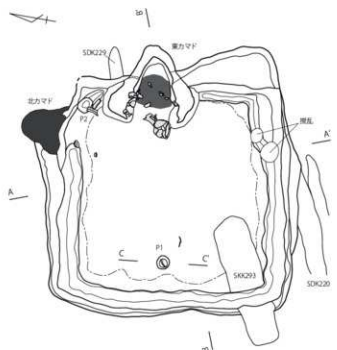
図 番号	部位	器種	注量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 347 ～ 350 図	1	甕土上層	土師器 — (13.4)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。体部外面に粘土紐接合痕が観察される。	砂粒 白色粒	良好	2.5YR5/3 にぶい赤褐色	口縁部片	口縁部外面から内面に赤色塗料落合部
	2	カマド 袖内	土師器 — (14.3) 3.2 (8.3)	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はヨコナデ、体部の調整はわかりにくいヘラケズリ調整と思われる。底部外面はヘラケズリ調整される。内面はナデ調整が施される。	石英 褐色粒	やや軟質	5YR6/6 褐色		粗粒型片
	3	甕土下層	土師器 — (12.7) 3.8 (8.9)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はヨコナデ。ヨコナデ調整は体部にも及ぶが、体部下平はヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整される。内面はナデ調整が施される。	砂粒 白色粒	良好	外面 7.5Y2/1 黒 内面 5YR4/2 灰褐色		内外面黒色処理 東北系土師器
	4	甕土下層 ・灰床内	須恵器 — (14.2) 3.5 8.7	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央にわずかに糸切り痕が残る。	海相動物骨針 長石 白色粒	やや軟質	7.5Y7/1 灰白	底部完存	南北企業産
	5	甕土上層	須恵器 — (14.4) 3.7 (8.4)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離し、外周に回転ヘラケズリ調整が施される。	長石 小礫 白色粒 褐色粒	やや軟質	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 5YR6/4 にぶい褐色		東金子産
	6	甕土下層	須恵器 — (14.6) 3.8 (9.0)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部に回転ヘラケズリ調整が施される。	海相動物骨針 白色粒	やや軟質	5YR6/4 にぶい褐色		南北企業産
	7	甕土下層	須恵器 — (14.4) 3.0 (9.2)	体部は直筒気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	体部下端から底部に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央には糸切り痕が残る。	長石 白色粒	良好	5B5/1 青灰		東金子産
	8	カマド 袖内	須恵器 — (13.7) 3.5 (8.4)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央には回転糸切り痕が残る。	海相動物骨針 小礫	やや軟質	10YR7/2 にぶい黄褐色		南北企業産
	9	甕土下層	須恵器 — (8.7)	底部は平底。	底部は回転ヘラケズリ調整が施される。	小礫 白色粒 褐色粒	やや軟質	外面 5Y6/1 灰 内面 7.5YR6/4 にぶい褐色	底部片	東金子産
	10	甕土上層	須恵器 — (8.8)	底部は平底。	体部下端から底部外周に回転ヘラケズリ調整が施される。中央には回転糸切り痕が残る。	海相動物骨針 小礫 白色粒	軟質	7.5YR6/4 にぶい褐色	底部片	南北企業産
	11	甕土中層	須恵器 — (9.3)	底部は平底。	底部は回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央には回転糸切り痕が残る。	海相動物骨針 白色粒	軟質	5Y6/1 灰	底部片	南北企業産
	12	甕土下層	須恵器 — (8.7)	底部は平底。	器壁が流れており、調整は判然としにくい面があるが、底部は回転ヘラケズリ調整と思われる。	砂粒 白色粒	軟質	5Y7/1 灰白	底部片	内面に「永」の 印書 東金子産
	13	甕土上層	須恵器 — (8.9)	高台の接地面は内側である。	底部は回転ヘラケズリ調整を施し、高台を取り付け、ナデ調整を加えている。	小礫 砂粒	軟質	5Y7/2 灰白	底部片	内面にスズ付着 湖西産
	14	甕土下層 ・灰床内	須恵器 — (15.3)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は短くわずかに外反する。	体部下端には回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 雲母 白色粒	軟質	5Y7/1 灰白		東金子産
	15	甕土下層	須恵器 — (10.1)	底部は平底。体部下端は内湾して立ち上がる。	体部下端から底部に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転糸切り痕が残っている。	海相動物骨針 小礫 長石 白色粒	良好	N5/0 灰		南北企業産
	16	甕土下層	須恵器 — (6.6) 5.7 5.2	底部は平底。体部から口縁部へ直線的に立ち上がり、口縁部は少し肥厚し、その下にくぼみがめく。	体部下端から底部に回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転糸切り痕が残る。精巧なつくりである。	海相動物骨針 小礫 白色粒	良好	外面 N6/0 灰 内面 5Y6/2 灰オリーブ	平完形	南北企業産
	17	甕土上層	土師器 — (13.2)	脚部は八字状に開く。	内外面とも横方向のナデ調整が施される。外面に粘土紐接合痕が観察される。	小礫 石英 白色粒	良好	5YR6/6 褐色	脚部片	
	18	甕土中へ 下層・ カマド側 方内	土師器 — (30.4)	口縁部は大きく開いて外反する。口縁部は四角く整えられ、内面は波状になる。	口縁部はヨコナデ調整と思われるが、胴部の調整技法は判然としない。	小礫 角閃石 砂粒	軟質	5YR6/6 褐色	口縁部片	全体の直径が第 348～350図 19 と類似

第41表 SI26 出土土器観察表(2)

図	番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第348・350図	19	甕土上層・カマド内・カマド部内	土師器 費	—	胴部は大きく膨らむ。	胴部の調整技法はよくわからない。	小礫 石英 砂粒	軟直	7.5YR6/6 橙	胴部片	全体の質感が第347・350図18と類似
	20	甕土上へ下層	土師器 費	(23.1) —	口縁部はゆるやかに外反し、端部はやや内傾する。	口縁部はヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリ調整、内面はナデ調整と思われる。	角閃石 砂粒	良好	5YR5/6 明赤褐色	口縁部片	内面にスス付着 武蔵型釜
	21	甕土上へ下層・床内	土師器 費	21.6 —	口縁部はく字状に外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。	小礫 角閃石 砂粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙	—	武蔵型釜
	22	甕土上へ下層・カマド内	土師器 費	(22.3) —	口縁部はく字状に外反する。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 角閃石 石英 白色粒 褐色粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙	—	武蔵型釜
	23	甕土下層・床内・カマド内	土師器 費	(22.9) —	口縁部はく字状に大きく外反し、最大径を有すると思われる。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 長石 石英 砂粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	—	武蔵型釜
	24	甕土上層・カマド内	土師器 費	22.9 —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向、中央以下が縦方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整やナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 角閃石 石英 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR4/8 赤褐色	—	外面にスス付着 武蔵型釜
第348・351図	25	甕土上へ下層・床内・カマド内	土師器 費	23.3 —	口縁部はく字状に大きく外反する。口縁部に最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向、中央以下が縦方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。器壁は薄い。	小礫 角閃石 石英 白色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 5YR6/4 にぶい橙	—	武蔵型釜
	26	甕土上へ下層・貼床内・カマド内	土師器 費	22.1 —	口縁部はく字状に外反し、端部は直立気味になる。口縁部に最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向、中央以下が縦方向等のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整やナデ調整が施される。器壁は薄い。	小礫 長石 石英 角閃石 白色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	平円形	外面にスス付着 武蔵型釜
	27	カマド内	土師器 費	— (18.8)	底部は平底。底径は大きい。胴部下端はやや内湾気味に立ち上がる。	胴部下端は横方向等のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整され、内面はナデ調整と思われる。器壁は薄い。	小礫 石英 砂粒	やや軟直	外面 5YR5/2 灰褐色 内面 10YR8/2 灰白	—	—
	28	甕土中へ下層	土師器 費	— (7.6)	底部は平底。体部下端の内湾気味に立ち上がる。底径は小さい。	胴部下端は横方向のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 石英 褐色粒	やや軟直	外面 5YR4/2 灰褐色 内面 10YR8/2 灰白	—	—
	29	甕土中へ下層・貼床内	土師器 費	— (4.8)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。底径は小さい。	胴部下端は斜方向等のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 長石 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	外面 5YR4/3 にぶい赤褐色 内面 2.5YR4/6 赤褐色	—	底部外面の一部 割落 武蔵型釜
	30	甕土上層・下層	土師器 費	— 5.3	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	胴部下端は斜方向や縦方向のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整やナデ調整される。器壁は薄い。	石英 長石 角閃石 白色粒	やや軟直	外面 7.5YR5/4 にぶい赤褐色 内面 5YR5/4 にぶい赤褐色	—	武蔵型釜

調査時には、砂質粘土を主体に構築された左右の袖と側壁、奥壁が確認された。袖は、左右共に芯材として砂岩が用いられていた。側壁と奥壁は、底面の火床部と共に強く被熱、赤化していた。両袖間の火床部上の覆土には、一部に砂質粘土主土層が見られることから、少なくとも天井部の一部は崩落したものと想定される。また、火床部の中央よりやや左奥には支脚が埋め込まれていた。支脚は砂岩で、被熱とススの付着が認められた。カマド掘り方では、火床部手前の左袖側でビット状の掘り込みが検出されたが、カマドに伴うものかどうかは確認し得なかった。

北カマドは、東カマドより以前に使用されていたとみられ、建物跡の廃絶時には燃焼室部分は埋め込まれて壁の一部となっていたと思われるが、北カマドの部分では壁溝が認められなかったことから、使用停止後も何らかの痕跡を留めていたとも考えられる。この北カマドは、東カマドに近接する



掘り方



第 352 図 SI27(1)(1/60)

S127		
1. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 5～30mm の灰褐色土ブロック (10YR4/13)30%。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%未満を含む。締まりやや弱。	粘性
2. 10YR3/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%。直径 2～5mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱。	粘性弱。
3. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%。直径 2～5mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりは 2層より強いやや弱。	粘性やや弱。
4. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 2%・赤色スコリア 1%未満を含む。締まりやや弱。粘性弱。	
5. 10YR3/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 2mm 以下の粘土粒子 25Y5/31%。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%を含む。締まり	粘性やや弱。
6. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 各 1%。直径 2mm 以下の粘土粒子 1%。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%を含む。締まり粘性やや弱。粘土やや強い。	
7. 10YR3/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 各 1%。直径 10mm 以下の焼土ブロック 3%。長さ 3～7mm の炭化物 1%を含む。締まりやや弱。粘性弱。	
8. 10YR3/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 1%。直径 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。締まりやや弱。粘性弱。	
9. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%。直径 2mm 以下の粘土粒子 2%。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%。直径 2～3mm の炭化物粒子 1%未満を含む。	締まり・粘性やや弱。
10. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 各 1%。直径 10mm 以下の焼土ブロック 3%。直径 2～3mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱い砂。	粘性弱。
11. 10YR3/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 各 1%。焼土粒子 1%を含む。締まりやや弱。粘性弱。	
12. 10YR3/3 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。締まり・粘性やや弱。	
13. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 10mm 以下のロームブロック 3%。直径 2mm 以下の粘土粒子 1%。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%を含む。	締まり・粘性やや弱。粘土やや強い。
14. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の赤色スコリア 1%未満。直径 7mm 以下の粘土粒子 7%・焼土粒子 3%。直径 2～3mm の炭化物 1%未満を含む。締まりやや弱。粘性やや弱。	
15. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の赤色スコリア 1%。直径 7mm 以下の粘土粒子 7%・焼土粒子 3%。直径 2～3mm の炭化物 1%未満を含む。締まりやや弱。粘性やや弱。	
16. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満・黄褐色スコリア 1%。砂粒 3%を含む。締まり・粘性やや弱。	
17. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%。直径 5～20mm の炭質土ブロック 2%を含む。締まりやや弱。粘性やや弱。	
18. 2.5Y3/2 黒色土層	直径 2mm の赤色スコリア 1%。直径 3mm 以下のローム粒子 1%。直径 5mm 以下の焼土粒子 2%。直径 2mm 以下の焼土粒子 1%を含む。締まり・	粘性やや弱。
19. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 2mm 以下の粘土粒子 1%。直径 5mm 以下の焼土粒子 1%。砂粒 3%を含む。締まり弱。	粘性なし。
20. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満。直径 2～5mm のローム粒子 3%。直径 2mm 以下の粘土粒子 1%。直径 5mm 以下の焼	土粒子 1%。砂粒 3%を含む。
21. 10YR3/2 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%を含む。締まり・粘性やや弱。	
22. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の黄褐色スコリア 1%。直径 2～3mm の小礫 3%を含む。締まり弱。粘性やや弱。	
23. 10YR2/1 黒色土層	直径 2mm の赤色スコリア 1%。直径 5mm 以下のローム粒子 25%を含む。締まり・粘性やや弱。	
24. 2.5Y3/2 黒色土層	直径 1mm の赤色スコリア 1%未満。直径 5mm 以下のローム粒子 1%。直径 2～7mm の焼土粒子 3%。直径 4mm 以下の焼土粒子 1%を含む。締	まり・粘性やや弱。
25. 2.5Y4/2 灰褐色土層	直径 3～10mm の黒色土ブロック (10YR2/1)1%。直径 2～20mm の焼土ブロック 25Y5/310%。直径 2mm の焼土粒子 2%。直径 2～3mm の	炭化物粒子 1%未満を含む。締まり粘性やや弱。
26. 2.5Y4/2 灰褐色土層	直径 3～10mm の焼土ブロック 5%。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%。直径 3mm の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱。	
27. 2.5Y4/2 灰褐色土層	直径 3～5mm の粘土粒子 5%。直径 5mm 以下の焼土粒子 5%。直径 3～5mm の炭化物 1%を含む。締まり・粘性やや弱。	
28. 2.5Y4/2 灰褐色土層	直径 2～10mm のロームブロック 7%。直径 3～10mm の黒色土ブロック 3%を含む。締まりやや弱。粘性やや弱。	
29. 2.5Y3/2 黒色土層	直径 2～5mm のローム粒子 2%。直径 3～3mm の焼土粒子 2%。直径 2～10mm の焼土ブロック 1%を含む。締まりやや弱。粘性やや弱。	
30. 10YR2/1 黒色土層	直径 2mm の赤色スコリア 1%。直径 2～30mm のロームブロック 15%を含む。締まり・粘性やや弱。	
31. 10YR3/1 黒色土層	灰土。直径 3mm 以下の赤色スコリア 1%。直径 3～30mm のロームブロック 25%。直径 2～3mm の焼土粒子 1%を含む。締まり極めて強。	粘性やや弱。粘土強い。
32. 10YR4/2 灰褐色土層	直径 2～3mm の焼土粒子 2%。直径 2～4mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まり弱。粘性やや弱。粘土やや強い。	
33. 10YR4/2 灰褐色土層	直径 100mm 以下のロームブロック 15%。直径 2～5mm の赤色スコリア 1%未満。直径 5～70mm の黒色土ブロック 10%を含む。締まり強。粘	性やや弱。粘土強い。
P1		
1. 10YR2/1 黒色土層	直径 2mm の赤色スコリア 1%未満。直径 2～3mm のローム粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱。粘土やや強い。	
2. 10YR3/2 黒色土層	直径 2mm の赤色スコリア 1%未満。直径 2～15mm のロームブロック 5%を含む。締まり・粘性やや弱。粘土強い。	

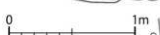
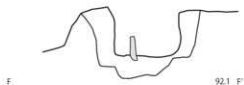
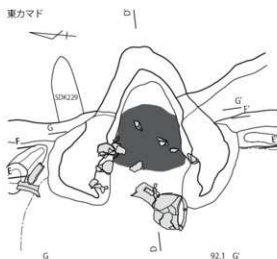
第 353 図 S127(2)

北壁の東端付近を U 字状に掘り込んで構築されていた。調査時には左右の袖は残存しておらず、側壁・奥壁にも構築材としての砂質粘土等は遺存していなかった。燃焼室の覆土には砂質粘土の堆積を見ることができることから、カマドの構築に砂質粘土が用いられていたと推察される。

出土遺物 土師器 619 点、須恵器 42 点、焼成粘土塊 5 点、石器 3 点、石製品 2 点、切石片 1 点、礫 86 点、金属製品 3 点、炭化物 3 点の他、縄文土器 2 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 15 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が出土しているが、カマド前面が特に集中している。図示したものの多くが土師器甕で、やはりカマド内やその周辺から多く出土している。主なものでは、第 360・362 図 7 や第 361・363 図 12 がカマド内～カマド前面の上～下層、第 360・362 図 10 がカマド前面の中～下層、第 361・363 図 15 がカマド内の下層、9 が北カマド前の中～下層出土となっている。須恵器環は主に床面や床面付近から出土し、第 360・362 図 1・3・5 が床面からの出土である。また、2・4・6 は、覆土上層や中層の破片と床面の破片が接合している。その他、刀子が 3 点出土しており、第 361・363 図 17・18 が覆土中層、16 が床面からの出土である。なお、SI26 との接合も 2 例が確認されている。

東カマド

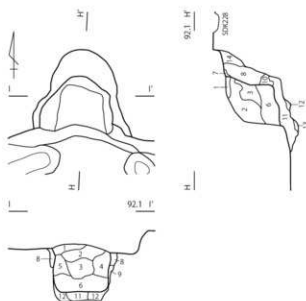


東カマド

1. 2.5V4/3 オリーブ褐色土層 砂質粘土 直径55/30/20%、直径3mm以下の焼土粒子2%、直径2mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
2. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径10mm以下の粘土ブロック(2.5V5/3)15%、直径3mm以下の焼土粒子3%、直径2~3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
3. 7.5V8/4 2 灰褐色土層 砂質粘土 直径5mm以下の暗褐色粘土粒子(7.5V8/1)1%未満、直径10mm以下の焼土ブロック5%、直径3mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
4. 7.5V8/4 2 灰褐色土層 焼土した粘土土層、直径5mm以下の焼土粒子5%、直径2~3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。
5. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径8mm以下の暗褐色粘土粒子5%、直径3mm以下の焼土粒子2%、炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
6. 7.5V8/4 2 灰褐色土層 砂質粘土土層、直径15mm以下の暗褐色粘土粒子10%、直径3mm以下の焼土粒子5%、直径2mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
7. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径3mm以下の黒褐色土粒子(10V8/3)11%、直径2mm以下の暗褐色粘土粒子1%、直径7mm以下の焼土粒子5%、直径2mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
8. 2.5V5/3 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径2~10mmの黒褐色土ブロック(2.5V3/1)15%を焼土に、直径2~5mmの焼土粒子3%、直径3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
9. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径2~5mmの焼土粒子3%、直径2mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
10. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径2~25mmの焼土ブロック3%、直径2~3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
11. 7.5V8/4 2 灰褐色土層 砂質粘土土層、直径3mm以下の暗褐色粘土粒子1%、直径20mm以下の焼土ブロック7%、長さ2~7mmの炭化物粒子1%を含む。細まり・粘性やや強、粘子強い。
12. 10V8/1 暗灰色土層 直径1mmの焼土粒子1%未満、長さ3~7mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
13. 2.5V3/1 暗灰色土層 直径4mm以下の粘土粒子(2.5V5/3)15%、直径5mm以下の焼土粒子5%、炭化物1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強、粘子やや強い。
14. 2.5V3/1 暗灰色土層 直径2~3mmの焼土粒子1%、直径3mm以下の焼土粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
15. 2.5V4/2 オリーブ褐色土層 灰褐色、直径7mm以下の焼土ブロック15%、直径2~4mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘子強い。
16. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
17. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
18. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
19. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
20. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
21. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
22. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
23. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
24. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
25. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
26. 2.5V4/2 暗灰色土層 砂質粘土土層、直径20mm以下の焼土ブロック10%、直径2~5mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
27. 2.5V4/3 オリーブ褐色土層 砂質粘土土層、直径8mm以下の焼土ブロック5%、直径2mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まりやや強、粘性やや強。
28. 2.5V3/1 暗灰色土層 直径2~3mmの焼土粒子2%を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。
29. 2.5V3/1 暗灰色土層 直径3~30mmの粘土ブロック(2.5V5/3)7%、直径2~3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
30. 2.5V3/2 暗灰色土層 直径2~5mmの焼土粒子3%、直径3~5mmの焼土粒子2%を含む。細まりやや強、粘性やや強。
31. 2.5V3/2 暗灰色土層 直径2~5mmの焼土粒子3%、直径3~5mmの焼土粒子2%を含む。細まりやや強、粘性やや強。
32. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径2~3mmの粘土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。
33. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径2~3mmの粘土粒子1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。
34. 2.5V4/2 暗灰色土層 直径2mmの赤色スコリア1%、直径2~4mmの焼土粒子1%、炭化物1%未満を含む。細まり・粘性やや強、粘性やや強。
35. 10V8/1 暗灰色土層 直径2mmの赤色スコリア1%、直径3~10mmの焼土ブロック2%、直径2~5mmの焼土粒子3%を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。
36. 10V8/4 3 赤褐色土層 直径2mmの赤色スコリア1%、直径5~20mmの炭化物粒子10%、直径3~40mmの焼土ブロック30%を含む。細まり・粘性やや強、粘子やや強い。

第 354 図 SI27(3) 東カマド (1/30)

北カマド



掘り方



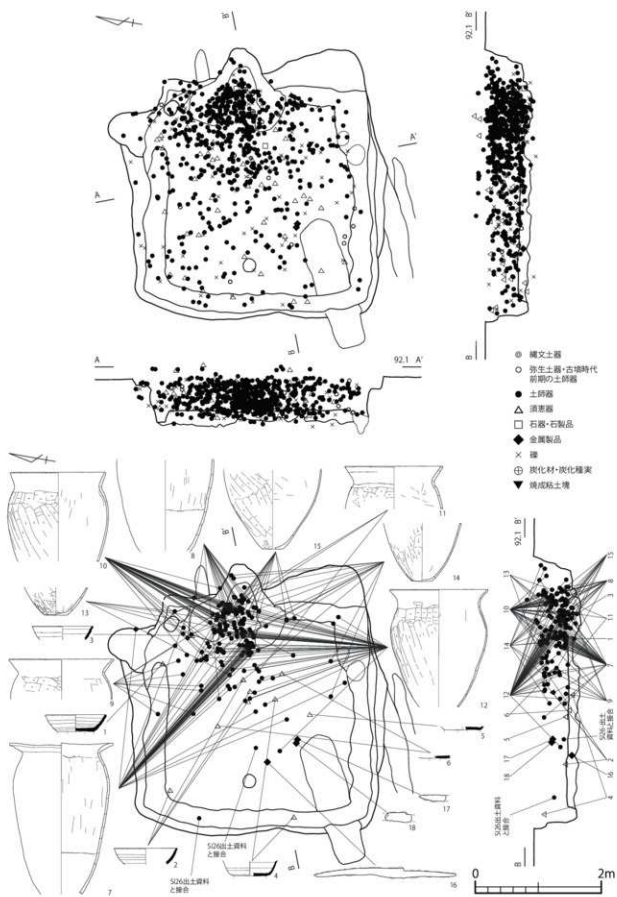
北カマド

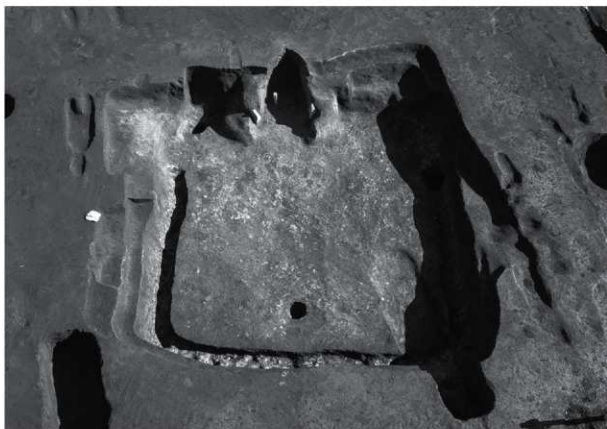
1. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径 5mm 以下の粘土粒子 (7.5YR5/3)7%・焼土粒子 3%、直径 2～5mm の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性やや強い。
2. 2.5Y5/3 黒褐色土層 砂質粘土土体、直径 20mm 以下の黒褐色土ブロック (2.5Y3/1)15%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2～5mm の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性やや強、粒子やや粗い。
3. 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径 20mm 以下の焼土ブロック 15%、直径 5mm 以下の粘土粒子 2%、長さ 2～15mm の炭化物 2%を含む。締まり弱、粘性なし、粒子粗い。
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直径 10mm 以下の粘土粒子 5%、直径 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。締まりやや強、粘性やや強い。
5. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径 10mm 以下の粘土ブロック (7.5YR5/3)3%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%を含む。締まり・粘性やや強。
6. 2.5Y4/1 暗灰色土層 直径 3～10mm の黒褐色土ブロック (10YR3/1)2%、直径 5mm 以下の粘土粒子 15%、直径 2～7mm の焼土粒子 7%を含む。締まり・粘性やや強、粒子やや粗い。
7. 10YR5/2 灰黄褐色土層 砂質粘土粒子 (7.5YR5/3)40%、直径 7mm 以下で同色の砂質粘土ブロック 7%を含む。締まり強、粘性なし、粒子粗く砂質。人為的堆積。
8. 7.5YR4/1 暗灰色土層 砂質粘土粒子 20%、直径 15mm 以下で同色の砂質粘土ブロック 15%、焼土粒子・直径 5mm 以下の焼土ブロック 3%を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子やや粗くやや砂質。
9. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 砂質粘土粒子 3%、焼土粒子 1%を含む。締まりやや強、粘性わずか、粒子やや粗い。
10. 7.5YR4/1 暗灰色土層 砂質粘土粒子 7%、直径 15mm 以下で同色の砂質粘土ブロック 15%を含む。締まり強、粘性わずか、粒子比較的細からやや砂質。人為的堆積。層 1 土層をベースとし、直径 40mm 以下のロームブロック 1%未達。焼土粒子・直径 5mm 以下の焼土ブロック 7%を含む。締まり強、粘性わずか、粒子やや粗い。
11. 7.5YR2/1 暗褐色土層 ローム粒子ベース、直径 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。締まり弱、粘性有り、粒子細かい。
12. 10YR4/2 灰黄褐色土層 灰土をベースとし、ローム粒子・直径 5mm 以下のロームブロック 5%、黒色土粒子 1%未達を含む。締まり・粘性有り、粒子やや粗くやや砂質。
13. 10YR3.5/1.5 灰黄褐色土層 砂質粘土粒子 5%、直径 7mm 以下で同色の砂質粘土ブロック 1%を含む。締まり強、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
14. 7.5YR2/1 黒色土層

第 355 図 S127(4) 北カマド (1/30)

土器 第 360・362 図 1～6 は須恵器環である。1・4～6 は底部に回転ヘラケズリ調整が施されている。完形の 1 は口径 12.4cm、器高 3.5cm、底径 7.5cm を測る。南比企窯産須恵器環である。2・3 の推定口径は 13.2cm と 12.6cm、4・5 の推定底径は 7.3cm と 7.6cm を測る。2・3・5・6 は南比企窯産、4 は東金子窯産須恵器と思われる。6 の底部内面には判読不明の墨書がみられる。

第 360・362 図 7～10、第 361・362 図 11、第 361・363 図 12～15 は土師器甕である。7・8 は相模型甕となろう。7 は口縁部がヨコナデ、胴部がナデ調整、内面はヘラ状工具によるナデ調整





1. SI27 全景 (西南西から)



2. SI27 掘り方全景 (西南西から)

第 357 図 SI27 写真 (1)



1. SI27 土層断面 A-A'(西南西から)



2. SI27 土層断面 B-B'(南南東から)



3. SI27 遺物出土状況(南から)



4. SI27 遺物出土状況(南から)



5. SI27 北カマド全景(南から)



6. SI27 北カマド掘り方全景(南から)



7. SI27 北カマド土層断面 H-H'(南東から)



8. SI27 北カマド土層断面 I-I'(南から)

第 358 図 SI27 写真 (2)



1. SI27 東カマド全景 (西南西から)



2. SI27 東カマド掘り方全景 (西南西から)



3. SI27 東カマド遺物出土状況 (西南西から)



4. SI27 東カマド土層断面 D-D' (南南西から)



5. SI27 東カマド土層断面 E-E' (西南西から)



6. SI27 東カマド土層断面 F-F' (西南西から)

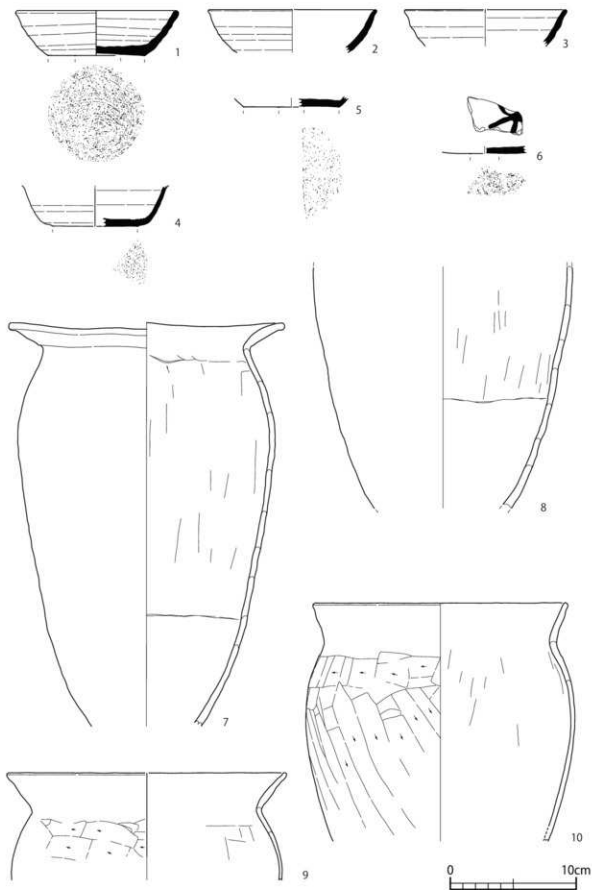


7. SI27 東カマド掘り方土層断面 D-D' (南から)

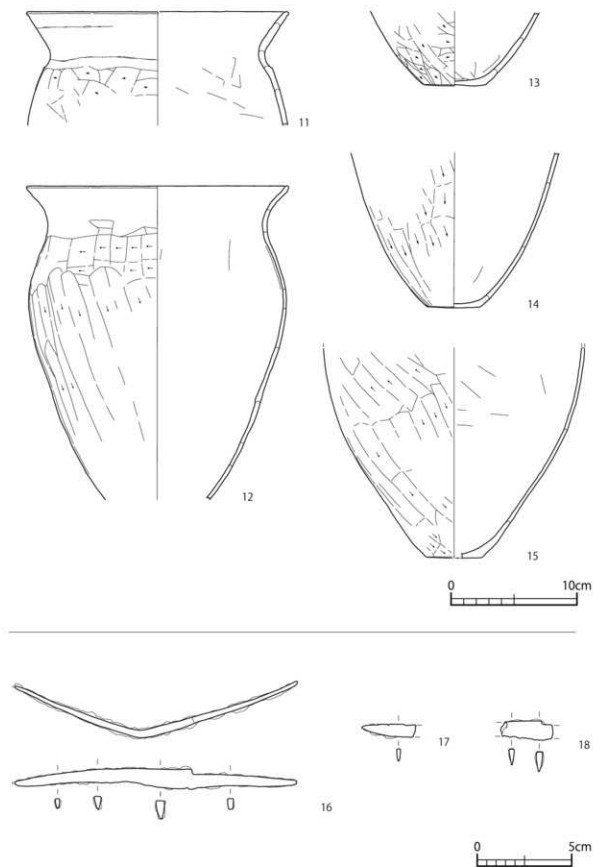


8. SI27 東カマド掘り方土層断面 E-E' (西南西から)

第 359 図 SI27 写真 (3)



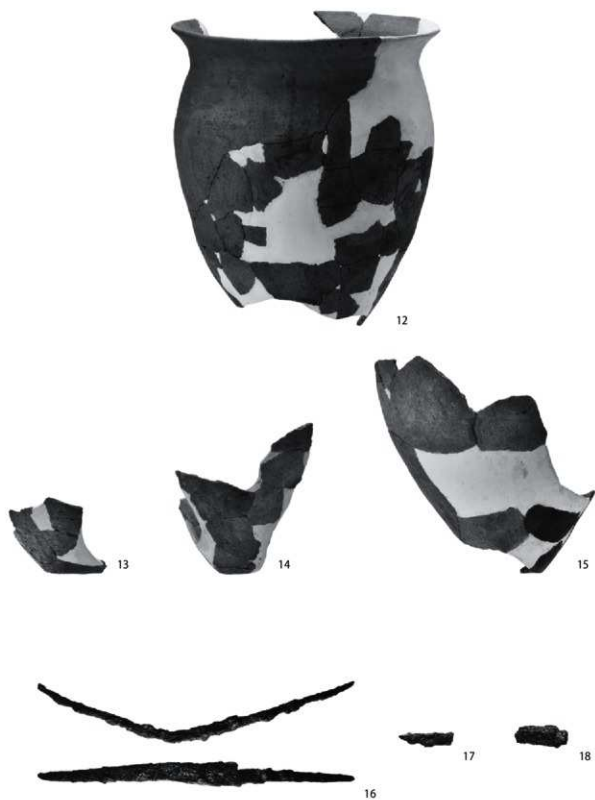
第360図 SI27出土遺物(1)(1/3)



第361図 SI27出土遺物(2)(1/3・1/2)



第362図 SI27出土遺物写真(1)



第363図 SI27出土遺物写真(2)

第 42 表 SI27 出土土器観察表

図 番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 340 - 342 図	1	甕土下層	直径部 12.4 3.5 7.5	底部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラズリ調整が施される。	海胆動物骨針 小礫 長石 白色粒	良好	5B/C/1 暗青灰	完形	南北企業産
	2	甕土上層・床面	直径部 (13.2) — —	底部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	回転力利用の成形。	海胆動物骨針 小礫 長石 白色粒	良好	5B/C/1 青灰	—	南北企業産
	3	床面	直径部 (12.6) — —	口縁部の外反はほとんどみられない。	回転力利用の成形。	小礫 白色粒 黒色粒	良好	10Y/6/1 灰	口縁部片	内面に障灰 南北企業産
	4	甕土上層・床面	直径部 (7.3) — —	底部は平底。底部はやや内湾気味に立ち上がる。	底部に回転ヘラズリ調整が施される。	緻密 白色粒	良好	10B/C/1 青灰	—	東金子堂産
	5	甕土下層	直径部 (7.6) — —	底部は平底。	底部は回転ヘラズリ調整が施されるが、中央には糸切り痕が残る。	海胆動物骨針 白色粒	良好	5B/C/1 暗青灰	底部片	南北企業産
	6	甕土中層・床面	直径部 — — —	底部は平底。	底部は回転ヘラズリ調整が施されるが、中央には回転糸切り痕が残る。	海胆動物骨針 白色粒	軟質	2.5Y/7/2 灰黄	底部片	内面に黒書 南北企業産
	7	甕土上へ下層・北カマ下層・東カマ下層	土師部 22.6 費 — —	長胴形。口縁部は大きく開いて立ち上がり、最大径を有する。口縁部は玉縁状を呈する。	口縁部はヨコナデ。胴部の調整はナデ調整と思われる。内面にはヘラ状工具によるナデ調整が施されている。器壁は厚い。	小礫 雲母 白色粒 砂粒	やや軟質	外面 5YR6/6 橙 5B/C/1 青灰 内面 5B/C/1 青灰	ほぼ完形	粗粒型甕
	8	甕土中へ下層・床面・東カマ下内	土師部 — 費 — —	長胴形。胴部の膨らみは小さい。	胴部外面はナデ調整。内面はヘラナデ調整が施される。器壁は厚い。	小礫 長石 雲母 白色粒 褐色粒	やや軟質	外面 5YR6/6 橙 内面 2.5Y/6/1 オリーブ灰	胴部片	粗粒型甕
	9	甕土中へ下層・床面・東カマ下内	土師部 (21.9) 費 — —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。胴部は膨らむ。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向のヘラズリ調整。内面はナデ調整が施されている。器壁は薄い。	小礫 石英 白色粒	良好	外面 2.5YR5/4 にふい赤 内面 2.5YR4/8 赤褐	—	武蔵型甕
	10	甕土上へ下層・床面・東カマ下内・東カマ下層内	土師部 19.8 費 — —	口縁部の外反は小さい。胴部の膨らみも弱い。胴部上半に最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向のヘラズリ調整。上半から中央にかけては斜方向にヘラズリ調整される。器壁は薄い。	小礫 雲母 長石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR4/4 にふい赤	半完形	内外面にスス付 武蔵型甕
第 343 - 345 図	11	甕土下層・東カマ下内	土師部 (20.3) 費 — —	口縁部はく字状に外反する。胴部はやや膨らむ。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向のヘラズリ調整。内面はヘラナデ調整が施される。口縁部外面に粘土紐状痕。	小礫 角閃石 石英 白色粒	良好	5YR6/4 にふい橙	—	武蔵型甕
	12	甕土上へ下層・東カマ下内・東カマ下層内	土師部 20.5 費 — —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。胴部は膨らみ、下平へとすまばる。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向、中央以下は斜方向や縦方向のヘラズリ調整。内面はナデ調整が施される。器壁は薄い。	小礫 長石 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐	半完形	武蔵型甕
	13	甕土上へ下層	土師部 — 費 4.9	底部は平底。胴部下半は大きく開いて立ち上がる。	胴部下半は斜方向等のヘラズリ調整。底部外面もヘラズリ調整され、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR4/6 赤褐	—	武蔵型甕
	14	甕土上へ中層・東カマ下内・東カマ下層内	土師部 — 費 4.2	底部は平底。胴部下半は内湾気味に立ち上がる。底径は小さい。	胴部下半は縦方向等のヘラズリ調整。底部外面もヘラズリ調整。内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 長石 白色粒 褐色粒	良好	外面 2.5YR4/6 赤褐 内面 2.5YR6/6 橙	—	武蔵型甕
	15	甕土下層・東カマ下内	土師部 — 費 (4.6)	底部は平底。胴部は内湾気味に立ち上がり、中央は膨らむ。	胴部外面は斜方向等のヘラズリ調整。底部外面もヘラズリ調整。内面はナデ調整される。器壁は薄い。	長石 石英 白色粒 褐色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤褐 内面 2.5YR6/6 橙	—	武蔵型甕

され、口径部に最大径を有する長胴形態を呈している。8も同様の長胴形態の甕と思われる。9～15は武蔵型甕である。器壁が薄く、赤褐色系に焼成されている。口縁部はく字状に外反し、概して胴部は膨らむ。9・11・12は口縁部に最大径を持つものの、口縁部と胴部上半は拮抗した数値となっている。10は胴部上半に最大径を有している。いずれも口縁部はヨコナデ、胴部と底部の外面はヘラケズリ調整が顕著で、上半は横方向や斜方向、中央から下半は斜方向や縦方向にヘラケズリ調整が施されている。内面はヘラナデ調整やナデ調整が施されている。13～15は胴部下半から底部にかけて遺存している。いずれも器壁が薄く、底径は4cm台である。胴部や底部外面はヘラケズリ調整が顕著で、内面はナデ調整されている。

金属製品 第361・363図16～18の鉄製品は、いずれも平造の刀子である。16は完形の刀子で、中央から少し曲がって遺存していた。長さ149mmで、茎部と刃部の境の上段に関を有する片関タイプの刀子である。17は刀子の先端部が遺存している。長さ28mm、厚さは2mmを測る。18は刃部から茎部の一部が遺存し、刃部と刃部の境の上端に関のある片関タイプの刀子である。

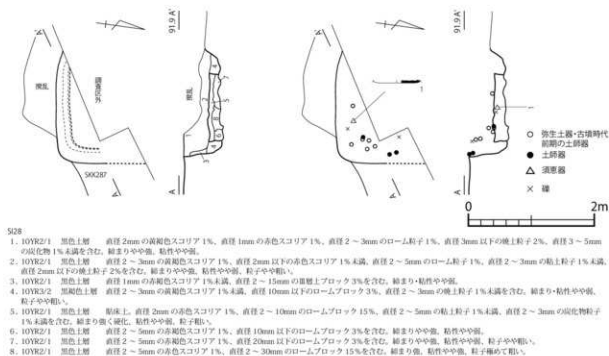
炭化種実（水洗選別） 東カマドからヒエ属・イネ・アワ・オオムギ・ハギ属、北カマドからサンショウ・イネ・イヌタデ属が出土した。

南比企窯跡群岡山編年のHⅣ期に類似する須恵器環が出土し、武蔵型甕や相模型甕も共伴する。8世紀後葉の土器群と思われる、遺構の時期も8世紀後葉と推定される。

SI28（第364～367図、第43表）

遺構 調査区南西寄りの30P-4・14グリッドに位置する。北側の大部分は調査区外で、日野市教育委員会が発掘調査を実施している。建物跡東壁北側で掘削範囲を拡張して調査を試みたが、遺構プランの確認と遺物の検出に留まった。今回の調査は建物跡全体の約1/5について実施したこととなる。

検出面はⅢ層上で、SI28が方形周溝墓SZ2の北溝を切っており、近世以降のSKK287及び攪乱に





1. SI28 全景 (南南西から)



2. SI28 土層断面 (南東から)

第 365 図 SI28 写真



第366図 SI28出土遺物(1/3)



第367図 SI28出土遺物写真

第 43 表 SI28 出土土器観察表

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 366 ・ 367 図	1	床面	須恵器 環	— (10.2)	底部は平底。	底部は回転ヘラケズリ調整が施されている。体部下端も回転ヘラケズリ調整が及ぶと思われる。	雲母変質 白色粒	敷置	外面 2.5Y2/1 黒 内面 10YR7/2 にぶい黄粒	底部片	外面直度、 東金子窯産の可能性

壁の一部を切られている。また、南側 130cm には SI26 が位置している。

平面形態は南北に長い長方形と推察され、調査・検出範囲内では東西 180cm、南北 116cm（検出のみの範囲も含む）を測る。主軸方向は、N-98°-W を指す。検出面からの深さは 42cm で、壁は垂直に立ち上がっている。

床面は貼床だが、狭い範囲での調査だったため、硬化面は検出できなかった。壁溝は、平面では確認できなかったが、土層断面の観察及び日野市教育委員会調査範囲での状況から、存在が確認できた。カマドは、調査範囲内においては確認できなかったが、日野市教育委員会調査範囲では西壁で検出されている。柱穴やその他の施設は確認されなかった。

床面までの覆土は黒色土が主体で、3 層に細分された。そのうち 3 層は壁の崩落土と考えられる。

壁溝は、U 字状の断面を呈し、幅 20cm、床面からの深さ 23cm を測る。覆土には焼土やロームブロックが含まれる。

掘り方は概ね V 層まで掘り込まれ、調査範囲内では全体的に凹凸を有している。掘り方の覆土は 4 層に分層され、いずれもロームブロックを含んでおり、そのうちの 5 層が硬化面を形成している。

前述の通り、調査範囲内においては、カマドは検出されなかった。

出土遺物 土師器 3 点、須恵器 1 点、礫 2 点、弥生土器・古墳時代前期の土師器 6 点が出土した。

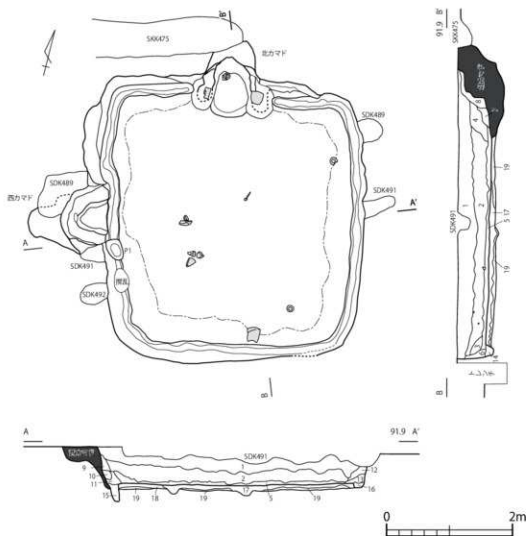
遺物出土状況 土師器の出土位置は壁際及び床面直上で、図示した第 366・367 図 1 の須恵器環は、床面からの出土である。

土器 第 366・367 図 1 は須恵器環の底部片である。SI28 からは実測に耐え得る遺物はこの 1 点に限られる。小片からの復元実測であるが、推定底径は 10.2cm を測る。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整されている。東金子窯産須恵器の可能性があり、胎土に雲母片岩を含む。

実測できた唯一の遺物である須恵器環は、8 世紀前葉から中葉の時期とみて差し支えないだろう。遺構も同時期の所産と思われる。

SI29 (第 368～382・553 図、第 44・58・60・61 表)

遺構 調査区中央部西寄りの 310・64・65・74・75 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降の SDK489・491・492、SKK475 及び攪乱に壁やカマド、壁溝の一部を切られている。

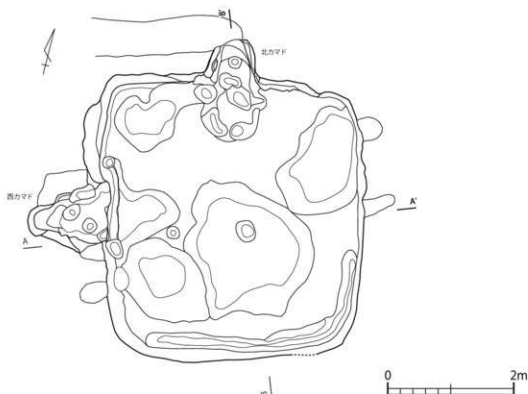


S129

1. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色スコリア1%、直徑2mm以下の赤色スコリア1%未満、直徑1mmの黒色スコリア1%未満、直徑3mm以下の焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑3mm以下の黄褐色スコリア1%未満、直徑1mmの赤色スコリア1%、直徑5mm以下の焼土粒子1%、直徑2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりや中強、粘性や中強。
3. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色スコリア1%・赤色スコリア1%未満、直徑2mm以下の黒色スコリア1%未満、直徑3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まりや中強、粘性や中強が2層より強い。
4. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色スコリア1%・黒色スコリア1%未満、直徑5mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y5/3)・焼土粒子各2%、直徑2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
5. 2.5YR3/2 暗赤褐色土層 直徑1mmの赤色スコリア1%・黒色スコリア1%未満、直徑3mm以下の砂質粘土粒子1%未満、直徑2～3mmの焼土粒子1%を含む。細まり・粘性や中強。
6. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色・黒色スコリア各1%未満を含む。細まりや中強、粘性弱。
7. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直徑2mm以下の砂質粘土粒子1%、直徑5mm以下の焼土粒子1%、直徑2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
8. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直徑3mm以下の砂質粘土粒子・焼土粒子各2%を含む。細まり・粘性や中強。
9. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直徑2mm以下の砂質粘土粒子1%・焼土粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
10. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直徑7mm以下の砂質粘土ブロック(2.5Y5/3)7%、直徑2～3mmの焼土粒子2%・炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
11. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア1%未満、直徑5mm以下の砂質粘土粒子2%、直徑3mm以下の焼土粒子2%、直徑2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
12. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直徑2mm以下の焼土粒子1%未満を含む。細まりや中強、粘性弱。
13. 10YR3/2 黒褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直徑3～20mmの第2層土ブロック3%、直徑20mm以下の炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
14. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑1mmの赤色スコリア1%未満、直徑3～20mmの第2層土ブロック5%を含む。細まりや中強、粘性弱。
15. 10YR2/1 黒褐色土層 P1覆土、直徑1mmの赤色スコリア1%、直徑3～20mmの第2層土ブロック3%、直徑2mm以下の焼土粒子1%未満を含む。細まりや中強、粘性や中強。
16. 10YR3/3 暗褐色土層 直徑1mmの黄褐色・赤色スコリア各1%、直徑2～3mmの炭化物粒子1%未満を含む。細まり・粘性や中強。
17. 10YR3/2 黒褐色土層 直徑10～50mmの黒色土硬化ブロック(10YR2/1)30%、直徑5mm以下の焼土粒子1%を含む。細まり強、粘性や中強。
18. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑2～3mmの赤褐色スコリア1%未満、直徑3～20mmの第2層土ブロック2%、直徑5～30mmの第3層土ブロック15%を含む。細まり強、粘性や中強。
19. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直徑2～4mmの赤褐色スコリア1%、直徑20～40mmの黒色土ブロック15%を含む。細まり強、粘性や中強。

第368図 S129(1)(1/60)

掘り方



第369図 SI29(2)(1/60)

平面形態は隅丸方形で、東西 538cm、南北 511cm を測る。主軸方向は、N-14°-W を指す。検出面から床面までの深さは 62cm で、壁は床面からやや開き気味に立ち上がっている。なお、西壁の西カマドより北側の壁が挟れているが、廃絶後の崩落等によるものと思われる。

床面は貼床で、壁際を除くほぼ全面が硬化していた。壁溝は、廃絶時には東カマド部分を除いて巡っていた。カマドは北壁の北カマドと西壁の西カマドが検出された。主柱穴は確認されなかったが、西カマドの左袖付近で P1 を検出した。

床面までの覆土は 13 層に分けられる。広く比較的水平に堆積する 1・2・5 層をはじめ、焼土や炭化物粒子を微量に含む覆土が多い。14～16 層は壁溝の覆土である。

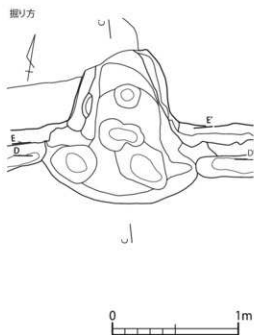
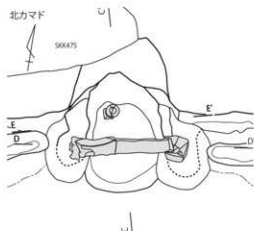
壁溝は、前述の通り北カマド部分を除いて巡っており、西カマドの北寄りはやや屈曲している。断面形態は概ね逆台形を呈し、幅 17～19cm、深さ 8～13cm を測る。

掘り方は概ねⅣ層まで掘り込まれており、全体に弱い凹凸を有している他、ピット状の掘り込みも確認された。掘り方の覆土 3 層に分層され、中心部で床面を構築している 17 層には硬化した黒色土のブロックが多量に含まれている。

P1 は、西カマドの左袖に相当する位置で検出された。楕円形を呈し、長軸 37cm、短軸 25cm、床面からの深さ 28cm を測る。西カマドとの関連性は不明である。

カマドは新旧 2 基が確認された。西カマドが古く、北カマドが新しい。

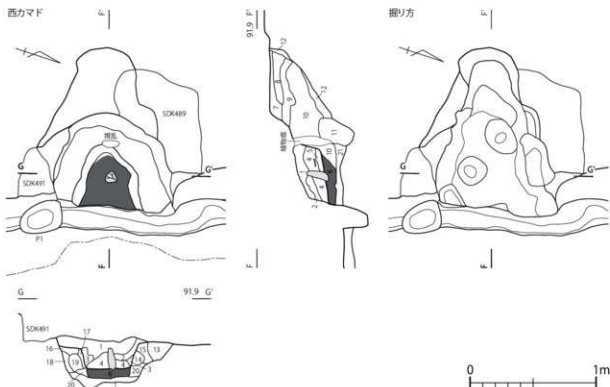
北カマドは、北壁の中心部を U 字状に掘り込んで構築され、奥壁の端部が SKK475 に切られているものの、砂質粘土を主体に構築された左右の袖の一部と側壁・奥壁が確認された。天井部は残存していなかった。また焚口部分には、天井石が崩落した状態で残存していた。天井石は凝灰質砂岩製で、



北カマド

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 5~30mm の黒色土ブロック (10YR2/1)20%, 直徑 2~3mm の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)2%, 直徑 2~3mm の焼土粒子 1%未満を含む。結まりや中堅。粘土や中堅。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 20mm の赤色スコリア 1%未満。直徑 80mm 以下の砂質粘土ブロック (2.5Y5/3)5%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 3%を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
3. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 2~20mm の焼土土ブロック 3%, 直徑 80mm 以下の砂質粘土ブロック (2.5Y5/3)4%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 5%, 直徑 3~5mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり前。粘性土や中堅。粘土や中堅。
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑 2~5mm の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)20%, 直徑 2~4mm の焼土粒子 3%, 直徑 30mm の炭化物粒子 1%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。粘土や中堅。
5. 2.5Y3/1 黒褐色土層 黒色土 3%, 直徑 30mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)7%, 直徑 2~5mm の焼土粒子 2%を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
6. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 5mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)3%, 直徑 2~5mm の焼土粒子 7%, 直徑 2~30mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
7. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 20mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)1%未満。直徑 30mm 以下の焼土粒子 2%を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
8. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 2~4mm の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)5%, 直徑 4mm 以下の焼土粒子 5%, 直徑 2~4mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
9. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 2~10mm の砂質粘土ブロック (2.5Y5/3)5%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 2%を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
10. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 3~5mm の黒褐色土層 (10YR3/1)1%, 直徑 30mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)15%, 直徑 2~5mm の焼土粒子 2%を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
11. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 2~5mm の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)3%, 直徑 2~10mm の焼土粒子 7%, 直徑 2~4mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
12. 2.5Y2/1 黒褐色土層 直徑 30mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)2%, 直徑 5mm 以下の焼土粒子 7%, 直徑 2~5mm の炭化物粒子 1%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
13. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 5~7mm の砂質粘土ブロック (10YR3/1)5%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 5%, 直徑 2~3mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり前。粘性土や中堅。粘土や中堅。
14. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土層。黒褐色土 (2.5Y5/1)20%, 直徑 2~5mm の焼土粒子 8%, 直徑 2~30mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
15. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 砂質粘土土層。黒褐色土 (2.5Y5/1)20%, 直徑 7mm 以下の焼土ブロック 10%, 直徑 2~3mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
16. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑 2~20mm の砂質粘土ブロック (2.5Y5/3)25%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子・炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
17. 2.5Y6/2 灰黄色土層 砂質粘土土層。暗灰黄色土層 (2.5Y4/2)15%, 直徑 20mm の焼土粒子 1%未満を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
18. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 30mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)5%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 1%を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
19. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 30mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)3%, 直徑 30mm の焼土粒子 1%未満。直徑 30mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
20. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 2~30mm の炭化物粒子 (2.5Y5/3)2%, 直徑 2~10mm の焼土土ブロック (2.5Y4/2)20%, 直徑 7mm 以下の焼土土ブロック 15%を含む。結まりや中堅。粘性土。粘土や中堅。
21. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 20mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)15%・焼土粒子 5%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。粘土や中堅。
22. 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土。直徑 20mm 以下の焼土粒子 2%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 5%, 直徑 2~30mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
23. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 3~15mm の焼土土ブロック 2%, 直徑 20mm の焼土粒子 1%を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
24. 2.5Y6/3 灰黄色土層 砂質粘土土層。直徑 40mm 以下の黒褐色土ブロック (2.5Y3/1)20%, 直徑 2~30mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
25. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑 7mm 以下の砂質粘土ブロック (2.5Y5/3)15%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 3%を含む。結まり・粘性土や中堅。
26. 7.5YR3/2 黒褐色土層 砂質粘土土層。直徑 15mm 以下の焼土土ブロック 7%, 直徑 20mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
27. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 2~30mm の砂質粘土粒子 (2.5Y5/3)3%, 直徑 10mm の焼土粒子 2%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
28. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 2~25mm の砂質粘土土ブロック (2.5Y5/3)10%, 直徑 2~10mm の焼土土ブロック 3%, 炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
29. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 10mm の炭褐色土ブロック 1%, 直徑 4mm 以下の焼土粒子 2%, 直徑 2~4mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。
30. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土層 直徑 2~8mm の焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 (2.5Y3/1)15%を炭灰に含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
31. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 20mm の炭褐色土ブロック 1%未満。黒褐色土 5%, 直徑 2~10mm の焼土土ブロック 3%を含む。結まり・粘性土や中堅。
32. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑 10mm の炭褐色土ブロック 1%, 直徑 2~4mm の焼土粒子 3%を含む。黒褐色土 15%を炭灰に含む。結まり・粘性土や中堅。
33. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直徑 3~15mm の砂質粘土土ブロック (2.5Y4/2)15%, 直徑 2~10mm の焼土土ブロック 5%を含む。黒褐色土 5%を炭灰に含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
34. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土層 直徑 20mm の赤色スコリア 1%未満。直徑 2~4mm のローム粒子 2%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 3%を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
35. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 2~15mm の焼土土ブロック 2%, 直徑 2~30mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。粘土や中堅。
36. 10YR4/2 灰黄色土層 直徑 30mm 以下の焼土粒子 2%を含む。結まりや中堅。粘性土や中堅。
37. 10YR4/2 灰黄色土層 直徑 30mm 以下のローム粒子 1%, 直徑 10mm の焼土粒子 1%を含む。結まり・粘性土や中堅。
38. 2.5Y4/2 暗灰黄色土層 直徑 2~5mm の砂質粘土土粒子 (2.5Y5/3)2%, 直徑 30mm 以下の焼土粒子 2%・炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性土や中堅。

第 370 図 S29(3) 北カマド (1/30)



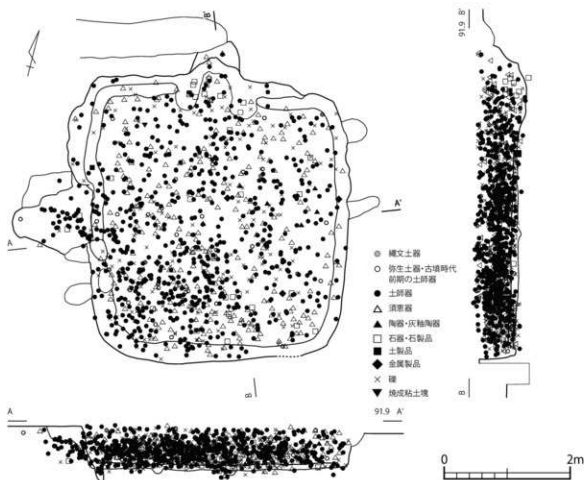
西カマド

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 1mm 以下の炭化物粒子 1%未満、直徑 5mm 以下の焼土粒子 2%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まり・粘性弱、粘りや中強。
2. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の砂質粘土粒子 2%、直徑 2mm 以下の焼土粒子 2%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まり・粘性弱、粘りや中強。
3. 7.5YR3/2 黒褐色土層 黒褐色土 (2.5Y3/1)10%、直徑 20mm 以下の砂質粘土ブロック 10%、直徑 10mm 以下の焼土ブロック 15%、直徑 3mm 以下の炭化物 1%を含む。細まりや中強、粘性や中強。
4. 7.5YR3/2 黒褐色土層 粘りや中強。
5. 7.5YR3/2 黒褐色土層 粘りや中強。
6. 7.5YR4/2 灰褐色土層 粘りや中強。
7. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の砂質粘土粒子 1%未満・焼土粒子 1%を含む。細まりや中強、粘性弱。
8. 10YR3/2 黒褐色土層 黒色土 (10YR2/1)7%、直徑 7mm 以下の焼土粒子 2%を含む。細まりや中強、粘性や中強。
9. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の砂質粘土粒子 1%未満、直徑 7mm 以下の焼土粒子 3%を含む。細まり・粘性弱、粘りや中強。
10. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 2~4mm 以下の砂質粘土粒子 2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まりや中強、粘性弱、粘りや中強。
11. 2.5Y3/1 赤褐色土層 直徑 3mm 以下の砂質粘土粒子 1%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 3%、直徑 2~3mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まり・粘性や中強、粘りや中強。
12. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 2~5mm 以下の砂質粘土粒子 2%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。細まり・粘性や中強、粘りや中強。
13. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 2~30mm 以下の砂質粘土ブロック (2.5Y3/3)7%、直徑 7mm 以下の焼土粒子 3%を含む。細まりや中強、粘性弱、粘りや中強。
14. 2.5Y3/3 黒褐色土層 砂質粘土土層、黒褐色土 20%、直徑 2~10mm 以下の焼土ブロック 3%を含む。細まり・粘性や中強。
15. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 2~3mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y3/3)2%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 2%、直徑 2~4mm 以下の小塊を 1%未満を含む。細まりや中強、粘性弱、粘りや中強。
16. 2.5Y3/2 黒褐色土層 砂質粘土 (2.5Y3/3)30%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 2%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まりや中強、粘性や中強、粘りや中強。
17. 7.5YR4/2 灰褐色土層 直徑 3~5mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y3/1)2%、直徑 7mm 以下の焼土粒子 7%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 1%未満を含む。細まりや中強、粘性弱、粘りや中強。
18. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直徑 5mm 以下の砂質粘土粒子 (2.5Y3/3)5%、直徑 2mm 以下の焼土粒子 1%を含む。細まり・粘性や中強。
19. 2.5Y3/2 灰褐色土層 砂質粘土土層、黒褐色土 2%、直徑 15mm 以下の焼土ブロック 5%を含む。細まりや中強、粘性弱。
20. 2.5Y4/2 暗褐色土層 直徑 10mm 以下の黒褐色土ブロック (2.5Y3/1)10%、砂質粘土 (2.5Y3/3)30%、直徑 8mm 以下の焼土ブロック 5%を含む。細まりや中強、粘性や中強、粘りや中強。
21. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直徑 2~5mm 以下の砂質粘土粒子 1%、直徑 7mm 以下の焼土ブロック 5%を含む。細まりや中強、粘性や中強、粘りや中強。

第 371 図 SI29(4) 西カマド (1/30)

断面長方形の柱状に加工されていた。奥壁側に向いた面が強く被熱していることから、本来はこの面が下を向き、被熱していたと考えられる。天井石の右端の下には、同じく柱状の凝灰質砂岩が袖部の芯材を兼ねて据えられていた。ただし、天井石の支えとしては高さが足りないことから、上部は破損したものと思われる。左袖には砂岩の芯材が据えられていたが、こちらも天井石の支えとしては低い。袖部と側壁・奥壁は、いずれも砂質粘土に黒褐色土等を混和したもので構築されている。

側壁や奥壁では、被熱・赤化の痕跡が確認できなかった。それに対して天井石が強く被熱していることを考えると、カマドの廃絶時に、被熱部分も大きく破壊された可能性が指摘できる。火床部も確



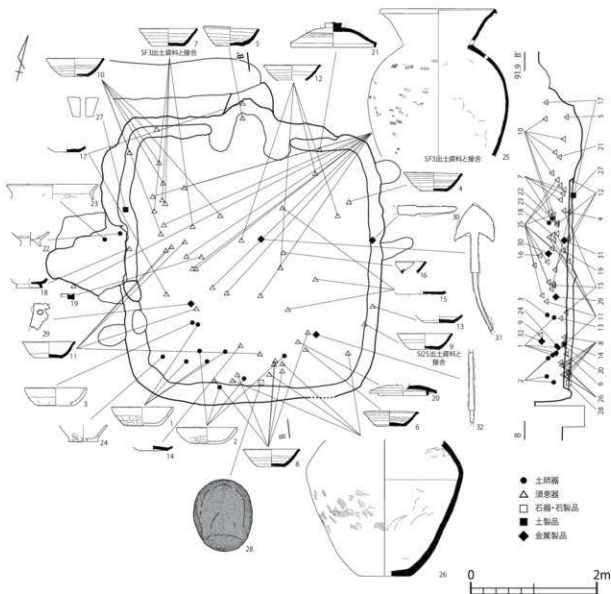
第 372 図 SI29(5) 遺物分布図 (1/60)

認されなかった。両袖間の覆土の様相から、天井部は崩落したものと思われる。燃烧部の中央よりやや左奥には須恵器环（第 377・380 図 5）が伏せた状態で置かれ、その下には砂岩製の支脚が埋め込まれていた。

西カマドは、北カマドより以前に使用されていたとみられ、使用停止後には、燃烧部は埋め込まれて壁の一部となっていたと思われる。それは、火床部を切って壁溝が構築されていたことから窺える。この西カマドは西壁の中心部を V 字状に掘り込んで構築されていた。調査時には左右の袖は残存していなかったが、壁より奥側では、砂質粘土を主体に構築された側壁や奥壁が確認できた。火床部も壁溝より奥壁側では遺存していた。覆土の様相から、天井部は崩落したものと思われる。火床部中央のやや奥寄りには、砂岩製の支脚が遺されていた。

出土遺物 土師器 654 点、須恵器 255 点、灰釉陶器 5 点、土製品 1 点、焼成粘土塊 3 点、石器 3 点、石製品 2 点、凝灰質砂岩切片 25 点、礎 183 点、金属製品 4 点の他、縄文土器 5 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 30 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて多数の遺物が出土している。比較的良好に遺存していたものは、須恵器の环である。遺構の南半では床面に近い覆土下層からの出土が多く（第 377・380 図 6・8・14・20・第 378・381 図 26・28 等）、カマド付近では中～上層からの出土が多い（第



第 373 図 SI29(6) 遺物接合図 (1/60)

377・380 図 10・16・第 378・381 図 25 等)。また、4 の須恵器環は床面付近で伏せられた状態で、5 の須恵器環はカマド燃焼室内で伏せられた状態で、須恵器甕は 25 が覆土の上層から下層にかけて、26 は覆土の下層から床面にかけて散布していた。凝灰質砂岩の切石片は 21 点が覆土の中～下層から出土しており、北カマドが廃絶された際に発生したものと考えられる。土製紡錘車（第 378・381 図 27）は壁溝内、磨石（第 379・382 図 28）は床面、第 379・382 図 29 の鉄製品、30 の刀子は覆土中層から、31 の鉄鏝は床面、32 の鉄鏝は覆土上層からそれぞれ出土している。

また、西カマド前面の床面には、5 点の礫がそれぞれ 3 点と 2 点に分けられて据え置かれていたが、その目的は不明である。

遺構間接合は、SI25 の他、SF3 出土遺物との接合が確認されている。

土器 第 377・380 図 1～3 は土師器環で、平底形態で相模型環と称される。口縁部はヨコナデ、体部・底部はヘラケズリ調整され、内面はナデ調整される。口径は 12cm 後半台、底径は 7.2～7.8cm



1. SI29 全景(南南東から)



2. SI29 土層断面 A-A'(南南東から)



3. SI29 土層断面 B-B'(東北東から)



4. SI29 掘り方土層断面 A-A'(南南東から)



5. SI29 掘り方全景(南南東から)

第 374 図 SI29 写真(1)



1. SI29 北カマド全景 (南南東から)



2. SI29 北カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI29 北カマド遺物出土状況 (南南東から)



4. SI29 北カマド土層断面 E-E' (南南東から)



5. SI29 北カマド支脚検出状況 (東から)



6. SI29 北カマド掘り方土層断面 C-C' (東から)



7. SI29 北カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)

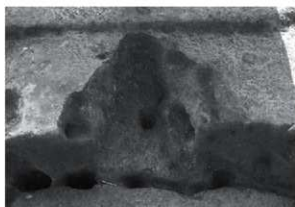


8. SI29 北カマド掘り方土層断面 E-E' (南南東から)

第 375 図 SI29 写真 (2)



1. SI29 西カマド全景 (東北東から)



2. SI29 西カマド掘り方全景 (東北東から)



3. SI29 西カマド掘り方土層断面 F-F' (北北西から)



4. SI29 西カマド掘り方土層断面 G-G' (東北東から)



5. SI29 遺物出土状況 (西北西から)



6. SI29 遺物出土状況 (東北東から)

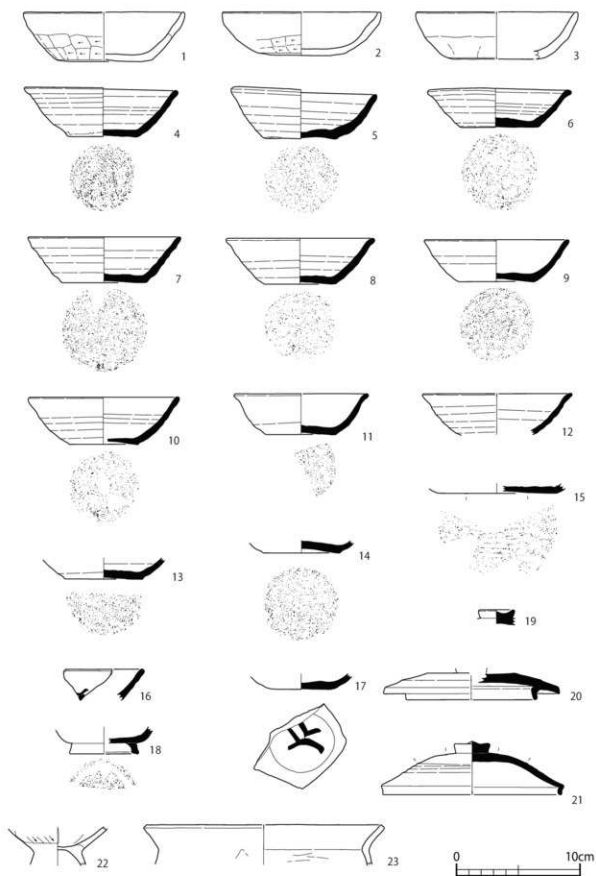


7. SI29 遺物出土状況 (北西から)

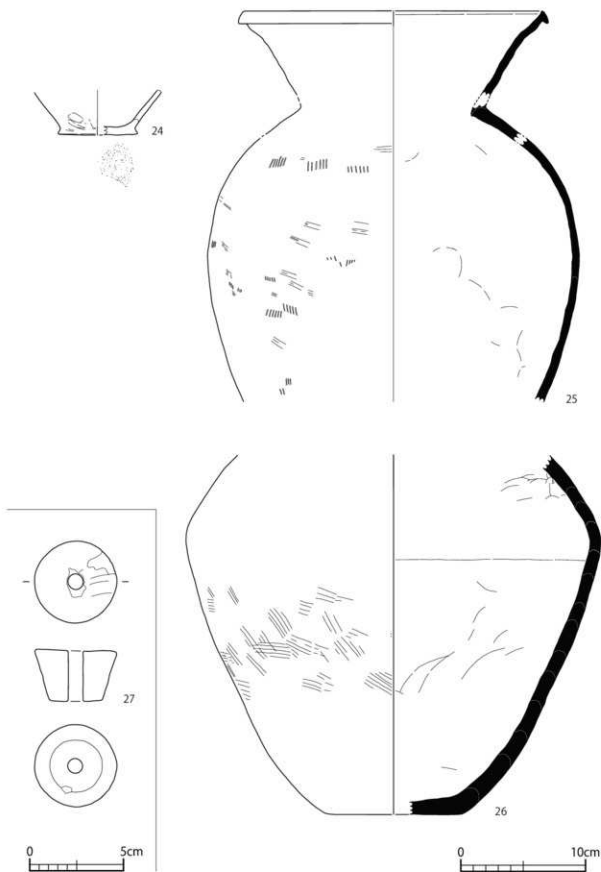


8. SI29 遺物出土状況 (西から)

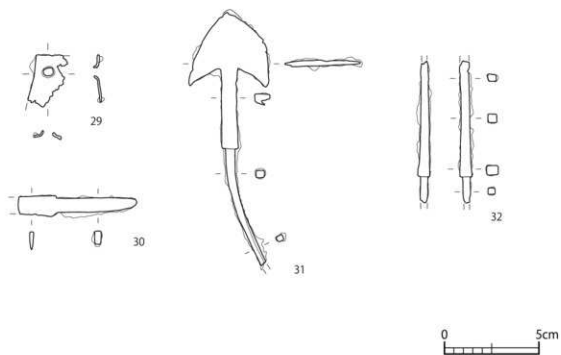
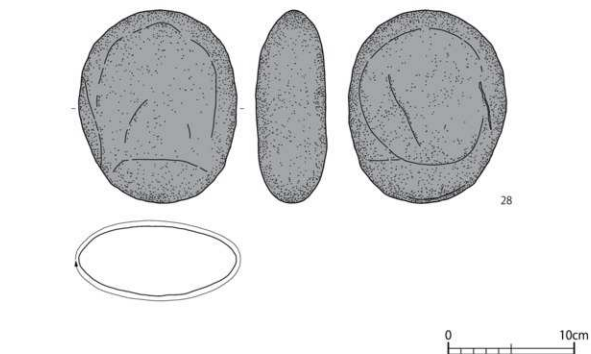
第 376 図 SI29 写真 (3)



第377図 SI29出土遺物(1)(1/3)



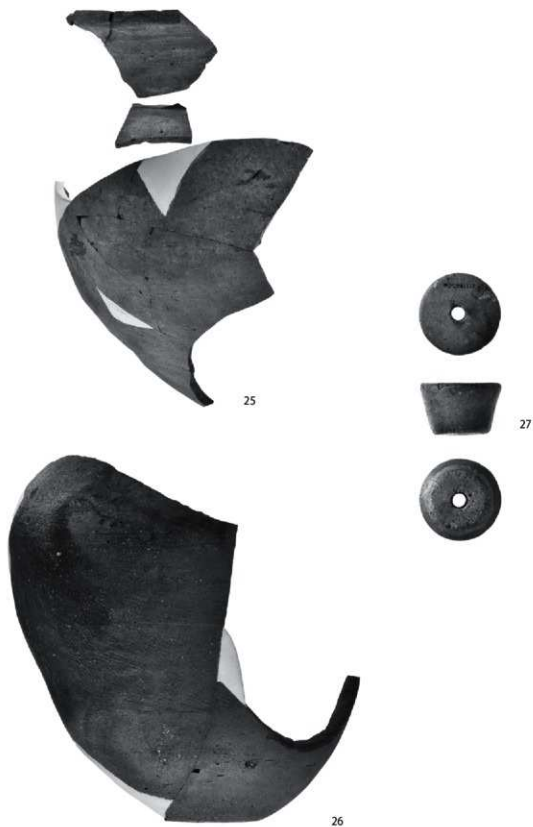
第378図 SI29出土遺物(2)(1/3・1/2)



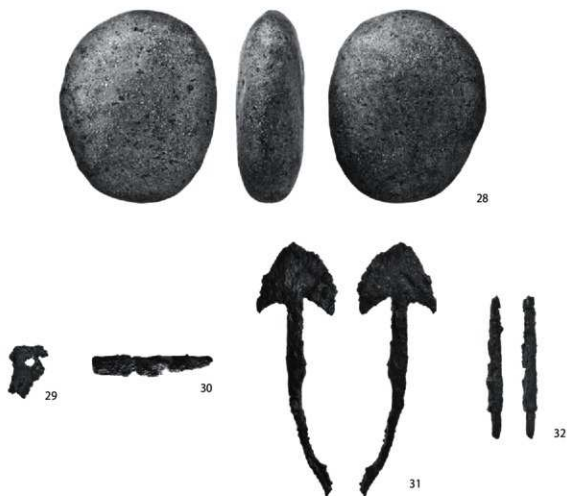
第379図 SI29出土遺物(3)(1/3・1/2)



第380图 SI29出土遺物写真(1)



第381図 SI29出土遺物写真(2)



第382図 SI29出土遺物写真(3)

第44表 SI29出土土器観察表(1)

図番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第377・380図	1 覆土中へ下層	土師器 環	(12.8) 4.0 (7.6)	体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は内傾気味になる。	口縁部はヨコナデ。体部は2段のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	小礫 石英	やや軟質	5YR7/4 にぶい橙		粗稜型環
	2 覆土中層・床面	土師器 環	(12.7) 3.5 7.2	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は内傾気味になる。	口縁部はヨコナデ。体部・底部外面はヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	小礫 石英 白色粒	良好	5YR7/6 橙		粗稜型環
	3 覆土中層	土師器 環	(12.8) 3.8 (7.8)	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部はヨコナデ。体部や底部外面の調整は判然としないが、ヘラケズリ調整と思われる。内面はナデ調整であろう。	小礫 石英 白色粒	やや軟質	5YR7/6 橙		粗稜型環
	4 覆土下層	須恵器 環	12.2 4.0 5.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反は小さい。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰	ほぼ完形	東金子産
	5 北方マド内	須恵器 環	11.6 4.2 5.6	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	N5/0 灰	完形	東金子産
	6 覆土下層	須恵器 環	11.5 3.2 6.4	体部は直線気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	5B4/1 暗青灰	完形	内面に同灰 東金子産
	7 覆土中へ下層・SF3覆土	須恵器 環	(12.1) 3.7 6.8	体部は直線気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	5B4/1 暗青灰	平完形	遺構間接合 東金子産

第 44 表 SI29 出土土器観察表 (2)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 377 + 380 図	8	覆土下層 ～床面	須恵器 片	11.8 3.7 5.8	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 砂粒 白色粒	軟質	5YR6/4 にぶい・暗 5Y5/1 灰	平完形	外面にスス付着 東金子産物
	9	覆土上層	須恵器 片	(11.5) 3.3 6.0	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	7.5Y5/1 黄灰	平完形	遺構間接合 外面に黄灰 東金子産物
	10	覆土上へ 下層	須恵器 片	(11.9) 3.8 5.6	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	2.5Y4/1 黄灰	平完形	東金子産物
	11	覆土中へ 下層	須恵器 片	(10.9) 3.4 (5.9)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。	長石 チャート 白色粒 黒色粒	良好	10B5/1 青灰		東金子産物
	12	覆土中層 ・床面	須恵器 片	(11.9) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	回転系利用の成形。	長石 チャート 白色粒	良好	10Y5/1 灰	口縁部片	東金子産物
	13	覆土下層	須恵器 片	— 6.5 —	底部は平底。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	10B5/1 青灰	底部片	東金子産物
	14	覆土下層	須恵器 片	— 6.2 —	底部は平底。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	長石 チャート 黒色粒	普通	5Y5/1 灰	底部完形	東金子産物
	15	覆土中へ 下層	須恵器 片	— 9.6 —	底部は平底。	底部は糸切りで切り離し、外側に回転ヘラズリ調整を施している。	雲母 褐色粒	軟質	5YR5/6 橙	底部片	内外面にスス付着 産地不明
	16	覆土上層	須恵器 片	— — —	口縁部の外反はみられない。	回転系利用の成形。	小礫 白色粒	やや軟質	2.5Y6/1 黄灰	口縁部片	外面に黒書 東金子産物
	17	覆土上層 ・北 カマド内	須恵器 片	— 5.4 —	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	海狗動物骨 長石 白色粒	良好	10Y6/1 灰	底部片	底部外面に黒書 南比企産物
	18	覆土中層	須恵器 片	— 5.6 —	高台の境域面は外側。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は高台を取り付け、ナデ調整を加えている。高台のつくりは精巧。	長石 白色粒 黒色粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	底部片	東金子産物
	19	覆土下層	須恵器 蓋	— — —	中くぼみのつまみが付く。	回転系利用の成形。	白色粒 黒色粒	良好	10B5/1 青灰	つまみほぼ完形	東金子産物
	20	覆土下層	須恵器 蓋	(14.1) — —	口縁部内面に足の高いかえりを有する。天井部は平たい。	回転系利用の成形。	長石 石英 白色粒	やや軟質	外面 7.5YR5/1 灰 内面 7.5YR5/3 にぶい・暗		長頸蓋の蓋か 東金子産物
	21	覆土下層	須恵器 蓋	(14.4) 4.2 —	口縁部は軸面する。天井部へはゆるやかに立ち上がり、扁平な蓋宝珠形のつまみが付く。	天井部に回転ヘラズリ調整を施し、つまみを取り付け、ナデ調整を加えている。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	10B5/1 青灰	つまみ完形	東金子産物
第 378 + 380 図	22	西カマド 内	土師器 台付篋	— — —	脚部は八字状に広がる。	製部下端の外面は斜方向のヘラズリ調整、内面はへう状工具によるナデ調整、脚部の内外面は横方向にナデ調整される。	小礫 角閃石 白色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤 内面 5YR5/3 にぶい・赤	脚部片	武蔵型篋
	23	西カマド 袖内	土師器 蓋	(18.9) — —	口縁部はく字状に強く外反する。	口縁部は口コナデ、製部外面の調整は自然とし、内面はナデ調整されている。	長石 石英 砂粒	やや軟質	7.5YR6/4 にぶい・暗	口縁部片	
	24	覆土下層	土師器 蓋	(16.3) — —	底部は平底で、台尻に少し外に突き出る。	製部下層の外面はナデ調整、内面もナデ調整される。製部下端にへうナデ調整の調整板がみられる。底部外面には木炭痕が残る。	石英 雲母 砂粒	良好	外面 10YR5/3 灰 内面 5YR7/4 にぶい・暗	底部片	組紐型篋
	25	覆土上へ 下層 ・包含層 (310.57/ 310.74/ B層)	須恵器 蓋	(23.8) — —	口縁部は上下に凹溝し、縁部を形成する。胴部は直む。	製部外面には平行叩きの痕跡が残る。内面はナデ調整、一部に無文の当て具面と思われる痕跡が観察される。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	やや軟質	外面 7.5YR5/2 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰		遺構間接合 東金子産物
第 378 + 381 図	26	覆土下層 ～床面	須恵器 蓋	— (11.1) —	底部は平底。胴部は直む。上層は弱が張っている。	製部上層は横方向にナデ調整、中央等に平行叩き痕が残る。底部外面は特に調整が施されているように見え、胴部内面上部に横方向のナデ調整、無文の当て具面が残る。中央以下はナデ調整される。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	普通	外面 5P5/1 青灰 内面 5P5/4/1 暗青灰		外面に黄灰 東金子産物

を測る。

4～17は須恵器環である。15を除いて、底部は回転系切りのままで、調整は施されていない。15は底部が9.6cmで、底部に回転ヘラケズリ調整がみられる。他時期の混入品とみたほうがよいだろう。完形・ほぼ完形の4・5・6は、口径が12.2cm、11.6cm、11.5cm、底径が5.5cm、5.6cm、6.4cm、半完形の7・8・9・10は口径が12.1cm、11.8cm、11.5cm、11.9cm、底径が6.8cm、5.8cm、6.0cm、5.6cmを測り、纏まった数値を示すとみて差し支えない。他の復元実測した須恵器環の口径・底部の数値も、ほぼこの数値の範囲の中におさまる。16・17には墨書が観察されるが、判読は難しい。また、18のような高台を持つ須恵器碗がみられる。高台のつくりは精巧である。須恵器蓋も3点出土した。20は足の高い返りが付く。特殊な器形と言え、短頸蓋の蓋を想定しておきたい。19は中くぼみ、21は扁平な擬宝珠形のつまみである。これらの須恵器は、15が産地不明、17の南比企窯産須恵器の他は、すべて東金子窯産須恵器であった。東金子窯産の製品が広く流通していたことを物語る。

22は武蔵型の土師器台付甕で、ヘラケズリ調整や横方向のナデ調整が施されている。23・第378・380図24は土師器甕である。23は口縁部片、24は底部片で、24は相模型甕と思われ、底部に木葉痕が残る。

25・26は須恵器甕である。ともに東金子窯の製品である。25は口縁端部が肥厚し、口縁帯を形成し、口頸部は逆ハ字状に立ち上がり、胴部は丸く膨らむ。胴部側面に平行叩きの痕跡が残り、内面には無文のあて具の痕跡も残っている。26は器壁が厚く、重量感がある。底部は平底で、胴部上半の肩部は張っている。胴部外面に平行叩きの痕跡が残り、内面には無文のあて具痕が上端等に観察される。

土製品 第378・381図27は土製の紡錘車である。截頭円錐形を呈し、直径8mmの円孔が貫通している。全面に丁寧なミガキ調整が施されており、重量は53.4gを量る。

石製品 第379・382図28は磨石と思われ、全面に磨減痕が広がっていた。石質は変質安山岩で、形状は15.3×12.5cmの楕円形を呈する。厚さは5.5cmを測り、1.632gを量る。

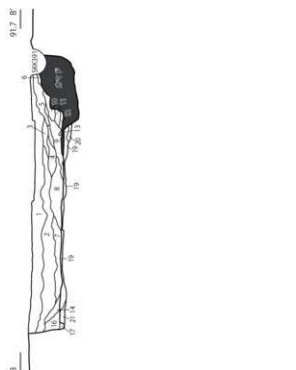
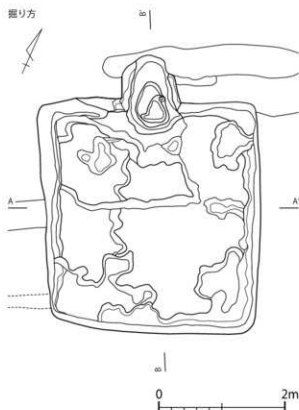
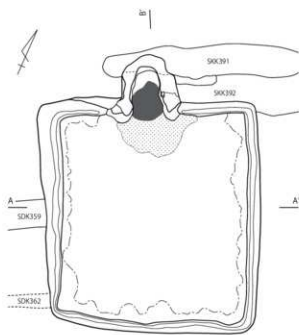
金属製品 第379・382図29は鉄製品であるが、器種等は不明である。径5mmの透かし孔が穿たれる。平面形は台形状もしくは長方形の製品になるのであろうか。30は刀子で、現存長63mmを測り、茎部から身部の基部が遺存している。両関タイプの平造の刀子となろうか。31は鉄鏃である。鏃身部の先端と茎部の先端が欠損するが、ほぼ完形に遺存している。鏃身部が三角形の長頸鏃被平造脇挟三角形鏃で、現存長は136mmを測る。32は頸部から茎部が遺存する鉄鏃と思われる。現存長は75mmを測り、断面形は頸部が長方形、茎部は方形となっている。

出土した須恵器環は、南比企窯跡群嶋山編年のHⅦ期やHⅧ期に類似している。東金子窯産の須恵器甕も共伴する。本遺構の時期は9世紀中葉から後葉に相当すると考えられる。

SI30 (第383～393・553図、第45・60・61表)

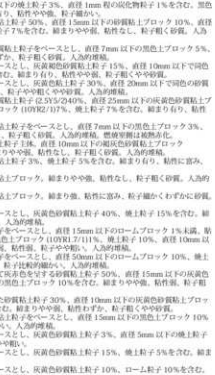
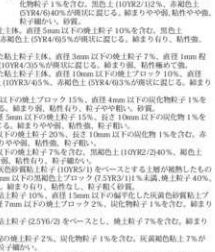
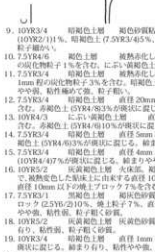
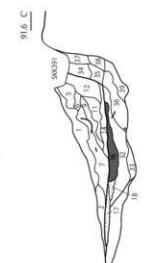
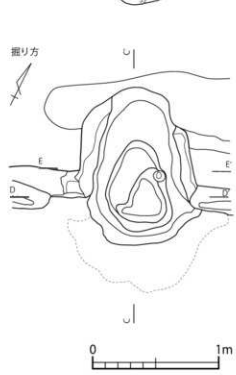
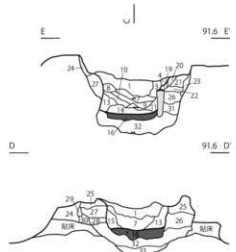
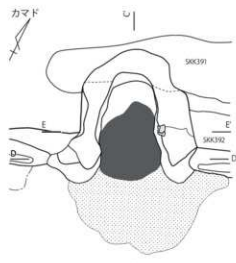
遺構 調査区中央部の310・50・60、320・41・51グリッドに位置する。検出面はⅡ3層上で、建物跡の南西角が弥生時代終末期のSI31を切っており、壁やカマドの一部が近世以降のSDK359・362、SKK391・392に切られている。また、東側310cmには同時代のSI33が位置している。

平面形態は長方形で、東西355cm、南北443cmを測る。主軸方向は、N-24°-Wを指す。検出面から床面までの深さは55cmで、壁は床面からやや開き気味に立ち上がっている。

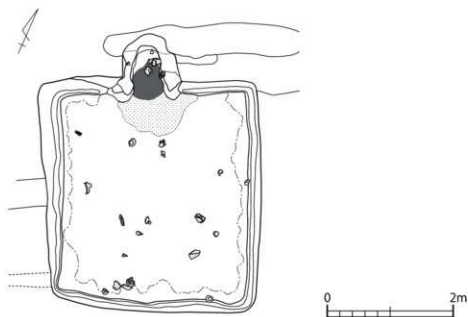


- 500
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各10%を含む。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。B層相当。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色・褐色スコリア7%。黒色スコリア5%を含む。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各10%。直径3mm以下の黄褐色・褐色土粒子(10YR5/4)2%。焼土粒子2%を含む。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径4mm以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各10%。直径3mm以下の黄褐色・褐色土粒子2%。焼土粒子4%を含む。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各3%。直径2mm以下の焼土粒子3%を含む。に黄褐色土粒子(10YR5/4)7%が混在に散じる。締まりやや弱。粘性やや弱。粒子やや粗い。
 6. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子3%を含む。に黄褐色土粒子15%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 7. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各3%を含む。暗褐色土(10YR3/3)3%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 8. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各5%。直径3mm以下の焼土粒子2%を含む。に黄褐色土粒子3%。暗褐色土(10YR4/2)20%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子やや粗い。
 9. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各2%。直径5mm以下の焼土粒子2%を含む。に黄褐色土粒子20%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 10. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子3%を含む。暗褐色土(10YR2/2)に黄褐色土粒子各20%が混在に散じる。締まりやや弱。粘性有り。粒子粗い。
 11. 10YR2/2 暗褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%を含む。に黄褐色土粒子10%が混在に散じる。締まり・粘性やや弱。粒子やや粗い。
 12. 10YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%を含む。暗褐色土(10YR2/2)20%。に黄褐色土粒子10%が混在に散じる。締まりやや弱。粘性有り。粒子粗い。
 13. 10YR5/4 に黄褐色土層 粘土ブロック。直径1mmの焼土粒子1%を含む。締まりやや弱。粘性弱。粒子細かい。
 14. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア2%。黒色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR3/3)1%が混在に散じる。締まりやや弱。粘性やや弱。粒子細かい。
 15. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア各3%。炭化物粒子1%を含む。暗褐色土15%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。
 16. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア3%。黒色スコリア2%を含む。暗褐色土(10YR3/3)7%。暗褐色土2%が混在に散じる。締まり・粘性有り。粒子細かい。
 17. 10YR4/6 暗褐色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア。炭化物粒子各1%を含む。暗褐色土(10YR1.7/1)10%。暗褐色土(10YR2/2)15%。暗褐色土(10YR3/3)5%が混在に散じる。締まり弱。粘性有り。粒子細かい。
 18. 10YR3/4 暗褐色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア5%を含む。暗褐色土(10YR1.7/1)15%。暗褐色土7%が混在に散じる。締まり弱。粘性有り。粒子細かい。
 19. 10YR2/2 暗褐色土層 粘土土。直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア2%。直径3mm以下の黄褐色・褐色土粒子5%を含む。暗褐色土(10YR3/3)30%。暗褐色土(10YR4/1)15%が混在に散じる。に黄褐色土粒子(10YR5/4)5%がカマ下流りに散布。締まり極めて弱。粘性やや弱。粒子細かい。
 20. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア2%。暗褐色土(10YR3/3)3%。暗褐色土5%が混在に散じる。締まり・粘性やや弱。粒子細かい。
 21. 10YR2/2 暗褐色土層 直径1mm程度の黄褐色・褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR2/1)3%。暗褐色土5%が混在に散じる。締まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。

第383図 S130(1)(1/60)



第384図 SI30(2) カマド (1/30)



第 385 図 S130(3) 遺物出土状況図 (1/60)

床面は貼床で、壁際を除くほぼ全面が強く硬化し、壁溝は、カマド部分を除いて巡っていた。カマドは北壁に構築されていた。柱穴やその他の付帯施設は検出されなかった。

床面までの覆土は 16 層からなり、主に黒色土を主体とする。カマド付近では、カマド由来の砂質粘土や焼土を含む層が見られる。

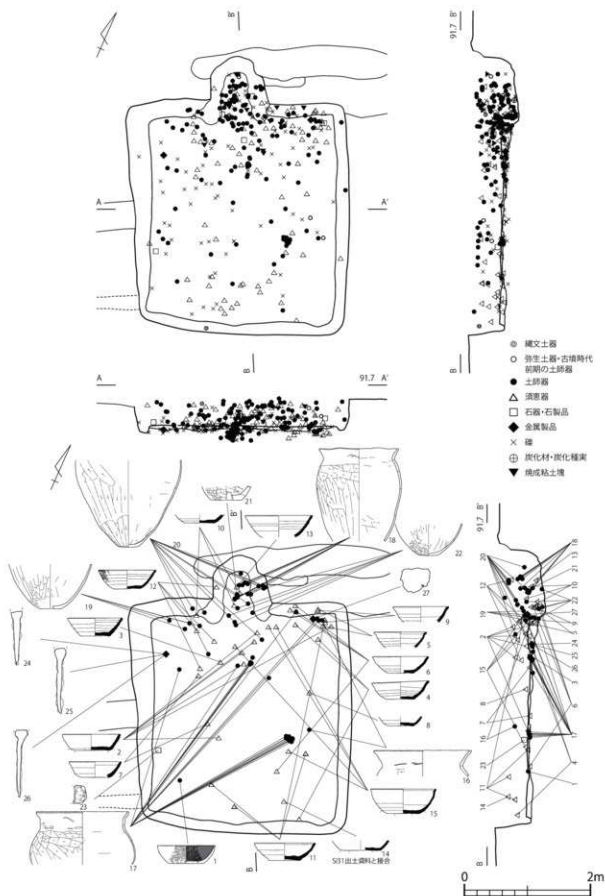
壁溝は、前述の通り北カマド部分を除いて巡っている。断面形態は逆台形を呈し、幅は広いところで 20cm、深さは 12cm を測る。

掘り方は概ねⅣ層まで掘り込まれており、深い部分ではⅤ層上面まで達している。掘り方の覆土は基本的に単層で、暗褐色土が多く混入した黒色土を薄く敷き均して床面を形成している。

カマドは、北壁の中央部分を U 字状に掘り込んで構築されている。SKK391 が一部を切っているが、袖部や側壁は比較的良好に遺存していた。袖は砂質粘土で構築されているが、一部では焼土粒子が混入した粘土も用いられており、他のカマドから採取された粘土材を再利用しているものと思われる。側壁と奥壁も、袖と同じく砂質粘土を主体に構築され、やはり部分的に焼土ブロックや粒子の混和が見られる。燃焼室の右側壁部分からは、芯材と思われる礫が出土した。石材は砂岩で、被熱や赤化が見られないことから、カマド使用時には側壁内に埋め込まれていたものが、廃絶時もしくは廃絶後に露出したとみられる。また、側壁、奥壁共に被熱赤化が見られた。火床部も良好に遺存していた。燃焼室内の覆土の状況から、天井は崩落したものと推察される。

出土遺物 土師器 141 点、須恵器 73 点、焼成粘土塊 11 点、石器 2 点、石製品 1 点、凝灰質砂岩切石片 1 点、礫 74 点、金属製品 4 点、炭化物 1 点の他、縄文土器 3 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 3 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が出土しているが、特にカマド周辺で土師器の出土が多い。図示したものについても、カマド周辺やそれ以外の床面直上、覆土中層からの出土である。第 390・392 図 1 の土師器環や 17 の土師器甕は床面からの出土である。また、第 391・393 図



第 386 図 SI30(4) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI30 全景 (南南東から)



2. SI30 掘り方全景 (南南東から)

第 387 図 SI30 写真 (1)



1. SI30 土層断面 A-A' (南南東から)



2. SI30 掘り方土層断面 B-B' (東北東から)



3. SI30 遺物出土状況 (南南東から)



4. SI30 遺物出土状況 (南南西から)



5. SI30 遺物出土状況 (北東から)

第 388 図 SI30 写真 (2)



1. SI30 カマド全景 (南南東から)



2. SI30 カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI30 カマド土層断面 D-D' (南南東から)



4. SI30 カマド土層断面 E-E' (南南東から)



5. SI30 カマド遺物出土状況 (南南東から)



6. SI30 カマド掘り方土層断面 C-C' (東北東から)

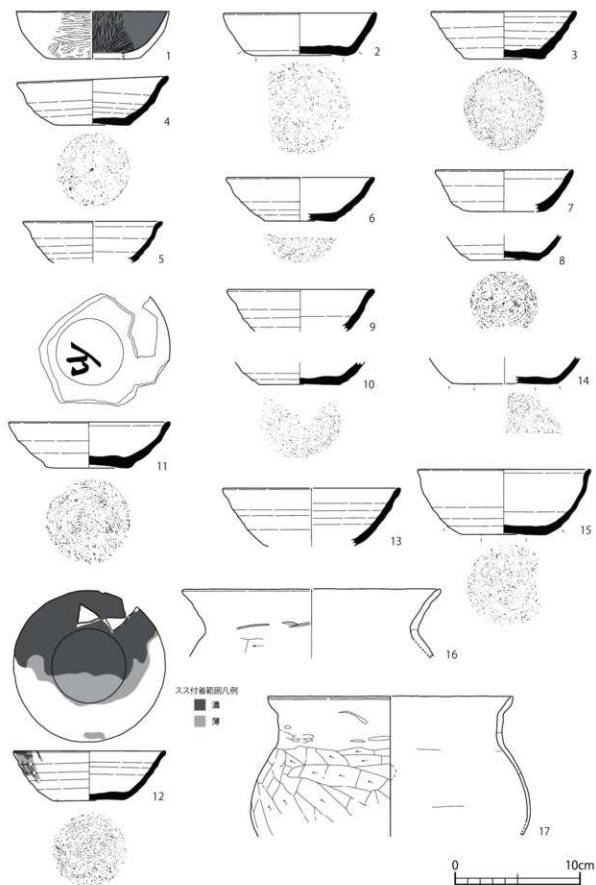


7. SI30 カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)

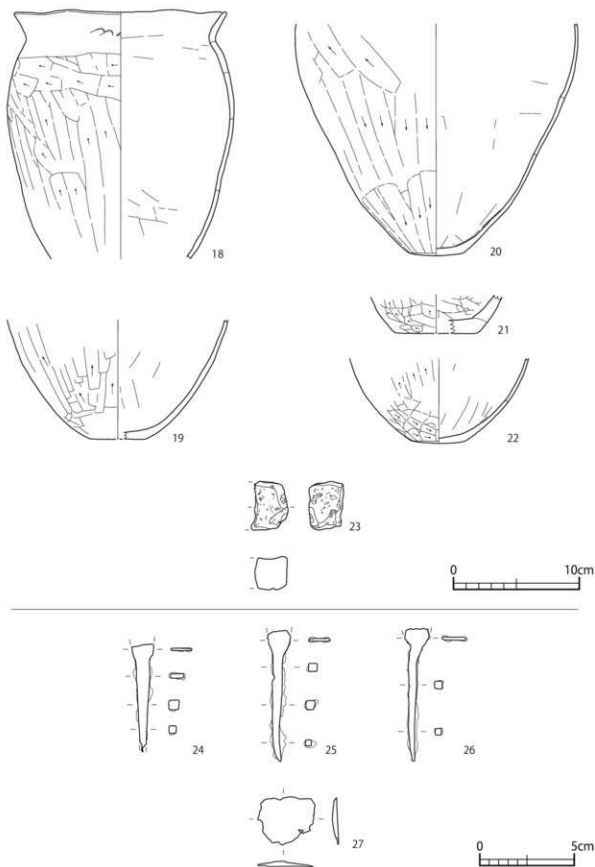


8. SI30 カマド掘り方土層断面 E-E' (南南東から)

第 389 図 SI30 写真 (3)



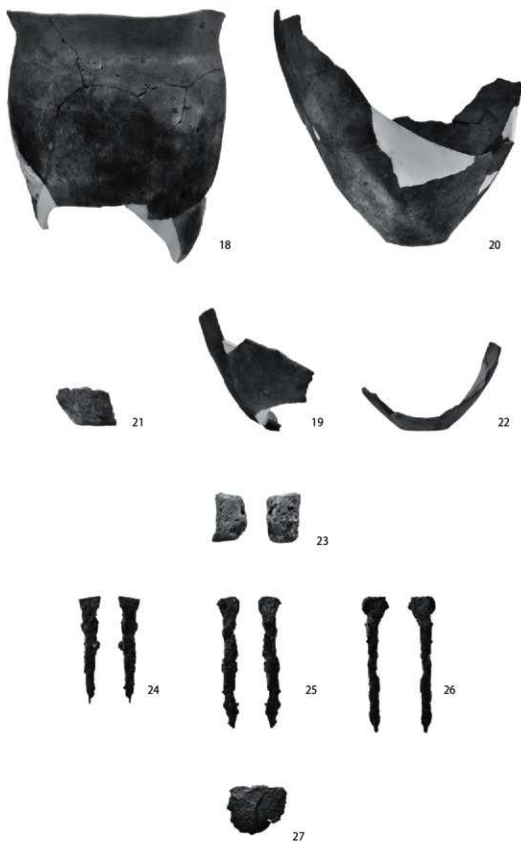
第390図 S130出土遺物(1)(1/3)



第 391 図 SI30 出土遺物 (2)(1/3・1/2)



第392図 SI30出土遺物写真(1)



第393図 SI30出土遺物写真(2)

第45表 Si3O 出土土器観察表(1)

図	番号	層位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第390・392図	1	甕土下層	土師器 杯	(12.1) 3.8 (7.5)	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	外面は横方向などのミガキ調整。内面は縦方向などのミガキ調整。体部にはミガキ調整前のヘラケズリ調整の痕跡が観察される。	緻密 砂粒 褐色粒	良好	外面 7.5YR6/6 赤 内面 10YR3/1 黒濁		内面黒色処理
	2	甕土中へ下層	土師器 杯	(12.4) 3.5 7.4	体部から口縁部へと直線的に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。底部外端の糸切り面は厚薄している。ロクロ右回転か。	小礫 白色粒	軟質	7.5Y7/1 灰白		真金子産
	3	床面	土師器 杯	11.3 3.8 6.6	体部から口縁部へと直線的に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、体部下端から底部外周に回転ヘラケズリ調整を施している。	小礫 石灰 白色粒	良好	2.5Y4/1 黄灰	平定形	真金子産
	4	甕土下層	土師器 杯	11.8 3.9 6.0	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されている。ロクロ右回転。	海胆動物骨針 小礫 白色粒 黒色粒	やや軟質	5Y5/1 灰	完形	南比企産
	5	甕土下層・埴溝内	土師器 杯	(11.0) —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	回転糸利用の成形。	小礫 白色粒 黒色粒	良好	5Y4/1 灰	口縁部片	一部に降灰
	6	甕土下層・埴溝内・張り方内	土師器 杯	(11.6) 3.5 (5.8)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	砂粒 白色粒	良好	10Y5/1 灰		底部外面にスス付着 東金子産
	7	甕土下層	土師器 杯	10.8 3.3 6.3	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	砂粒 白色粒 黒色粒	良好	7.5Y5/1 灰		外面にスス付着 東金子産
	8	甕土下層	土師器 杯	— 5.9	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 黒色粒	やや軟質	7.5Y5/2 灰オリーブ 7.5Y5/1 灰	底部はほぼ完形	真金子産
	9	埴溝内・張り方内	土師器 杯	11.6 —	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	回転糸利用の成形。	砂粒 白色粒	良好	5Y4/1 灰 2.5YR5/2 灰赤		口縁部に降灰 外面にスス付着 東金子産
	10	埴溝内・カマド内	土師器 杯	— 6.6	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	砂粒 白色粒	軟質	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y7/4 浅黄		東金子産
	11	甕土中層・床面	土師器 杯	(12.7) 3.7 6.7	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器型は厚い。内面見込外部が磨光。ロクロ右回転。	長石 砂粒 白色粒	やや軟質	7.5Y6/1 灰	底部は完形	内面に「万」の書 東金子産
	12	甕土下層・カマド内	土師器 杯	12.0 4.0 5.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反は小さい。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	海胆動物骨針 小礫 長石 白色粒	軟質	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 5Y5/1 灰赤	ほぼ完形	内外面、特に内面スス付着 灯明具か 南比企産
	13	カマド内	土師器 杯	(14.0) —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反は小さい。	回転糸利用の成形。	砂粒 白色粒	やや軟質	7.5Y6/1 灰	口縁部片	東金子産
	14	甕土中層	土師器 碗	(8.4) —	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラケズリ調整を施している。	海胆動物骨針 長石 白色粒	良好	N6/0 灰	底部片	遺構間接合 南比企産
	15	甕土下層・床面	土師器 碗	(13.6) 5.2 6.6	底部は平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、体部下端から底部外周にかけて回転ヘラケズリ調整を施している。器型は厚い。	小礫 砂粒 白色粒	普通	7.5Y6/1 灰 N5/0 灰	平定形	東金子産
	16	甕土中へ下層	土師器 甕	(20.3) —	口縁部はコナデ。胴部上端は横方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	口縁部はコナデ。胴部上端は横方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器型は薄い。	小礫 石灰 雲母	良好	外面 2.5YR5/8 明赤濁 内面 2.5YR5/2 灰赤		武蔵型甕
	17	甕土下層・床面	土師器 甕	(19.4) —	口縁部はコナデに外反し。胴部は丸く膨らむ。胴部中央に最大径を有する。	口縁部はコナデ。胴部上平は横方向や斜方向。中央以下は縦方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器型は薄い。	小礫 石灰 石黒 褐色粒	良好	外面 2.5YR4/6 赤濁 内面 2.5YR4/2 灰赤		内外面にスス付着 武蔵型甕
	18	カマド内・カマド内	土師器 甕	16.5 —	口縁部はコナデに外反し。胴部中央に最大径を有する。	口縁部はコナデ。胴部上平は横方向や斜方向。中央以下は縦方向のヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器型は薄い。	小礫 石灰 褐色粒	良好	5YR6/6 灰		内外面にスス付着

第45表 S130出土土器観察表(2)

図番号	層位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第391・393図	19 覆土下層	土師器 甕	— (4.5)	底部は平底。胴部下半は内湾気味に立ち上がる。	胴部下半は縦方向、下端は斜方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器壁は薄い。	小礫 石英 雲母 砂粒	良好	外面 5YR5/2 灰褐 内面 5YR5/1 褐灰		内外面にスス付着 武蔵型甕
	20 覆土中へ下層・カマド内	土師器 甕	— 4.3	底部は平底。胴部下半は内湾気味に立ち上がり、胴部はゆるむ。底径は小さい。	胴部中央は斜方向、下半は縦方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整。下半から底部はヘラケズリ調整される。器壁は薄い。	小礫 石英 雲母 褐色粒	良好	外面 2.5YR5/4 にぶい赤褐 内面 5YR5/3 にぶい赤褐		内外面にスス付着 武蔵型甕
	21 カマド内	土師器 甕	— (6.5)	底部は平底。胴部下半は内湾気味に立ち上がる。	胴部下半は縦方向、下端は横方向や斜方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整が密に施される。器壁は厚い。	粒の大きな 褐色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤褐 内面 2.5YR4/1 赤灰		底部内面黒変
	22 カマド内・カマド下層り方内	土師器 甕	— 4.3	底部は平底。胴部下半は内湾して立ち上がり、丸みを帯びる。底径は小さい。	胴部下半は縦方向、下端は斜方向や横方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。器壁は厚い。	石英 白色粒	良好	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 7.5YR6/6 橙		武蔵型甕

18・20・21の土師器甕はカマド内やその周辺から複数の破片の状態で出土した。第390・392図3の須恵器環が床面から出土しているのをはじめ、須恵器環は床面の各所、覆土中層から床面直上にかけて検出された。壁溝からの出土もやや目立ち、5・6・9・10の須恵器環は壁溝内と建物跡覆土出土の破片が接合している。土器以外では、床面の西壁寄りからは石製品（第391・393図23）の他、3点が纏まった状態の鉄鏝（24～26）も出土している。また、床面の南半からは大形の礫が複数出土している。

土器 第390・392図1は土師器環である。外面は横方向、内面は縦方向等にミガキ調整され、内面は黒色処理が施されている。

2～13は須恵器環である。2は須恵器環で、口径12.4cm、底径7.4cmを測る。底部は回転系切りされ、調整は施されていないが、外端の系切り痕は摩滅している。3・4は遺存状態のよい須恵器環で、底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。口径は3が11.3cm、4が11.8cm、器高は3が3.8cm、4が3.9cm、底径は3が6.6cm、4が6.0cmを測る。5～10も須恵器環で、6～8・10の底部には、回転系切りの痕跡が残っている。口径は10～12cm台、底径は5～6cm台である。11の底部内面には、「万」の墨書が認められる。12の内面にススの付着が濃密で、灯明具に利用されていたものであろう。ほぼ完形し、口径12.0cm、底径5.9cm、器高4.0cmを測る。13は口縁部の小片であるが、推定口径は14.0cmを測る。14・15は須恵器碗である。14は底部外周、15は体部下端から底部外周に回転ヘラケズリ調整が施されている。14の器壁は比較的薄手であるが、15は器壁が厚い。産地同定の検討によれば、2・3・5～11・13・15が東金子窯産、4・12・14が南比企窯産である。

16・17・第389・391図18～22は土師器甕である。16・17・19・20・22は器壁が薄く、赤褐色系に焼成された武蔵型甕である。16は口縁部形態はく字状であるが、17はコ字状を呈している。いずれも外面のヘラケズリ調整が顕著で、器壁が薄く、底径も小さい。18は他の武蔵型甕と比べると違和感がある土師器甕である。21は厚手の土師器甕の底部片で、外面のヘラケズリ調整及び内面のナデ調整は顕著である。

石製品 第389・391図23は面取りの施された軽石である。3面が面取りされ、左側は欠損している。

金属製品 第389・391図24～26は鉄籤である。3点とも似かよった形態で、短頸籤に分類できようか。いずれも籤身部の先端部を欠損する。現存長は24が57mm、25が69mm、26が71mmを測る。27は板状に剥がれた破片のように見える鉄製品である。鉢や鍋等の製品の一部の可能性があろう。26×31mmで、最も厚い所の厚さで3mmであった。

出土した須恵器環は、時期差のあるものを含んでいると思われる。主体となるのは、南比企窯跡群鳩山編年のHⅦ期やHⅧ期に類似する製品である。遺構の時期は9世紀中葉から後葉と想定しておくのが妥当であろう。

SI32 (第394～404・553図、第46・58・60・61表)

遺構 調査区中央部の310・69・70・79・80グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降のSDK328・372・374・377、SKK341・342・344・356・357・367及び攪乱により、壁やカマド、覆土の一部分が切られていたが、比較的良好に遺存していた。

平面形態は長方形で、東西394cm、南北449cmを測り、東西にやや長くなっている。主軸方向はN-11°-Wを指す。検出面から床面までの深さは60cmで、壁は西壁・南壁は垂直に、東壁はやや開き気味に立ち上がっている。カマドの構築されている北壁は、カマド西側に棚状の段差を有している。

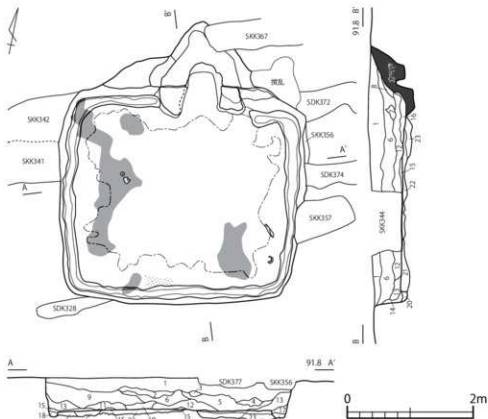
床面は貼床で、やや凹凸が目立つ。硬化面は壁際を除く広い範囲で検出された。壁溝は、カマド部分を除いて巡っていた。前述の通り、カマドは北壁に構築されていた。柱穴やその他の付帯施設は検出されなかった。

床面までの覆土は16層からなり、主に黒色土や黒褐色土を主体とし、カマド付近では、カマド由来の砂質粘土や焼土の粒子やブロック、炭化物粒子を多く含む層が見られる。また、廃棄されたと思われる焼土が土層断面(3・4層)に見られる他、西壁際等では焼土分布範囲が確認されていることから、覆土の多くは人為的に投げ込まれたものと考えられる。

壁溝は、前述の通り北カマド部分を除いて巡っている。基本的には壁に接して構築されているが、北壁のカマド東側では、壁から30cm程度離れた位置に築かれている。断面形態はコ字状もしくは逆台形を呈し、幅15～23cm、床面からの深さ7～12cmを測る。

掘り方は概ねⅤ層上面まで掘り込まれているが、浅く掘られた建物中心部寄りではⅣ層までで止まっている。掘り方の覆土は4層に分けられ、黒褐色土や褐色土が薄く敷き均されて床面を形成している。

カマドは、北壁の中央部分をV字状に103cm程大きく掘り込んで構築されている。一部がSKK367に切られているものの、側壁や奥壁は比較的良好に遺存していた。比して袖部の遺存状況は悪く、調査時の状況から、廃絶時に芯材が取り外されたために原形をとどめていないものと考えられる。袖は、遺存している下部は砂質粘土が混和された暗褐色土等で構築されているが、側壁や奥壁は砂質粘土主体の素材で構築されていることから、袖も、湮滅したカマド上部は砂質粘土主体で構築されていたと考えられる。側壁、奥壁共に被熱赤化が見られるが、火床部の被熱や赤化は確認されなかった。燃焼室部分の覆土の状況から、天井は崩落したものと推察される。また、カマドの掘り方底面には、袖に該当する部分や燃焼室中心等に小さなピット状の掘り込みが見られることから、本来は袖の芯材や支脚が据え置かれていたものと推察される。また、同じく掘り方では、焚口部に相当する付近から、カマド両脇の壁溝を繋ぐような溝が確認された。カマドの構築以前に当該部分にも壁溝が巡っ

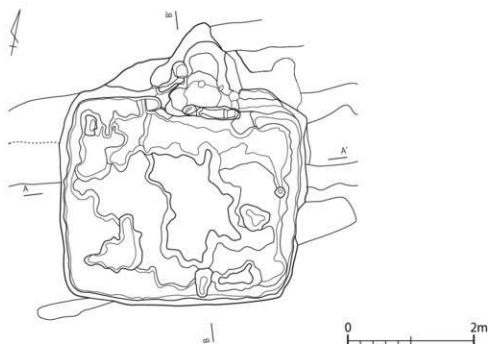


532

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%、直徑 5mm 程度の赤褐色スコリア 2%、直徑 1mm 程度の黒色スコリア 10%・炭化物粒子 7%・焼土粒子 (7.5YR5/8)2%を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 15%、黒色スコリア 5%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%、焼土 (10YR4/4)20%、粘土 (10YR5/3)5%が順状に混じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 2%、黒色スコリア 7%、炭化物粒子 7%を含む。焼土 (5YR5/8)30%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性弱、粒子細かい。焼土層上部。
4. 5YR5/8 明赤褐色土層 焼土主体、直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア各 2%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)が 30%順状に混じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子やや粗い。焼土層上部。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 5mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%、直徑 1mm 程度の黒色スコリア 7%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 10%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 2%を含む。締まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、粘土粒子 (10YR5/3)10%、焼土粒子 10%、直徑 5mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%が順状に混じる。締まりやや弱い。部分的にやや弱、粘性有り、粒子細かい。
7. 10YR1/7 黒色土層 直徑 3mm 以下の焼土粒子・炭化物粒子各 3%を含む。粘土 40%が順状に混じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
8. 10YR1/7 黒色土層 直徑 3mm 以下の焼土粒子 2%・炭化物粒子 3%を含む。粘土 40%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 20%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直徑 3mm 以下の黒色スコリア 3%・焼土粒子 7%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR4/6)3%、焼土 (5YR5/8)5%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の黒色スコリア 3%、直徑 1mm 程度の黒色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%、粘土 15%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子細かい。
11. 5YR5/8 明赤褐色土層 直徑 2mm 以下の黒色スコリア 3%、長さ 20mm 以下の炭化物 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)25%が順状に混じる。締まり有りが部分的にやや弱、粘性有り、粒子やや粗い。
12. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%、直徑 10mm 以下の焼土ブロック 15%、長さ 30mm 以下の炭化物 10%を含む。粘土 15%、焼土 (5YR5/8)5%、暗褐色土 (10YR4/6)7%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
13. 10YR1/7 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%、直徑 3mm 以下の黒色スコリア・焼土粒子各 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)5%、暗褐色土 (10YR3/3)3%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
14. 10YR2/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%、炭化物粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)10%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
15. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%、長さ 10mm 以下の炭化物 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)7%、焼土 5%が順状に混じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
16. 10YR2/3 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直徑 10mm 以下の焼土ブロック 15%、直徑 1mm 程度の炭化物粒子 5%を含む。黒色土 (10YR1/7)13%、暗褐色土 (10YR4/4)10%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
17. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 5%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 10%、直徑 1mm 程度の炭化物粒子 7%を含む。粘土 15%、暗褐色土 (10YR3/4)10%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
18. 10YR2/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%、直徑 2～3mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)30%が順状に混じる。焼土 (10YR4/6)1%がブロック状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
19. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア、炭化物粒子各 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)3%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。
20. 10YR1/7 黒色土層 直徑 1mm 程度の黒色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア・焼土粒子各 1%を含む。暗褐色土 (10YR4/6)2%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子やや粗い。
21. 10YR2/2 黒褐色土層 焼土主体、直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 2%、焼土 3mm 以下の焼土粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)7%、暗褐色土 (10YR4/6)2%が順状に混じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。
22. 10YR2/3 暗褐色土層 焼土主体、直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 3%、焼土 3mm 以下の焼土粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)3%、暗褐色土 (10YR4/3)7%にたいして黄褐色土 (10YR4/3)7%にたいして黄褐色が増える。暗褐色土 (10YR4/6)5%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
23. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 1%、直徑 4mm 以下の赤褐色スコリア 2%、高筒では直徑 4mm 以下の焼土粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)3%、暗褐色土 (10YR4/6)7%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
24. 10YR4/6 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/1)5%が順状に混じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。

第394図 SI32(1)(1/60)

掘り方



第 395 図 SI32(2)(1/60)

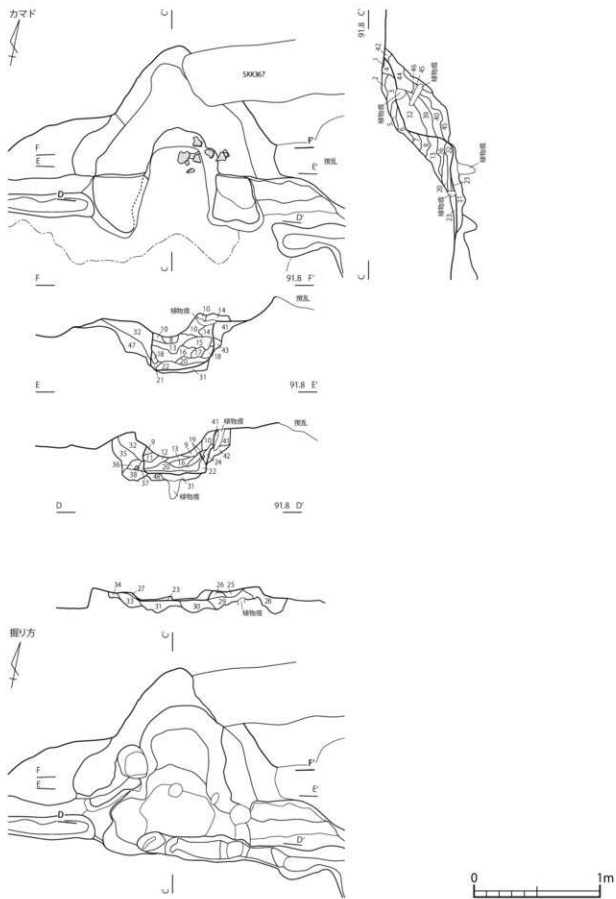
ていた可能性が考えられるが、この北壁のカマド以外にその痕跡が見られないことから、詳細は不明である。

なお、カマド奥壁調査中、奥壁を構築する砂質粘土内に混和材（スサ）と思われる藁状の圧痕が確認された。

出土遺物 土師器 194 点、須恵器 86 点、土製品 1 点、焼成粘土塊 3 点、石器 1 点、石製品 1 点、礫 44 点、金属製品 3 点、炭化物 1 点の他、縄文土器 9 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 20 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が多数出土しているが、カマドとその周辺では、土師器がやや集中する傾向が見られる。図示したものについては、カマド内から第 401・403 図 15・17～19 等が出土し、カマド左袖前や南壁寄り中央部付近で須恵器環・埴が比較的集中して出土している。1・13・14 等は覆土中層からの出土である。南壁寄りでは、6 の坏、7 の墨書を有する坏、8 や 9 の坏底部が比較的集中した範囲で検出されている。また土器以外では、土製紡錘車や砥石、金属製品が出土している。第 402・403 図 23 の土製紡錘車は第 401・403 図 2 の須恵器環の破片の一部と並ぶように床面付近の焼土主体層から出土し、第 402・404 図 25 の刀子は第 401・403 図 11 の須恵器埴と並ぶような状態で床面付近から出土した。第 402・403 図 24 の砥石は覆土下層からの出土である。

土器 第 401・403 図 1～9 は須恵器環である。底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。6 を除いた須恵器環の口径は 11～12cm 台で、底径は 8 の 5.8cm を除いて 6 cm 台である。6 は深身の坏で、推定口径は 13.4cm、器高は 5.3cm、底径は 7.7cm を測る。7 はほぼ完存し、口径 11.3cm、底径 6.4cm、器高 3.8cm を測る。底部内面に「八田」、底部外面に「川口」の墨書が認め



第396図 SI32(3) カマド (1/30)

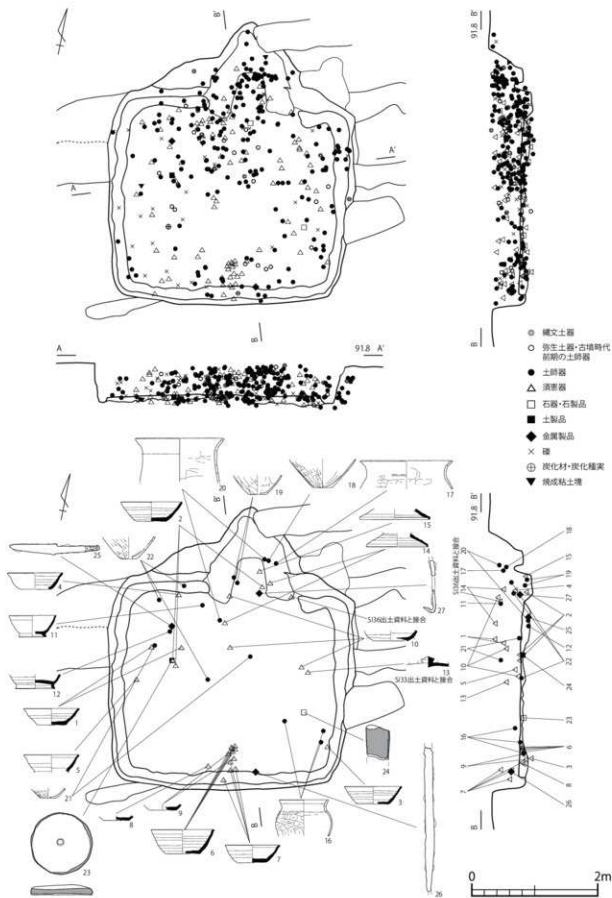
カマド

1. 10YR1/7 黒色土層	直経 1mm 程の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 3%を含む。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
2. 10YR1/7 黒色土層	直経 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 1%、黒色スコリア 5%、焼土粒子 3%を含む。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
3. 10YR1/7 黒色土層	直経 1mm 程の黒色スコリア 1%、直経 2mm 以下の焼土粒子 5%を含む。粘土 (10YR2/3)10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
4. 10YR2/3 暗褐色土層	直経 3mm 以下の焼土粒子 10%を含む。粘土 10%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
5. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 5mm 以下の焼土粒子 5%、直経 1mm 程の炭化物粒子 3%を含む。粘土 15%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
6. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 1mm 程の焼土粒子 1%・炭化物粒子 2%を含む。粘土 7%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
7. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 1mm 程の焼土粒子 1%・炭化物粒子 3%を含む。粘土 10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
8. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。粘土 10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
9. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 5mm 以下の焼土粒子 5%、直経 1mm 程の炭化物粒子 3%を含む。粘土 7%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
10. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 3mm 以下の焼土粒子 5%、直経 1mm 程の炭化物粒子 3%を含む。粘土 10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
11. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 10mm 以下の焼土ブロック 20%、直経 1mm 程の炭化物粒子 2%を含む。粘土 15%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
12. 10YR2/3 暗褐色土層	粘土土層。直経 10mm 以下の焼土ブロック 20%、直経 1mm 程の炭化物粒子 2%を含む。粘土 15%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
13. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 10mm 以下の焼土ブロック 7%・炭化物 5%を含む。粘土 15%が微視に散見する。締まり・粘性やや弱。粘土層が薄い。
14. 10YR4/4 暗褐色土層	粘土土層。直経 2mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)5%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。粘土層が薄い。
15. 5YR4/8 赤褐色土層	焼土ブロック土層。粘土 7%、黒褐色土 (10YR2/2)3%が微視に散見する。締まり有りが部分的にやや弱。粘性弱。粘土層が薄い。
16. 10YR4/4 暗褐色土層	粘土土層。直経 10mm 以下の焼土ブロック 15%、直経 5mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
17. 10YR4/4 暗褐色土層	焼土 (5YR4/8)50%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
18. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 10mm 以下の焼土粒子 5%、直経 1mm 程の炭化物粒子 2%を含む。粘土 2%が微視に散見する。締まり・粘性やや弱。粘土層が薄い。
19. 10YR2/2 暗褐色土層	直経 5mm 以下の焼土粒子 15%を含む。粘土 7%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。粘土層が薄い。
20. 10YR4/4 暗褐色土層	直径 10mm 以下の焼土ブロック 10%、直径 1mm 程の炭化物粒子 1%を含む。粘土 20%、黒褐色土 (10YR2/2)5%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
21. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。粘土 10%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。
22. 10YR4/4 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。粘土 10%、黒褐色土 (10YR2/2)3%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
23. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 15%・炭化物 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)7%、粘土 20%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。粘土層が薄い。
24. 5YR4/8 赤褐色土層	焼土ブロック土層。粘土 3%、黒褐色土 (10YR2/2)7%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。粘土層が薄い。
25. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%、直径 3mm 以下の黄褐色土粒子 (10YR5/8)2%・粘土 (10YR5/3)10%・焼土粒子 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)30%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
26. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 2%、直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、直径 1mm 程の炭化物粒子 3%を含む。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
27. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 20mm 以下の焼土ブロック 15%、直径 2mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)5%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
28. 10YR2/1 黒色土層	直径 2～3mm の赤褐色スコリア 1%、直径 1mm 程の黄褐色土粒子 (10YR5/3)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
29. 10YR2/4 暗褐色土層	直径 2～5mm の赤褐色スコリア 1%、直径 5mm 以下の黄褐色土粒子 10%・焼土粒子 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)3%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
30. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 2～3mm の赤褐色スコリア 1%、直径 10mm 以下の焼土ブロック 3%を含む。締まり強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
31. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 7%・粘土 15%を含む。黒褐色土 (10YR4/4)5%が微視に散見する。締まり・粘性やや弱。粘土層が薄い。
32. 10YR4/4 暗褐色土層	粘土土層。直径 10mm 以下の焼土ブロック 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性強。粘土層が薄い。
33. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 7%・粘土 3%を含む。褐色土 (10YR4/4)10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
34. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 5%・粘土 3%を含む。褐色土 (10YR4/4)11%、褐色土 (10YR4/4)5%が微視に散見する。締まり強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
35. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 3%を含む。褐色土 (10YR4/4)10%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
36. 10YR2/3 暗褐色土層	褐色土 5%、直径 10mm 以下の焼土ブロック 10%を含む。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
37. 10YR4/4 暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 5%・粘土 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)5%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
38. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 20mm 以下の焼土ブロック 10%を含む。褐色土 10%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや弱。粘土層が薄い。
39. 10YR2/3 暗褐色土層	焼土土層。直径 10mm 以下の焼土ブロック 15%、直径 7mm 以下の焼土ブロック 15%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)5%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや強。粘土層が薄い。
40. 7.5YR4/4 暗褐色土層	焼土土層。直径 10mm 以下の焼土ブロック 20%・焼土ブロック 25%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。褐色土 (7.5YR4/6)50%が微視に散見する。締まり有り。粘性強。粘土層が薄い。
41. 10YR4/4 暗褐色土層	粘土土層。直径 10mm 以下の焼土ブロック 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)40%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
42. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。褐色土 20%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
43. 10YR4/4 暗褐色土層	粘土土層。直径 5mm 以下の焼土粒子 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)30%が微視に散見する。締まり・粘性やや弱。粘土層が薄い。
44. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の焼土粒子 20%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)30%が微視に散見する。締まりやや強。粘性有り。粘土層が薄い。
45. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 10mm 以下の焼土ブロック 5%を含む。粘土 30%、褐色土 (10YR4/4)20%が微視に散見する。締まり有り。粘性やや強。粘土層が薄い。
46. 10YR2/3 暗褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 15%、直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)5%が微視に散見する。締まりやや強。粘性やや弱。粘土層が薄い。
47. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)3%、粘土 5%が微視に散見する。締まり・粘性有り。粘土層が薄い。
48. 10YR2/2 暗褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 5%・粘土 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)3%が微視に散見する。締まり強。粘性有り。粘土層が薄い。

第 397 図 S132(4) カマド

られる。10 は体部下端が回転ヘラケズリ調整されており、須臾器境と判断した。11・12 は高台の付く須臾器境である。11 は小振りな器形で、12 は足高の高台となっている。ともに底部は回転糸切りで切り離し、高台を取り付け、ナデ調整を加えている。13～15 は須臾器蓋で、13 は擬宝珠形のつまみが付される。14・15 は口縁端部が短く屈する形態で、14 の天井部には回転ヘラケズリ調整が施されている。1～12・14・15 の須臾器はいずれも東金子窯産、13 は南比企産と推定される。

16 は武蔵型の土師器台付甕で、胴部上半に最大径を有し、口縁部は緩やかに外反する。胴部外面は横方向や斜方向のヘラケズリ調整が目をはきく。17～19、第 402・403 図 20～22 は土師器甕である。17 は口縁部がコ字状に外反する武蔵型甕で、胴部上端が横方向のヘラケズリ調整、内面がへ



第398図 S132(5) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI32 全景 (南南東から)



2. SI32 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI32 土層断面 B-B' (東北東から)



4. SI32 掘り方土層断面 A-A' (南南東から)



5. SI32 掘り方全景 (南南東から)

第 399 図 SI32 写真 (1)



1. SI32 カマド全景 (南南東から)



2. SI32 カマド掘り方全景 (南南東から)



3. SI32 カマド土層断面 E-E' (南南東から)



4. SI32 カマド土層断面 F-F' (南南東から)



5. SI32 カマド掘り方土層断面 C-C' (東北東から)



6. SI32 カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)

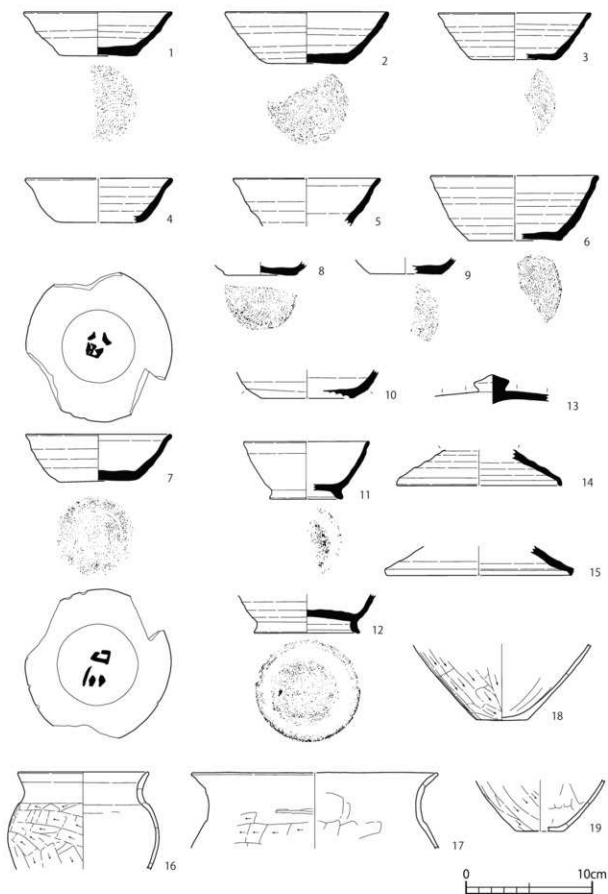


7. SI32 遺物出土状況 (東北東から)

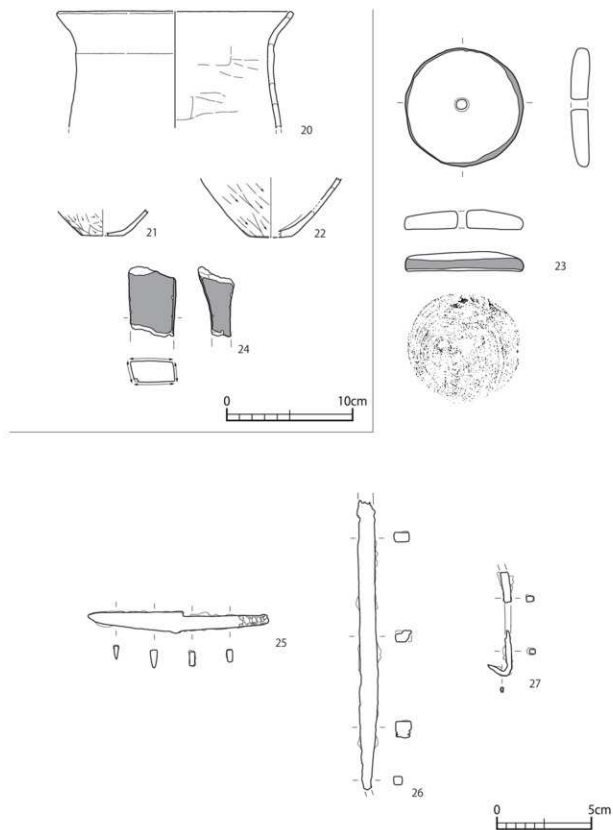


8. SI32 遺物出土状況 (南西から)

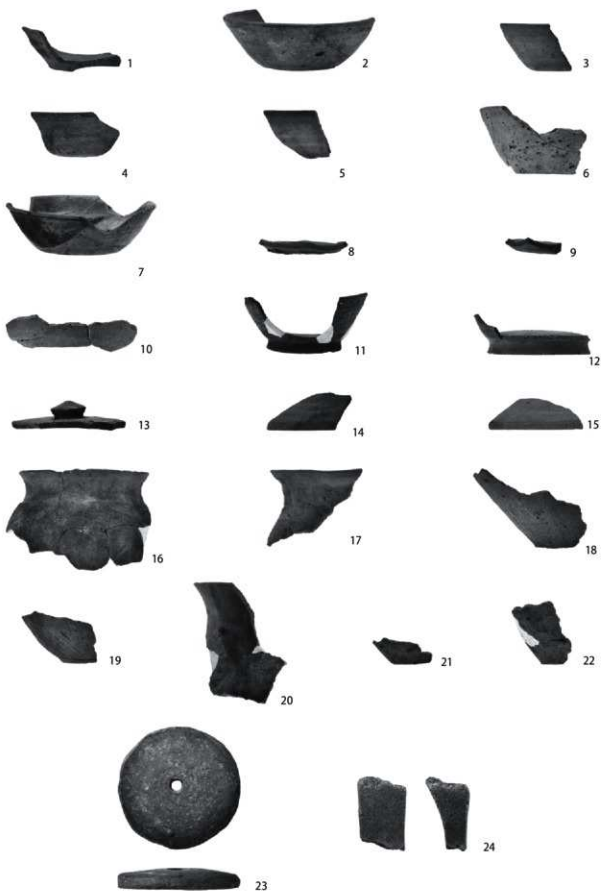
第 400 図 SI32 写真 (2)



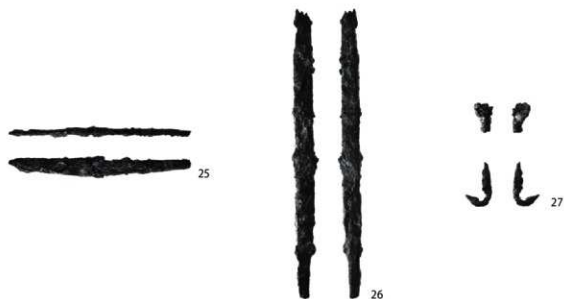
第401図 SI32出土遺物(1)(1/3)



第402図 SI32出土遺物(2)(1/3・1/2)



第403图 S132出土遺物写真(1)



第404図 SI32出土遺物写真(2)

ラナデ調整される。20は口縁部に最大径を持ち、胴部の膨らみが小さい土師器甕である。口縁部はヨコナデ、内面のヘラナデ調整は比較的明瞭に観察できるが、胴部外面の調整は判然としない。あるいは無調整なのかもしれない。18・19・21・22は土師器甕の胴部下半から底部が遺存したものである。底径は小さく、胴部・底部のヘラケズリ調整が顕著で、器壁は薄く、いずれも武蔵型甕の特徴をよく示している。

土製品 第402・403図23は須恵器の底部片を転用した土製紡錘車である。底部のまわりを丸く削って研磨して整えている。中央に径6mm弱の円孔が穿たれている。因みに、この須恵器環は東金子窯産である。

石製品 第402・403図24は砥石である。4面に摩滅痕が観察される。石質は変質流紋岩である。

金属製品 第402・404図25は完形の平造刀子である。全長は96mmを測り、刃部と茎部の境に閼があり、片関タイプの刀子である。茎部には木質部が遺存している。26は棒状の鉄製品である。現存長は153mmを測り、断面は遺存している中央から上方が長方形、下部が方形となっている。27の鉄製品は鉄釘と判断して実測した。屈曲した先端部の先が尖っている。

出土した須恵器環は、南比企窯跡群鳩山編年のHⅦ期やHⅧ期に類似が認められよう。遺構の時期は9世紀中葉から後葉と考えられる。

SI33 (第405～412・553図、第47・61表)

遺構 調査区中央部の320・42・43・52グリッドに位置する。検出面はⅡ3～Ⅲ層上で、近世以降のSDK413・415、SKK368・369・370・372・374に壁やカマド、床面の一部を切られている。また、西側310cmには同時代のSI30が位置している。

平面形態は長方形で、長軸(南北)454cm、短軸(東西)319cmを測り、南北に長い。主軸方向はN-23°-Eを指す。検出面から床面までの深さは42cmで、壁は概ね垂直に立ち上がる。

第46表 SI32 出土土器観察表(1)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第401～402図	1	覆土上へ 中層	須恵器 杯	(11.5) 3.5 6.2	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	石英 長石 砂粒	軟質	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 2.5Y7/3 浅黄		外面にスス付着 東金子産
	2	覆土下層 (表土内) ～カマド内	須恵器 杯	12.7 4.1 6.5	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 褐色粒	軟質	5YR6/4 にぶい・橙	不完形	東金子産
	3	床面	須恵器 杯	(11.8) 3.7 (6.6)	体部は直線気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ目が比較的顕著。	長石 白色粒 黒色粒	良好	10BG5/1 青灰		東金子産
	4	覆土下層	須恵器 杯	(11.3) 3.5 (6.7)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	回転糸利用の成形。	長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰		外面にスス付着 東金子産
	5	覆土下層	須恵器 杯	11.5 — —	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転糸利用の成形。	小礫 白色粒 黒色粒	やや軟質	7.5Y6/1 灰	口縁部片	東金子産
	6	床面	須恵器 杯	(13.4) 5.3 (7.7)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 黒色粒	軟質	7.5Y8/1 灰白		東金子産
	7	覆土中層 ～床面	須恵器 杯	11.3 3.8 6.4	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。内面の足込み部が顕著。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 砂粒	やや軟質	7.5Y6/1 灰	ほぼ完形	外面に「八」の 内面に「川」の 印書 内外面にスス付着 東金子産
	8	床面	須恵器 杯	— — 5.8	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	長石 白色粒 黒色粒	良好	5B5/1 青灰	底部片	内面にスス付着 東金子産
	9	覆土下層 ～床面	須恵器 杯	— — (6.0)	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	5B4/1 暗青灰	底部片	東金子産
	10	覆土上へ 下層	須恵器 碗	— — (7.4)	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部下端に回転ヘラケズリ調整が施される。	小礫 石英 砂粒	軟質	外面 5YR6/4 にぶい・橙 内面 2.5Y7/2 灰黄		底部外面の表層が剥がれて欠損 東金子産
	11	覆土中層	須恵器 碗	(11.3) 5.3 (6.5)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。高台の接地面は外側である。	底部は回転糸切りで切り離され、高台を取り付け、ナデ調整を施している。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	5B4/1 暗青灰		東金子産
	12	床面	須恵器 碗	— — 8.2	高台は直立し、足高形状となっている。接地面は外側である。高台径も大きい。	底部は回転糸切りで切り離され、高台を取り付け、ナデ調整を施している。比較的シャープなつくりである。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	10Y6/1 灰	底部は 完存	東金子産
	13	覆土中層	須恵器 蓋	— — —	擬宝珠形のつまみが付く。	天月部に回転ヘラケズリ調整を施し、つまみを取り付け、ナデ調整を加えている。	石英 長石 白色粒	良好	7.5Y6/1 灰	つまみは ほぼ完存	遺構間接合 南比企産
	14	覆土上へ 中層	須恵器 蓋	(12.5) — —	口縁端部は短く屈曲する。	天月部に回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 白色粒 黒色粒	良好	N5/0 灰		東金子産
	15	カマド内	須恵器 蓋	(14.5) — —	口縁端部は断面が三角形状に短く屈曲する。	回転糸利用の成形。	長石 石英 白色粒 黒色粒	軟質	5Y7/1 灰白	口縁部片	東金子産
	16	覆土下層 ～床面	土師器 付台費	10.2 — —	口縁部はゆるやかに外上方に立ち上がる。胴部は即ち、最大径を持つ。	口縁部はヨコナデ、胴部上平は横方向や斜方向、中央は斜方向等にヘラケズリ調整される。内面はナデ調整が施されている。	石英 角閃石 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐 5YR4/2 灰黄		内外面にスス付着 武蔵型産
	17	カマド内	土師器 蓋	(19.3) — —	口縁部はコ字状に外反する。	口縁部はヨコナデ、胴部上平は横方向、内面はヘラケズリ調整が施される。器壁は薄い。	角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR5/8 明赤褐		武蔵型産
	18	カマド内	土師器 蓋	— (4.0) —	底部は平底。胴部下平は大きく開いて立ち上がる。	胴部外面は斜方向や縦方向のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整、内面はヘラケズリ調整が施される。器壁は薄い。	石英 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	5YR6/4 にぶい・橙		武蔵型産
	19	カマド内	土師器 蓋	— (3.7) —	底部は平底。胴部下平は内湾気味に外上方に立ち上がる。底径は小さい。	胴部外面は斜方向等のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整される。内面はヘラケズリ調整が施される。器壁は薄い。	石英 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐		武蔵型産

第46表 SI32出土土器観察表(2)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第402・403図	20	カマド内・貼床内	土師器 甕	(18.4)	胴部の細らみはみられない。 口縁部に最大径を有する。	口縁部はコナナデ。胴部外面の調整はよくわからない。あるいは特に調整を働さないか。内面はヘラナデ調整される。	小礫 石英 白色粒	やや軟質	7.5Y5/2 灰褐色		内面にスス付着
	21	覆土中層 ～床面	土師器 甕	— (3.4)	底部は平底。底径は小さい。	胴部下部は斜方向等のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。胴壁は薄い。	小礫 角閃石	良好	外面2.5YR4/3 にふいふ褐色 内面2.5YR5/8 明赤褐色		外面にスス付着 武蔵型甕
	22	覆土中層 ～床面	土師器 甕	— (3.4)	底部は平底。胴部下部は外上方に開いて立ち上がる。底径は小さい。	胴部下部は斜方向等のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はヘラ施工等によりナデ調整される。	小礫 角閃石 白色粒	良好	2.5YR4/4 にふいふ赤褐色		武蔵型甕

床面は貼床で、小さな凹凸を有する。硬化面は、南東部とP1周辺を除く広い範囲で検出された。カマドは北壁に構築され、壁溝はカマド部分を除いて巡っていた。主柱穴と思われるピットは検出されなかったが、床面で2基、掘り方底面で3基、計5基の小ピットが検出された。

床面までの覆土は17層からなり、主に黒色土や黒褐色土を主体とし、カマド付近では、カマド由来の砂質粘土や焼土の粒子、炭化物を多く含む層が見られる。12層は壁溝の覆土である。

壁溝は、カマド部分を除く壁下に巡っている。断面形態は逆台形もしくはV字状を呈し、幅17～22cm、床面からの深さ8～16cmを測る。覆土は黒色土がベースで、暗褐色土が斑状に混入している。

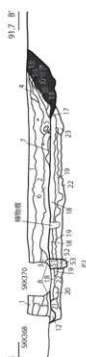
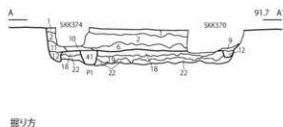
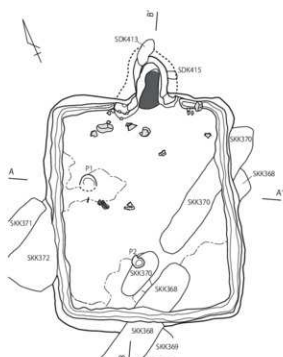
掘り方は、中心部分がやや浅く、それ以外がやや深く掘り込まれている。掘り込みは概ねIV層下部までだが、一部ではVS層上面まで達している。底面には、全体的に浅い凹凸やピット状の掘り込みを有している。掘り方の覆土は6層に分けられ、概ね上層が黒褐色土、下層が暗褐色土をベースとしている。

ピットはP1～5の5基が検出された。P1・2は掘り方覆土掘削時に、土層断面観察用のベルト断面で検出され、いずれも床面から掘り込まれていることが確認された。P1は西壁寄りで検出された。平面形態は円形と推定され、直径は27cm程度、深さ23cmを測り、底面は建物跡掘り方底面とほぼ同一の深さである。硬化した黒褐色土のブロックを含む土壌で埋め戻されている。P2は床面中央より南寄りで検出された。平面形態は楕円形と推定され、直径21cm程度、深さ28cmを測る。覆土は3層に分けられ、いずれも黒褐色土がベースで、暗褐色土が混入している。

P3～5は掘り方の底面で検出され、いずれも浅い。P3は長軸・短軸とも19cmの円形、P4は長軸21cm、短軸18cmの卵形、P5は長軸18cm、短軸17cmの楕円形を呈する。いずれも覆土は黒褐色土で、褐色土が斑状に含まれている。

カマドは、北壁の中央部分をU字状に掘り込んで構築されている。上部の一部が近世以降の溝に切られているものの、側壁・奥壁は比較的良好に遺存していた。その一方で袖部の遺存状況は悪く、特に右袖は、壁付近まで構築材が取り払われていた。左袖の観察では、袖は砂質粘土が混和された暗褐色土で構築されている。側壁や奥壁は、砂質粘土や焼土が混和された暗褐色土による構築が確認されているが、表面の一部で砂質粘土主体層が確認されることから、本来は、主に砂質粘土を用いて燃焼室内壁を構築していたものと推察できる。側壁、奥壁共に被熱、赤化が見られる。火床部は確認することができた。燃焼室内の覆土には砂質粘土があまり見られない。また、カマド左袖付近の建物跡覆土下層では被熱した大型礫が確認されており、袖の芯材であった可能性がある。

これらの状況と建物跡覆土の様相から考察すると、当カマドは、廃絶時に天井部や奥壁・側壁の一

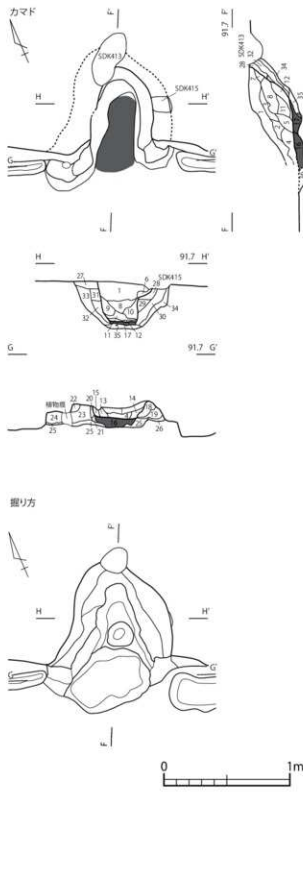


503

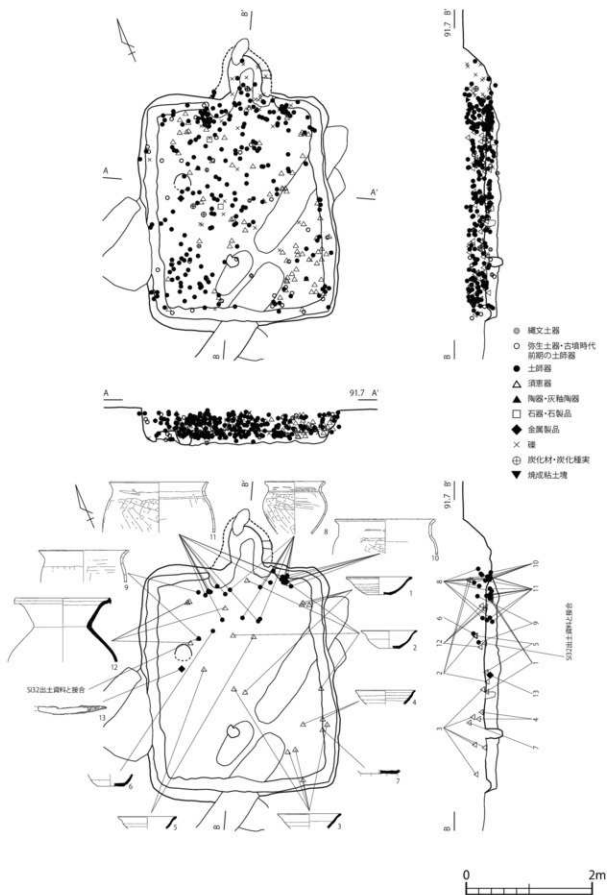
1. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スクリア 3%、黒色スクリアを各 3%含む。直徑 3mm 以下の炭化物粒子を 2%含む。結まり有り、粘性やや強、粘性有り、粘子ややね。
2. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スクリア 3%、黒色スクリアを各 2%含む。直徑 3mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。結まりやや強、粘性有り、粘子ややね。
3. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア、黒色スクリアを各 1%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 7%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。結まり粘性やや強、粘子ややね。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%、直徑 1mm 程の焼土 1% (10YR4/5)2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。結まりやや強、粘性有り、粘子ややね。
5. 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒色土 (10YR1/7)17%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性やや強、粘子ややね。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%、焼土粒子 2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%、長さ 10mm 以下の炭化物 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%、褐色土 (10YR4/6)1%が焼灰に混じる。結まり粘性やや強、粘子ややね。
7. 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スクリア 1%、焼土粒子 3%、直徑 5mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。直徑 5mm 以下の焼土粒子 1%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性やや強、粘子ややね。
8. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スクリア 2%、焼土粒子 3%、直徑 5mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。結まりやや強、粘性有り、粘子ややね。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%が焼灰に混じる。結まり強、粘性有り、粘子ややね。
10. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)7%が焼灰に混じる。結まり強、粘性有り、粘子ややね。
11. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が焼灰に混じる。結まり強、粘性やや強、粘子ややね。
12. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スクリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が焼灰に混じる。結まり粘性やや強、粘子ややね。
13. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 10%、長さ 10mm 以下の炭化物 15%を含む。黒色土 (10YR2/1)10%、暗褐色土 (10YR3/3)30%が焼灰に混じる。結まりやや強、粘性強、粘子ややね。
14. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 7%、ローメ粘土 3%を含む。黒色土 (10YR2/1)10%、暗褐色土 (10YR3/3)30%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性強、粘子ややね。
15. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 10mm 以下の焼土ブロック 10%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)7%、褐色土 (10YR4/4)40%が焼灰に混じる。結まり強、粘性強、粘子ややね。
16. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%が焼灰に混じる。結まりやや強、粘性強、粘子ややね。
17. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)7%が焼灰に混じる。結まり粘性強、粘子ややね。
18. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 3%、直徑 10mm 以下の焼土ブロック (10YR4/5)2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。結まりやや強、粘性有り、粘子ややね。
19. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 2%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒色土 (10YR1/7)17%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性やや強、粘子ややね。
20. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 7%、直徑 1mm 程の炭化物粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)1%が焼灰に混じる。結まり粘性強、粘子ややね。
21. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 程の焼土粒子、炭化物粒子 1%を含む。結まりやや強、粘性有り、粘子ややね。
22. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スクリア 10%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)7%、褐色土 (10YR4/4)40%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性強、粘子ややね。
23. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スクリア 1%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 2%を含む。結まり強、粘性有り、粘子ややね。
- P1
41. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スクリア 2%、炭化物粒子 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)3%、褐色土 (10YR4/6)2%が焼灰に混じる。結まり有り、粘性やや強、粘子ややね。
- P2
51. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スクリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)2%が焼灰に混じる。結まり粘性強、粘子ややね。
52. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スクリア 5%を含む。暗褐色土 17%が焼灰に混じる。結まり粘性強、粘子ややね。
53. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スクリア 5%、直徑 1mm 程の焼土 1%を含む。暗褐色土 20%が焼灰に混じる。結まり強、粘性やや強、粘子ややね。
- P3
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スクリア 7%、炭化物粒子 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)15%、褐色土 (10YR4/6)5%が焼灰に混じる。結まり強、粘性やや強、粘子ややね。
- P4
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スクリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%、褐色土 (10YR4/6)3%が焼灰に混じる。結まり強、粘性やや強、粘子ややね。
- P5
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スクリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%、褐色土 (10YR4/6)3%が焼灰に混じる。結まり強、粘性やや強、粘子ややね。

0 2m

第 405 図 SI33(1)(1/60)



第406図 S133(2) カマド (1/30)



第 407 図 SI33(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI33 全景 (南南西から)



2. SI33 掘り方全景 (南南西から)

第 408 図 SI33 写真 (1)



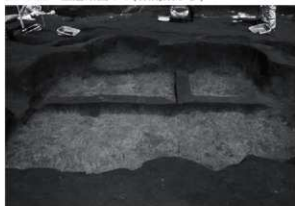
1. SI33 土層断面 A-A' (南南西から)



2. SI33 土層断面 B-B' (東南東から)



3. SI33 掘り方土層断面 A-A' (南南西から)



4. SI33 掘り方土層断面 B-B' (東南東から)



5. SI33 P3 土層断面 (西北西から)



6. SI33 P5 土層断面 (東南東から)



7. SI33 遺物出土状況 (南南西から)



8. SI33 カマド付近遺物出土状況 (南南西から)

第 409 図 SI33 写真 (2)



1. SI33 カマド全景 (南南西から)



2. SI33 カマド掘り方全景 (南南西から)



3. SI33 カマド土層断面 F-F' (東南東から)



4. SI33 カマド土層断面 G-G' (南南西から)



5. SI33 カマド土層断面 H-H' (南南西から)



6. SI33 カマド掘り方土層断面 F-F' (東南東から)

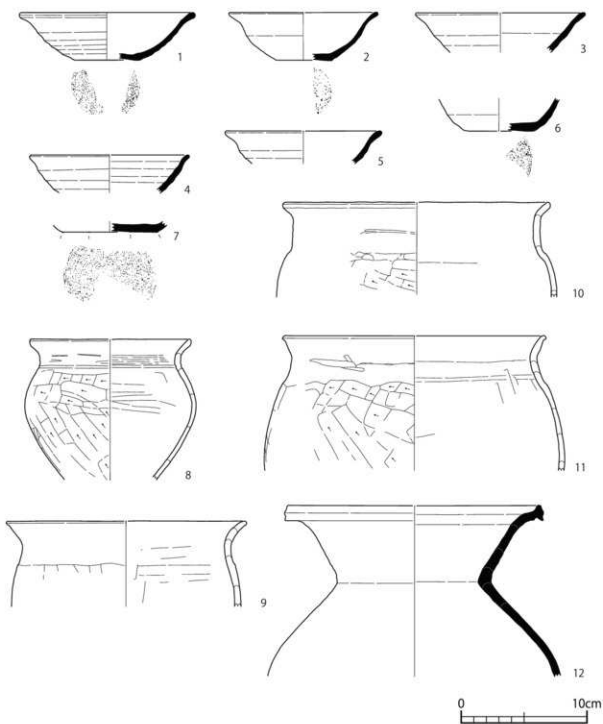


7. SI33 カマド掘り方土層断面 G-G' (南南西から)

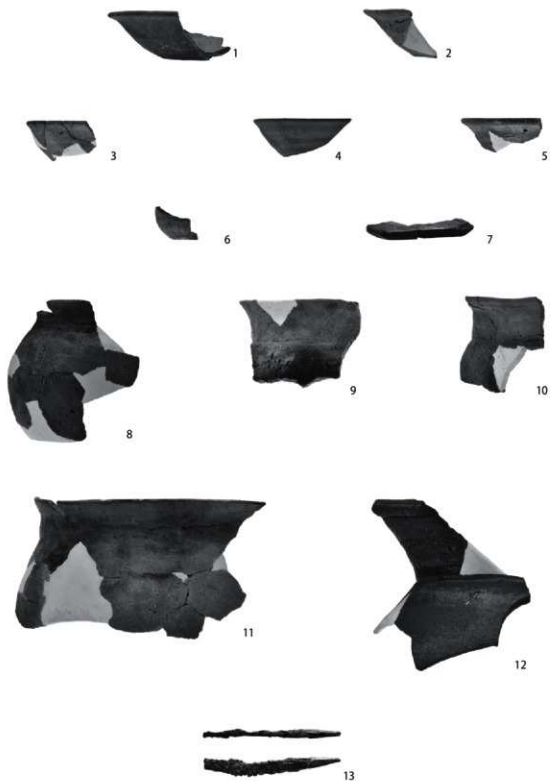


8. SI33 カマド掘り方土層断面 H-H' (南南西から)

第 410 図 SI33 写真 (3)



第411图 S133出土遺物(1/3・1/2)



第412図 SI33出土遺物写真

第 47 表 SI33 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 411・412 図	1	覆土下層	須恵器 片 (13.6) 3.7 5.4	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は端部が肥厚し、大きく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 石英 白色粒 褐色粒	軟質	5YR5/2 灰褐		内外面にスス付着 南多摩産
	2	覆土上へ下層	須恵器 片 (12.6) 4.1 (4.8)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は端部が肥厚し、大きく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	石英 白色粒	軟質	10YR7/2 に近い黄緑		南多摩産
	3	覆土中へ下層	須恵器 片 (13.2) — —	体部は開いて立ち上がり、口縁部は外反し、口縁端部はやや肥厚する。	回転糸利用の成形。	砂粒 白色粒	軟質	5Y6/1 灰	口縁部片	南多摩産
	4	覆土下層	須恵器 片 (12.4) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	回転糸利用の成形。	長石 白色粒	良好	5B5/1 青灰	口縁部片	東金子産
	5	覆土中へ下層	須恵器 片 (12.1) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は大きく外反する。口縁端部は肥厚する。	回転糸利用の成形。	小礫 白色粒	軟質	5Y6/1 灰	口縁部片	南多摩産
	6	覆土中層	須恵器 片 (15.6) — —	体部は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	長石 チャート 白色粒 白色粒	良好	10Y5/1 灰	底部片	東金子産
	7	覆土上層	須恵器 片 (7.5) — —	底部は平底。	底部は回転ヘラズリ調整されるが、中央に回転糸切り痕が残る。	海神動物骨付 小礫 白色粒 黒色粒	良好	N5/0 灰	底部片	内面に降灰 南北企業産
	8	覆土下層 ～床面	土師器 台付甕 (12.3) — —	口縁部はゆるやかに外反する。胴部は膨らみ、上半に最大径を有する。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向、中央以下が斜方向等にヘラズリ調整され、内面はヘラナデ調整される。	小礫 石英 白色粒	良好	外面 2.5YR5/4 に近い赤褐色 内面 7.5YR6/3 に近い黒		内面にスス付着 武蔵型甕
	9	覆土下層	土師器 甕 (18.7) — —	口縁部はゆるやかに外反し、最大径を有する。胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部上半はヘラズリ調整と思われるが、判断とせずよくわからない。内面はナデ調整される。	小礫 石英 白色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐		内面にスス付着
	10	覆土中へ下層	土師器 甕 (20.8) — —	口縁部はコ字状に外反するが、胴部の膨らみは小さい。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向にヘラズリ調整され、内面はナデ調整される。	小礫 石英 角閃石	良好	2.5YR5/6 明赤褐		武蔵型甕
	11	覆土下層 ～床面	土師器 甕 (20.5) — —	口縁部はコ字状のように外反するが、形態は崩れていない。胴部の膨らみも目立っていない。	口縁部はヨコナデ。胴部上半は横方向や斜方向にヘラズリ調整。内面はヘラ状工具によるナデ調整が施されている。	小礫 石英 角閃石 白色粒	良好	外面 5YR5/4 に近い赤褐色 内面 2.5YR5/4 に近い赤褐		内外面にスス付着 武蔵型甕
	12	覆土下層	須恵器 甕 (19.9) — —	口縁端部は肥厚し、膝部状にめぐり、そのすぐ下に凸部がめぐり、口縁部と胴部の境はぐら、胴部は膨らむ。	口縁部は横方向の回転ナデ調整。胴部外面と内面もナデ調整される。	海神動物骨付 小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	5B4/1 暗青灰		外面に降灰 南北企業産

部、右袖等の砂質粘土は再利用のために採取されたと考えるであろう。

出土遺物 土師器 234 点、須恵器 82 点、灰釉陶器 1 点、焼成粘土塊 1 点、石器 1 点、凝灰質砂岩切石片 1 点、石製品 1 点、礫 43 点、金属製品 1 点、炭化物 3 点の他、縄文土器 5 点と弥生土器・古墳時代前期の土師器 32 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が多数出土している。図示したものについては中層から下層・床面直上を中心に確認されており、カマド周辺では土師器甕（第 411・412 図 8～11）が覆土下層から、それ以外では須恵器片（1・3～7）が覆土中～下層から出土している。12 の須恵器甕は、カマド左袖前面付近から破片の状態出土した。また、金属製品では、13 の刀子が P1 南側の床面で炭化材に近接して出土した。また、カマド周辺では被熱した大型礫が複数検出されており、カマド芯材であったと考えられる。

土器 第 411・412 図 1～7 は須恵器片である。底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されておらず、底径は小さい。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は大きく外反する器形で、口縁端部

が肥厚している。3・5も口縁部が外反し、端部が肥厚している。1～3・5は焼成が軟質である。4・6は焼成が良好で、6は底部外面に回転糸切り痕が残っている。7は底部外面に回転ヘラケズリ調整が施されており、底径も7.5cmを測る。時期の古い須恵器環となろう。1～3・5は南多摩窯産、4・6は東金子窯産、7は南比企窯産の須恵器と推定される。

8は武蔵型の土師器台付甕である。最大径が胴部上半にあり、口縁部はく字状に外反する。胴部外面は横方向や斜方向にヘラケズリ調整され、内面はヘラナデ調整が観察される。9は口縁部が緩やかに外反するが、胴部外面の調整はよくわからない。10・11はコ字状の口縁部形態を持つ武蔵型甕で、11はややコ字状の形態が崩れている。口縁部はヨコナデ、胴部上半には横方向や斜方向等のヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施されている。12は小型の須恵器甕である。口縁端部が肥厚して口縁帯を形成し、そのすぐ下に突帯が巡っている。口縁部と胴部の境はくびれ、胴部は丸みを帯びる。南比企窯産の須恵器である。

金属製品 第411・412図13は片開式の平造刀子で、刃部から茎部にかけて遺存する。現存長は72mmを測り、茎部には木質が遺存している。

南多摩窯編年(服部・福田 1979・1981)のG5窯式に類似する南多摩窯産須恵器環から、本遺構の時期は9世紀末から10世紀前葉が推定されよう。

SI36(第413～421図、第48・58・59・61表)

遺構 調査区中央部の310-38・39・48・49グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降のSKK433に壁の一部が切られているが、遺存状況は良好である。

平面形態は隅丸方形で、南北447cm、東西390cmを測る。主軸方向はN-26°-Wを指す。検出面から床面までの深さは41cmで、壁はやや開きながら直線的に立ち上がる。

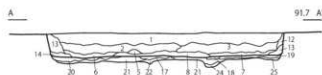
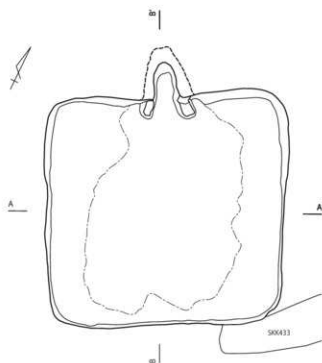
床面は貼床で、比較的平坦である。硬化面は、東西の壁寄りを除いて検出されたが、全体的に硬化は弱い。カマドは北壁に構築され、壁溝、柱穴は確認されなかった。

床面までの覆土は14層に分けられ、いずれも黒褐色土を主体としている。カマド付近の4・9・10層等は、カマド由来の粘土や焼土の混入が認められる。

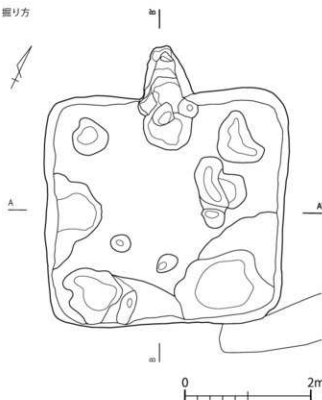
掘り方の掘り込みは概ねⅢ3～Ⅳ層までである。全体的に床面からの深さは浅いが、壁際がやや深く掘り込まれている他、全体的に緩やかな凹凸や小さなピット状の掘り込みを有している。掘り方の覆土は11層に細分され、黒褐色土をベースとした土壌が全体的に薄く敷き均されている。また、床面には2箇所、焼土と砂質粘土が多く含まれる土壌を充填する範囲が見られた。

カマドは、北壁の中央部分をU字状に掘り込んで構築されている。遺存状況は比較的良好で、特に側壁や奥壁は、被熱・赤化した面も観察できた。袖から側壁にかけては、焼土ブロックや黒褐色土が混和された砂質粘土が用いられており、粘土の再利用が想定される。奥壁は、地山の掘り込み部分に袖部や側壁部と同様の構築材を薄く貼って形成されている。火床部は良好に遺存していた。燃焼室内の覆土の状況から、天井部は崩落したものと考えられる。また、カマド掘り方のピット状の掘り込みから、少なくとも右袖には芯材が存在していたものと思われる。

出土遺物 土師器247点、須恵器116点、土製品6点、焼成粘土塊2点、石器1点、石製品1点、礫85点、金属製品3点、炭化物1点の他、縄文土器3点と弥生土器・古墳時代前期の土師器34点が出土した。



掘り方



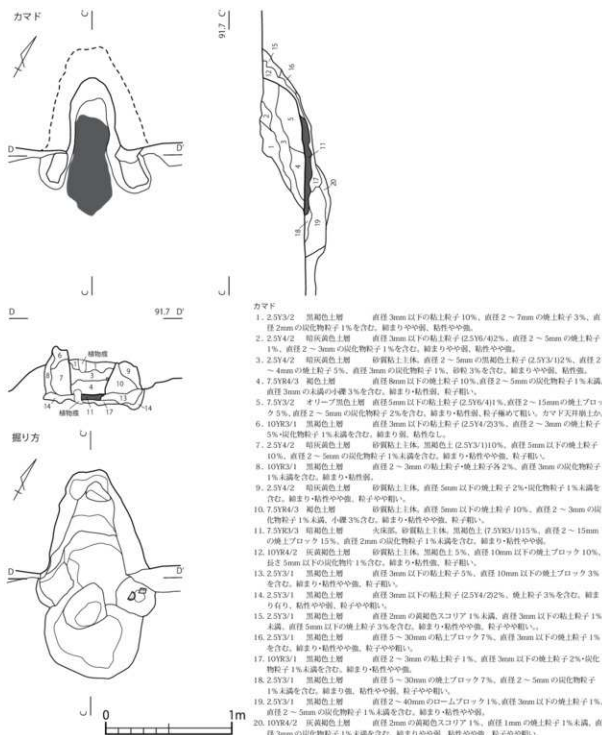
91.7



S36

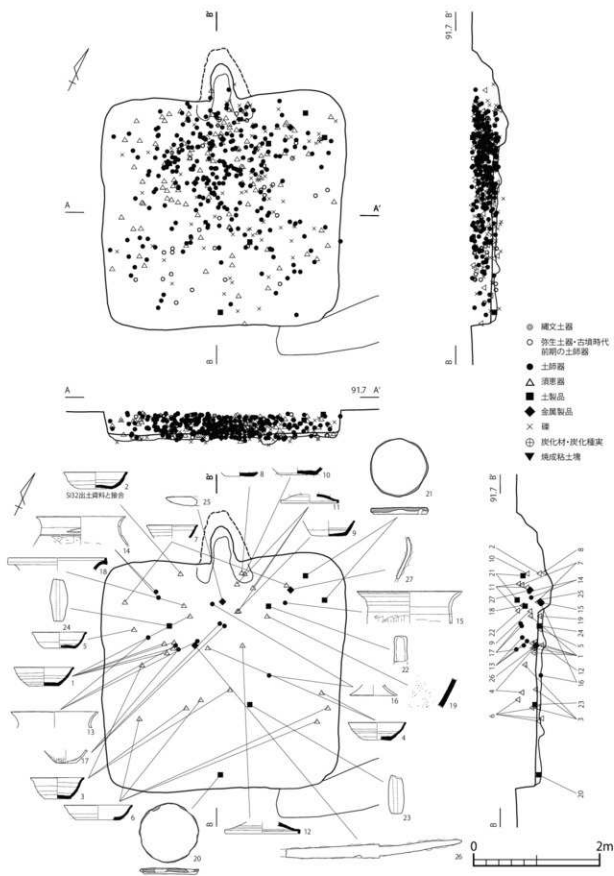
1. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1% 未読。直径 2～8mm の炭化物 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性。粘りやや強い。
2. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 3～30mm の炭化物上ブロック (IOYR2/1) 13%。直径 2～3mm の炭化物粒子 1% 未読。砂粒 3% を含む。細まり・粘性やや弱。
3. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア・赤色スコリア 各 1% 未読。直径 2～5mm の焼土粒子 1% 未読。直径 2～5mm の炭化物粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。
4. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 未読。直径 5mm 以下の焼土粒子 3%。直径 2mm の炭化物粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。粘り強い。
5. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 3%。直径 2mm の炭化物粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。
6. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%。直径 1mm の赤色スコリア 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
7. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 5～15mm の炭化物上ブロック (IOYR2/1) 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
8. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 3mm 以下の焼土粒子 1% を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
9. 2.5YR3/1 褐色炭化物土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 2%。直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。
10. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 7%。直径 2mm 以下の焼土粒子 1%。直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。粘り強い。
11. IOYR2/1 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1% 未読。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% を含む。細まり弱。粘性なし。
12. IOYR2/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未読を含む。細まり弱。粘性なし。粘りやや強い。
13. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 3～30mm の炭化物上ブロック 3% を含む。細まり・粘性やや弱。粘りやや強い。
14. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 1mm の赤色スコリア 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
15. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 5～30mm の炭化物上ブロック (IOYR2/1) 20%。直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 未読を含む。細まり弱。粘性やや弱。
16. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未読。直径 3mm 以下の焼土粒子 1% を含む。細まり強く硬化。粘性やや弱。
17. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1% 未読を含む。細まり弱。粘性やや弱。上面強く硬化。
18. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 2～15mm の焼土ブロック 10%。直径 7mm 以下の焼土粒子 7% を含む。細まり・粘性やや弱。
19. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1% 未読。直径 3～40mm の炭化物上ブロック 30%。直径 2mm の炭化物粒子 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
20. IOYR3/1 黒褐色土層 直径 3～20mm の黒褐色土ブロック (IOYR2/2) 5%。直径 3mm 以下の焼土粒子 1% を含む。細まり弱。粘性やや弱。上面強く硬化。
21. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1% 未読。直径 3～30mm の炭化物上ブロック 20%。直径 3mm 以下の焼土粒子・炭化物粒子 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
22. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1% 未読を含む。細まりやや弱。粘性やや弱。
23. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%。直径 3～20mm の炭化物上ブロック (IOYR2/1) 13% を含む。細まり・粘性やや弱。
24. IOYR3/2 黒褐色土層 黒褐色土 (IOYR3/1) 20%。直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。
25. IOYR3/2 黒褐色土層 直径 3～20mm の黒褐色土ブロック 5%。直径 2～4mm の焼土粒子 1% 未読を含む。細まり・粘性やや弱。

第 413 図 S36(1)(1/60)



第 414 図 SI36(2) カマド (1/30)

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が多数出土しているが、カマド前面が特に多く、その周囲はやや少なくなる。図示したものについては中層～下層・床面から出土したものが多く、土師器甕や須恵器坏が見られる。それらのうち第418・420図1・2・5・8・12・19の須恵器、15・16の土師器は、床面やその直上から出土している。須恵器坏底部を転用した紡錘車未製品は2点出土し、第419・421図20は南壁付近の掘り方覆土から、21はカマド付近の中層からの出土である。



第 415 図 SI36(3) 遺物分布・接合図 (1/60)

管状土鍾3点(22～24)は、カマド付近から床面中央にかけての覆土中層～下層で出土している。金属製品は25の刀子、27の釘はカマド前面、26の刀子は床面中央付近のいずれも床面付近から出土している。また、カマド付近から炭化種実(モモ)が出土している。

土器 第418・420図1～5は全体の器形がわかる須恵器環で、底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。1はほぼ完形の須恵器環で、口径12.4cm、底径6.6cm、器高4.0cmを測る。2～4の須恵器環は口径が11～13cm台、底径は5～6cm台で、3は器高が高いものである。6は小片から復元実測した環で、体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整される。7～9は口縁部や底部が遺存する須恵器環で、7の推定口径は10.6cm、8の底径は6.0cm、9は7.4cmとなっている。10は須恵器碗と思われる。器壁は厚く、体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されている。11・12は須恵器蓋で、口縁端部は短く屈曲する形態である。11の天井部には回転ヘラケズリ調整が施されている。産地同定の検討では、1・5・6は南比企窯産、2・4・7～12は東金子窯産須恵器である。

13～15は土師器甕である。13・14は武蔵型甕で、14はコ字状の口縁部形態となっている。15は口縁部のヨコナデ調整が幅広く施され、口縁部上半は大きく外上方に外反する形状で、胴部上半の縦方向にヘラケズリ調整される。焼成の質感は武蔵型甕に似ているが、器壁は武蔵型甕より少し厚い。16は土師器台付甕の脚部片、17は土師器甕の底部片で、ともに武蔵型甕の範疇に入る。

18は須恵器甕の口縁部片、19は胴部片である。18の口縁端部は緑帯状に巡っており、19は胴部外面に平行叩きが施され、内面は薄く平行叩きの痕跡が残っている。18は南比企窯産、19は湖西窯産須恵器と推定される。

土製品 第419・421図20・21は須恵器環の底部を利用した紡錘車の未製品と思われる。環底部を円形に整形し、破断面の全面を研磨して整えている。ただ、中央に円孔は穿たれておらず、紡錘車の未製品と考えておきたい。20の環の底部は底径5.4cmで、回転系切りで切り離され、調整が施されていない。21は底径5.5cmで、回転系切りで切り離され、外周を回転ヘラケズリ調整している。底部外面に「|」のヘラ記号が刻まれる。因みに、20は東金子窯産、21は胎土に海綿動物骨針を含む南比企窯産須恵器である。

22～24は土鍾である。中央に円孔が穿たれる管状土鍾である。22は面取りされ、中央に径3.5mmの円孔が貫通している。ちょうど半分に割れた部分が遺存し、円孔の断面形や穿たれ方がわかる。23は隅丸長方形形状の土鍾で、全長4cm、重量は14gを量る。中央に径4mmの円孔が貫通している。24は中央に最大径を有し、両端は径が小さくなる。中央に径3.5mmの円孔が穿たれ、全長4.4cm、重量15.3gを量る。

金属製品 第419・421図25・26は刀子である。25は刀子の刃部の先端部で、現存長は33mm、刃幅は10mmを測る。26は両開式の平造刀子で、先端を除き、ほぼ完存する。現存長は187mm、刃幅は14mmで、茎部は44mmである。27は鉄釘であろう。現存長は44mmで、断面は4×4mmを測る。

炭化種実(点上げ) カマド部分の覆土中層から、モモの核が1点出土した。

須恵器環の多くは、南比企窯跡群鳩山編年のHⅦ期やHⅧ期のものに類似がみられる。遺構の時期は9世紀中葉から後葉に相当すると判断しておきたい。



1. SI36 全景 (南南東から)



2. SI36 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI36 土層断面 B-B' (東北東から)

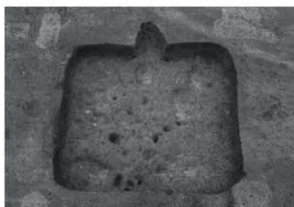


4. SI36 掘り方土層断面 A-A' (南南東から)



5. SI36 掘り方土層断面 B-B' (東北東から)

第 416 図 SI36 写真 (1)



1. SI36 掘り方全景 (南南東から)



2. SI36 遺物出土状況 (南南東から)



3. SI36 カマド全景 (南南東から)



4. SI36 カマド掘り方全景 (南南東から)



5. SI36 カマド土層断面 C-C' (東から)



6. SI36 カマド土層断面 D-D' (南南東から)

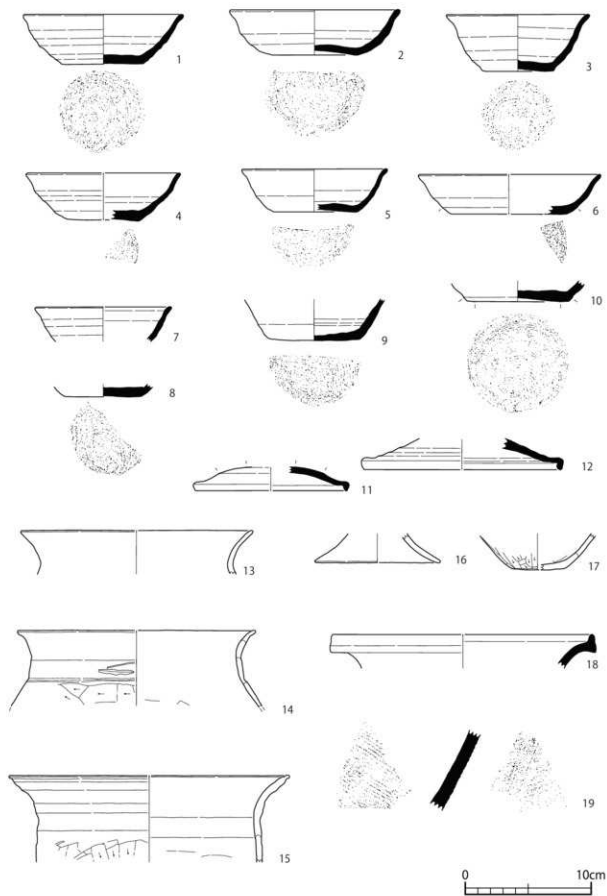


7. SI36 カマド掘り方土層断面 C-C' (東北東から)

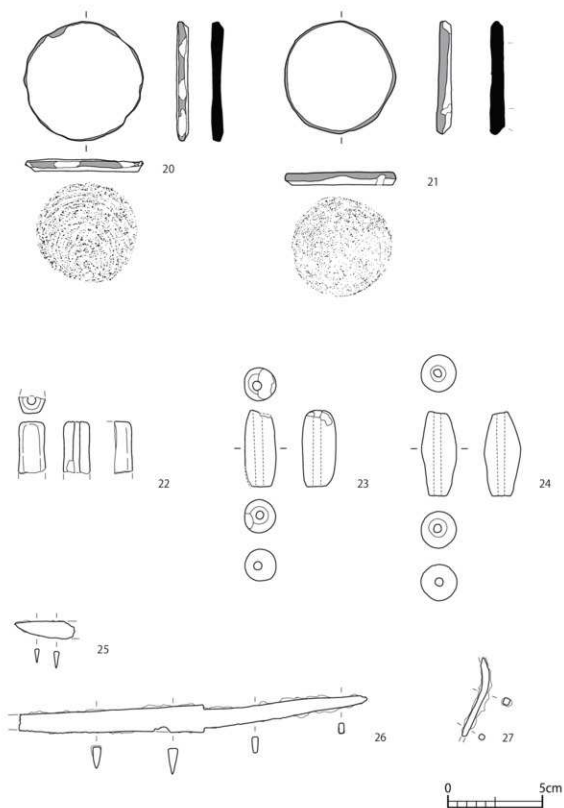


8. SI36 カマド掘り方土層断面 D-D' (南南東から)

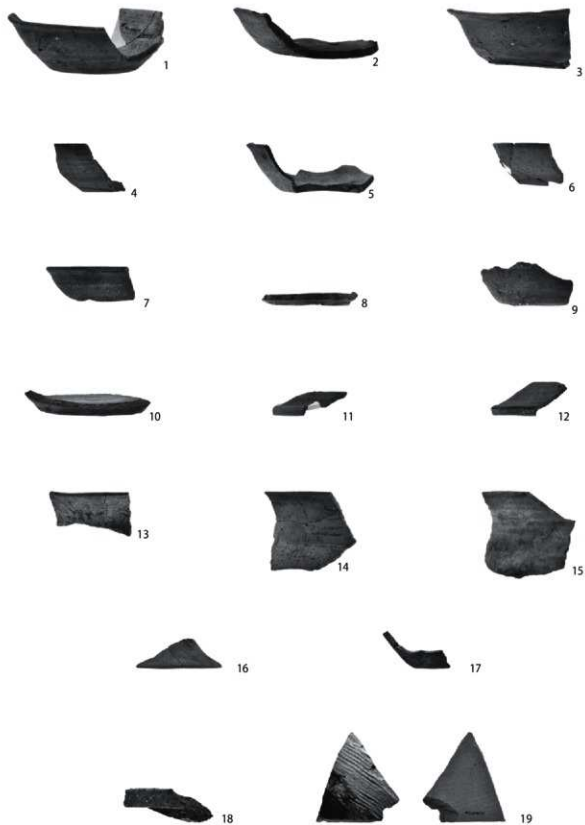
第 417 図 SI36 写真 (2)



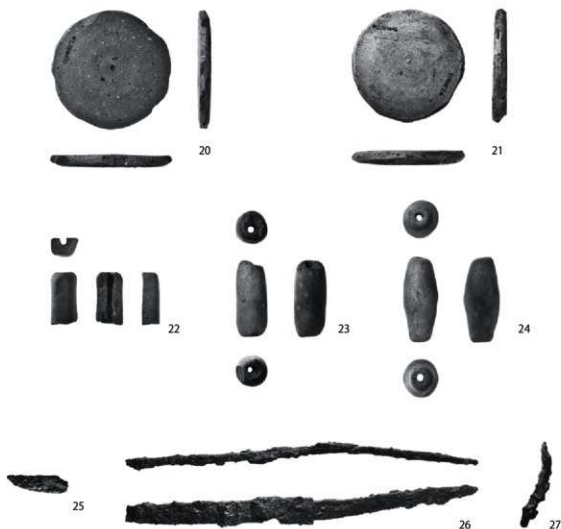
第418図 SI36出土遺物(1)(1/3)



第419図 SI36出土遺物(2)(1/2)



第420图 SI36出土遺物写真(1)



第421図 SI36出土遺物写真(2)

SI40 (第422～433図、第49・60・61表)

遺構 調査区中央部北側の320・2・3・12・13グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、縄文時代の礫集中SS13を切っており、また検出面では、覆土が古代の土坑SK122に切られている。遺存状況は良好である。

平面形態は長方形で、南北448cm、東西416cmを測る。主軸方向はN-10°-Wを指す。検出面から床面までの深さは64cmで、壁はやや開きながら立ち上がる。

床面は貼床で、全体にわずかな凹凸を有する。硬化面は主に床面中心部で検出された。カマドは北壁に構築された北カマドと東壁南寄りに構築された東カマドの2基が検出された。壁溝は、カマドから建物北西隅を除いた部分で確認された。基本的には壁直下に巡っているが、南壁部分の西寄り、壁からやや離れた部分に巡っている。支柱穴は確認されなかったが、床面で2基の小ビット(P1・2)が検出された。

床面までの覆土は16層に分けられ、いずれも黒褐色土を主体としている。カマド付近の層ではカ

第 48 表 SI36 出土土器観察表

図 番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕土下層・包含層 (310-38・B層)	甕器 甕	12.4 4.0 6.6	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	海綿動物骨針 小礫 石英 白色粒	やや軟質	5Y6/1 灰 7.5YR7/4 にぶい橙	ほぼ完形	南比企業産
2	床面・S32甕土	甕器 甕	(13.7) 3.7 6.8	体部は内湾し立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	5B4/1 暗青灰		遺構間接合 東金子産
3	甕土中へ下層	甕器 甕	(11.2) 4.5 5.7	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 白色粒	良好	5B5/1 青灰	平完形	東金子産
4	甕土上へ下層	甕器 甕	(12.0) 3.7 (5.8)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は弱く外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 長石 白色粒 黒色粒	良好	N5/0 灰		東金子産
5	床面	甕器 甕	(11.7) 3.5 6.8	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	海綿動物骨針 石英	軟質	2.5Y8/1 灰白		南比企業産
6	甕土上・下層・床面・包含層 (310-39・B層)	甕器 甕	(14.5) 3.2 (9.3)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されている。	海綿動物骨針 小礫 白色粒	軟質	5YR6/6 橙 5Y6/1 灰		内外面に火押痕 南比企業産
7	甕土上・下層	甕器 甕	(10.6) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転力利用の成形。	長石 白色粒 褐色粒	良好	5P84/1 暗青灰	口縁部片	東金子産
8	カマド 掘り方内	甕器 甕	— 6.0 —	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。内面の見込み目が顕著。ロクロ右回転。	長石 チャート 白色粒	良好	10Y6/1 灰		東金子産
9	甕土下層	甕器 甕	— 7.4 —	底部は平底。体部は直線気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	5Y4/1 灰		東金子産
10	甕土中層	甕器 甕	— 8.1 —	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、体部下端から底部外周に回転ヘラケズリ調整が施される。器壁は厚い。	小礫 長石 石英 白色粒	良好	5YR4/2 灰 5Y4/1 灰	底部完形	底部外面に火押痕 東金子産
11	甕土上へ中層	甕器 甕	(12.0) — (15.6)	口縁部は短く屈曲し、天井部は丸みを有している。	天井部には回転ヘラケズリ調整が施されている。	小礫 チャート 白色粒	やや軟質	5Y5/1 灰	口縁部片	東金子産
12	床面	甕器 甕	— — —	口縁部は屈曲する。	回転力利用の成形。	白色粒 褐色粒	良好	N6/0 灰	口縁部片	内面に障灰 東金子産
13	甕土上へ中層	土師器 甕	(18.1) — —	口縁部は外上方に大きく開いて立ち上がる。	口縁部はヨコナデ調整されている。	石英 角閃石 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部片	武蔵型甕
14	甕土中層	土師器 甕	(18.8) — —	口縁部はコ字状に外反するが、やや形状が崩れている。	口縁部はヨコナデ、胴部上平は縦方向や斜方向のヘラケズリ調整され、口縁部と胴部の境に沈線状のくぼみが二条めぐり、内面はナデ調整が施される。	角閃石 石英 白色粒	良好	2.5YR5/8 明赤褐		武蔵型甕
15	貼床内	土師器 甕	(22.1) — —	口縁部上平は外上方に大きく外反し、最大径を有する。胴部の膨らみはほとんどみられない。	口縁部はヨコナデ、胴部外面は縦方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整が施される。	石英 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐		外面にスス付着
16	床面・貼床内 付着層	土師器 付着層	— (9.8) —	胴部は「V」状に膨らみになる。	胴部外面は縦方向のナデ調整、内面もナデ調整される。	石英 白色粒	やや軟質	2.5YR5/4 にぶい赤褐	胴部片	武蔵型甕
17	甕土上層	土師器 甕	— 4.1 —	底部は平底。底径は小さい。	胴部外面は縦方向等のヘラケズリ調整、底部外面もヘラケズリ調整、内面はヘラ状工具によりナデ調整される。	石英 角閃石 白色粒	良好	外面 2.5YR3/1 黒褐 内面 5YR4/3 にぶい赤褐	底部片	武蔵型甕
18	甕土上層	甕器 甕	(20.5) — —	口縁部は上下に厚ぼし、縁部になる。	回転力利用の成形。	海綿動物骨針 小礫 白色粒	普通	7.5Y4/1 灰 10YR1.7/1 黒	口縁部片	外面に障灰 南比企業産
19	床面	甕器 甕	— — —		胴部外面に平行引き、内面は平行引きに似た痕跡が残る。	黒色粒 白色粒	良好	7.5Y6/1 灰	胴部片	外面にスス付着 湖西産

マド由来の砂質粘土や焼土の混入が認められる。また、床面直上では、焼土が纏まって検出された。床面からは、炭化材も複数出土していることから、焼失家屋であると考えられる。

掘り方の底面はV層まで達し、中心部が浅く、壁側がやや深く掘り込まれている他、小さなビット状の掘り込みが複数確認された。掘り方の覆土は13層に細分され、各層とも、概ねⅢ・Ⅳ・Ⅴ層土のいずれかをベースとしている。また、明確な範囲等は確認できなかったが、床面より下で、部分的に硬化した範囲や遺物の出土が認められたことから、SI40では建物の建て替えが行われ、図示した床面よりも下部に旧床面が存在していた可能性も考えられる。

前述の通り、床面にて2基のビットが検出された。P1はカマドの焚口部手前で検出された。長軸28cm、短軸23cmの卵形で、深さは41cmを測る。黒色土ベースの覆土は6層に分けられ、うち1～4層が柱抜き穴の覆土のように見える。ただ、カマドの前面に位置しており、カマドとの併存は考えにくい。用途や構築時期は不明である。P2は南壁寄りの中央よりやや西に位置し、長軸16cm、短軸14cmの円形を呈し、深さ12cm、断面形状は箱状である。位置的には出入り用の梯子穴とも考えられるが、ビット底面が掘り方覆土内で収まっており、規模も小さいことから、用途は不明である。

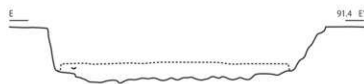
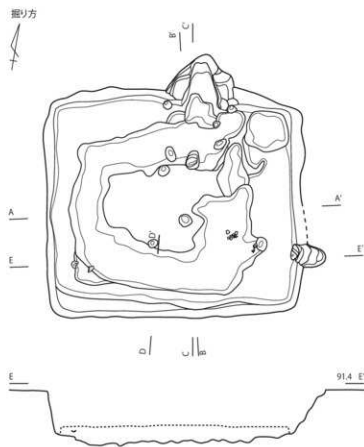
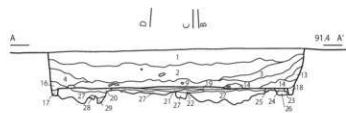
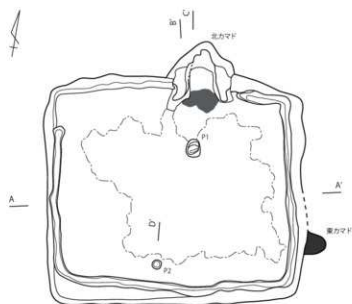
カマドは新旧2基が確認された。東カマドが古く、北カマドが新しい。

北カマドは、北壁の中心よりわずかに東寄りに位置する。カマドの調査着手時には建物の壁より奥の掘り込みが無い形状と考えられていたが、調査を進めるうちに、壁をV字状に掘り込んで構築されていることが明らかとなった。袖部は砂質粘土をベースとした構築材が用いられ、側壁は、下部は地山を掘り残したものを土台としており、その上に砂質粘土を積み上げて天井部まで構築していたものと思われる。奥壁は、調査時には、地山の掘り込み部分に砂質粘土が薄く貼られた状態であった。ただし、側壁、奥壁共に被熱の痕跡が見られないことから、カマド廃絶時に破壊もしくは粘土が採取された可能性もある。火床部は良好に遺存しており、焼土ブロックを多く含む被熱、硬化範囲が確認された。また、カマド掘り方でビット状の掘り込みが確認されたことから、左右袖には芯材が存在していたとみられる。

東カマドは、東壁の南寄りにU字状に掘り込んで構築されていた。北カマド構築より以前に使用されていたとみられ、東カマドの使用停止後、北カマドの機能時には燃焼室や奥壁部分は埋め戻されて壁の一部となっており、火床面を切って壁溝も構築されていた。袖部も取り払われて遺存していなかった。東カマドに伴う覆土は10層が認められ、このうち1層はカマド廃絶後に構築されたとみられる建物の貼床、2～5層がカマドを埋め戻して壁を復旧する際の埋め土で、砂質粘土や焼土粒子を多く含む土壌が用いられている。6～10層が東カマド構築時の痕跡と思われる。

出土遺物 土師器347点、須恵器120点、焼成粘土塊15点、石器3点、石製品1点、凝灰質砂岩切石片39点、礫76点、金属製品2点、炭化物65点の他、縄文土器1点と弥生土器・古墳時代前期の土師器59点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が多数出土している。図示した遺物のうち、須恵器は多くが破碎された状態で出土している。このうち覆土下層～床面で出土したものは、第430・432図1の土師器、6・11・12・13・16の須恵器である。23の須恵器甕の口縁部片は掘り方覆土からの出土である。その他の土師器、須恵器の多くは覆土の上層から下層に散在する状況で、特に



第 422 図 S140(1)(1/60)

SI40

1. 10YR1/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 15%・褐色スコリア 5%・黒色スコリア 5%、直徑 1mm 程度の浅褐色粘子 20%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 7%、直徑 3mm 以下の炭化物粘子 2% を含む。締まりやや強、粘性有り、粘子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 1mm 程度の浅褐色粘子 10%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 7%、直徑 3mm 以下の炭化物粘子 1% を含む。締まりやや強、粘性有り、粘子やや細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 10%、直徑 1mm 程度の浅褐色粘子 15%、直徑 3mm 以下の炭化物粘子 1% を含む。締まりやや強、粘性有り、粘子やや細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下のローム粘子 5%、直徑 5～10mm のロームブロック 2%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 15%、直徑 3mm 以下の炭化物粘子 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 7%、焼土 10% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%・粘土粘子 (10YR2/1) 20%、直徑 3mm 以下の焼土粘子 5%、直徑 5mm 以下の炭化物粘子 2% を含む。締まりやや強、粘性有り、粘子やや強い。
6. 10YR4/6 褐色土層 粘土土層、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 2mm 以下の焼土粘子 5%、長さ 10mm 以下の炭化物粘子 3% を含む。黒色土 (10YR2/1) 10% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性強、粘子細かい。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%、直徑 10mm 以下の焼土ブロック (10YR5/1) 30%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 10%、長さ 10mm 以下の炭化物粘子 3% を含む。粘土 15% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
8. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の焼土粘子 (10YR5/1) 10%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 10% を含む。粘土 40%、焼土 7% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 5%、ローム粘子 2%、直徑 10～30mm のロームブロック 2%、長さ 30mm 以下の炭化物粘子 5% を含む。焼土 7%、褐色土 (10YR4/6) 3%、暗褐色土 (10YR4/5) 5% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子細かい。
10. 10YR3/4 暗褐色土層 粘土土層、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の焼土粘子 20%、炭化物粘子 1% を含む。黒褐色土 10%、黒色土 5% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子細かい。
11. 10YR4/4 褐色土層 直徑 3mm 以下の焼土粘子 5%・炭化物粘子 1% を含む。黒褐色土 20%、粘土 (10YR4/6)・焼土 3% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
12. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の焼土粘子 7%、直徑 3mm 以下の炭化物粘子 2% を含む。粘土・焼土 30% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性強、粘子細かい。
13. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 3%・粘土粘子 2%、長さ 30mm 以下の炭化物粘子 10% を含む。暗褐色土 7% が顕微鏡に散見する。締まり強、粘性有り、粘子やや強、粘性やや強、粘子やや強い。
14. 5YR3/3 暗褐色土層 粘土土層、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 2%・焼土粘子 7%、長さ 50mm 以下の炭化物粘子 5% を含む。暗褐色土 3%、焼土 30% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子やや強い。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2% を含む。暗褐色土 20%、焼土 15% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
16. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア・ローム粘子 2% を含む。黒色土 7% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
17. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%・ローム粘子 5% を含む。暗褐色土 10% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子細かい。
18. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直徑 2mm 以下の焼土粘子 1% を含む。暗褐色土 20% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。
19. 10YR3/1 暗褐色土層 黒褐色土をベースとし、砂質粘土粘子 (10YR3/1) 8%、直徑 10mm 以下の同色の砂質粘土ブロック 1%、ローム粘子 2%、直徑 7mm 以下の焼土ブロック 1%、ローム粘子 10%、直徑 10mm 以下の扁平化したロームブロック 3%、直徑 10mm 以下の扁平化した黒褐色土ブロック 3% を含む。締まりは硬質で、粘性なし、粘子やや強い。厚土上。
20. 10YR2/1 黒色土層 黒褐色土をベースとし、ローム粘子 5% を含む。締まりは硬質で、粘性なし、粘子やや強い。厚土上。
21. 10YR3/2 暗褐色土層 黒褐色土をベースとし、砂質粘土粘子 (10YR3/2) 5%、直徑 15mm 以下の同色の砂質粘土ブロック 2%、焼土粘子 2%、直徑 5mm 以下の焼土ブロック 1%、ローム粘子 15%、直徑 10mm 以下の扁平化したロームブロック 10% を含む。締まり強、粘性有り、粘子粗い。厚土上。
22. 10YR1/1 黒色土層 黒褐色土をベースとし、砂質粘土粘子 (10YR1/1) 2%、直徑 5mm 以下の同色の砂質粘土ブロック 1%、ローム粘子 3%、直徑 7mm 以下の焼土ブロック 1% を含む。締まり強、粘性有り、粘子粗い。厚土上。
23. 10YR3/1 暗褐色土層 黒褐色土をベースとし、ローム粘子 15%、直徑 20mm 以下のロームブロック 5%、直徑 40mm 以下のロームブロック 5%、焼土粘子 1% を含む。締まり有り、粘性やや強、粘子粗い。
24. 10YR3/2 暗褐色土層 黒褐色土をベースとし、ローム粘子 25%、直徑 20mm 以下のロームブロック 15% を含む。締まりやや強、粘性有り、粘子粗い。
25. 10YR3/2 暗褐色土層 黒褐色土をベースとし、ローム粘子 15%、直徑 10mm 以下のロームブロック 2% を含む。締まりやや強、粘性なし、粘子粗い。厚土上。
26. 10YR4/4 褐色土層 黒褐色土とローム粘子ベース、締まりやや強、粘性有り、粘子粗い。
27. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 7mm 以下のロームブロック 1% を含む。締まり強、粘性有り、粘子粗い。
28. 10YR4/3 に近い黄褐色土層 ローム粘子 40%、直徑 10mm 以下のロームブロック 1% を含む。締まり強、粘性有り、粘子粗い。
29. 10YR2/5/1 暗褐色土層 砂質粘土粘子 (10YR2/5) 3%、ローム粘子 10% を含む。締まり強、粘性有り、粘子粗い。
30. 10YR3/2 暗褐色土層 ローム粘子 30% を含む。締まりは硬質で、粘性なし、粘子粗い。
31. 10YR3/1 暗褐色土層 砂質粘土粘子 (10YR3/1) 2%、直徑 5mm 以下の同色の砂質粘土ブロック 1%、ローム粘子 7%、直徑 7mm 以下のロームブロック 1% を含む。締まり強、粘性やや強、粘子粗い。

PI

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 3%・ローム粘子 5%、粘土粘子 (10YR5/1) 15%、炭化物粘子 2% を含む。暗褐色土 (10YR2/4) 2% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子やや強い。
2. 10YR1/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下のローム粘子 5%、直徑 2mm 以下の炭化物粘子 3% を含む。褐色土 (10YR4/6) 3% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子やや強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下のローム粘子 3% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 3%、褐色土 (10YR4/6) 10% が顕微鏡に散見する。締まり有り、粘性やや強、粘子粗い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 1% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 5%、褐色土 (10YR4/6) 15% が顕微鏡に散見する。締まり強、粘性やや強、粘子やや強い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2%・ローム粘子 7% を含む。褐色土 (10YR4/6) 2% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性有り、粘子粗い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下のローム粘子 3% を含む。褐色土 (10YR4/6) 20% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子粗い。

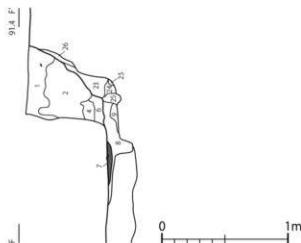
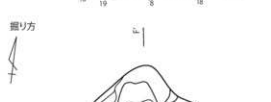
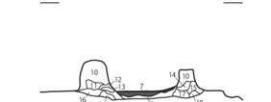
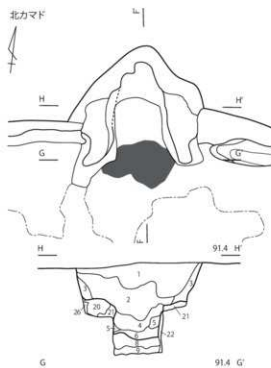
P2

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 各 3%、直徑 2mm 以下のローム粘子 2% を含む。褐色土 (10YR4/6) 2% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm の褐色スコリア 1%・ローム粘子 2% を含む。褐色土 (10YR4/6) 3% が顕微鏡に散見する。締まりやや強、粘性やや強、粘子粗い。

第 423 図 SI40(2)

21 の土師器裏は、破片が建物内の広範囲で確認されている。石製品 1 点 (第 431・433 図 25) は滑石製で、カマド付近の覆土中層から出土した。凝灰質砂岩切石片 39 点は、ほとんどが建物跡中央よりやや南東寄りの掘り方内からの出土である。その他、鉄鏝 2 点が出土し、26 は中心部付近の床面から、27 は南西寄りの覆土中層からの出土である。

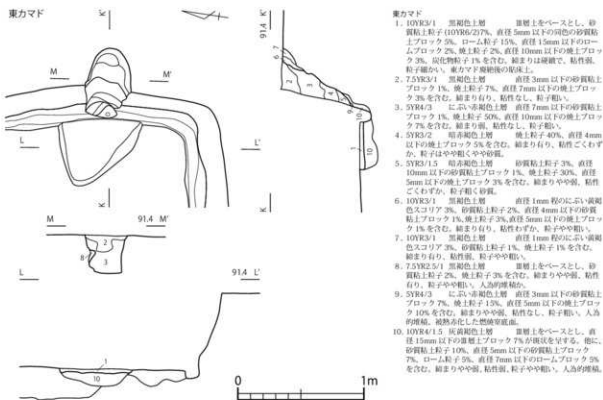
なお、石器のうち 1 点は縄文時代の尖頭器 (第 1 分冊第 64・71 図) 1 点で、掘り方底面から出土している。



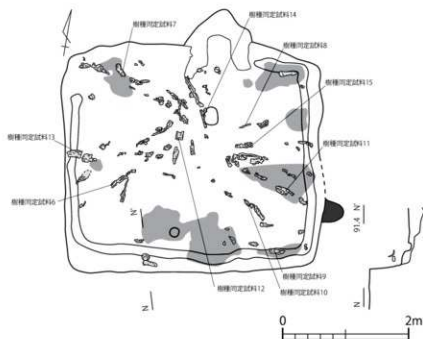
北カマド

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%、砂質粘土粒子 (10YR6/1) 15%、直径 5mm 以下の暗褐色の砂質粘土ブロック 5%、焼土粒子 3%、直径 7mm 以下の焼土ブロック 1%、炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性なし、粒子粗く砂質。
2. 7.5YR4/1 暗褐色土層 砂質粘土粒子 25%、直径 20mm 以下の砂質粘土ブロック 5%、焼土粒子 5%、直径 7mm 以下の焼土ブロック 3%、炭化物粒子 1%未満、長さ 10mm 以下の炭化材 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性ごくわずか、粒子粗く砂質。
3. 10YR2.5/1 黒褐色土層 黒土をベースとし、砂質粘土粒子 7%、焼土粒子 1%未満、直径 3mm 以下の焼土ブロック 1%未満を含む。締まり弱、粘性ごくわずか、粒子やや粗くやや砂質。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 砂質粘土、焼土粒子 1%未満を含む。締まり有り、粘性やや弱、粒子粗く砂質。天部断面側が顕著なもの。
5. 10YR4/2 灰黒褐色土層 砂質粘土主体、焼土粒子 2%、黒色土粒子 (10YR2/1) 2%、炭化物粒子 1%未満を含む。締まり弱、粘性有り、粒子やや粗く砂質。
6. 5YR4/1 暗褐色土層 砂質粘土粒子 10%、黒色土粒子 15%、焼土粒子 3%、直径 10mm 以下の砂質粘土 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性、粒子比較的細かい。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 灰黒土、直径 3mm 以下の暗褐色スコリア 2%、炭化物粒子 1%、直径 20mm 以下の焼土ブロック 20%を含む。締まりやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
8. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 3%、砂質粘土粒子 5%、直径 5mm 以下の焼土粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 3%、焼土 3%が顕著に露出する。締まりやや強いが、部分的にやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
9. 5YR2/1 暗褐色土層 黒土をベースとし、焼土粒子 2%を含む。締まり弱、粘性有り、粒子細く、人為的増強。
10. 10YR3/3 暗褐色土層 砂質粘土主体、直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%、焼土 2%が顕著に露出する。締まり有り、粘性、粒子細かい。
11. 10YR3/3 暗褐色土層 砂質粘土、直径 2mm 以下の焼土粒子 2%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
12. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、焼土 40%、砂質粘土 3%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子やや粗い。
13. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 3%を含む。暗褐色土 2%、黒色土 (10YR4/6) 7%が顕著に露出する。締まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
14. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 3%、砂質粘土 10%が顕著に露出する。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
15. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、炭化物粒子 3%を含む。砂質粘土 30%、暗褐色土 (10YR3/4) 7%が顕著に露出する。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
16. 10YR1/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%を含む。直径 5mm 以下の焼土粒子 7%を含む。砂質粘土 7%、暗褐色土 3%が顕著に露出する。締まり有り、部分的に強、粘性強、粒子やや粗い。
17. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 10%、炭化物粒子 1%を含む。黒色土 (10YR1/1) 12%、暗褐色土 7%、砂質粘土 3%が顕著に露出する。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
18. 10YR1/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%を含む。砂質粘土 30%、暗褐色土 3%、黒色土 5%が顕著に露出する。締まりやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
19. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%を含む。暗褐色土 1%、暗褐色土 3%が顕著に露出する。締まり弱い、粘性やや強、粒子細かい。
20. 10YR6/2 灰黒褐色土層 砂質粘土、締まり弱、粘性ごくわずか、粒子粗く砂質。
21. 10YR3.5/1.5 灰黒褐色土層 黒土をベースとし、砂質粘土粒子 20%、直径 25mm 以下の砂質粘土ブロック 3%を含む。締まり有り、粘性ごくわずか、粒子粗く砂質。
22. 5YR4/1 暗褐色土層 カマド掘り方から採取した砂質粘土で、下部は被焼熱帯土であり、上部は被焼熱帯土化度が若干低い。焼土粒子 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子比較的細かい。
23. 10YR5/2 灰黒褐色土層 砂質粘土、焼土粒子 1%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子比較的細かい。
24. 5YR3/1 暗褐色土層 砂質粘土に黒土が混在。砂質粘土粒子 40%を含む。締まり弱、粘性有り、粒子粗く砂質。
25. 7.5YR4/2 暗褐色土層 砂質粘土をベースとし、ローム粒子 20%、暗褐色土粒子 10%を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子比較的細かい。
26. 7.5YR3/1 暗褐色土層 砂質粘土粒子 1%未満を含む。締まり有り、粘性なし、粒子細かい。
27. 10YR4/2 灰黒褐色土層 焼土粒子 (2.5Y6/1) 粘土粒子 (2.5Y6/2) 5%、直径 5mm 以下の粘土ブロック (2.5Y6/1) 粘土ブロック (2.5Y6/2) 3%、ローム粒子 10%、直径 25mm 以下のロームブロック 2%、直径 25mm 以下の黒土ブロック 2%、焼土粒子 1%、直径 7mm 以下の焼土ブロック 1%、炭化物粒子 1%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粒子粗くやや砂質。人為的増強。粘土被焼に覆上。

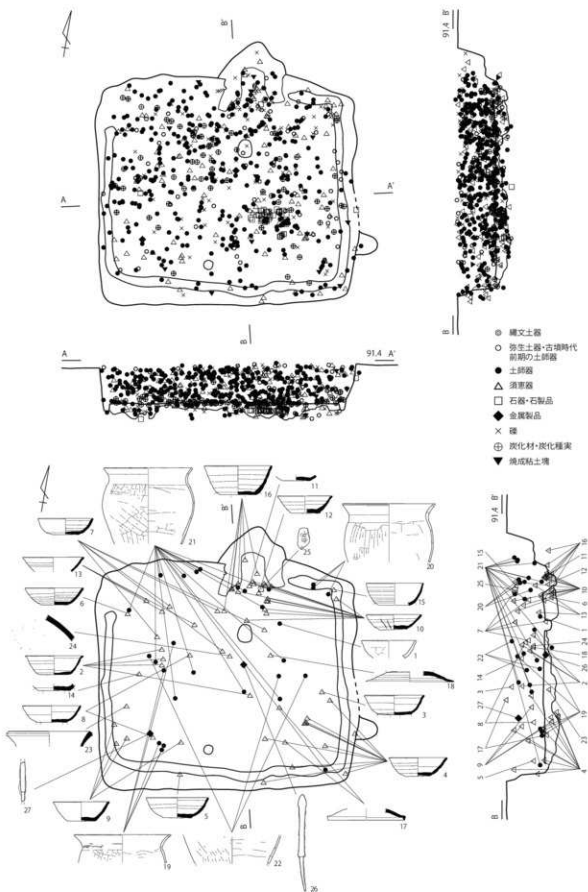
第 424 図 SI40(3) 北カマド (1/30)



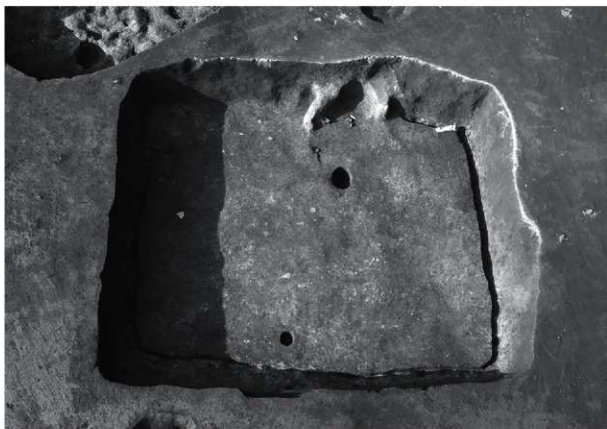
焼土・遺物出土状況



第 425 図 SI40(4) 東カマド (1/30)・焼土・遺物出土状況図 (1/60)



第 426 図 SI40(5) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI40 全景 (南南東から)



2. SI40 土層断面 A-A' (南南東から)



3. SI40 土層断面 B-B' (東北東から)



4. SI40 掘り方土層断面 A-A' (南南東から)



5. SI40 掘り方全景 (南南東から)

第 427 図 SI40 写真 (1)



1. SI40 P1 土層断面 (東北東から)



2. SI40 P2 土層断面 (東から)



3. SI40 遺物出土状況 (北から)



4. SI40 遺物出土状況 (東北東から)



5. SI40 遺物出土状況 (東から)



6. SI40 炭化材検出状況 (西から)



7. SI40 焼土・炭化材検出状況 (南南東から)



8. SI40 焼土・炭化材検出状況 (南東から)

第 428 図 SI40 写真 (2)



1. SI40 東カマド掘り方全景(西から)



2. SI40 東カマド土層断面 M-M'(西から)



3. SI40 北カマド全景(南から)



4. SI40 北カマド掘り方全景(南から)



5. SI40 北カマド土層断面 F-F'(南南東から)



6. SI40 北カマド土層断面 H-H'(南から)

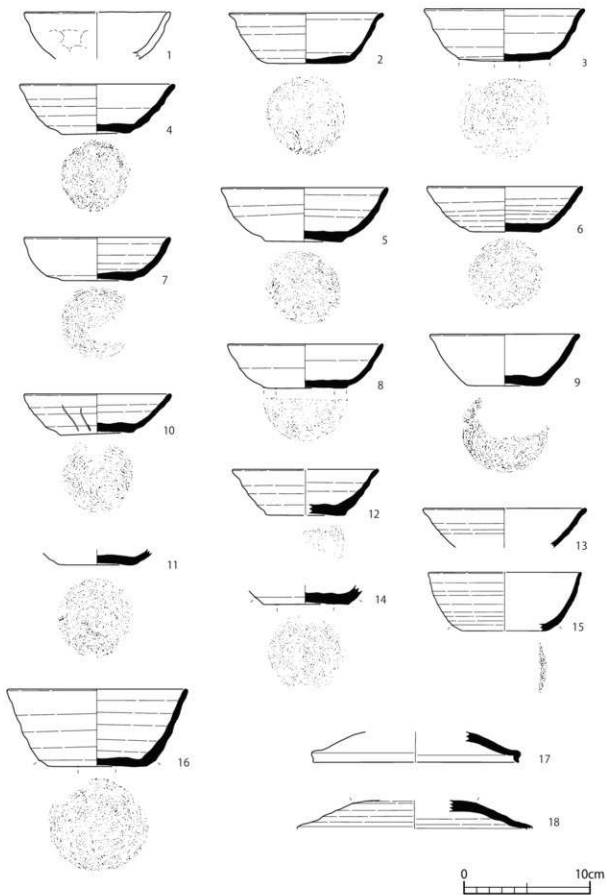


7. SI40 北カマド土層断面 H'(南から)

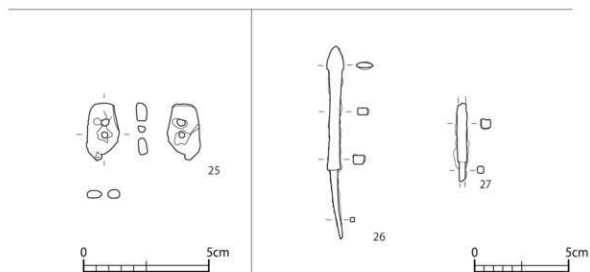
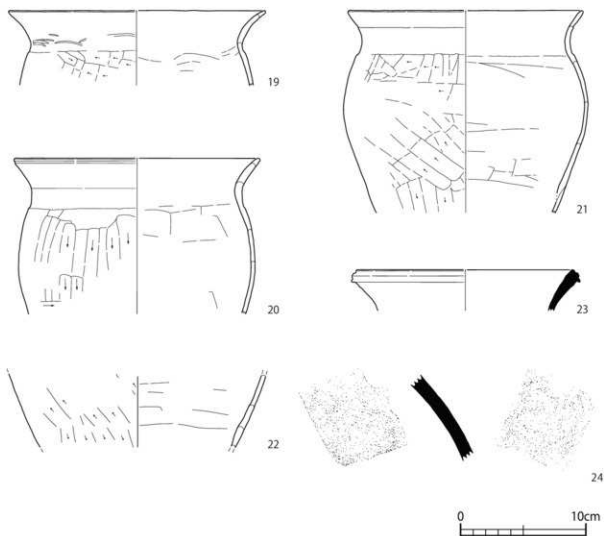


8. SI40 北カマド掘り方土層断面 G-G'(南から)

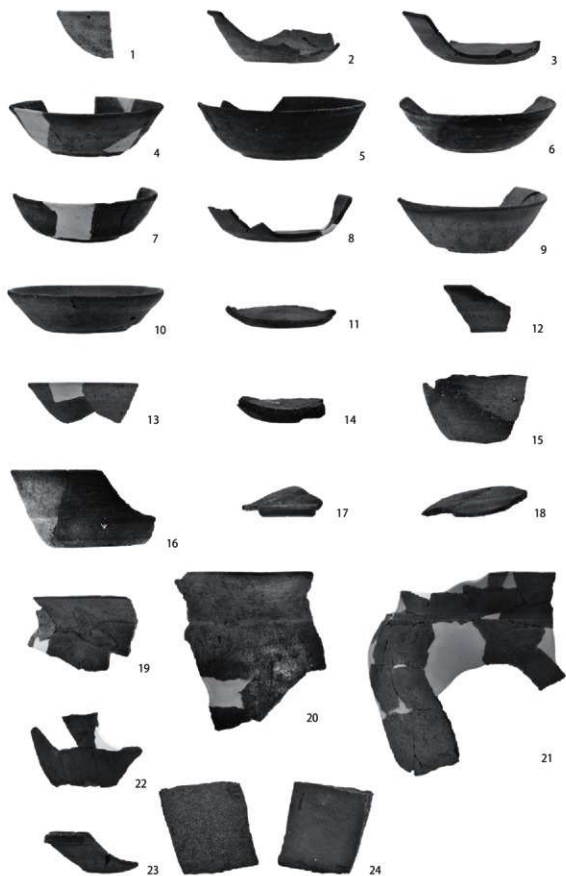
第 429 図 SI40 写真 (3)



第430図 SI40出土遺物(1)(1/3)



第431図 SI40出土遺物(2)(1/3・2/3・1/2)



第432図 SI40出土遺物写真(1)



第433図 SI40出土遺物写真(2)

土器 第430・432図1は土師器環である。体部は指圧調整され、南武蔵型環と判断される。

2～13は須恵器環である。4・5・6はほぼ完存し、口径は4が12.0cm、5が13.0cm、6が12.3cm、底径は4が5.5cm、5が6.2cm、6が5.8cm、器高は4が4.0cm、5が4.3cm、6が3.6cmを測る。2・7・9・10も底部が回転系切りで切り離され、調整は施されていない須恵器環である。口径は11.4～12.1cmにおさまり、底径が5.8～6.2cm、器高が3.3～4.1を測る。3・8は底部が回転系切りで切り離され、回転ヘラケズリ調整が施された須恵器環である。口径は3が12.9cm、8が12.1cmで、底径は3が7.5cm、8が6.7cmを測る。11は回転系切りで切り離された須恵器環で、底部が完存し、底径6.4cmを測る。12も回転系切りされた須恵器環で、推定口径は11.4cm、底径は6.4cmを測る。13は口縁部から体部が遺存する須恵器環で、推定口径は12.7cmである。14～16は須恵器埴である。14の埴は坏か埴かの判断がむずかしい。いずれも体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されている。15の体部は内湾気味に立ち上がり、16は口径14.0cm、器高6.1cm、底部7.9cmを測り、口縁部の外反はほとんどみられない。17・18は須恵器蓋である。17の口縁端部は短く屈曲する形態で、18の天井部には回転ヘラケズリ調整が施される。4・6・7・9～17は東金子窯産須恵器、3・5・8・18は南比企窯産須恵器と推定される。2の生産地は不明である。

第431・433図19～22は土師器甕である。19～21の甕の口縁部はく字状に外反し、口縁部はヨコナデ、胴部外面のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整される。19・21の胴部上半は横方向にヘラケズリ調整されるが、20は縦方向にヘラケズリ調整される。19・21は武蔵型甕となろう。22も武蔵型甕で、外面がヘラケズリ調整、内面がヘラナデ調整される。23・24は須恵器甕である。23は口縁部片で、口縁端部が縁帯状にめぐる。24は胴部片で外面に平行叩き痕、内面には一部に無文のあて具痕の痕跡が観察される。

石製品 第431・433図25は透かし孔のみられる石製品で、石質は滑石である。中央に2つの円孔が穿たれている。所属する時代は断定できないが、本住居跡の覆土から出土したことからSI40出土の遺物として掲載した。

金属製品 第431・433図26は完形の長頸鑿箭筒式の鉄鏃である。鏃身部は三角形状を呈している。

第 49 表 SI40 出土土器観察表(1)

図 番号	部位	器種	法量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕土下層	土師器 環	(11.3) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	口縁部はヨコナデ。体部は削正調整と認められる。内面はナデ調整される。	石英 褐色粒	やや軟質	5YR6/6 橙		南武蔵型環
2	甕土中層 ・下層・ 包含層 (320±2: 日層)	土師器 環	(12.1) 4.0 6.2	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 チャート 白色粒	やや軟質	5YR6/4 にぶい橙	平定形	産地不明
3	甕土上層 ・包含層 (320±2: 日層)	土師器 環	(12.9) 4.3 7.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転ヘラケズリ調整されるが、中央には回転糸切りの痕跡が残る。	海綿動物骨針 長石 チャート 白色粒	良好	5Y6/1 灰	平定形	南比企業産
4	甕土上層 ・床面・ 胎床内	土師器 環	12.0 4.0 5.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 黒色粒	やや軟質	外面 5Y6/1 灰 内面 2.5YR5/1 赤灰	ほぼ完成形	東金子産
5	甕土中層	土師器 環	13.0 4.0 6.2	体部は内湾し立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	海綿動物骨針 長石 チャート 白色粒	良好	10BG4/1 暗青灰	ほぼ完成形	底部外面に「1」のヘラ記号 内外面に火野組 南比企業産
6	胎床内	土師器 環	12.3 3.6 5.8	体部から口縁部へと内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	長石 チャート 白色粒	良好	5Y6/1 灰	ほぼ完成形	東金子産
7	甕土上層 ・床面・ 包含層 (320±2: 日層)	土師器 環	11.4 3.4 5.8	体部は内湾し立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	外面 5B4/1 暗青灰 内面 10Y5/1 灰	平定形	東金子産
8	甕土中層	土師器 環	(12.1) 3.5 6.7	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラケズリ調整を施している。	海綿動物骨針 長石 チャート 白色粒	良好	5B5/1 青灰		南比企業産
9	甕土中層 ・床面・ 包含層 (320±13: 日層)	土師器 環	11.6 4.1 6.2	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	石英 白色粒	軟質	5Y7/1 灰白	ほぼ完成形	東金子産
10	甕土上層 ・床面・ 北カマド 火床部上 ・掘り方内	土師器 環	11.8 3.3 6.0	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	5Y5/1 灰	ほぼ完成形	体部外面に櫛刻 東金子産
11	北カマド 火床部上	土師器 環	— 6.4	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 チャート 白色粒	良好	5BG5/1 青灰	底部は 完成	内面に降灰 東金子産
12	北カマド 内	土師器 環	(11.4) 3.7 (6.4)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 白色粒 褐色粒	普通	5BG6/1 青灰		東金子産
13	甕土下層 ・下層 焼土内	土師器 環	(12.7) — —	体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転糸切りの成形。	小礫 白色粒	軟質	7.5Y7/1 灰白 7.5YR7/3 にぶい橙	口縁部片	東金子産
14	甕土中層 ・包含層 (320±2: 日層)	土師器 環	— 6.8	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、体部下端から底部外周にかけて回転ヘラケズリ調整が施される。器壁は厚い。	小礫 白色粒	良好	5PB3/1 暗青灰	底部 ほぼ完成	底部外面にヘラ 記号 東金子産
15	甕土上層	土師器 環	(13.8) 5.3 (7.8)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	体部下端から底部外周にかけて回転ヘラケズリ調整が施されている。	長石 チャート 白色粒	良好	5B5/1 青灰		東金子産
16	床面・ 北カマド内 ・同火床部 ・掘り方内	土師器 環	(14.0) 6.1 7.9	体部はやや直線気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央には回転糸切り痕が残っている。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	5BG5/1 青灰	平定形	東金子産
17	甕土上層 ・床面	土師器 環	(10.2) — —	口縁端部は短く屈曲する。	回転糸切りの成形。	小礫 チャート 白色粒	やや軟質	外面 7.5YR5/3 にぶい黄 内面 5YR5/3 にぶい赤黄	口縁部片	東金子産

第49表 SI40 出土土器観察表(2)

図 番 号	層位	器種	注記	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 430 ～ 432 図	18 覆土下層	須恵器 蓋	— —	天井部は比較的水平。口縁部はごく一部直線が遺存している。	天井部は回転ヘラケズリ調整される。	海胆動物骨片 長石 チャート 白色粒 黒色粒	良好	7.5Y5/1 灰		南比企業産
第 433 ～ 432 図	19 覆土上・下層	土師器 甕	(20.2) —	口縁部はく字状に外反し、最大径を有する。	口縁部はヨコナデ、胴部上半は横方向や斜方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。器壁は薄い。	石英 角閃石	良好	2.5Y5/4 にふい赤褐		武蔵型甕
	20 覆土中層・中層 焼土内	土師器 甕	(19.3) —	口縁部はく字状にゆるく外反する。胴部はやや膨らむ。	口縁部はヨコナデ、胴部上半は横方向のヘラケズリ調整、中央には横方向のヘラケズリ調整もみられる。内面はヘラナデ調整される。	小礫 石英	良好	外面 7.5YR5/4 にふい橙 内面 5YR5/2 灰褐		
	21 覆土上層 ～床面・中層 焼土内・貼床内	土師器 甕	(18.5) —	口縁部はく字状にゆるく外反する。胴部は膨らみ、胴部上半に最大径を有する。	口縁部はヨコナデ、胴部上半は横方向、中央以下が斜方向や縦方向のヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整される。器壁は薄い。	石英 角閃石 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐		武蔵型甕
	22 覆土上へ下層	土師器 甕	— —	胴部は膨らむ。	胴部外面は斜方向や縦方向のヘラケズリ調整、内面はナデ調整される。	石英 角閃石 白色粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐	胴部片	武蔵型甕
	23 床面	須恵器 甕	(17.1) —	口縁部は肥厚し、縁帯を形成し、中央が凸線状に盛り上がる。	回転力利用の成形。	小礫 長石 白色粒	良好	外面 5B4/1 暗青灰 内面 5B3/1 暗青灰	口縁部片	内面に降灰 東金子窯産
	24 覆土下層	須恵器 甕	— —		胴部外面は平行引き、内面は無文の当て具がわずかに観察される。	小礫 長石 チャート 白色粒	良好	5Y5/1 灰	胴部片	外面に降灰 東金子窯産

鉄身部・頸部・茎部と遺存し、全長は102mmを測る。27は鉄身の頸部・茎部片と思われる。頸部の断面は5×5.5mmのほぼ方形を呈している。

炭化材 覆土下層から、複数の炭化材が焼土を伴って出土した。出土状態は、壁際から中心部へ向かっている傾向にあり、竪穴建物の上屋を構築していた木材が、火災により炭化・崩落した可能性が考えられる。そのうち10点で樹種同定を実施し、8点がクリ、2点がコナラ属アカガシ亜属であった(第V章第3節参照)。

炭化種実(点上げ) 西壁寄りの床面付近から、炭化したモモの核が出土している。

出土した須恵器環には、南比企業跡群嶋山編年のHVI期やHVII期、HVIII期に類似しているものが認められる。遺構の時期は9世紀中葉から後葉を想定しておきたい。

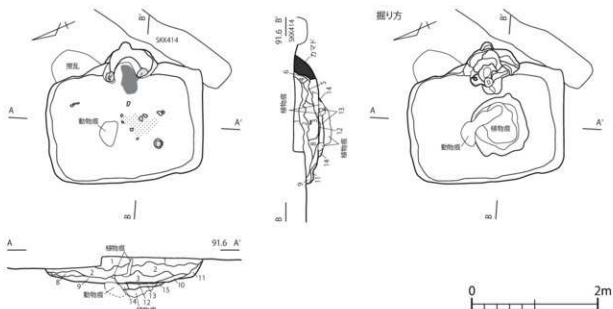
SI51(第434～439図、第50表)

遺構 調査区中央部北側の320-23グリッドに位置する小型の竪穴建物跡である。検出面はⅢ層上で、近世以降のSKK414及び掘乱に切られている。また、北壁及び西壁の大部分は、検出前に包含層とともに掘り下げてしまったため、検出面が低くなっている。

平面形態は長方形で、長軸(南北)250cm、短軸(東西)224cm、検出面から床面までの深さは44cmを測る。壁は内湾気味に立ち上がっているが、西壁は、微小な段差を有している。主軸方向はS-67°-Wを指す。

中心部分を除き、掘り方の底面であるⅢ3層上を直接床面としており、全体にわずかな凹凸を有する。硬化面は形成されていなかった。壁溝や柱穴は無く、カマドは東壁に構築されていた。また床面には動物の巣穴とみられる掘乱があった。

床面までの覆土は11層に細分され、その多くは黄褐色スコリアを含む黒色土層である。カマド付



SS1

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 10%・褐色スコリア 5%、直径 4mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 2%、黒色スコリア 3%、炭化物粒子 1%を含む。締まり有るの部分にやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 2%・焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 7%、黒褐色土 (10YR2/2.5) 5%、粘土 (10YR5/4) 20%が混在に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子やや粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 1%、粘土粒子 15%、焼土粒子 2%、長さ 10mm 以下の炭化物 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 15%、粘土・黄褐色土 (10YR5/4) 3%が混在に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子やや粗い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1%、直径 4mm 以下の焼土粒子 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 3%、焼明褐色土 (7.5YR2/3.5) が混在に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
6. 5YR3/4 暗赤褐色土層 焼土主体、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の粘土粒子 3%、直径 30mm 以下の焼土粒子 7%を含む。粘土 2%が混在に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
7. 7.5YR2/3 焼明褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 20%、直径 10～20mm の焼土ブロック 1%を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 3%、黒色土 (7.5YR2/1) 5%が混在に混じる。締まり有るの部分にやや強、粘性やや強、粒子やや粗い。
8. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 1%、長さ 10mm 以下の炭化物 1%を含む。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1%、直径 1mm 程度の褐色スコリア 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.5) が混在に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 7%、粘土 1%が混在に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
11. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 2%が混在に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
12. 10YR3/3 暗褐色土層 粘土主体、直径 3mm 以下の焼土粒子 7%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。褐色土 (7.5YR4/4) 5%、黒褐色土 (10YR2/2.5) が混在に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
13. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各 2%、焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。粘土 5%が混在に混じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。
14. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 2%が混在に混じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 1%が混在に混じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。

第 434 図 SI51(1)(1/60)

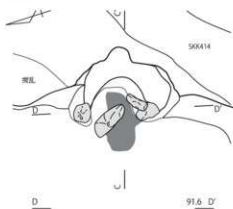
近ではカマド由来の粘土や焼土の混入が認められ、特に 6・7 層では焼土の混入が顕著にみられた。

床面は、中心部分のみ直径 95cm 程度レンズ状に掘り窪められており、黒褐色土を充填した後、粘土主体の暗褐色土 (12 層) で蓋をして、床面を再構築している。この掘り方状の部分については、更にその下部に植物痕が認められることから、SI51 構築時、床下に存在していた地盤の弱い植物痕部分の土壌を除去した後に別の土壌で埋め、補強したものと考えられる。

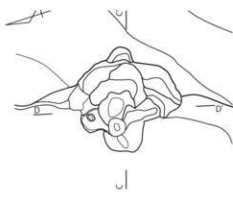
カマドは、東壁の中心部を台形状に掘り込んで構築されている。左右の袖には大型の礫による芯材が遺されていた。袖部はその芯材より奥が遺存しており、主に砂質粘土を混和した黒褐色土で構築されている。焚口付近の火床部上からも大型礫が出土しており、天井石として用いられていた可能性が考えられる。奥壁も、焼土や砂質粘土の混和された構築材が用いられている。火床部は狭い範囲であるが確認することができた。

出土遺物 土師器 18 点、須恵器 12 点、石器 1 点、礫 28 点、炭化物 6 点、その他 1 点の他、縄

カマド

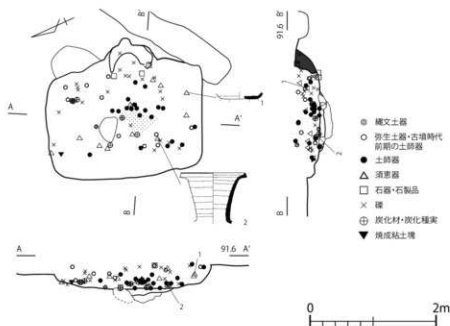


掘り方



カマド

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%、炭化物粒子1%を含む。暗褐色土(7.5YR3/4)7%、粘土(10YR4/3)30%が焼状に混じる。結まりやや弱、粘性やや強。
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子7%・炭化物粒子3%を含む。暗褐色土(7.5YR3/4)30%、粘土(10YR4/3)7%が焼状に混じる。結まりやや弱、粘性やや強。
3. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子20%、直径3mm以下の炭化物粒子20%を含む。暗褐色土(10YR2/3)5%が焼状に混じる。結まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子15%、直径2mm以下の炭化物粒子1%を含む。黒色土(10YR2/1)2%、暗褐色土(7.5YR3/4)7%が焼状に混じる。結まりやや弱、粘性強、粒子やや粗い。
5. 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の炭化物粒子1%を含む。焼土30%を含む。結まりやや弱、粘性有、粒子やや粗い。
6. 7.5YR4/4 褐色土層 灰床部、直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・焼土粒子10%、直径2mm以下の炭化物粒子2%を含む。黒色土(10YR2/2)5%が焼状に混じる。結まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 灰床部、直径5mm以下の焼土粒子7%・炭化物粒子3%を含む。暗褐色土(10YR3/3)8%、褐色土(7.5YR4/4)が各3%焼状に混じる。結まり・粘性強、粒子細かい。
8. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア2%、直径3mm以下の褐色スコリア3%、直径5mm以下の焼土粒子10%、直径10～20mmの粘土ブロック3%を含む。粘土(10YR5/3)40%が焼状に混じる。結まり有、粘性強、粒子細かい。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子3%・炭化物粒子1%・粘土粒子2%を含む。結まり有、粘性強、粒子細かい。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子3%・粘土粒子5%、直径10mmの粘土ブロック1%、直径2mm以下の炭化物粒子1%を含む。粘土(10YR5/3)3%が焼状に混じる。結まり有、粘性強、粒子細かい。
11. 10YR2/3 暗褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子10%、直径1mmの炭化物粒子1%を含む。褐色土(7.5YR4/4)10%、粘土(10YR5/3)10%が焼状に混じる。結まり有、粘性強、粒子細かい。
12. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%を含む。褐色土(7.5YR4/4)3%が焼状に混じる。結まりやや強、粘性強、粒子やや粗い。
13. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%、直径3mm以下の焼土粒子3%・炭化物粒子2%を含む。褐色土(7.5YR4/4)5%が焼状に混じる。結まり有、粘性強、粒子細かい。



第435図 S151(2)カマド(1/30)・遺物分布図(1/60)



1. SI51 全景 (西北西から)



2. SI51 土層断面 B-B' (南南西から)



3. SI51 掘り方土層断面B-B'床面中央部 (南南西から)



4. SI51 遺物出土状況 (西北西から)



5. SI51 掘り方全景 (西北西から)

第 436 図 SI51 写真 (1)



1. SI51 カマド全景(西北西から)



2. SI51 カマド検出状況(西北西から)



3. SI51 カマド土層断面 D-D'(西北西から)

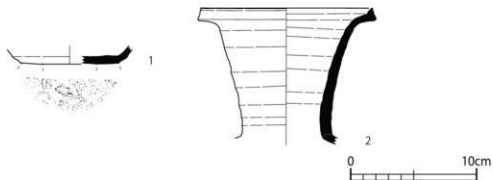


4. SI51 カマド掘り方土層断面 C-C'(南南西から)



5. SI51 カマド掘り方土層断面 D-D'(西北西から)

第 437 図 SI51 写真(2)



第438図 SI51出土遺物(1/3)



第439図 SI51出土遺物写真

第 50 表 SI51 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 438 ・ 439 図	1	須恵器 中層 杯	— (7.7)	底部は平底。体部下半は 内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、 外周に回転ヘラケズリ調整が施さ れている。	小礫 褐色粒	やや軟質	外面 SYR6/4 にぶい・橙 内面 SYR6/6 橙	底部片	東金子窯産
	2	須恵器 長頸瓶	13.5 —	口頸部はラッパ状に広がり、 口縁端部は上下に肥厚し、 口縁端部外面が沈線状になる。 縁帯を形成する。	精巧なつくり。口口調整痕が目 立つ。口頸部と胴部の接合痕跡が 顕著。	緻密 小礫 黒色粒	良好	SP83/1 暗青灰	口頸部は 完存	内外面に降灰 外面に自然釉 産地不明

文土器 1 点及び弥生土器・古墳時代前期の土師器 10 点が出土した。

遺物出土状況 上層から下層にかけて遺物が出土している。土師器は比較的床面中央部に纏まっている。図示した 2 点のうち、第 438・439 図 1 は覆土中層から、2 は下層の床面付近からの出土である。出土した炭化種実 1 点はカキノキの種子である。

土器 第 438・439 図 1 は須恵器杯の底部片である。底部外面に外周回転ヘラケズリ調整が施される。2 は須恵器長頸瓶である。口頸部が完存し、胎土・焼成とも良好で、つくりも精巧である。外面に自然釉が掛かっている。1 は東金子窯産と思われるが、2 の生産地は不明である。

炭化種実（点上げ） カキノキの種子が検出された。

須恵器杯から遺構の時期は 8 世紀後葉と想定される。

SI53（第 440～451・554 図、第 51・61 表）

遺構 調査区北東端の 34N・8・17・18・19・28・29 グリッドに位置する大型の竪穴建物跡もしくは竪穴状遺構である。検出面はⅢ層上で、SD10、SDK895、SKK719・788 の各遺構及び掘削に切

られている。また、既設の電柱があり、東側の大部分が調査区外へと続いているため、その部分は未調査となっている。

平面形態は長方形で、調査範囲内での長軸（南北）683cm、短軸（東西）589cm、検出面から床面までの深さは46cmを測る。壁は概ね垂直に立ち上がっている。主軸方向はN-13°Eを指す。

床面は貼床で、全体的に平坦である。硬化面は、壁際の一部を除くほぼ全面で確認された。調査範囲内において、カマドは検出されなかった。北壁もしくは東壁に構築されていたものと想定される。壁溝は、調査範囲内においては壁直下に巡っている。柱穴は、全部で11基（P1～11）が検出された。

床面までの覆土は5層に分けられた。そのうち1層はⅡ2層に相当する黒色土、3～4層は焼土の粒子やブロックを含む黒褐色土である。5層は壁の崩落土とみられるⅢ層土をベースとした黒色の土壌で、南壁沿いの一部のみで見られる。

掘り方はVS層まで達しており、調査範囲内で見える限りでは、壁沿いがやや深く掘り込まれているようである。掘り方の覆土は9層からなり、17・19層を除いてはⅢ層土をベースとしている。また、11～14層は締まりが極めて強い。範囲を面的に捉えることはできなかったが、床面が数次にわたって形成されていた可能性を有している。

壁溝は調査範囲内においては全周しており、幅12～17cm、深さ5～20cmを測る。断面はU字状で、土層断面A-A'、B-B'の観察では、壁の崩落を防ぐための「壁帯」の痕跡もしくはその抜き取り痕（6・7層）を確認することができた。

確認された11基のピットのうち、P1～7は建物の壁部分に据えられた側柱である。P1は東壁の南寄りに位置し、長軸39cm、短軸38cm、検出面からの深さ90cm、床面からの深さ38cmを測り、底面の形態は楕円形を呈する。覆土のうち7～9層は柱穴掘り方の覆土で、1～3は柱痕跡もしくは柱抜き穴覆土と考えられる。P2は南壁の東寄りに位置し、平面形態は検出面では卵形、底部では方形を呈し、長軸43cm、短軸30cm、検出面からの深さ106cm、床面からの深さ57cmを測り、下部は南側がややオーバーハングしている。覆土のうち1層は壁帯の痕跡の可能性があり、2～5層は柱抜き穴の埋め戻し土、6層は底面の敷き均し土、7層は柱穴掘り方の覆土と考えられる。P3は、当初は単独のピット（SP576）として調査したが、後にSI53に伴うことが明らかとなった。南壁の中央部よりやや西に位置し、長軸41cm、短軸32cm、検出面からの深さ88cm、床面からの深さ47cmで、下部は建物の内側がややオーバーハングしている。P4は南壁の西寄りに位置し、長軸44cm、短軸42cmの円形で、検出面からの深さは99cmを測る。5層からなる覆土のうち、1～3層は柱抜き穴の埋め戻し土、4・5層は柱穴掘り方の覆土である。下部は南側がややオーバーハングしている。P5は、当初は単独のピット（SP577）として調査したが、後にSI53に伴うことが明らかとなった。西壁の南端に位置し、円形を呈する。長軸51cm、短軸45cm、検出面からの深さ78cm、床面からの深さ39cmを測る。覆土は4層からなるが、柱の痕跡等は検出されなかった。P6は西壁の中央より南寄りに位置し、楕円形を呈する。長軸65cm、短軸42cm、検出面からの深さ94cmを測り、下部は建物の外側がややオーバーハングしている。覆土は8層からなり、1・2層は柱痕跡、3～8層は柱穴掘り方の覆土である。P7は西壁の北端に位置し、楕円形を呈する。長軸40cm、短軸33cm、検出面からの深さ97cm、床面からの深さ56cmを測り、下部は西側にオーバーハングしている。覆土は、P7に伴うものは土層断面C-C'のうち1～7・10・11層である。3～7

層は柱抜き取り穴の埋戻し土、11層が柱穴掘り方覆土、12層が底部の敷き均し土である。なお、調査範囲内においては、北壁側では側柱は検出されていない。また、P6とP7の間は攪乱されているが、他のピットの間隔から考えると、本来は両ピットの間に1基のピットがあったことが想定される。

P8は床面に位置し、主柱穴と考えられるピットである。四本柱であった場合、他の3基は、調査範囲外もしくは本来は攪乱内に位置していたものと想定される。長軸34cm、短軸31cmの楕円形で、床面からの深さは70cmを測る。覆土は3層からなり、最上層の1層は締まりが硬緻であることから、柱の抜き取り後、最終的に1層土で埋め戻し、貼り床状に突き固めたものと想定される。P9はP8の北東側に隣接し、主柱穴の可能性のあるピットである。掘り方覆土の掘削時に検出された。土層断面A-A'及びM-M'の観察では15層を掘り込んでおり、上部が12層で広く覆われている。そのため、床面（12層上）から掘り込まれているP8よりは古いと言える。規模は長軸48cm、短軸46cm、検出面からの深さは53cmを測り、底面は平坦である。覆土は3層に分けられ、いずれも柱抜き取り後の埋め戻し土である。

P10・11は掘り方底部で検出された小ピットで、西壁沿いで検出された。いずれもⅢ層土をベースとする黒褐色土を覆土としている。

前述の通り、調査範囲内においては、カマドは検出されなかった。

ここまでの状況から、建物の上屋構造に関連しそうな柱穴（ピット）は側柱と主柱穴の2種類があると言える。すなわち、側柱P1～7、最終床面から掘り込まれた主柱穴P8、P8より古い主柱穴P9である。

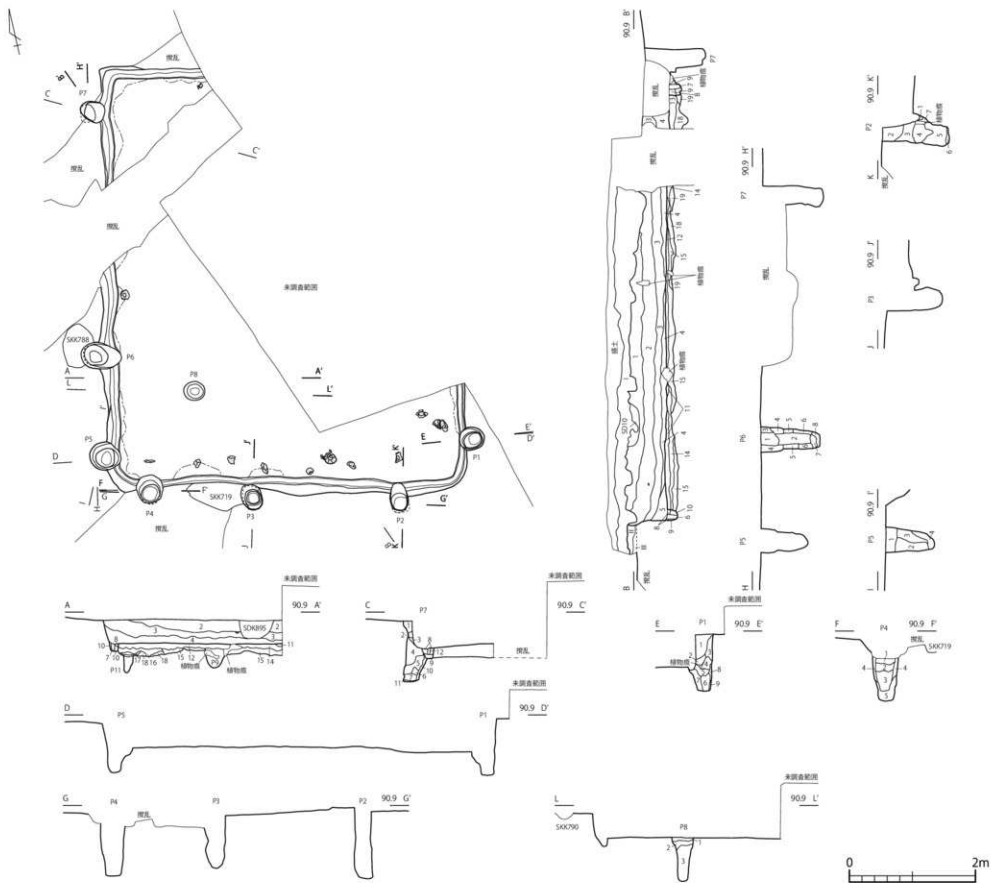
これらの前後関係について、P8・9の関係は既に述べた通りだが、P8・9と側柱の関係について若干考察したい。

側柱P1～7のうち、断面の観察から、壁溝及び壁帯とみられる痕跡より明らかに古いものはP1・7である。また、P6の断面を観察すると、検出面まで柱痕跡（1・2層）が残存しているのが確認できることから、P6が機能していた時点では、壁はP6より内側（東側）にあったと想定できる。このことから、調査時は側柱と壁は接していたが、本来、調査時より一回り狭かった堅穴の外側に、やや内側に傾斜して側柱が立てられていたが、側柱を抜き取って埋め戻したのちに、柱を床面に移設したと想定した。また、床面の柱についても新旧2時期（旧：P9の時期、新：P8の時期）があり、また、そのいずれかの段階で壁を広げ、壁帯で壁の補強を行ったものと思われる。最終的にはP8も抜き柱の後に埋め戻されているようであり、その際の柱がどうなっていたのかは不明である。

なお、前述の通り、床面は数次にわたって貼り直しが行われたようであるが、柱の変遷との関連は不明である。

出土遺物 土師器149点、須恵器92点、石器1点、礫31点、金属製品2点、炭化物3点の他、縄文土器10点及び弥生土器・古墳時代前期の土師器15点が出土した。

遺物出土状況 遺物は、主に覆土の中層から下層にかけて遺物が出土している。図示した遺物のうち、第449・451図1の土師器、3・4・第450・451図16の須恵器、大形の礫等、多くが覆土の下層にあたる3層から出土している。また、第449・451図8の墨書のある須恵器は貼床内から、9の坏は覆土下層～床面、壁溝内、P3内に破片が分散して出土している。その他、金属製品は第450・451図22の鉄鏃が覆土下層、23の鉄製品が覆土の中層から、炭化種実のモモの核は覆土下



第440図 S153(1)(1/60)

953

- [illegible]

P1

- [illegible]

P2

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 1. IYVZ-1/1 | 黒色色上層 | 直径 1m 以下の黒色スフィアを、直径 3mm 以下の白色スフィアを、直径 20mm 以下の黒質土ブロック 5% を含む。細まり有り、粘りわずら。粘土粒子の凝集性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強無し。 |
| 3. IYVZ-3/5 | 黒色色上層 | ローム粉土 15%、直径 10mm 以下のロームブロックを含む。細まり・粘り増強、粘り増強性、粘土粒子の凝集性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強無し。 |
| 4. IYVZ-3/2 | 黒色色上層 | ローム粉土 20%、直径 10mm 以下のロームブロック 10% を含む。細まり・粘り増強、粘り増強性、粘土粒子の凝集性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強無し。 |
| 5. IYVZ-2/2 | 黒色色上層 | ローム粉土 20%、直径 10mm 以下のロームブロック 10% を含む。細まり・粘り増強、粘り増強性、粘土粒子の凝集性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強無し。 |
| 6. IYVZ-5/6 | 黒色色上層 | ローム粉土 直径 10mm 以下のロームブロック、細まり・粘り増強有り、粘土粒子の凝集性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強無し。 |
| 7. IYVZ-4/2 | 灰黄色色上層 | ローム粉土 40%、直径 10mm 以下のロームブロック 40% を含む。細まり増強、粘り増強有り、粘り増強性、人的汚染性、粘粒吸着力の増強有り。 |

1

- | | |
|-----------------|--|
| 粒状収れり・黒色土層 | 直粒 1mm 程度以下、黄・褐色土コリアス 5%、直粒 1mm 以下の明赤褐色土コリアス 1%、ローム粒 3% を含む。縦りや小割、粒状性、粒状収れり。 |
| 10、Y0V2 1 黄褐色土層 | 直粒 1mm 程度以下、黄・褐色土コリアス 5%、直粒 1mm 以下の明赤褐色土コリアス 1%、ローム粒 3% を含む。縦りや小割、粒状性、粒状収れり。 |
| 10、Y0V2 2 黄褐色土層 | 直粒 1mm 程度以下、黄・褐色土コリアス 7%、直粒 1mm 以下の明赤褐色土コリアス 1% 未満、ローム粒 10%、直粒 7mm 以下のロームブロック 1% を含む。縦りや小割、粒状性、粒状収れり。人形の塊、粒状収れり及び塊の存在。 |
| 10、Y0V3 1 黄褐色土層 | 直粒 土ベースと土、ローム粒 10% を含む。縦りや小割、粒状性、粒状収れり。人形の塊、粒状収れり及び塊の存在。 |
| 10、Y0V3 2 黄褐色土層 | 直粒 土ベースと土、ローム粒 25%、直粒 10mm 以下のロームブロック 1% を含む。縦りや小割、粒状性、粒状収れり。人形の塊、粒状収れり及び塊の存在。 |

1

- [illegible]

11

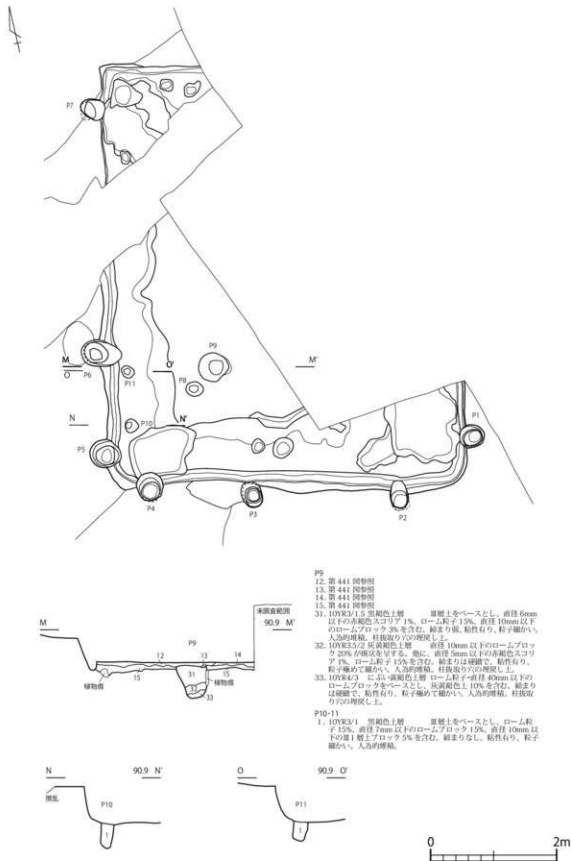
- [illegible]

97

- [illegible]

PB

- ① IYR1/2 以上硬土層 粘土層にセメントと、直径30mm以下の明色粗色スリニア3%、ローム粒子10%、直径10mm以下のロームブロック5%、底層粗粒土1%を含む。細土は破砕し、粒をなし、粒子や粘り、人形の破砕。
- ② IYR4/2.5 以上硬土層 粘土層にセメントと、直径30mm以下の明色粗色スリニア3%、ローム粒子30%、直径30mm以下のロームブロック7%、直径10mm以下の重層土ブロック5%を含む。細土は破砕し、粒をなし、粒子や粘り、人形の破砕。
- ③ IYR4/3 以上硬土層 粘土層にセメントと、直径30mm以下の明色粗色スリニア2%、ローム粒子40%、直径25mm以下のロームブロック3%、直径10mm以下の重層土ブロック1%を含む。細土は破砕し、粒をなし、粒子や粘り、人形の破砕。



第 442 図 SI53(3)(1/60)

層～床面で3点が出土している。

土器 第449・451図1はロクロ成形された土師器の埴である。大型の器形で、体部は直線的に立ち上がり、器高は6.5cmを測る。底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。

2～4は遺存状態の良い須恵器環である。口径は2・3が12.5cm、4が11.9cm、器高は2が3.9cm、3が4.0cm、4が3.8cm、底径は2が6.3cm、3が6.4cm、4が6.5cmを測り、法量・器形とも似通った製品である。5～7も須恵器環で、5・7の底部には糸切り痕が残る。8～11は墨書の認められる須恵器環である。8・9の底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。口径は8が11.8cm、9が12.3cm、器高は8が3.5cm、9が3.8cm、底部はともに6.0cmで、法量・器形が似た環である。8の底部内面と底部外面に「永」の墨書がみられる。9の底部内面の墨書も「永」と判読されるだろう。10は底部片、11は口縁部片である。10は底部の内外面に「永」と思われる墨書がみられ、11の外面には「广部にマ」と見える墨書文字が確認される。12～14は須恵器の底部片で、いずれも回転系切りで切り離され、調整は施されていない。底径は12が6.5cm、13が6.4cm、14が5.7cmを測る。7は南比企窯産須恵器と思われるが、その他の須恵器環はすべて東金子窯産で、東金子窯からの供給が多かったことがわかる。第450・451図15・16は須恵器皿で、16は大振りな器形である。15の底部は全面回転ヘラケズリ調整が施されているが、16の底部は回転系切りで切り離され、調整は施されていない。ともに東金子窯産須恵器である。17は須恵器長頸瓶の口頸部片で、東金子窯の製品と思われる。

18～21は土師器甕である。18の胴部上半はヘラナデ状の調整と思われるが、判然としていない。19は武蔵型甕で、口縁部はヨコナデ調整、胴部上半はヘラケズリ調整される。口縁部は緩やかに外反し、端部は内傾するが、コの字状に近いような形状となっている。20は武蔵型甕、21は相模型甕の底部片である。21の底部には木葉痕が残っている。

金属製品 第450・451図22は鉄鏝で、鏝身部が三角形となる両丸造の腸袢三角形鏝である。頸部まで遺存し、現存長は72mmを測り、断面は9.5×6.5mmの長方形である。23は断面が長方形の棒状の鉄製品である。現存長は65mmを測り、断面は長方形を呈している。

炭化種実 (点上げ) モモの核が3点出土した。

出土した須恵器環は、南比企窯跡群鳩山編年のHⅦ期やHⅧ期の坯類に類似している。大型のロクロ土師器環や東金子窯産の須恵器皿が共存する。遺構の時期は9世紀中葉から後葉と推定される。

SI54 (第452～457図、第52表)

遺構 調査区北西部の34N-41・42グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、北側の約半分は現道(生活道路)下で、ライフラインに伴う攪乱により大きく破壊されていた。

平面形態は方形もしくは長方形で、東西297cm、残存範囲内での南北は238cmを測る。主軸方向はN-2°Eを指す。検出面から床面までの深さは80cmで、壁は床面から垂直に立ち上がる。

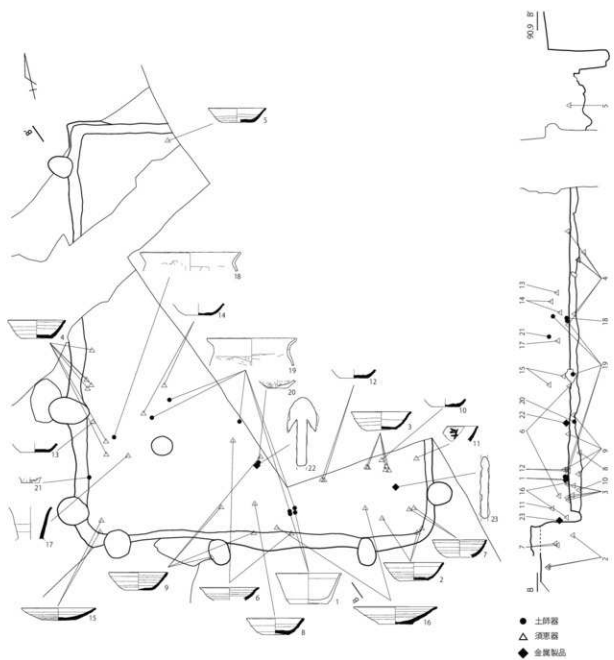
床面は貼床で、硬化面は、東壁寄りを除く範囲で確認された。壁溝は、遺存範囲内では壁沿いに巡っていた。カマド及び主柱穴は確認されなかったが、西壁寄りでP1を検出した。

床面までの覆土は11層に分けられ、堆積状況から、周囲から投げ込まれたような人為的な堆積とみられる。3層には炭化物が多く含まれていた。12層は壁溝の覆土である。

壁溝は、前述の通り遺存範囲内では壁際で確認された。底面には部分的に段差が確認されている。



第 443 図 S153(4) 遺物分布図 (1/60)



第 444 図 SI53(5) 遺物接合図 (1/60)



1. SI53 全景 (西北西から)



2. SI53 土層断面 A-A' (南南西から)



3. SI53 土層断面 B-B' (西南西から)



4. SI53 壁溝土層断面 B-B' 北側 (西南西から)



5. SI53 壁溝土層断面 B-B' 南側 (西南西から)

第 445 図 SI53 写真 (1)



1. SI53 P1 土層断面 (南西から)



2. SI53 P2 土層断面 (北西から)



3. SI53 P4 土層断面 (北から)



4. SI53 P5 土層断面 (東南東から)



5. SI53 P6 土層断面 (東南東から)



6. SI53 P7 土層断面 (東から)



7. SI53 P8 土層断面 (南南西から)

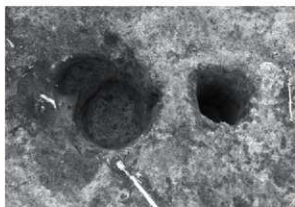


8. SI53 P9 土層断面 (北北東から)

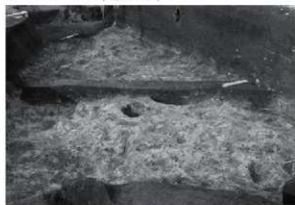
第 446 図 SI53 写真 (2)



1. SI53 P2~4(北西から)



2. SI53 P8(右)・P9 全景(北北西から)



3. SI53 掘り方土層断面 A-A'(南南西から)



4. SI53 掘り方土層断面 B-B'(西南西から)



5. SI53 掘り方全景(西北西から)

第 447 図 SI53 写真 (3)



1. SI53 遺物出土状況 (西北西から)



2. SI53 遺物出土状況 (東から)



3. SI53 遺物出土状況 (北北西から)

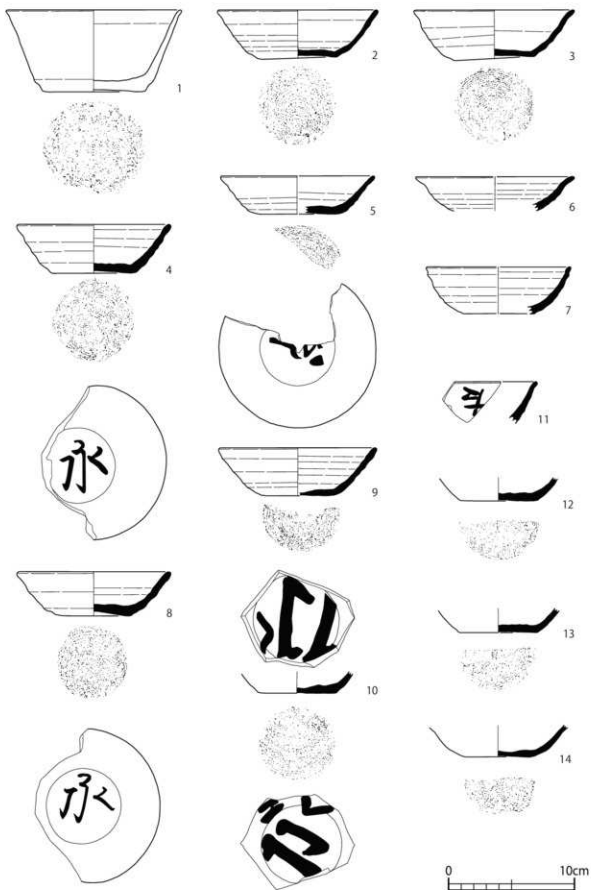


4. SI53 炭化種実出土状況 (西北西から)

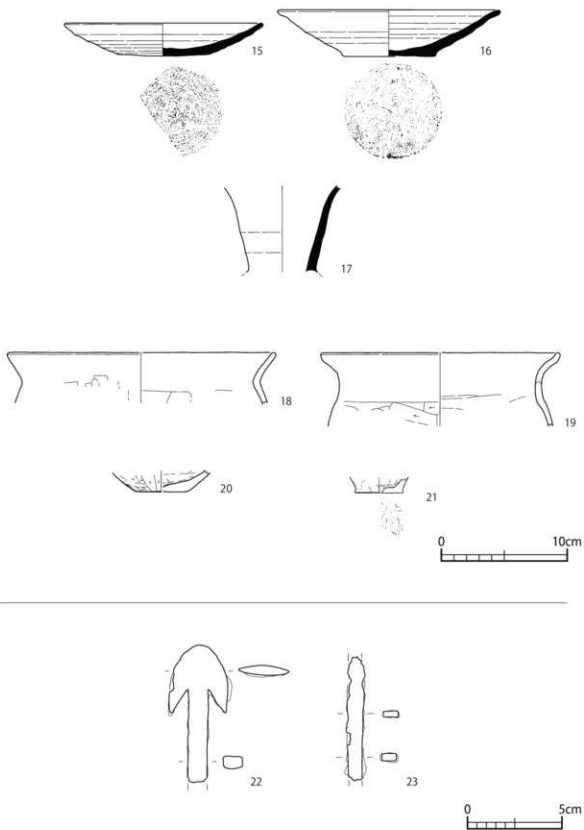


5. SI53 遺物出土状況 (北から)

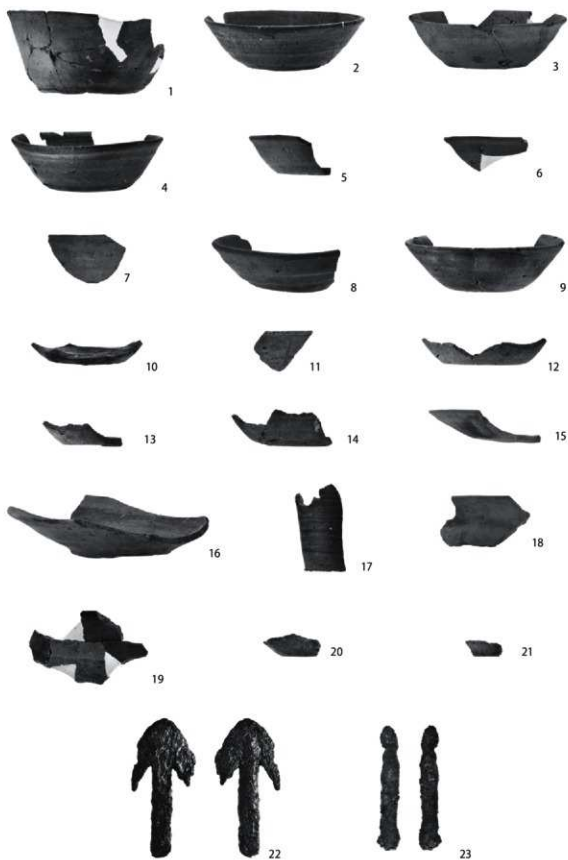
第 448 図 SI53 写真 (4)



第449図 S153出土遺物(1)(1/3)



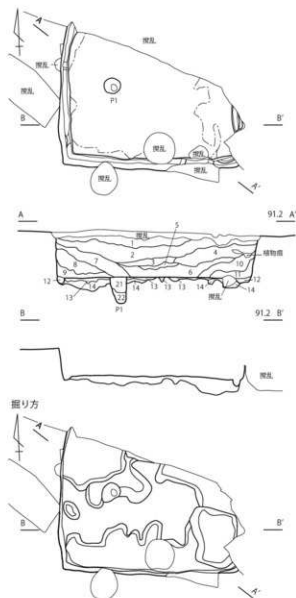
第450図 SI53出土遺物(2)(1/3・1/2)



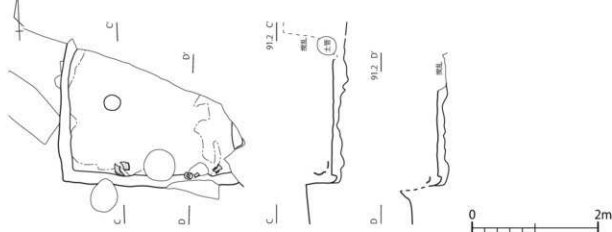
第451図 SI53出土遺物写真

第51表 SI53出土土器観察表

図番号	層位	器種	注記	図形の特征	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	覆土下層	土師器 甕	(13.7) 6.5 8.2	体部は直線的に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	石炭 小礫 褐色粒	良好	5YR6/4 にぶい橙	ほぼ完全	内外面にスス付着
2	覆土上・下層	須恵器 甕	12.5 3.9 6.3	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	長石 チャート 白色粒	良好	N5/O 灰	ほぼ完全	東金子産
3	覆土下層	須恵器 甕	12.5 4.0 6.4	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 褐色粒	軟質	7.5Y7/1 灰白 5YR6/3 にぶい橙	ほぼ完全	東金子産
4	覆土下層・床面・貼床内	須恵器 甕	11.9 3.8 6.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。内面の足込み部が顕著。器壁は厚い。ロクロ右回転。	小礫 白色粒	良好	5B6/4 暗青灰	ほぼ完全	東金子産
5	覆土下層	須恵器 甕	(11.9) 3.0 (6.2)	体部は直線的に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。	長石 白色粒 黒色粒	良好	N6/O 灰		東金子産
6	覆土下層	須恵器 甕	(12.4) — —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	回転糸利用の成形。	長石 白色粒	良好	5Y5/1 灰	口縁部片	東金子産
7	覆土中へ下層	須恵器 甕	(11.2) 3.7 (5.7)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は内外面とも沈線状にくぼむ。	ごくわずかに遺存する底部からみると、底部は回転糸切りで切り離している。	陶磁動物骨 チャート	軟質	5Y7/1 灰白		南北企業産
8	貼床内	須恵器 甕	11.8 3.5 6.0	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒	やや軟質	10YR6/2 灰青	平定形	内外面に「永」の 印書 東金子産
9	覆土下層	須恵器 甕	12.3 3.8 6.0	体部から口縁部へと直線的気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。	白色粒 黒色粒	やや軟質	10GY6/1 緑灰	平定形	内面「永」の印書 内外面にスス付着 東金子産
10	覆土下層	須恵器 甕	— — 6.2	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒	やや軟質	2.5Y6/2 灰黄	底部完全	内外面に「永」の 印書 東金子産
11	覆土中層	須恵器 甕	— — —	口縁部はわずかに外反する。	回転糸利用の成形。	チャート 砂粒	軟質	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部片	外面に印書 東金子産
12	覆土下層	須恵器 甕	— — 6.5	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。	チャート 白色粒	軟質	7.5YR/3 にぶい黄		東金子産
13	覆土下層	須恵器 甕	— — (6.4)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 白色粒 褐色粒	軟質	5YR6/6 橙		東金子産
14	覆土中へ下層・観見	須恵器 甕	— — 5.7	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 チャート 白色粒	やや軟質	7.5Y5/1 灰		東金子産
15	覆土中へ下層	須恵器 甕	(15.3) 2.6 7.0	底部は平底。体部は大きく開いて立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	底部は全面に回転ヘラズリ調整が施されている。	長石 石炭 白色粒 褐色粒	軟質	2.5Y7/2 灰黄 7.5YR7/4 にぶい黄		外面にスス付着 東金子産
16	覆土下層	須恵器 甕	(17.4) 3.7 7.3	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部は回転糸切りで切り離し、調整は施されていない。ロクロ右回転。	小礫 チャート 白色粒	軟質	10YR7/4 にぶい黄橙		外面にスス付着 東金子産
17	覆土下層	須恵器 長頸瓶	— — —	口縁部はラッパ状に外上方に立ち上がる。	回転糸利用の成形。胴部と口縁部の接合部分で剥離。	長石 白色粒	良好	10B6/4/1 暗青灰 N6/O 灰	口縁部片	内面に印書 東金子産
18	覆土下層	土師器 甕	(20.8) — —	口縁部はく字状に外反する。	口縁部はヨコナデ。胴部上端はヘラナデ状の調整。内面はヘラナデ調整される。	雲母 白色粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙		内面にスス付着
19	覆土中へ下層	土師器 甕	(18.6) — —	口縁部は緩やかに外反し、端部は内傾する。	口縁部はヨコナデ。胴部は横方向等のヘラナデ調整。内面はナデ調整される。	石炭 白色粒 褐色粒	良好	5YR5/4 にぶい黄		口縁部にスス付着 武蔵型
20	床面	土師器 甕	— — (4.2)	底部は平底。	胴部外面は縦方向や斜方向のヘラナデ調整。内面はナデ調整される。	石炭 白色粒	良好	10B4/2 灰赤	底部片	外面にスス付着 武蔵型
21	覆土中層	土師器 甕	— — (5.2)	底部は平底。	胴部外面はヘラナデ調整される。底部外面に木炭痕が残る。	雲母 砂粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙	底部片	粗粒型



遺物出土状況



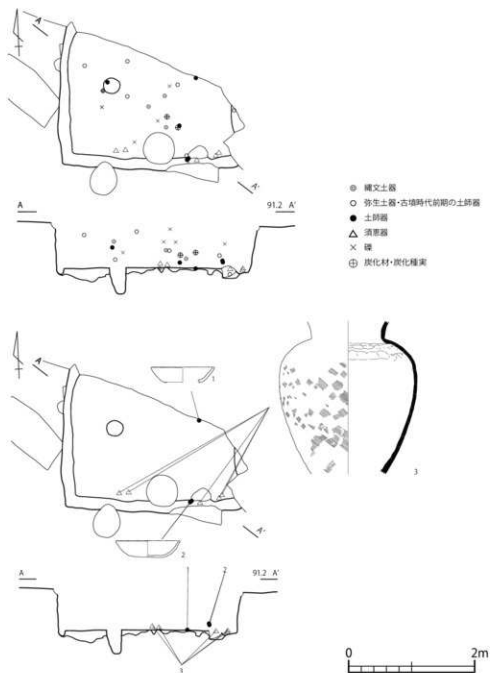
第 452 図 SI54(1)・遺物出土状況図 (1/60)

554

1. 10YR1.7/1 黒色土層 自然ベース。直径3mm以下の黄褐色スコリア5%・褐色スコリア3%・黒色スコリア7%・ローム粒子5%を含む。締まりやや強。粘性やや強。粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア7%・黒色スコリア2%・ローム粒子10%・にぶい黄褐色粒子15%。長さ30mm以下の炭化物15%を含む。締まりやや強。粘性やや強。粒子粗い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア7%・黒色スコリア2%・ローム粒子10%・にぶい黄褐色粒子15%。長さ30mm以下の炭化物15%を含む。締まりやや強。粘性やや強。粒子粗い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径4mm以下の褐色スコリア5%。直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・ローム粒子7%。長さ10mm以下の炭化物3%を含む。締まり強。粘性有り。粒子細かい。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%。直径5mm以下のローム粒子20%。直径5mm以下の炭化物粒子2%を含む。褐色土 (10YR4/6)20%が炭状に凝結。締まり有り。粘性やや強。粒子やや粗い。
6. 10YR2/3 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%。直径5mm以下の褐色スコリア5%・ローム粒子10%・炭化物粒子1%を含む。褐色土 (10YR2/2)20%が炭状に凝結。締まり強。粘性有り。粒子細かい。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の褐色スコリア5%。直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・ローム粒子15%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色・褐色スコリア各2%。直径4mm以下のローム粒子15%を含む。褐色土 (10YR3/4)2%が炭状に凝結。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
9. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色・褐色スコリア各2%。直径5mm以下のローム粒子20%を含む。褐色土 (10YR3/4)15%。褐色土 (10YR4/6)3%が炭状に凝結。締まり有り。粘性やや強。粒子やや粗い。
10. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%・ローム粒子10%を含む。褐色土 (10YR3/4)3%が炭状に凝結。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
11. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア2%・ローム粒子30%を含む。褐色土 (10YR1.7/1)20%。褐色土 (10YR3/4)10%。褐色土 (10YR4/6)15%が炭状に凝結。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
12. 10YR4/6 褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア1%を含む。褐色土 (10YR2/2)30%がブロック状に凝結。締まり強。粘性強。粒子やや粗い。
13. 10YR3/2 黒褐色土層 粘土上。黒土上に黄褐色土が多数に凝結。ローム粒子40%。凝結められて扁平化した直径30mm以下のロームブロック30%を含む。締まりは緩軟で、粘性有り。粒子細かい。人為的堆積。
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 粘土上。ローム粒子をベースとし、直径50mm以下のロームブロック15%。黄褐色土粒子10%を含む。締まり・粘性有り。粒子極めて細かい。人為的堆積。

P1

21. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア5%。直径5mm以下のローム粒子20%を含む。褐色土 (10YR3/4) 褐色土 (10YR4/6) 各7%が炭状に凝結。締まりやや強。粘性強。粒子やや粗い。
22. 10YR3/4 褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア5%。直径5～30mmのロームブロック30%を含む。褐色土 (10YR4/6)20%が炭状に凝結。締まり強。粘性強。粒子粗い。



第453図 SI54(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

断面形態はU字状ないしは逆台形を呈し、幅は13cm前後で、深さは7～10cmを測る。

掘り方はV層まで掘り込まれていて、全体的に粗い凹凸を有している。掘り方の覆土は2層からなる。Ⅲ層土にⅣ層土が混在した13層と、ローム粒子をベースとする14層である。

P1は、西壁寄りの位置で検出された。円形を呈し、直径25cm、床面からの深さ43cmで、断面はU字状を呈する。覆土は2層に分けられた。

出土遺物 土師器5点、須恵器5点、礫11点、炭化物2点、縄文土器4点及び弥生土器・古墳時代前期の土師器6点が出土した。



1. SI54 全景 (北から)



2. SI54 掘り方全景 (北から)

第 454 図 SI54 写真 (1)



1. SI54 土層断面 (南西から)



2. SI54 P1 土層断面 (南西から)



3. SI54 遺物出土状況 (北から)

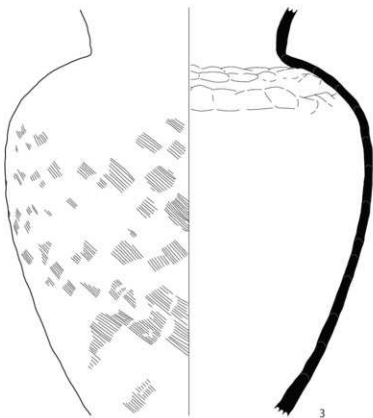
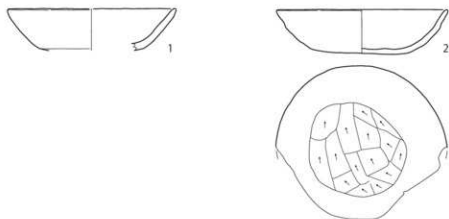


4. SI54 遺物出土状況 (北北西から)



5. SI54 遺物出土状況 (北西から)

第 455 図 SI54 写真 (2)



第456図 SI54出土遺物(1/3)



第457図 SI54出土遺物写真

第 52 表 SI54 出土土器観察表

図	番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 456 ・ 457 図	1	覆土下層	土師器 杯	(13.1) 3.2 (8.3)	底部は平底。体部から口縁部へと直線気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はヨコナデ。体部の調整は判然としないが、ヘラケズリ調整と思われる。底部外面はヘラケズリ調整される。内面はナデ調整される。	褐色粒 白色粒	やや軟質	5YR7/4 にぶい橙	口縁部片	口縁部内外面にスス付着 灯明具か 粗線型杯
	2	覆土下層	土師器 杯	13.3 3.6 7.7	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はほとんどみられない。	口縁部はヨコナデ。体部の調整は指圧調整と思われるが、判然としない。底部はヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	石英 褐色粒 白色粒	良好	5YR6/4 にぶい橙		口縁部外面にスス付着 前武蔵型杯
	3	覆土下層 ～床面	須恵器 甕	— —	胴部は肩が張り、丸みを有する。口頸部は垂直気味に立ち上がる。	胴部外面は横方向のナデ調整。中央以下には平行気味面が残る。内面はナデ調整される。胴部内面上端には無文の当て具痕が明確に残る。	長石 石英 白色粒	良好	10BG4/1 暗青灰		胴部外面・口頸部内面に降灰 産地不明

遺物出土状況 遺物は覆土の上層から下層にかけて遺物が出土しているが、調査範囲が限られていることを勘案しても出土数は少ないと言える。土師器、須恵器は覆土中層から床面にかけて検出されている。図示した3点はいずれも覆土下層から床面直上からの出土で、第456・457図1の土師器環は覆土下層、2の土師器環は南壁沿いの壁溝上の覆土下層から、3の須恵器甕の破片は同じく南壁沿いの覆土下層から床面直上にかけての出土である。

土器 第456・457図1・2は土師器環である。1は平底で、体部の調整技法はヘラケズリ調整と思われる。相模型環となるだろう。2も体部の調整は不明な点もあるが、はっきりしたヘラケズリ調整等は施されておらず、指圧調整とみるのが穏当であろう。底部外面に施されたヘラケズリ調整の明瞭さとは対照的である。南武蔵型環に相当する土師器環と判断しておきたい。

3の須恵器甕は胎土・焼成とも良好で、口頸部は横方向に回転ナデ調整され、胴部外面には平行叩きの痕跡が観察される。胴部内面はナデ調整されるが、上端には無文のあて具が連続的に残っている。

遺構の時期は、相模型環と南武蔵型環から8世紀中葉を中心とした時期が想定されようか。

SI55 (第458～462図)

遺構 調査区北東部の34N-44・45・55グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古墳時代前期のSI56を切っており、近世以降のSDK843や攪乱に壁の一部を切られている。

平面形態は台形状を呈し、東壁が、西壁より長くなっていて、南北の壁は、東から西へ向けて広がるような形状をしている。そのため、西壁寄りも東壁の方が長い。また、東西共に壁が外反する。南北は西壁側で226cm、東壁側284cm、東西276cmを測る。主軸方向はN-91°-Eを指す。検出面から床面までの深さは50cmで、壁は概ね垂直に立ち上がっている。

床面は貼床だが、貼床は非常に薄く敷かれており、床面で、切り合っているSI56の西壁ラインが部分的に見えるほどである。床面は比較的平坦で、硬化面は東側を中心に形成されている。カマドは東壁に構築される。支柱穴は確認されず、南西隅に用途不明のP1を確認した。壁溝は、カマド部分を除いて壁沿いに巡っていたものと思われる。

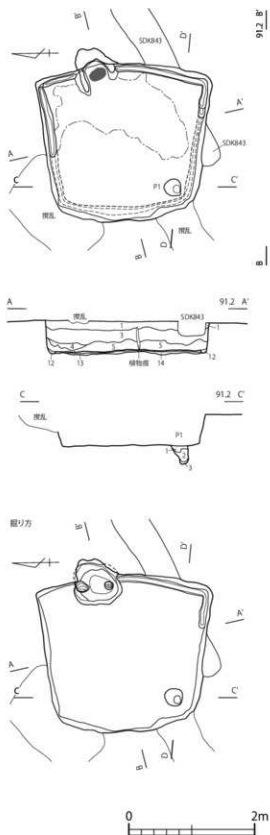
床面までの覆土は11層に分けられ、上層と中層に見られる1・3層はⅡ2層土相当土をベースとしている。2・6層は壁の崩落土と見られる。また、カマド付近の7～11層は、カマドに由来する灰黄褐色の砂質粘土を含んでいる。

掘り方の掘り込みは非常に浅く、底面の大部分がSI56の貼床土で、西壁寄りの部分がⅤ層である。全体的に凹凸は無く、黒褐色土が薄く敷き均されている。また、カマド前面には、砂質粘土の薄い堆積が見られる。

壁溝は断面U字状で非常に浅く、床面ではカマド部分を除く東半分で検出された。西半分については床面では確認できず、掘り方調査時に、その底面で辛うじて部分的な痕跡を検出できた程度である。幅は9～17cm程度であると思われる。

P1は床面の南西隅で検出されたピットで、平面形態は円形を呈し、直径は27cmを測る。断面形状はU字状を呈するが、北から南に向けて、やや斜めに穿たれている。覆土は3層に分層され、うち3層はロームが主体である。

カマドは、東壁の北寄りを半円状に掘り込んで構築されている。袖は砂質粘土主体の素材とⅢ層土由来の黒褐色土を交互に積み上げるような状態で形成されていた。側壁や奥壁も同様である。火床部



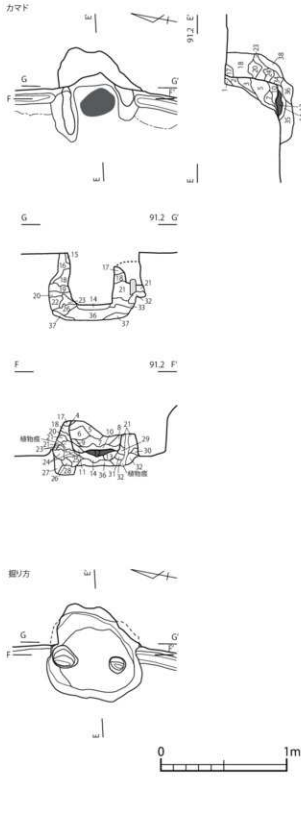
S55

1. 10YR2.5/1 黒褐色土層 Ⅱ2層相当土ベース。直径20mm以下のぶい黄褐色スコリア7%。直径4mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/6)1%。直径30mm以下の黒色スコリア5%。焼土粒子1%を含む。締まり有り、粘性弱。粒子粗い。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 Ⅱ層相当土。直径40mm以下の明赤褐色スコリア1%を含む。締まり強。粘性やや強。粒子粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ2層相当土ベース。直径20mm以下のぶい黄褐色スコリア10%。直径4mm以下の明赤褐色スコリア2%。直径30mm以下の黒色スコリア3%。ローム粒子5%。直径100mm以下のロームブロック1%未満。灰黄褐色砂質粘土粒子(10YR5/2)1%。焼土粒子2%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子粗い。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ1層土をベースとし。直径20mm以下のぶい黄褐色スコリア7%。直径30mm以下の明赤褐色スコリア1%未満。ローム粒子3%を含む。締まり有り、粘性弱。粒子極めて細かい。
5. 10YR3/1.5 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし。直径40mm以下の明赤褐色スコリア2%。直径20mm以下の黒色スコリア1%。ローム粒子15%。直径100mm以下のロームブロック2%。直径100mm以下のⅣ層土ブロック2%。灰黄褐色砂質粘土粒子2%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子粗い。
6. 10YR3/1 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし。直径30mm以下の明赤褐色スコリア1%。ローム粒子15%。直径70mm以下のロームブロック2%。直径150mm以下のⅣ層土ブロック1%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子粗い。
7. 10YR4/1.5 灰黄褐色土層 直径20mm以下のぶい黄褐色スコリア1%。直径40mm以下の明赤褐色スコリア2%。灰黄褐色砂質粘土粒子2%を含む。締まりやや強。粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
8. 10YR5/3 ぶい黄褐色土層 直径20mm以下の明赤褐色スコリア1%未満。灰黄褐色砂質粘土粒子30%を含む。締まり・粘性弱。粒子粗く砂質。
9. 10YR3/1 黒褐色土層 直径20mm以下の明赤褐色スコリア1%。灰黄褐色砂質粘土粒子10%を含む。締まり有り。粘性わずか。粒子粗く砂質。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径20mm以下の明赤褐色スコリア1%未満。灰黄褐色砂質粘土粒子7%。焼土粒子2%。直径40mm以下の焼土ブロック1%を含む。締まり弱。粘性わずか。粒子粗く砂質。
11. 7.5YR4/2 灰褐色土層 直径70mm以下の明赤褐色スコリア1%。焼土粒子化した砂質粘土粒子30%。焼土粒子2%。炭化物粒子1%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子粗く砂質。
12. 10YR2.5/1.5 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし。直径40mm以下の明赤褐色スコリア2%。直径30mm以下の黒色スコリア1%未満。ローム粒子10%。直径100mm以下のロームブロック1%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子粗い。
13. 10YR2.5/1 黒褐色土層 Ⅱ層土。直径20mm以下の明赤褐色スコリア1%。ローム粒子5%。砂質粘土粒子2%を含む。締まり強。粘性わずか。粒子粗い。カマド前面の表面に、砂質粘土の薄い増結が看取される。
14. 10YR2.5/1 黒褐色土層 Ⅱ層土。直径20mm以下の明赤褐色スコリア1%。ローム粒子7%を含む。締まり強。粘性わずか。粒子粗い。

P1

1. 10YR2/1 黒色土層 直径30mm以下の明赤褐色スコリア1%。ローム粒子7%。直径50mm以下のロームブロック3%を含む。締まり・粘性有り。粒子粗い。人為的増結。
2. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直径150mm以下のロームブロック10%が炭化を呈する。他に、ローム粒子7%を含む。締まりなし。粘性有り。粒子粗い。人為的増結。
3. 10YR4/4 褐色土層 ローム粒子ベース。締まりに欠け、粘性有り。粒子極めて細かい。人為的増結。

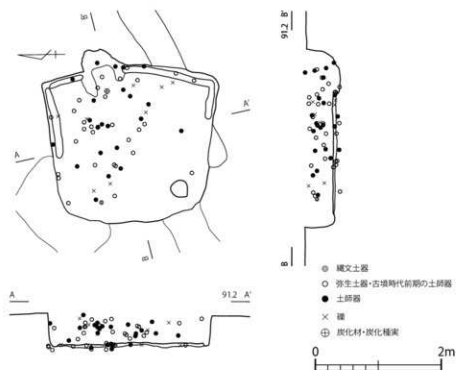
カマド



カマド

1. 10YR3.5/1 黒灰色土層 砂質粘土粒子1%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
2. 2.5Y/2 暗灰黄色土層 砂質粘土粒子20%。直径10mm以下の微砂質粘土ブロック(2.5Y/3.5)を含む。締まり有り、粘性なし。粒子極めて粗く砂質。
3. 10YR3/1 黒灰色土層 砂質粘土粒子10%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
4. 7.5YR2/1 黒灰色土層 焼熱変化した砂質粘土粒子15%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
5. 10YR4/2 灰黄色土層 焼熱変化した砂質粘土粒子10%。焼土粒子3%を含む。締まり有り、粘性に欠け、粒子粗く砂質。
6. 10YR3/1 黒灰色土層 砂質粘土粒子20%。下部が焼熱変化した直徑30mm以下の灰黄色砂質粘土ブロック(2.5Y/2.5)を含む。焼土粒子2%を含む。締まり無し、粘性に欠け、粒子粗く砂質。大断面部露出。
7. 10YR2/1 黒色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子5%、焼土粒子2%を含む。締まり有り、粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
8. 10YR5/2 灰黄色土層 黒色土粒子(10YR3/1.5)15%。やや焼熱変化した砂質粘土粒子40%。焼土粒子2%。直径4mm以下の焼土ブロック1%を含む。締まりやや弱。粘性わずか、粒子粗く砂質。
9. 10YR3/1 黒灰色土層 砂質粘土粒子30%。焼熱変化した直径10mm以下の砂質粘土ブロック5%。焼土粒子5%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
10. 5YR3/1.5 暗赤褐色土層 焼熱変化した砂質粘土粒子40%。直径3mm以下の焼土ブロック5%を含む。黒色土が混在。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
11. 7.5YR5/2 灰黄色土層 焼熱変化した砂質粘土粒子をベースとし、直径3mm以下の焼土ブロック5%を含む。黒色土が混在。締まりに欠け、粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
12. 5YR3/2 暗赤褐色土層 灰黄色土層をベースとし、焼土粒子25%。直径20mm以下の焼熱変化した砂質粘土ブロック7%を含む。締まり弱。粘性に欠け、粒子粗く砂質。大断面部露出ブロックが露出している。
13. 7.5YR3/1 黒灰色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子3%。焼土粒子5%を含む。締まり有り、粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
14. 5YR3/1 暗赤褐色土層 砂質粘土粒子7%。焼土粒子10%。直径3mm以下の焼土ブロック5%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。人為的埋蔵。
15. 10YR4/1 灰黄色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子15%を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子粗く砂質。
16. 10YR2.5/1 黒灰色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子10%を含む。締まりやや弱。粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
17. 2.5Y/3 土に赤褐色土層 砂質粘土をベースとし、扁平化した厚さ7mm以下、長さ20mm以下の重層土ブロック(10YR3/1.7)を含む。締まりやや弱。粘性なし。粒子粗く砂質。燃焼室に面した部分(カマド内側壁)のみ焼熱変化した。
18. 10YR3/1 黒灰色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子20%。焼土粒子1%未満を含む。締まり有り、粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
19. 7.5YR3/1 暗赤褐色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子15%。焼土粒子2%。直径3mm以下の焼土ブロック1%を含む。締まり有り、粘性わずか。粒子粗く砂質。
20. 2.5Y/2 暗灰黄色土層 砂質粘土をベースとし、直径7mm以下の重層土ブロック20%を含む。締まりやや弱。粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。焼土土材。カマド内側壁から50～60mmの部分まで焼熱変化した。
21. 2.5Y/3 土に赤褐色土層 砂質粘土をベースとし、直径7mm以下の重層土ブロック20%を含む。締まりやや弱。粘性なし。粒子粗く砂質。焼土土材。カマド内側壁から80mm付近まで焼熱変化した。
22. 10YR3/1 黒灰色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子10%。直径5mm以下の砂質粘土ブロック3%を含む。締まりやや弱。粘性わずか、粒子粗く砂質。
23. 10YR5/2 灰黄色土層 砂質粘土をベースとし、重層土粒子15%。直径7mm以下の重層土ブロック3%。焼土粒子3%を含む。締まり有り、粘性なし。粒子粗く砂質。
24. 2.5Y/2 暗灰黄色土層 砂質粘土をベースとし、直径10mm以下の重層土ブロック10%。焼土粒子1%未満を含む。締まりやや弱。粘性なし。粒子粗く砂質。
25. 7.5YR3/1 暗赤褐色土層 黒色土をベースとし、直径20mm以下の焼熱変化したロームブロック1%。砂質粘土粒子15%。直径7mm以下の砂質粘土ブロック3%。焼土粒子5%。直径10mm以下の焼土ブロック1%。長さ3mm以下の腐植材1%を含む。締まりやや弱。粘性弱。粒子粗く砂質。両方腐植材(カマド腐植材の再利用)を混和して形成したと考えられる。
26. 10YR3/1.5 灰黄色土層 黒色土をベースとし、ローム粒子10%。砂質粘土粒子10%を含む。締まり弱。粘性有り。粒子比較的細かい。
27. 10YR3/2 暗赤褐色土層 砂質粘土粒子10%。直径15mm以下の砂質粘土ブロック5%。ローム粒子7%。直径7mm以下のロームブロック2%。直径7mm以下の重層土ブロック15%。焼土粒子2%を含む。締まりやや弱。粘性有り。粒子比較的細かい。
28. 10YR4/4 褐色土層 ローム粒子40%。直径40mm以下のロームブロック7%を含む。締まり・粘性やや弱。粒子細かい。人為的埋蔵。
29. 10YR3/1 暗赤褐色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子15%。直径7mm以下の砂質粘土ブロック7%を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子粗く砂質。
30. 10YR2/1 黒色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子5%を含む。締まりやや弱。粘性有り。粒子細かい。
31. 10YR2/1 黒色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子7%。直径5mm以下の砂質粘土ブロック5%を含む。締まり・粘性弱。粒子やや粗い。
32. 10YR2.5/1 灰黄色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子3%。ローム粒子15%。直径5mm以下のロームブロック5%を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
33. 2.5Y/2 暗灰黄色土層 砂質粘土粒子40%。重層土粒子15%。焼土粒子7%を含む。締まり・粘性有り。粒子粗く砂質。カマド内側壁焼熱変化した。
34. 10YR4/1.5 灰黄色土層 砂質粘土粒子30%。直径15mm以下の重層土ブロック10%を含む。締まり・粘性有り。粒子やや粗く砂質。
35. 7.5YR3/1 暗赤褐色土層 ローム粒子5%。直径10mm以下のロームブロック1%。焼土粒子1%を含む。締まり有り。粘性ごくわずか。粒子粗く砂質。
36. 10YR2/1 黒色土層 黒色土をベースとし、ローム粒子3%。焼土粒子1%を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
37. 10YR3/2 暗赤褐色土層 黒色土をベースとし、ローム粒子7%。直径5mm以下のロームブロック7%を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
38. 10YR2/1 黒色土層 黒色土をベースとし、砂質粘土粒子10%。直径5mm以下の砂質粘土ブロック2%を含む。締まり弱。粘性なし。粒子細かい。

第459図 SI55(2)カマド(1/30)



第460図 SI55(3) 遺物分布図 (1/60)

は狭い範囲ながら確認することができた。カマド内の覆土の状況から、天井部や袖部は、再利用のため粘土が採取され、持ち出されたと想定されるが、燃焼室内の覆土の様相から、天井部の一部は残置され、崩落したものと考えられる。また、右袖では芯材となる礫が遺存していた他、左右共に袖部下の掘り方で、芯材を据えるためと思われるビットが認められたことから、左袖にも芯材が用いられていたが廃絶時に砂質粘土と共に取り去られたか、同じ位置でカマドの造り替えが行われたものと考えられる。

出土遺物 土師器 20 点、礫 10 点、炭化物 1 点、縄文土器 1 点及び弥生土器・古墳時代前期の土師器 31 点が出土した。

遺物出土状況 遺物量は少ないが、上層から下層にかけて遺物が出土している。北側半分に遺物が多く、南半分は少ない。出土した土師器は甕や壺の小片が主体で、実測に耐えうる遺物は出土していない。弥生土器・古墳時代前期の土師器の多くは SI56 に作っていたものと思われる。

出土遺物から帰属時期を特定することは困難であるが、遺構の状況等から、奈良～平安時代であると思われる。

SI75 (第463～467図)

遺構 調査区南西端の 30P・31・41 グリッドに位置する。建物跡の西壁部分は調査範囲外へと続く。平成 28～30 年度の発掘調査当時、調査区北西に電柱が建っていたため、当遺構の発掘調査を先送りした。その後、関係機関との調整を経て、令和 3 年度に SI75 とその周辺を 2-1 区として発掘調査を実施することとなった(第1分冊第1章第2節参照)。

検出面はⅢ層上面で、前述の通り西壁部分は未調査である。遺構検出時、SI75 の覆土範囲内に SK300 が重複していた。



1. SI55 全景 (西から)



2. SI55 土層断面 A-A' (西南西から)



3. SI55 土層断面 B-B' (南南東から)



4. SI55 P1 土層断面 (西から)



5. SI55 掘り方全景 (西から)

第 461 図 SI55 写真 (1)



1. SI55 カマド全景(西から)



2. SI55 カマド土層断面 E-E'(西南西から)



3. SI55 カマド土層断面 F-F' 北側(西から)



4. SI55 カマド土層断面 F-F' 南側(西から)



5. SI55 カマド土層断面 G-G'(西から)



6. SI55 カマド掘り方土層断面 E-E'(南西から)

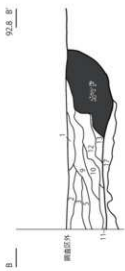
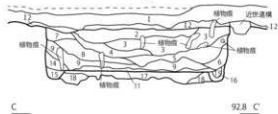
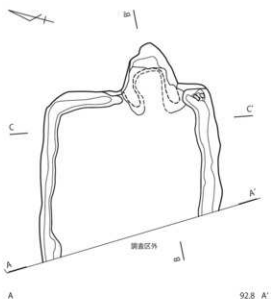


7. SI55 カマド掘り方土層断面 F-F'(西から)



8. SI55 カマド掘り方全景(西から)

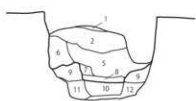
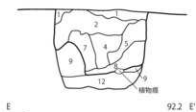
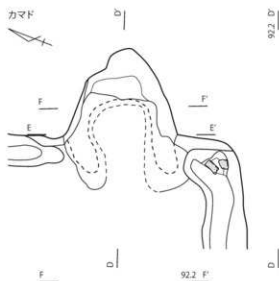
第 462 図 SI55 写真(2)



5175

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)5%, 直径2mm以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)3%, 炭化材小片 1% を含む。締まり・粘性やや有り、粒子極めて細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 5%, 赤褐色スコリア 3%, 直径3mm以下のローム粒子 2% を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 3%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 1%, 直径2mm以下のローム粒子 3% を含む。締まり有り、粘性強、粒子極めて細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 3%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 3%, 直径15mm以下のロームブロック 2%, 直径20mm以下の粘土ブロック 1% を含む。締まり有り、粘性強、粒子極めて細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 2%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 2%, 直径10mm以下のロームブロック 2%, 直径20mm以下の粘土ブロック 1% を含む。締まり有り、粘性強、粒子極めて細かい。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色ベース、直径2mm以下の黄褐色スコリア 1%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 3%, 直径3mm以下のロームブロック 1% を含む。締まり有り、粘性強、粒子やややめ。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 2%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 2%, 直径3mm以下のローム粒子 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10% 偏在。締まり有り、粘性やや有り、粒子やや細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・赤褐色スコリア各 2%, 直径10mm以下のロームブロック 1% を含む。黒色土 (10YR2/1)10% を偏在に含む。締まり有り、粘性強、粒子やや細かい。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 1%, 直径5mm以下の赤褐色スコリア 2%, 直径20mm以下のロームブロック 3% を含む。黒色土 (10YR2/1) 偏在に 30% 含む。締まりやや有り、粘性強、粒子極めて細かい。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア 1%, 直径5mm以下の赤褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/1)20%, ローム (10YR4/8)10% 偏在。粘性強、締まり有り、粒子細かい。
11. 10YR3/2 黒褐色土層 黒褐色・ロームブロック土。直径3mm以下の赤褐色スコリア 2% を含む。ローム 5% 偏在。締まり強、粘性強、粒子やややめ。
12. 2.5Y2/1 黒色土層 粘土粒子 10% 偏在。直径3mm以下の黄褐色スコリア (7.5YR5/8)2%, 赤褐色スコリア 1%, 直径20mm以下のロームブロック 10%, 直径3mm以下の炭化物粒子 1% を含む。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
13. 2.5Y2/1 黒色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア 2%, 直径7mm以下のロームブロック 5%, 直径10mm以下の粘土ブロック 10%, 直径3mm以下の粘土粒子 1% を含む。黒色土 (10YR2/1) 偏在に 10% 含む。締まり有り、粘性極めて強、粒子やややめ。
14. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色ベース、直径2mm以下の黄褐色スコリア 2%, 直径1mm以下の赤褐色スコリア 1%, 直径3mm以下のロームブロック 1% を含む。締まり有り、粘性有り、粒子やややめ。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア 3% を含む。ローム 10%, 褐色土 (10YR4/8)10% をそれぞれ偏在に含む。締まりやや強、粘性有り、粒子やや細かい。
16. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア 3% を含む。ローム 30%, 褐色土 20% をそれぞれ偏在に含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
17. 10YR3/2 黒褐色土層 粘土土。直径5mm以下の赤褐色スコリア 3% を含む。ローム・ロームブロック 30%, 褐色土 15% をそれぞれ偏在に含む。締まり強、粘性やや有り、粒子細かい。
18. 10YR5/8 黄褐色土層 ロームベース、直径5mm以下の赤褐色スコリア 3% を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%, 褐色土 10% をそれぞれ偏在に含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。

第 463 図 S175(1)(1/60)



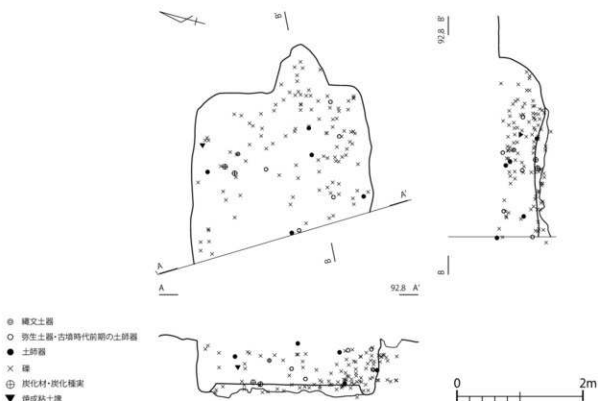
掘り方



カマド

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 20mm 以下の赤褐色スコリア 1%, 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 直径 50mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR4/3) 10% を含む。締まり・粘性有り、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%, 直径 20mm 以下の焼土粒子 1%, 砂質粘土 30% を塊状に含む。締まり・粘性有り、粒子やや粗い。
3. 10YR4/4 褐色土層 砂質粘土土塊、黒褐色土 (10YR2/2) 30%, 焼土 3% をそれぞれ塊状に含む。締まり強、粘性弱、粒子細かい。
4. 10YR4/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土と黒褐色土の混合土。直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満を含む。締まり・粘性有り、粒子やや細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 1% を含む。砂質粘土 7%, 焼土 1% をそれぞれ塊状に含む。締まりやや有り、粘性有り、粒子やや細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 1%, 直径 50mm 以下の焼土粒子 1% を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。
7. 10YR4/4 褐色土層 砂質粘土土塊、直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 1%, 直径 50mm 以下の炭化物粒子 5% を含む。黒色土 (10YR2/1) 20% を塊状に含む。締まりやや強、粘性有、粒子やや細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・赤褐色スコリア 1% を含む。砂質粘土 30% を塊状に含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
9. 10YR4/3 に近い黄褐色土層 砂質粘土。黒色土 10% を塊状に含む。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 15mm 以下のロームブロック 3%, 直径 10mm 以下の焼土ブロック 7% を含む。締まり強、粘性やや有り、粒子粗い。
11. 10YR2/1 黒色土層 砂質粘土 30% を塊状に、直径 50mm 以下の焼土粒子 3% を含む。締まり・粘性有り、粒子やや粗い。
12. 10YR2/1 黒色土層 直径 50mm 以下の赤褐色スコリア 2%, 直径 10mm 以下のロームブロック 7% を含む。締まり強、粘性弱、粒子やや粗い。
13. 10YR3/3 暗褐色土層 焼熱した砂質粘土土塊、直径 50mm 以下の赤褐色スコリア 1%, 直径 100mm 以下の焼土ブロック 5% を含む。ローム 30%, 黒色土 5% を塊状に含む。締まり・粘性有り、粒子粗い。

第 464 図 S175(2) カマド (1/30)



第 465 図 SI75(3) 遺物分布図 (1/60)

平面形態は隅丸方形もしくは長方形で、南北 290cm、調査範囲内での東西 348cm を測る。主軸方向は N-75°-E を指す。検出面から床面までの深さは 73cm で、壁は垂直に立ち上がっている。

床面は貼床で、ほぼ全面が弱く硬化していた。壁溝は、カマド部分を除いて巡っていた。カマドは東壁に構築されていた。柱穴やその他の付帯施設は検出されなかった。

床面までの覆土は 14 層に分けられ、上層は黒色土、中～下層は黒褐色土を主体とする。最下層の 11 層はⅢ層土とロームブロックが主体であり、またカマド付近では、カマド由来の粘土粒子やブロックを多く含む層が見られることから、建物廃絶時に、カマドが破壊され、周辺に粘土ブロックが放置されたと推察される。

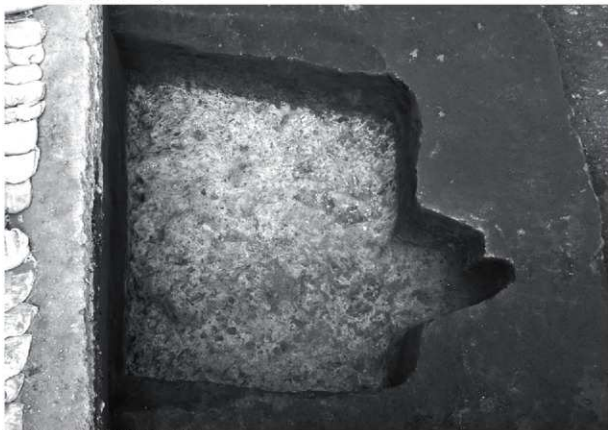
壁溝は、前述の通り調査範囲内においてはカマド部分を除く壁際に巡っている。断面形態は逆台形を呈し、幅 23 ～ 29cm、床面からの深さ 11 ～ 16cm を測る。覆土は黒褐色土がベースで、ロームを含んでいる。

掘り方は概ね V 層まで掘り込まれており、全面に不規則な凹凸が見られる。掘り方の覆土は、暗褐色土が基調でロームを多く含む 17 層とロームがベースの 18 層の 2 層に分けられ、床面の表面では、両者が混在しているように見える。

カマドは、調査範囲内では 1 基が検出された。東壁の南寄りを U 字状に掘り込んで構築されているが、構築材の遺存状態は極めて悪く、前述の通り、建物跡下層の覆土から粘土の大形ブロックや粒子が多量に検出されていることから、廃絶時に、カマド全体が大きく破壊されたものと思われる。そのため、調査時には構造を十分に確認することができなかった。従って、土層断面の観察結果を中心に



1. SI75 全景 (西南西から)



2. SI75 掘り方全景 (南南東から)

第 466 図 SI75 写真 (1)



1. SI75 土層断面 A-A'(東北東から)



2. SI75 土層断面 B-B'(南南東から)



3. SI75 粘土塊検出状況(北北西から)



4. SI75 遺物出土状況(西南西から)



5. SI75 カマド検出状況(西南西から)



6. SI75 カマド土層断面 D-D'(南南東から)



7. SI75 カマド土層断面 E-E'(西南西から)



8. SI75 カマド掘り方土層断面 D-D'(南南東から)

第 467 図 SI75 写真 (2)

にして、図上にて構造の復元を試みた（第 463・464 図破線部分）。

左右の袖及び両側壁は主に砂質粘土で構築されていたが大きく破壊されており、下部が辛うじて残っている状況であった。奥壁については砂質粘土等の構築材は完全に取り払われていた。火床部も残存していなかったが、10 層としている層に焼土がやや多くみられることから、これが火床部とも考えられる。カマド内の覆土には砂質粘土層もみられることから、カマド自体は大きく破壊されたものの、構築材の一部はカマド部分にも残置されたようである。

出土遺物 土師器 6 点、焼成粘土塊 1 点、礫 111 点、炭化物 2 点、縄文土器 1 点、弥生土器・古墳時代前期の土師器 5 点が出土した。

遺物出土状況 覆土の上層から下層にかけて遺物が出土しているが、その大多数は礫である。土師器 6 点はいずれも小片で、個別に図示し得る遺物は出土しなかった。建物跡南東隅の壁溝覆土上からは、自然礫 2 点が並んだ状態で出土した。

出土遺物から帰属時期を特定することは困難であるが、遺構の状況等から、奈良～平安時代であると思われる。

B 掘立柱建物跡・ピット（第 469～499 図、第 54 表）

ピットは、調査区内各所において 168 基（掘立柱建物跡を構成する 28 基を含む）が検出された。分布については、南西部をはじめ幾つかの纏まりがあるようにもみえるが、顕著な集中地点はみられない。

帰属時期については、全般的に出土遺物が少なく判然としないため、覆土や出土層位から古代から中世にかけてのいずれかに帰属すると判断したピットについて、本項に纏めて掲載することとした。

なお、覆土の様相から、古代の竪穴建物跡の覆土と類似するものは古代に帰属、それ以外のⅡ1 層ペースとみられる覆土を有するピットは古代～中世のいずれかに帰属すると想定した。第 54 表に想定される帰属時期を記載している。

遺構略号は SP である。なお、SX21 については焼土跡として調査を実施したが、遺構の形状等から、覆土に焼土を多く含むピットと判断し、本項で扱うこととした。略号及び遺構番号は SX21 のままとしている。

ピットの一部には矩形に並ぶ等、掘立柱建物跡と考えられる一群が複数確認された。そのうち 3 つの群を掘立柱建物跡と認定し、掘立柱建物跡 A～C として報告することとした。

以下に、掘立柱建物跡 A～C 及び特徴的なピットについて記述する。これらを含む全ピットについては第 54 表に示している。

掘立柱建物跡 A（第 469～471 図、第 54 表）

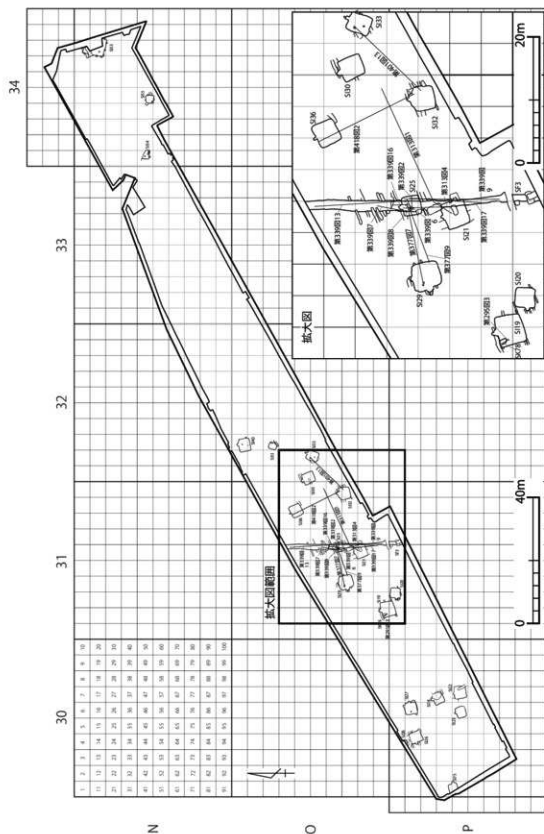
調査区南東部の 30P・24～26・35・36 グリッドに位置する、SP415・425・426・427・432・448・450・474・496・497・498・499 の 12 基のピットからなる掘立柱建物跡である。調査時は、それぞれ単独のピットとして扱い、検出時期も異なるため、検出面の高さも異なっている。各ピットともⅢ層上で検出され、SP426 の一部が SKK144 に切られている他は、各ピットとも良好な遺存状況である。また、北に SI26 及び 28、北東に SI27、東に SI18、南東に SI22、南に SI23 が隣接しており、奈良時代の竪穴建物跡に東側半分を囲まれたように位置している。

規模は桁行・梁行共に二間で、西側に底がある構造を想定した。身舎の間隔は 181～210cm を測

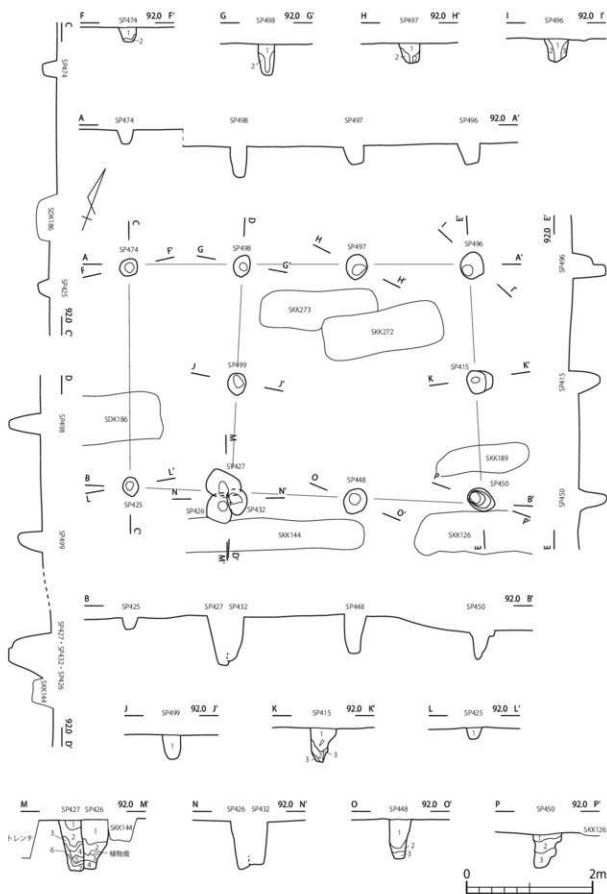
第53表 古代竪穴建物跡一覧表

遺構名	グリッド	採掘番号		平面形状	規模 (cm)			柱穴数	カマド	壁溝	時期	遺物	備考 (重要関係等)
		図面	写真		長軸	短軸	深さ						
SI18	30P・26・27・36・37	第281 ～283回	第284・285回	方形	404	345	67	Ⅲ	-	北	○	縄文土器5, 弥生土器8, 土師器119, 須恵器9, 埴輪粘土土塊1, 石器1, 礎30, 金属製品1, 炭化物1	SDK60, SKK159・160・175, 履見に切られる。
SI19	310・92・93, 31P・2・3	第288 ～292回	第293・294回	長方形	520	497	57	Ⅲ	-	北	○	縄文土器10, 弥生土器35, 土師器773, 須恵器28, 土製品2, 埴輪粘土土塊14, 石製品1, 切石片1, 礎433, 炭化物1	SKT2・78, SDK137・138・141・142・147・148・243に切られる。布張り方直前に矩形に並ぶ4基のヒットあり。
SI20	31P・3・4	第298 ～300回	第301・302回	方形	365	327	25	Ⅲ	-	西	-	縄文土器5, 弥生土器3, 土師器167, 須恵器5, 埴輪粘土土塊3, 礎93, 炭化物1	SDK127・128・130・131・132・133・135・137, 履見に切られる。
SI21	310・76・86・87	第305 ～309回	第310・312回	長方形	466	430	41	Ⅲ	-	北→東	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器6, 弥生土器35, 土師器216, 須恵器88, 灰釉陶器1, 埴輪粘土土塊5, 石器3, 石製品1, 切石片40, 礎53, 金属3, 炭化物1	SF3, SP424, SKK233, 履見に切られる。
SI22	30P・47・48	第315 ～318回	第319・320回	長方形	419	409	51	Ⅲ	-	北	○	8世紀中～後葉(奈良) 縄文土器4, 弥生土器25, 土師器320, 須恵器18, 埴輪粘土土塊2, 礎49, 炭化物2	SI24を切る。SDK27・28・30, SKK146・147, 履見に切られる。
SI23	30P・45・46	第323 ～328回	第329・330回	長方形	368	359	78	Ⅲ	-	北	-	8世紀中～後葉(奈良) 縄文土器8, 弥生土器50, 土師器660, 須恵器43, 埴輪粘土土塊4, 石製品1, 礎63, 炭化物1, 他1	SDK30・52・54, SKK145・244に切られる。
SI25	310・66・67・76・77	第334 ～336回	第337・338回	方形	362	300	38	Ⅲ	-	北	-	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器2, 弥生土器13, 土師器168, 須恵器103, 埴輪粘土土塊3, 石製品1, 切石片1, 礎50, 金属2	SF3, 履見に切られる。
SI26	30P・14・15・24・25	第341 ～344回	第345・346回	長方形	404	403	39	Ⅲ	-	西	-	8世紀中～後葉(奈良) 縄文土器2, 弥生土器13, 土師器727, 須恵器82, 埴輪粘土土塊2, 礎2, 礎162, 金属4, 炭化物2	SK108, SDK200, SKK268・280・286・303, 履見に切られる。
SI27	30P・6・16・17	第352 ～356回	第357・358回	方形	443	430	59	Ⅲ	-	北→東	○	8世紀後葉(奈良) 縄文土器2, 弥生土器15, 土師器619, 須恵器42, 埴輪粘土土塊3, 石製品2, 切石片1, 礎66, 金属3, 炭化物3	SDK220・229, SKK293, 履見に切られる。
SI28	30P・4・14	第364回	第365回	長方形	180	116	42	Ⅲ	(-)	(-)	○	8世紀中～後葉(奈良) 弥生土器6, 土師器3, 須恵器1, 礎2	SI22を切る。SKK287, 履見に切られる。
SI29	310・64・65・74・75	第368 ～373回	第374・376回	隅丸方形	538	511	62	Ⅲ	-	西→北	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器5, 弥生土器30, 土師器654, 須恵器255, 灰釉陶器5, 土製品1, 埴輪粘土土塊3, 石器3, 石製品2, 切石片25, 礎183, 金属4	SDK489・491・492, SKK475, 履見に切られる。
SI30	310・50・60・320・41・51	第383 ～386回	第387・389回	長方形	443	355	55	Ⅲ	-	北	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器3, 弥生土器3, 土師器141, 須恵器73, 埴輪粘土土塊1, 石器2, 石製品1, 切石片1, 礎74, 金属4, 炭化物1	SI31を切る。SDK359・362, SKK391・392に切られる。
SI32	310・69・70・79・80	第394 ～398回	第399・400回	長方形	449	394	60	Ⅲ	-	北	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器9, 弥生土器20, 土師器194, 須恵器86, 土製品1, 埴輪粘土土塊3, 石器1, 石製品1, 礎44, 金属3, 炭化物1	SDK328・372・374・377, SKK341・342・344・350・357・367, 履見に切られる。
SI33	320・42・43・52	第405 ～407回	第408・410回	長方形	454	319	42	Ⅲ	-	北	○	9世紀末～10世紀前期(平安) 縄文土器5, 弥生土器32, 土師器234, 須恵器82, 灰釉陶器1, 埴輪粘土土塊1, 石器1, 切石片1, 石製品1, 礎43, 金属1, 炭化物3	SDK413・415, SKK368・369・370・372・374に切られる。
SI36	310・38・39・48・49	第413 ～415回	第416・417回	隅丸方形	447	389	41	Ⅲ	-	北	-	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器3, 弥生土器34, 土師器247, 須恵器116, 土製品6, 埴輪粘土土塊2, 石器1, 石製品1, 礎65, 金属3, 炭化物1	SKK433に切られる。
SI40	320・2・3・12・13	第422 ～426回	第427・429回	長方形	448	416	64	Ⅲ	-	北	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器1, 弥生土器59, 土師器347, 須恵器120, 埴輪粘土土塊5, 石器3, 石製品1, 切石片39, 礎76, 金属2, 炭化物65	SI53を切る。SK122に切られる。
SI51	320・23	第434・435回	第436・437回	長方形	250	224	44	Ⅲ	-	東	-	8世紀後葉(奈良) 縄文土器1, 弥生土器10, 土師器18, 須恵器12, 石器1, 礎28, 炭化物6, 他1	SKK414, 履見に切られる。
SI53	34N・8・17・18・19・28・29	第440 ～444回	第445・448回	長方形	683	589	46	Ⅲ	(1)	(-)	○	9世紀中～後葉(平安) 縄文土器10, 弥生土器15, 土師器140, 須恵器2, 石器1, 礎31, 金属2, 炭化物3	SD10, SDK895, SKK719・788, 履見に切られる。
SI54	34N・41・42	第452・453回	第454・455回	方形もしくは長方形	297	238	80	Ⅲ	(-)	(-)	○	8世紀中～後葉(奈良) 縄文土器4, 弥生土器6, 土師器5, 須恵器5, 礎11, 炭化物2	履見に切られる。
SI55	34N・44・45・55	第458 ～460回	第461・462回	台形状	281	276	50	Ⅲ	-	東	(○)	奈良～平安 縄文土器1, 弥生土器31, 土師器20, 礎10, 炭化物1	SI56を切る。SKK483, 履見に切られる。
SI73	30P・31・41	第463 ～465回	第466・467回	隅丸方形もしくは長方形	348	290	73	Ⅲ	-	東	○	奈良～平安 縄文土器1, 弥生土器5, 土師器6, 埴輪粘土土塊1, 礎11, 炭化物2	SKK300に切られる。

※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄の弥生土器としたものには古墳時代前期の土師器も含む。切石片は履見貫砂切石片のことである。



第 468 図 古代遺構間接合 (1/1,200・1/600)



第 469 図 掘立柱建物跡 A(1) SP415・425・426・427・432・448・450・474・496・497・498・499(1/60)

掘立柱建物跡 A

SP415

1. 10YR3/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 10% を含む。締まりやや弱、粘性有り、粒子やや粗い、目層相当。
 2. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 7% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 10% が吸込に凝結する。締まりやや弱、粘性有り、粒子やや粗い、目層相当。
 3. 10YR3/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 7% を含む。暗褐色土 (10YR4/6) 20% が吸込に凝結する。締まりやや弱く 1~2 層よりも弱、粘性有り、粒子粗い、目層相当。

SP425

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 10% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10% が吸込に凝結する。締まり・粘性有り、粒子細かく、目層相当。

SP426

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 10%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5% が吸込に凝結する。締まりやや強、粘性やや強。
 2. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 5%、黒色スコリア 7% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5% が吸込に凝結する。締まり・粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 3. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 3% を含む。黒褐色土 (10YR3/4) 10% が吸込に凝結する。締まり有り、粘性やや強、粒子粗い、目層相当。
 4. 10YR4/6 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 7% を含む。黒色土 (10YR1/7) 10% が吸込に凝結する。締まりやや弱、粘性やや強、粒子粗い。

SP427

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 10% を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かく、目層相当。
 2. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 7% を含む。締まりやや有り、粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 3. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 7% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5% が吸込に凝結する。締まり・粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 4. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、黒色スコリア各 7% を含む。黒褐色土 10% が吸込に凝結する。締まり・粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 5. 10YR4/6 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア、赤褐色スコリア各 5% を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 6. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 5% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 25% が吸込に凝結する。下部に褐色土 3% が直径 30mm 程度のブロック状に凝結する。締まりやや強、粘性有り、粒子粗い。
 7. 10YR4/6 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5% を含む。黒色土 (10YR1/7) 20% が吸込に凝結する。締まり強、粘性有り、粒子粗い。

SP432

(土層説明なし。)

SP448

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 7%、黒色スコリア 10%、炭化物粒子 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10% が吸込に凝結する。締まり有り、粘性やや強、粒子粗い、目層相当。
 2. 10YR1/7 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 7% を含む。暗褐色土 25% が吸込に凝結する。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かく、目層相当。
 3. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 5%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 7% を含む。黒褐色土 20%、褐色土 (10YR4/6) 10% が吸込に凝結する。締まり有り、粘性やや強、粒子粗い。

SP450

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 10% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 15%、暗褐色土 (10YR3/4) 3% が吸込に凝結する。締まり・粘性有り、粒子粗い、目層相当。
 2. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・棕色スコリア 5%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5% を含む。黒褐色土 7%、暗褐色土 (10YR3/4) 10% が吸込に凝結する。締まりやや強、粘性有り、粒子粗い、目層相当。
 3. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 5% を含む。暗褐色土 7%、暗褐色土 (10YR3/4) 20% が吸込に凝結する。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。

SP474

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 2%、赤色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 3%、直径 5mm 以下のローム粒子 3% を含む。締まり・粘性やや強、粒子やや粗い。
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1% 未満を含む。締まり・粘性やや強、粒子細かく、目層相当。

SP496

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・赤色スコリア各 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%、直径 3 ~ 20mm の重層土ブロック 15%、直径 3mm の焼土粒子 1% 未満を含む。締まり・粘性弱、粒子やや粗い。
 2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・赤色スコリア 1% 未満、直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 5 ~ 30mm の重層土ブロック 20% を含む。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かく、目層相当。
 3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 2 ~ 5mm のローム粒子 1%、直径 5 ~ 30mm の重層土ブロック 20% を含む。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かく、目層相当。

SP497

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 2%、黒色スコリア 1% 未満、直径 5 ~ 20mm の重層土ブロック 3% を含む。締まりやや強、粘性弱、粒子やや粗い。
 2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2 ~ 4mm の赤褐色スコリア 1%、直径 5 ~ 30mm の重層土ブロック 30% を含む。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。

SP498

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%、赤色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%、直径 5 ~ 30mm の重層土ブロック 20% を含む。締まり・粘性弱、粒子やや粗い、粒状配り/理上。
 2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 2 ~ 40mm のローム土ブロック 20% を含む。締まり・粘性やや強、粒子粗い。

SP499

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2 ~ 3mm の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 1% 未満を含む。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。

第 470 図 掘立柱建物跡 A(2) SP415・425・426・427・432・448・450・474・496・497・498・499

り、平均すると 189cm である。

各ピットの平面形態は、SP450 が楕円形であることを除いて円形か卵形を呈し、各ピットの長軸は、最大で SP427 の 52cm である。深さは、一番高い SP474 の検出面 (91.92 m) を基準にすると、SP415 が 66cm、SP425 が 30cm、SP426 が 81cm、SP427 が 87cm、SP432 が 80cm、SP448 が 67cm、SP450 が 81cm、SP474 が 22cm、SP496 が 74cm、SP497 が 56cm、SP498 が 75cm、SP499 が 62cm を測る。四隅の柱が 74 ~ 87cm と深く、その間の柱が 56 ~ 67cm、底とした柱が 22 ~ 30cm と浅くなっている。

南西隅の SP426・427・432 は、土層断面の観察から SP426 → SP427 → SP432 の順に構築されており、1 箇所の柱を 2 度据え替えた想定した。ただし、この隅のみ据え替えが 2 度も生じ、他は発生していないというのも、いささか不自然ではある。SP425 及び 474 については、他の柱穴と比



1. SP415 全景(南南東から)



2. SP425 土層断面(南南東から)



3. SP426(右)・427 土層断面(西南西から)



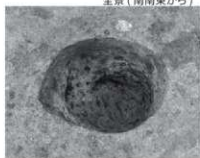
4. SP426(左下)・427(左上)・432(右) 全景(南南東から)



5. SP448 土層断面(南から)



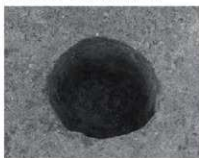
6. SP448 全景(北西から)



7. SP450 全景(北北東から)



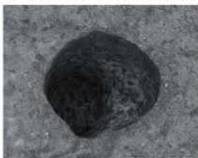
8. SP474 土層断面(南南東から)



9. SP474 全景(南南東から)



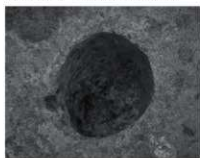
10. SP496 土層断面(南から)



11. SP496 全景(東から)



12. SP497 土層断面(南から)



13. SP497 全景(南東から)

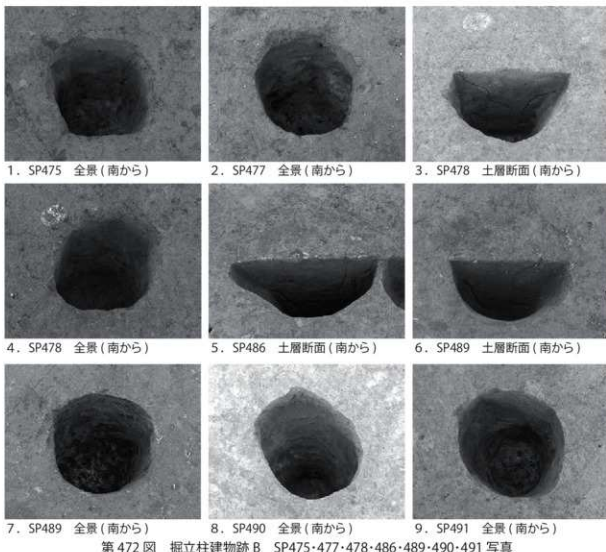


14. SP498 全景(東から)



15. SP499 全景(南東から)

第 471 図 掘立柱建物跡 A SP415・425・426・427・432・448・450・474・496・497・498・499 写真



第472図 掘立柱建物跡 B SP475・477・478・486・489・490・491 写真

べて底面の深さが浅いことより庇を想定したが、柱穴の並びから、南東隅の柱の据え替え時に庇を増築したとも考えられる。

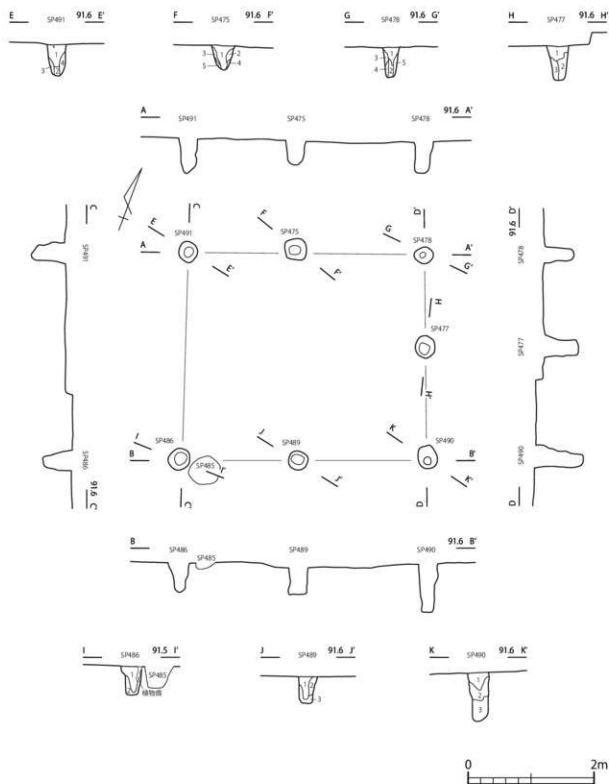
覆土は、黒色スコリアを含む黒色土をベースとしているものが主体となっている。また、SP498で柱抜き穴の覆土を検出した他、SP496・497においても柱抜き穴の可能性のある覆土を検出している。

遺物は、SP426から土師器と須恵器が各1点、SP496から焼成粘土塊2点等が出土している。その他、各ピットから合計7点の礫が出土した。

帰属時期は、覆土の様相から古代と判断したが、隣接する竪穴建物跡との関係を鑑みると、奈良時代の可能性も考えられるであろうか。

掘立柱建物跡 B (第472～474図、第54表)

調査区中央部の310・55・56・65グリッドに位置する、SP475・477・478・486・489・490・491の7基のピットからなる掘立柱建物である。各ピットともⅢ層上で検出され、各ピットとも良好に遺存していた。南側350cmに平安時代の竪穴建物跡SI25が近接している。



第 473 图 掘立柱建物跡 B(1) SP475・477・478・486・489・491(1/60)

掘立柱建物跡 B

SP475

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満、直径 2～3mm の炭化物粒子 1%未満を含む、粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/2 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%を含む、粘りや粘りや中硬。
4. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%未満を含む、ローム 30%が破片に散じる、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬。
5. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%を含む、ローム 40%が破片に散じる、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

SP477

1. 10YR3/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2～5mm の中硬 3%を含む、粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の焼土粒子 1%、直径 2～4mm の炭化物粒子 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR3/1 黒色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の焼土粒子 1%を含む、粘りや粘りや中硬。

SP478

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2～3mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%未満、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下のローム粒子 1%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/2 黒色土層 直径 2～3mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 1mm の赤褐色スコリア 1%未満、直径 2mm のローム粒子 1%、直径 2～5mm の炭化物粒子 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR4/4 黒色土層 ローム主体、直径 2～3mm の赤褐色スコリア 1%、に黄・黒褐色土 (10YR4/3)30%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
4. 10YR3/1 黒色土層 直径 2～5mm の赤褐色スコリア 1%、直径 10mm 以下のロームブロック 2%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
5. 10YR3/1 黒色土層 直径 2～5mm の赤色スコリア、直径 20mm 以下のロームブロック 3%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

SP486

1. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満・黒色スコリア 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/2 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア各 1%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

SP489

1. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア各 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR3/2 黒色土層 直径 2～15mm のロームブロック 5%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

SP490

1. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア各 1%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2～3mm の炭化物粒子 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の焼土粒子 1%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%未満、直径 3～10mm のロームブロック 3%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

SP491

1. 10YR3/1 黒色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 1mm の黒色スコリア 1%、直径 2～3mm の炭化物粒子 1%未満を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
2. 10YR3/1 黒色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%、直径 2～5mm のローム粒子 2%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
3. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 5～30mm のロームブロック 10%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。
4. 10YR3/2 黒色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 2～20mm のロームブロック 7%を含む、粘りや粘りや中硬、粘りや中硬、粘りや中硬。

第 474 図 掘立柱建物跡 B(2) SP475・477・478・486・489・490・491

規模は桁行・梁行共に二間を想定しているが、北西隅の SP491 と南西隅の SP486 との間はビットが検出されなかった。SP491 と SP486 より更に西側にビットがあることも想定できるが、検出されなかった。SP491～486 間を除く柱穴間の間隔は 150～204cm を測り、平均すると 182cm である。

なお、南西隅の SP486 には、南東側に隣接して SP485 が位置している。

ビットの平面形態は、SP475 が方形である以外は円形もしくは卵形である。各ビットの長軸は 28～36cm の間に纏まっており、断面形態は箱状が主体である。深さはそれぞれのビットの検出面から 39～78cm を測る。

覆土は、黒褐色土をベースとしているものが主体となっている。古代の竪穴建物跡で顕著にみられる黒色スコリアの含有は比較的小さいと言える。また、SP475 で柱抜き取り穴の覆土を検出した他、他のビットにおいても、柱抜き取り穴の可能性のある覆土を検出している。SP491 では、掘り方覆土とみられる 3・4 層にロームブロックを比較的多く含んでいる。

遺物は、SP489 を除く各ビットから出土しており、合計すると、弥生土器・古墳時代前期の土師器 5 点、古代の土師器 13 点、須恵器 6 点、礫 4 点である。古代の土師器と須恵器はいずれも小片である。

当遺構の帰属時期は、覆土の様相から古代～中世と考えられる。

掘立柱建物跡 C (第 475～477 図、第 54 表)

調査区中央部の 320・1・2・11・12 グリッドに位置する、SP553・554・555・557・558・559・623・624・625 の 9 基のビットからなる掘立柱建物跡である。各ビットともⅢ層上で検出され、遺存状

掘立柱建物跡 C

SP553

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 第2層上に第1層土が露出。直径 1mm 程の黒褐色スコリア 2%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘りなし。粘性わずか。粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程の黒褐色スコリア 3%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 10%を含む。粘りなし。粘性わずか。粒子粗い。
3. 7.5YR2/1 黒色土層 第2層上に第1層土が露出。直径 1mm 程の黒褐色スコリア 1%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1%を含む。粘りなし。粘性わずか。粒子粗い。
4. 7.5YR3/1 黒褐色土層 第2層と相当し。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1%を含む。粘りやや弱。粘性弱。粒子粗い。人為的増強。
5. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径 15mm 以下の第3層上ブロック 20%を含む。炭灰を呈する。粘りに欠け。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
6. 7.5YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとする。粘り・粘性有り。粒子粗い。
7. 7.5YR2/5/2 黒褐色土層 第2層土をベースとする。粘り弱。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。

SP554

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程の黒褐色スコリア 3%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 7%。白色砂粒 2%を含む。粘り弱。粘性わずか。粒子粗い。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1%を含む。粘り弱。粘性わずか。粒子比較的精細。人為的増強。
3. 7.5YR2/1 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 1mm 程の黒褐色スコリア 2%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り有り。粘性わずか。粒子粗い。人為的増強。
4. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 1mm 程の黒褐色スコリア 1%。直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満を含む。粘り弱。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。

SP555

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 粘り弱。粘性わずか。粒子粗い。
2. 7.5YR2.2/1 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り・粘性弱。粒子やや粗い。

SP557

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア (7.5YR5/6)1%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り有り。粘性わずか。粒子やや粗い。杜撰取り穴露上。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%。明褐色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り・粘性弱。粒子比較的精細。
3. 10YR2/1 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 1%。ローム粒子 1%を含む。粘り有り。粘性やや弱。粒子比較的精細。人為的増強。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 1mm 以下の明褐色スコリア 2%。ローム粒子 3%を含む。粘り・粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
5. 10YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子 10%を含む。突き固められて硬質で。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

SP558

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 2mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/6)1%。黒色スコリア 2%を含む。粘り有り。粘性わずか。粒子やや粗い。杜撰取り穴露上。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%。明褐色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り・粘性弱。粒子比較的精細。
3. 10YR2/1 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 1%。ローム粒子 1%を含む。粘り有り。粘性やや弱。粒子比較的精細。人為的増強。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 2%。ローム粒子 3%を含む。粘り・粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
5. 10YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子 10%を含む。突き固められて硬質で。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

SP559

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 2mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/6)1%。直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り有り。粘性わずか。粒子やや粗い。杜撰取り穴露上。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%。明褐色スコリア 1%未満。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。粘り・粘性弱。粒子比較的精細。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 2%。ローム粒子 3%を含む。粘り・粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子 10%を含む。突き固められて硬質で。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

SP623

1. 10YR3/3 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3%。粘り土層 10%を含む。粘り有り。粘性わずか。粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 10%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 5%を含む。粘り弱。粘性なし。粒子粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3%を含む。粘り弱。粘性わずか。粒子粗い。
4. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%未満を含む。粘り弱。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
5. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)1%。ローム粒子 5%を含む。粘り弱。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

SP624

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 10%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3%を含む。粘り弱。粘性なし。粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3%を含む。粘り弱。粘性わずか。粒子粗い。
3. 7.5YR3/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%を含む。粘り・粘性弱。粒子粗い。人為的増強。
4. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%未満を含む。粘り弱。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
5. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)1%。ローム粒子 5%を含む。粘り弱。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

SP625

1. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 10%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 5%を含む。粘り弱。粘性なし。粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3%を含む。粘り弱。粘性わずか。粒子粗い。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 5%。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%。ローム粒子 7%を含む。粘り弱。粘性なし。粘性弱。粒子粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%を含む。粘り・粘性弱。粒子粗い。人為的増強。
5. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%未満を含む。粘り弱。粘性有り。粒子粗い。人為的増強。
6. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 第2層土をベースとし。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)1%。ローム粒子 5%を含む。粘り弱。粘性有り。粒子極めて細い。人為的増強。

第 476 図 掘立柱建物跡 C(2) SP553・554・555・557・558・559・623・624・625

況は良好であった。西側 180cm には平安時代の SI40 が主軸を共にするように位置している。また、SP553 の東、建物跡の範囲内には古代～中世の集石 SS8 が検出されている。

当遺構については、SP553～555 が等間隔に並んでいるのを確認した時点で掘立柱建物跡であると想定して他のピットの検出を試み、更に北側に調査範囲を拡張して SP624・625 を検出した。

柱間は梁行(東西)二間、桁行(南北)三間と想定される。南東角のピットについては、近世の SKK523 に切られていたか、もしくは弥生時代終末期の SI42 の調査時に未確認のまま掘削してしまったと思われ、検出できなかった。

未確認の南東隅の柱穴を除くと、柱穴間の間隔は東西が 232～238cm で平均 235cm、南北が



1. 掘立柱建物跡C 全景(南から)



2. SP553 土層断面(西から)



3. SP554 土層断面(西から)



4. SP555 土層断面(西から)



5. SP557 土層断面(東から)



6. SP558 土層断面(東から)



7. SP559 土層断面(東から)



8. SP623 土層断面(南から)



9. SP624 土層断面(南から)



10. SP625 土層断面(南から)

第477図 掘立柱建物跡C SP553・554・555・557・558・559・623・624・625 写真

188～206cmで平均195cmを測り、東西方向の方がやや広い。

ビットの平面形態は円形もしくは卵形である。各ビットの長軸は27～45cm、断面形態はU字状もしくは箱状が主体である。

覆土は、主に上層が黄褐色や黒色のスコリアを含むⅡ層系の土壌、下層がⅢ層土主体の黒褐色土がベースとなっている。また、SP557・558・559で柱抜き穴の覆土を検出した他、SP624・625においても、柱抜き穴の可能性のある覆土を検出している。また、SP554は、最下層の4層が強く締まっているのが確認できた。

遺物の出土数は極めて少なく、SP555で弥生土器・古墳時代前期の土師器1点と古代の土師器1点、SP558で礫1点が出土しているのみである。

当遺構の帰属時期は、覆土の様相から古代と考えた。

単独ビット（第278～280、478～499図、第54表）

古代～中世に帰属すると判断した単独のビットは140基が検出された。以下に、特徴的なビットについて概略を記述する。なお、各遺構の規模等は、第54表に記載した。個別図を割愛したビットについては、第278～280図の分布図割図を参照して頂きたい。

SP406 SK58 調査時に検出。SK58を切っていると判断した。

SP441 覆土より須恵器甕頸部の大型破片が出土。

SP455 覆土上層より須恵器甕の胴部片が出土。

SP472 SI31の土層断面ベルトの断面で検出。覆土は、弥生時代終末期のSI31の覆土がベースと見られる。

SP476 古代のSI29に隣接しており、古代の土師器7点他が出土した。

SP482 3層に分かれる覆土のいずれにも粘土や焼土の粒子を含んでいる。特に灰黄褐色土層の1層に多い。

SP513 8層に分けられた覆土のうち、3層は柱痕跡と思われる。また、下部の6～8層は版築状に強く突き固められている。

SP514 6層からなる覆土のうち、2層は柱抜き穴の覆土と考えられる。

SP547・550 深さ65cmのSP550をやや不定形な円形のSP547が切っている。

SP549 覆土のうち、1～3層が柱抜き穴の覆土とみられる。

SP562 側面に工具痕のような凹凸が検出された。

SP578 古墳時代の円墳SZ3の調査時に検出。SZ3周溝の覆土に穿たれている。

SP582 断面はV字状で、6層からなる覆土のうち、1・2層は柱痕跡とみられる。

SP597 古墳時代前期のSI56調査中に検出。本来はSI56より新しい。

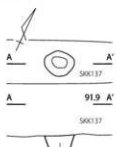
SP601・607 SP607がSP601を切っている。SP607の覆土のうち2・3層については、柱抜き穴の覆土とみられる。

SP615 古墳時代前期の竪穴建物跡SI52を切っており、弥生土器・古墳時代前期の土師器片が出土した。

SP626 4層に分けられる覆土のうち、2層は柱抜き穴の覆土とみられる。

SP627 東西ベルトの断面で検出。Ⅲ1層を掘り込み、Ⅱ1層に上部が覆われていることを確認した。

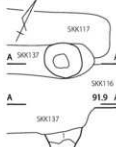
SP404



SP404

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2~5mm 以下の赤褐色・褐色スコリア 1%, 直徑 2~15mm のロームブロック 2%, 直徑 5~20mm の黒褐色ブロック 1%を含む。締まり・粘性やや中弱。

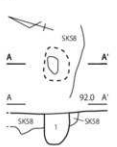
SP405



SP405

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.5) 褐色土 (10YR4/6.7) が塊状に混じる。締まり・粘性有り、粘子やや強い、目層相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%, 直徑 1mm 程度の黒色スコリア 10%を含む。褐色土 15%が塊状に混じる。締まり・粘性有り、粘子やや強い。

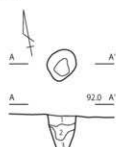
SP406



SP406

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色・褐色スコリア 1%未満、直徑 10mm 以下のロームブロック 2%, 直徑 3~20mm の暗褐色土ブロック (10YR3/2.1) 1%を含む。締まり・粘性やや中弱、粘子やや弱い。

SP407



SP407

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%, 直徑 2mm 以下の黒色スコリア 15%を含む。締まり・粘性有り、粘子やや強い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%, 直徑 1mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。締まり・粘性有り、粘子やや強い、目層に類似している。
3. 10YR2/1 黒色土層 全体的に黄褐色土 (10YR2/2) が塊状に混じる。締まりやや中弱、粘性有り、粘子弱い。

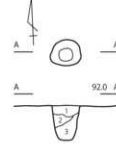
SP408



SP408

1. 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、Ⅲ層土が若干混在。直徑 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%, 直徑 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。締まり有り、粘性弱、粘子やや弱い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ層相当上に、ごくわずかなⅠ層土が混在。直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 7%, 直徑 3mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。締まり有り、粘性わず、粘子極めて弱い。
3. 7.5YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土が混在。直徑 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%, 直徑 3mm 以下の黒色スコリア 3%, 直徑 25mm 以下の暗褐色土ブロック 5%を含む。締まり有り、粘性弱、粘子やや弱い。
4. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土とⅢ層土が混在。直徑 20mm 以下の灰褐色土ブロック 7%がやや塊状を呈する。他に、直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 3%, 直徑 3mm 以下の黒色スコリア 1%を含む。締まりやや中弱、粘性有り、粘子比較的弱い。

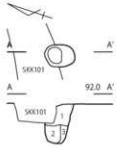
SP409



SP409

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 15%を含む。締まり・粘性有り、粘子やや強い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 10%を含む。締まり弱、粘性有り、粘子弱く 1層に類似する。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 3~5mm の黒褐色土 (10YR2/2) をブロック状に含む。締まり弱、粘性有り、粘子弱い。

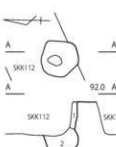
SP410



SP410

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%, 直徑 1mm 程度の黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.1) 10%が塊状に混じる。下にいくにつれて黒褐色土の含有量が増える。締まり・粘性有り、粘子弱い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4.1) 5%が塊状に混じる。締まりやや中弱、粘性有り、粘子弱い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.1) 5%が塊状に混じる。締まり・粘性有り、粘子やや弱い。

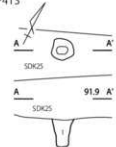
SP411



SP411

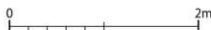
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 15%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%・黒色スコリア 10%を含む。直徑 20mm 以下のロームブロック 3%を含む。締まり・粘性有り、粘子弱い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/4.3) 30%, 直徑 20mm 程度の褐色土 (10YR4/6.5) が塊状に混じる。締まりやや中弱、粘性有り、粘子弱く、目層相当。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%, 直徑 1mm 程度の黒色スコリア 5%を含む。直徑 5~10.0mm の褐色土 (10YR4/6.2) をブロック状に含む。締まり有るが部分的に弱、粘性有り、粘子弱く、目層相当。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%を含む。暗褐色土 (10YR3/4.2) 5%を含む。直徑 2~30mm の暗褐色土 15%がブロック状に混じる。締まり弱、粘性有り、粘子弱い。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。直徑 2~30mm の暗褐色土 15%がブロック状に混じる。締まり弱、粘性有り、粘子弱い。

SP413

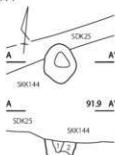


SP413

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 5%, 直徑 1mm 程度の黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/1.8) 5%, 暗褐色土 (10YR2/2.1) 10%が塊状に混じる。下にいくにつれて暗褐色土の含有量が増える。締まり・粘性有り、粘子弱い。



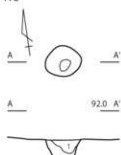
SP414



SP414

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 0.5 ~ 1mm の黄褐色・褐色土スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)3%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア。黒スコリア 7%を含む。褐色土 (10YR3/4)20%が全体に散状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア 7%を含む。黒褐色土 20%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。

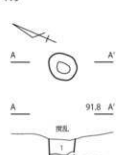
SP416



SP416

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア。黒色スコリア 10%を含む。褐色土 (10YR3/3)15%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア 7%。直径 2mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)20%が吸状に散じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。目録相当。

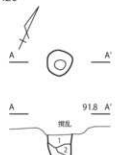
SP419



SP419

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 3%。黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)7%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 3%。黒色スコリア 5%を含む。褐色土 (10YR4/6)20%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。

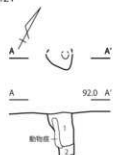
SP420



SP420

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 5%。黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 5%。黒色スコリア 7%を含む。褐色土 15%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子細かい。目録相当。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 5%。黒色スコリア 7%を含む。褐色土 15%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子細かい。目録相当。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 5%。直径 2mm 以下の黒褐色土スコリア 5%を含む。褐色土 40%が吸状に散じる。結まり弱、粘性有り、粒子細かい。

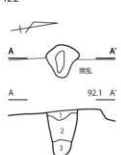
SP421



SP421

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア 7%。黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/1)15%が吸状に散じる。下部にいくにつれて含有量が増える。結まり有るが部分に散る。粘性有り、粒子細かい。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア 7%。黒色スコリア 7%を含む。褐色土 (10YR2/2)25%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム (10YR5/6)30%がブロック状に散じる。黒褐色土 (10YR1.7/1)7%が散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。

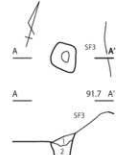
SP422



SP422

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 0.5 ~ 2mm の黄褐色・褐色土スコリア。黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/1)15%が吸状に散じる。結まり強、粘性やや強、粒子やや粗い。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 0.5 ~ 3mm の黄褐色・褐色土スコリア 15%。直径 0.5 ~ 2mm の黒色スコリア 10%を含む。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。目録相当。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 0.5 ~ 3mm の黄褐色・褐色土スコリア 20%。直径 1mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。褐色土 (10YR4/6)30%。黒褐色土 (10YR2/2)15%が吸状に散じる。粒子やや粗い。結まり強、粘性やや強、粒子やや粗い。目録相当。

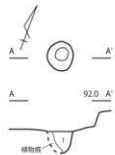
SP424



SP424

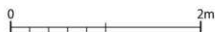
1. 10YR2/2 黄褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア。黒色スコリア 7%。直径 10 ~ 30mm のロームブロック 5%。直径 3mm 以下の焼土粒子 (褐色 7.5YR4/6)7%を含む。黒褐色土 (10YR3/2)20%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。目録相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黄褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色土スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR3/4)15%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR3/4 暗褐色土層 黒褐色土 (10YR2/2)30%が吸状に散じる。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。

SP428



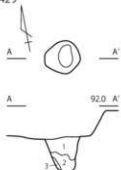
SP428

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色土スコリア。黒色スコリア 7%。直径 3mm 以下の焼土粒子 (10YR4/6)5%。焼土粒子 15%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が吸状に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。



第 479 図 SP414・416・419・420・421・422・424・428(1/40)

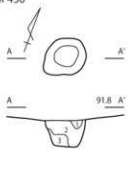
SP429



SP429

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 3%, 黒色スコーリア 15%を含む。直径 3mm 以下の焼土粒子 5%, 炭化物粒子 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%, 暗褐色土 (10YR2/4)15%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子細かい。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 3%, 黒色スコーリア 5%を含む。暗褐色土 20%が炭状に混じる。結まりやや弱。粘性有り。1層よりも粗。粒子粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 5%を含む。結まりやや弱。粘性やや弱。粒子やや粗い。

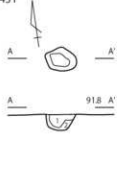
SP430



SP430

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア。黒色スコーリア 5%, 炭化物粒子 1%を含む。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%を含む。結まり・粘性有り。粒子やや粗い。目態相当。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 7%, 黒色スコーリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%がプロック状に混じる。結まりやや弱。粘性有り。粒子細かい。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 3%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)3%が炭状に混じる。結まり有り。粘性やや弱。粒子細かい。

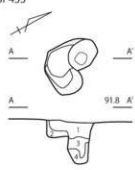
SP431



SP431

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア。黒色スコーリア 各 10%, 炭化物粒子 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)5%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 各 5%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)25%が炭状に混じり、特に重量が高密度。結まり・粘性有り。粒子細かい。

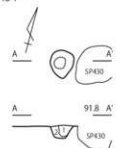
SP433



SP433

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 10%, 黒色スコーリア 10%。直径 2mm 以下の焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子細かい。目態相当。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 5%, 直径 1mm 以下の黒色スコーリア 5%を含む。結まりやや弱。粘性やや弱。結まり・粘性有り。粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 15%, 黒色スコーリア 10%を含む。暗褐色土 (10YR4/6)30%が炭状に混じる。結まりやや弱。粘性有り。粒子やや粗い。
4. 10YR4/6 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 10%, 黒色スコーリア 3%を含む。黒褐色土 30%が炭状に混じる。結まりやや弱。粘性有り。粒子細かい。目態相当。

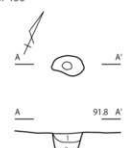
SP434



SP434

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 10%, 直径 1mm 以下の黒色スコーリア 10%, 焼土粒子 3%を含む。結まり・粘性有り。粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア。黒色スコーリア 各 7%, 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)20%, 褐色土 (10YR4/6)7%が炭状に混じる。結まりやや弱。粘性有り。粒子細かい。

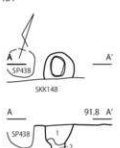
SP436



SP436

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア。黒色スコーリア 各 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子やや粗い。目態相当。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコーリア 7%, 直径 1mm 程の黒色スコーリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)10%, 褐色土 (10YR4/6)5%が炭状に混じる。結まり有るが部分的にやや弱。粘性有り。粒子細かい。

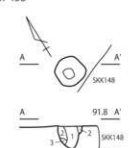
SP437



SP437

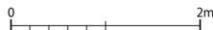
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 10%, 直径 3mm 以下の黒色スコーリア 10%, 焼土粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子やや粗い。目態相当。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR1.7/1)10%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子細かい。

SP438



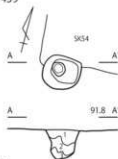
SP438

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア。黒色スコーリア 各 10%, 直径 2mm 以下の焼土粒子 5%, 直径 1mm 程の炭化物粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)20%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子やや粗い。目態相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 5%, 直径 3mm 以下の黒色スコーリア 5%, 直径 1mm 程の焼土粒子 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコーリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR1.7/1)10%が炭状に混じる。結まり・粘性有り。粒子細かい。



第 480 図 SP429・430・431・433・434・436・437・438(1/40)

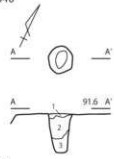
SP439



SP439

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、黒色スコリア 10%、黄土 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%が横状に散じる。締まり・粘性有り、粒子やや粗い、目層相。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黄褐色土 20%、暗褐色土 (10YR3/4)10%が横状に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア 10%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)20%が横状に散じる。締まり有りが部分的に強、粘性有り、粒子細かい。

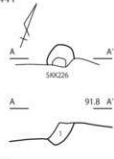
SP440



SP440

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%、黒色スコリア 15%を含む。黄褐色土 (10YR2/2)15%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子粗い、目層相。
2. 10YR2/2 黄褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)20%、暗褐色土 (10YR3/4)10%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%を含む。褐色土 25%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、目層相。

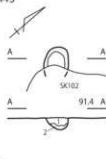
SP441



SP441

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 10%、黒色スコリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)20%が横状に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。

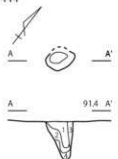
SP443



SP443

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)5%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい、目層相。
2. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)5%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい、目層相。

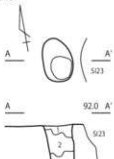
SP444



SP444

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、黒色スコリア 各 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)15%が横状に散じる。締まり有りが部分的にやや強、粘性有り、粒子やや粗い、目層相。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 7%を含む。直径 5~10mm のローム土 (10YR4/6)3%がブロック状に散じる。黒褐色土 (10YR2/2)3%が横状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い、目層相。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子やや粗い。
4. 10YR4/6 暗褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 15%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)25%が横状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。

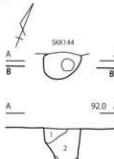
SP446



SP446

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%、暗褐色土 (10YR3/4)25%がブロック状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい、目層相。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%を含む。褐色土 7%がブロック状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、目層相。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)10%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、目層相。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 15%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)が全体に、直径 5~10mm のブロック状に散じる。褐色土 30%が横状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。

SP447



SP447

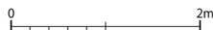
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 10%、直径 2mm 以下の塊状粒子 1%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)7%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。暗褐色土 15%が横状に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%を含む。黒色土 (10YR1.7/1)10%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)5%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。

SP449



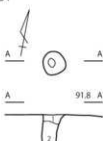
SP449

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 3%、黒色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)10%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子粗い、目層相。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)10%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、目層相。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の赤褐色スコリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)7%がブロック状に散じる。下部にいくつて含有量が増える。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。



第 481 図 SP439-440-441-443-444-446-447-449(1/40)

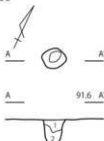
SP451



SP451

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 15%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/4) 10%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。

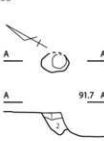
SP453



SP453

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 3%。黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%。暗褐色土 (10YR3/3) 10%が横状に散じる。細まりやや強。粘子やや粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 3%。黒色スコリア 5%。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 10%が横状に散じる。細まりは 1 層より強いやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。

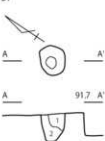
SP455



SP455

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 7%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 7%。黒色スコリア 10%を含む。細まりやや強。粘子やや粗い。目層相当。

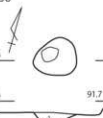
SP457



SP457

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%。直径 2mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 3%を含む。黒褐色土 15%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子やや粗い。1 層よりも褐色味が強い。

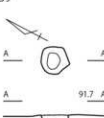
SP458



SP458

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/5) 10%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。

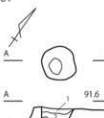
SP459



SP459

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10%が横状に散じる。細まりやや強。粘子粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 7%。黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 3%が横状に散じる。細まり有り。粘性やや強。粘子やや粗い。1 層よりも褐色味が強い。目層相当。

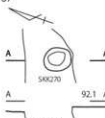
SP461



SP461

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 3%。黒色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 10%。褐色土 (10YR4/6) 7%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%。褐色土 (10YR4/6) 7%が横状に散じる。細まりやや強。粘性有り。粘子粗い。目層相当。

SP467



SP467

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 1%。直径 3~10mm の黄褐色スコリア 3%を含む。細まりやや強。粘性やや強。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満。直径 10~15mm の黄褐色スコリア 3%を含む。細まりやや強。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%。直径 5~15mm の黄褐色スコリア 3%を含む。細まりやや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 10~20mm のロームブロック 3%を含む。細まりやや強。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 5~10mm のロームブロック 3%を含む。細まりやや強。粘性やや強。

SP468



SP468

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 1%未満。直径 5~10mm のロームブロック 1%未満を含む。細まり弱。粘性やや強。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%未満を含む。細まり・粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2~5mm のロームブロック 3%を含む。細まり・粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 2~3mm の赤色スコリア 1%未満。直径 3~40mm のロームブロック 40%を含む。細まり・粘性弱。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 2~3mm の赤色スコリア 1%未満。直径 2~20mm のロームブロック 20%を含む。細まり・粘性弱。

第 482 図 SP451・453・455・457・458・459・461・467・468(1/40)

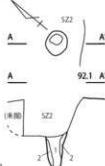
SP482



SP482

1. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直径 3mm 以下の粘土粒子 (2.5Y6/3) 7%、直径 5mm 以下の礫土粒子 10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。締まり弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の粘土粒子 2%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2~3mm の粘土粒子 1%、直径 3mm 以下の礫土粒子 3%を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。

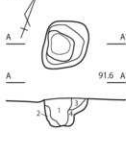
SP483



SP483

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 5mm 以下のローム土粒子 1%、直径 3~10mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 30mm 以下のロームブロック 20%を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。

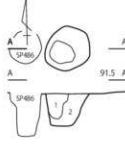
SP484



SP484

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色・赤色スコリア各 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 1%・赤色スコリア 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の炭褐色スコリア 3%、直径 1mm の赤色スコリア 1%を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 1%を含む。締まり・粘性やや弱。

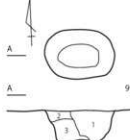
SP485



SP485

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 3mm の炭褐色スコリア 3%、直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色・赤色・黒色スコリア各 1%未満を含む。締まり弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。

SP487



SP487

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 3%、直径 2mm の赤色スコリア 1%未満、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性弱、粒子粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 1%未満、直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満を含む。締まり弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
3. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%未満を含む。黒褐色土 (10YR3/1) を混以し 40%含む。締まり・粘性やや弱。

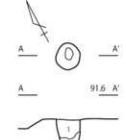
SP488



SP488

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色・黒色スコリア 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱、粒子粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1%未満、直径 5~10mm のロームブロック 1%を含む。締まりはやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。
3. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色・赤色スコリア各 1%未満、直径 2~5mm のローム粒子 2%を含む。締まりやや弱、粘性やや弱。

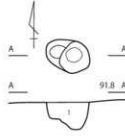
SP492



SP492

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の炭褐色スコリア 1%、直径 1mm の赤色スコリア 1%未満を含む。締まり・粘性やや弱。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 3~20mm のロームブロック 5%を含む。締まり弱、粘性やや弱。

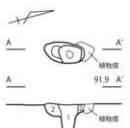
SP494



SP494

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2~3mm の炭褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直径 10mm 以下のロームブロック 3%、直径 3~20mm の暗褐色土ブロック (10YR3/3) 1%を含む。締まり・粘性やや弱、粒子粗い。

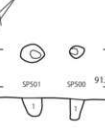
SP495



SP495

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 1%、直径 5mm の粘土粒子 (2.5Y5/2) 1%、直径 2mm の礫土粒子 1%、直径 2~3mm の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性弱、粒子やや粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 5mm の粘土粒子 1%を含む。締まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。

SP500・501



SP500

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色スコリア 1%、直径 2~3mm の粘土粒子 3%、直径 2mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性弱、粒子粗い。

SP502



SP502

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の炭褐色・赤色スコリア 1%、直径 2~3mm の炭化物粒子 1%未満を含む。締まりやや弱、粘性弱。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%を含む。締まり弱、粘性弱、粒子やや粗い。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直径 3~10mm のロームブロック 2%を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子粗い。

SP504

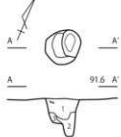


SP504

1. 10YR1/3 黒褐色土層 直径 1mm 程度の炭褐色・赤色スコリア 3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 10%を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子粗い、且層相対。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 直径 1mm 程度の炭褐色・赤色スコリア 1%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%を含む。締まりやや弱、粘性弱、粒子粗い、且層相対。



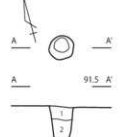
SP505



SP505

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2~3mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。結まり・粘性やや弱、粘子やや強い。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満を含む。結まり・粘性やや弱。
3. 10YR3/3 粘褐色土層 直径 2~3mm 以下の黄褐色スコリア・直径 2mm 以下の赤褐色スコリア各 1%未満を含む。結まり・粘性やや弱。

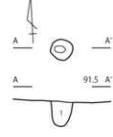
SP509



SP509

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、褐色スコリア 1%を含む。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)3%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%、黒褐色土 (10YR2/2)3%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子やや強い、目難相。

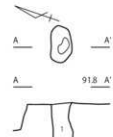
SP510



SP510

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2%・黒褐色スコリア 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)3%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。

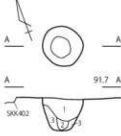
SP511



SP511

1. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、焼土粒子 3%、直径 4mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)3%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
2. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 2mm以下の黄褐色・褐色スコリア各 2%、黒褐色土 (10YR2/2)7%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性強、粘子強い。

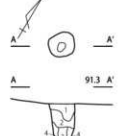
SP512



SP512

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 3%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粘子弱い、目難相。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・赤褐色スコリア各 1%、直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%未満を含む。結まりやや弱、粘性弱。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、直径 5~20mm の重層ブロック 20%を含む。結まり・粘性やや弱。

SP513



SP513

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。結まりやや弱、粘子弱い、目難相。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・黒褐色スコリア各 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)15%が黄褐色に混じる (中灰は含有量少ない)。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子やや強い、目難相。
3. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 3%を含む。黒褐色土 (10YR4/6)10%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
4. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR4/6)10%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR4/6)15%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子やや強い、目難相。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR1/7/1)17%、暗褐色土 (10YR4/6)10%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
7. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 2%を含む。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
8. 10YR4/6 暗褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)3%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。

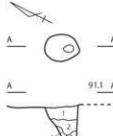
SP514



SP514

1. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%を含む。結まり・粘性有り、粘子やや強い、目難相。
2. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 5%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘子弱い、目難相。
3. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性有り、粘子弱い、目難相。
4. 10YR1/7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/3)11%が黄褐色に混じる。結まり・粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/3)3%を含む。黒褐色土 (10YR1/7/1)11%が黄褐色に混じる。結まり・粘性やや弱、粘子弱い、目難相。

SP515



SP515

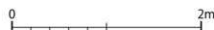
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 3%を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子やや強い、目難相。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)15%が黄褐色に混じる。結まり・粘性有り、粘子弱い、目難相。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が黄褐色に混じる。結まり弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%、黒褐色土 (10YR2/2)7%が黄褐色に混じる。結まり有り、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。

SP518

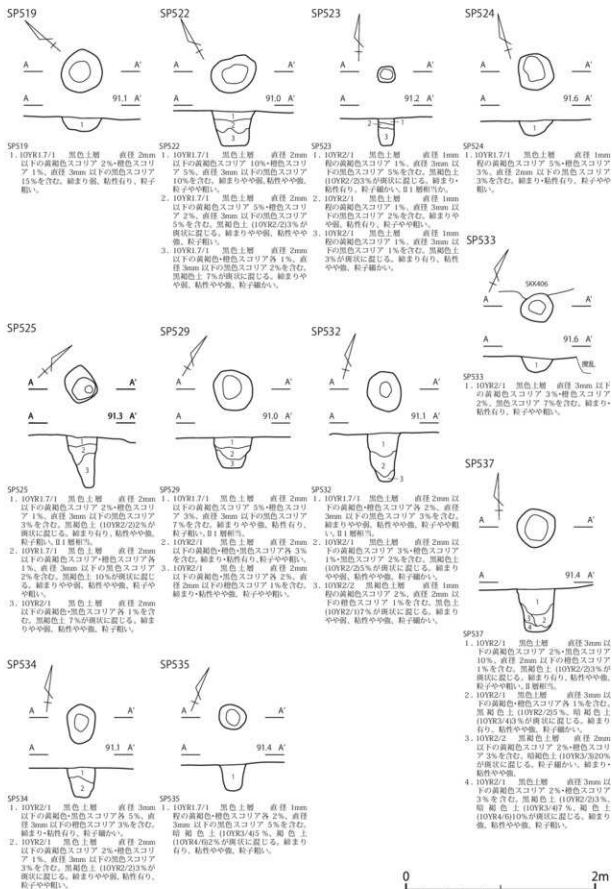


SP518

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 7%を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/1)10%が黄褐色に混じる。結まりやや弱、粘性やや弱、粘子弱い、目難相。



第 485 図 SP505・509・510・511・512・513・514・515・518(1/40)



第 486 図 SP519-522-523-524-525-529-532-533-534-535-537(1/40)

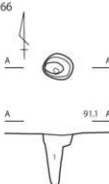
SP552



SP552

1. 7.5YR2/1 黒色土層 根2層上に黒褐色が混在。直径 1mm 程度以下の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。締まりなし、粘性弱、粘りはやや強い。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 3mm 以下の黒色スコリア 1%を含む。締まり弱、粘性やや強い、粘り強い。

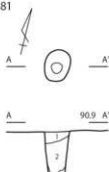
SP566



SP566

1. 10YR2/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、黒色スコリア 4%を含む。締まり有り、粘性やや強い、粘りやや強い。

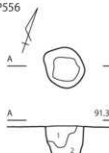
SP581



SP581

1. 10YR2/2 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。黒褐色土層 (10YR3/3)10%が混在。締まりやや有り、粘り強い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。暗褐色土 5%が混在。締まり有り、粘性やや強い、粘り強い。
3. 10YR5/6 黄褐色土層 ローム土主体。黒褐色土 5%が混在。締まり弱、粘性強、粘り強い。

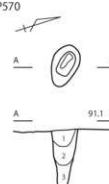
SP556



SP556

1. 7.5YR2/1 黒色土層 根2層上に黒褐色が混在。直径 1mm 程度以下の黄褐色スコリア 7%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%、白色砂粒 2%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粘りやや強い。
2. 7.5YR2/1 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 1mm 程度以下の黄褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 3%を含む。締まり粘性弱、粘り強い。

SP570



SP570

1. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 4%を含む。締まりに欠き、粘性やや強い、粘りやや強い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 4%を含む。締まりに欠き、粘性やや強い、粘りやや強い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。締まりに欠き、粘性にやや欠け、粘り強い。

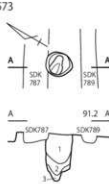
SP562



SP562

1. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%・黒褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 3%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り強い。
2. 10YR1.7/1 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%・黒褐色スコリア 1%・黒色スコリア 3%を含む。締まり粘性有り、粘りやや強い。
3. 10YR5/8 黄褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、黒色スコリア 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)40%が混在。締まり粘性強、粘りやや強い。

SP573



SP573

1. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 4%・黒色スコリア 2%、直径 30mm 程度のロームブロック (10YR5/6)11%、暗褐色土 (10YR3/4)11%、直径 5mm 以下の暗褐色土 2%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り強い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。黒褐色土 (10YR1.7/1)20%が混在。締まり強、粘性強、粘り強い。
3. 10YR4/6 黄褐色土層 プロック状の塊土と若干あるローム土が主体。締まりにやや欠け、粘性強、粘り強い。

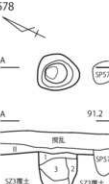
SP563



SP563

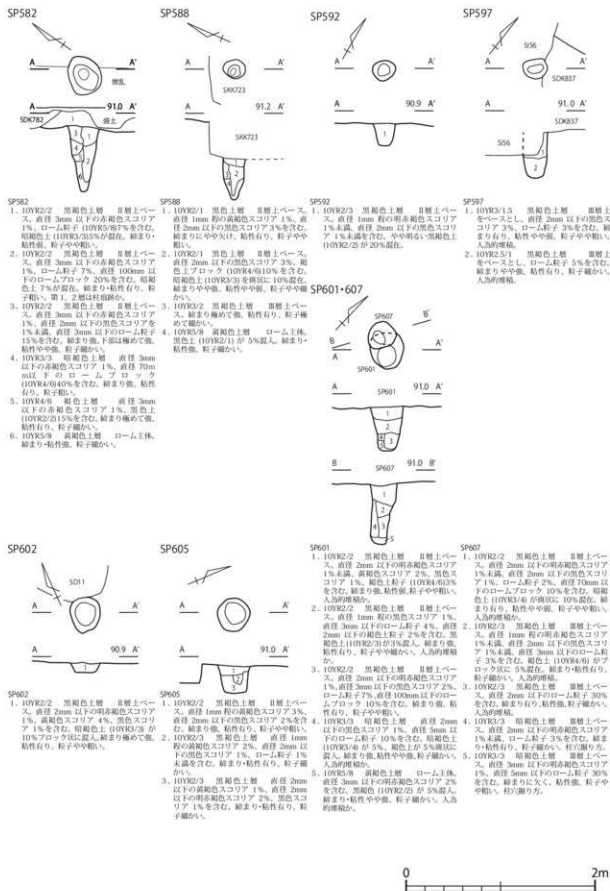
1. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 3%、直径 10~30mm 程度のロームブロック (10YR4/4)3%を含む。締まり有り、粘性やや強い、粘りやや強い。
2. 10YR5/8 黄褐色土層 ローム土主体。黒褐色土 15%が混在。締まりに欠き、粘性やや強い、粘り強い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)が直径 5mm 以下のブロック状に 7%混在。締まり有り、粘性にやや欠け、粘りやや強い。

SP578



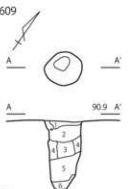
SP578

1. 10YR2/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%・黒褐色土 2%を含む。直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。締まり強、粘性やや強い、粘り強い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%を含む。黒褐色土 (10YR3/3)30%が混在して混在。締まり強、粘性やや強い、粘り強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 根2層土をベースとし、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。黄褐色土 10%が混在。締まり強、粘性有り、粘り強い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 根2層土をベースとし、直径 2mm 以下の黒色スコリア 3%を含む。黒褐色土 40%が混在。締まりにやや欠けるが、粘性有り、粘りやや強い、やや砂質。



第 489 図 SP582・588・592・597・601・602・605・607(1/40)

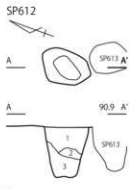
SP609



SP609

1. 10YR4/2 灰黄褐色土層 黒層土をベースとし、ローム粒子 15%、直径 25mm 以下のロームブロック 10%を含む。締まりやや弱、粘性ごくわずか、粒子細かい。人為的堆積。
2. 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 黒層土をベースとし、ローム粒子 3%、直径 7mm 以下のロームブロック 2%を含む。締まりなし、粘性ごくわずか、粒子細かい。人為的堆積。
3. 10YR2/1 黒色土層 ローム粒子 1%を含む。締まりに欠け、粘性なし、粒子比較的細かい。人為的堆積。
4. 10YR3/2.5 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、ローム粒子 7%、直径 10mm 以下の第2層土ブロック 5%を含む。締まり有り、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
5. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子 2%、直径 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。締まりに欠け、粘性ごくわずか、粒子比較的細かい。人為的堆積。
6. 10YR5/6 黄褐色土層 ローム粒子をベースとし、直径 15mm 以下のロームブロック 5%、黒褐色土層 5%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。

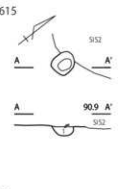
SP612



SP612

1. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 1%、直径 30mm 以下のローム粒子 1%を含む。直径 40mm 以下の暗褐色土 (10YR3/3) がブロック状に 5%混在。締まり強、粘性に欠け、粘りやや弱、やや砂質。人為的堆積。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 1%を含む。締まり強、粘性有り、粘りやや弱、やや砂質。人為的堆積。
3. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 1%を含む。締まり強、粘性有り、粘りやや弱、やや砂質。人為的堆積。

SP615



SP615

1. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 5%、赤褐色スコリア (7.5YR5/8.5) 5%、黒色スコリア 2%を含む。締まり強、粘性やや弱、粘りやや弱、やや砂質。人為的堆積。

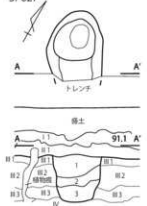
SP626



SP626

1. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 5%、赤褐色スコリア (7.5YR5/8.5) 5%、黒色スコリア 2%を含む。締まり強、粘性やや弱、粘りやや弱、やや砂質。人為的堆積。
2. 10YR2/3 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) が塊状に 15%混在。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。柱状取り穴層上から。
3. 10YR3/3 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 1%、黒褐色土 (10YR2/2) が塊状に 10%混在。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、黒褐色土 (10YR2/2) が塊状に 20%混在。締まり強、粘性有り、粒子細かい。

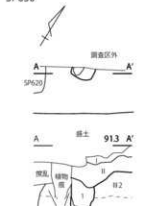
SP627



SP627

1. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 1mm 程度の明褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%、黒色スコリア 4%、直径 3mm 以下のローム粒子 4%を含む。締まり強、粘性弱、粘りやや弱、やや砂質。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 以下の明褐色スコリア 1%未満、黄褐色スコリア 1%、黒色スコリア 2%、直径 30mm 以下のローム粒子 4%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) が塊状に 10%混在。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、直径 2mm 程度の明褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 4%、直径 30mm 以下のロームブロック 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) が塊状に 15%、下部中央に集中して混在。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。

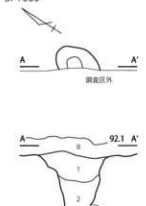
SP630



SP630

1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 2%を含む。Ⅱ層土が上部に 10%、Ⅲ層土 (10YR3/4) がブロック状に 5%混在。締まり強、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
2. 10YR1/1 黒色土層 Ⅲ層土をベースとし、直径 20mm 以下の黒色スコリア 3%を含む。Ⅲ層土 2%がブロック状に混在。締まり極めて強、粘性やや強、粘りやや弱。

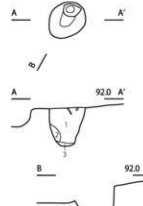
SP1060



SP1060

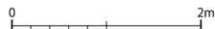
1. 10YR2/2 暗褐色土層 Ⅱ層土主体、直径 30mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8.3)、直径 20mm 以下の黄褐色スコリア (10YR6/8.2) 5%を含む。粘りやや弱、粘りやや弱、やや砂質。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 Ⅱ層土主体、直径 50mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 1%を含む。ロームを 20%、褐色土を 10%混在含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。

SK21



SK21

1. 7.5YR3/1 暗褐色土層 直径 30mm 以下の黒色スコリア 7%、Ⅲ層土粒子 2%、Ⅲ層土粒子 15%、直径 30mm 以下の塊状ブロック 7%、同位物 1%、長さ 5mm 以下の炭化材 1%を含む。締まりは下部がやや弱で上部は有る。粘性やや強、粘りやや強、粘りやや強。
2. 10YR2.5/1 暗褐色土層 Ⅱ層土上部土をベースとし、Ⅲ層土粒子 2%、膠状化した直径 15mm 以下の塊状ブロック 3%を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 Ⅲ層土下部の暗褐色土層、Ⅲ層土粒子 1%を含む。締まり強、粘性有り、粘り極めて強い。水の浸透による自然堆積と推定される。



第 490 図 SP609・612・615・626・627・630・1060・SK21(1/40)



1. SP404 全景(南南東から)



2. SP405 土層断面(北北西から)



3. SP406 土層断面(西北西から)



4. SP407 全景(北から)



5. SP408 土層断面(南南東から)



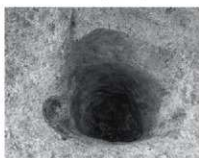
6. SP409 全景(南から)



7. SP410 土層断面(西南西から)



8. SP411 土層断面(西から)



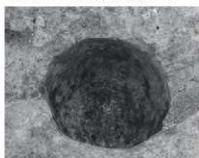
9. SP413 全景(南南東から)



10. SP414 全景(南南東から)



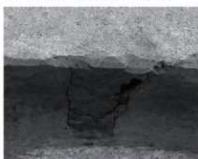
11. SP416 全景(南南東から)



12. SP419 全景(東から)



13. SP420 全景(東から)



14. SP421 土層断面(北北西から)

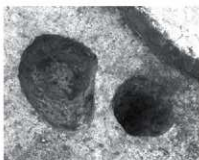


15. SP422 土層断面(東から)

第 491 図 SP404・405・406・407・408・409・410・411・413・414・416・419・420・421・422 写真



1. SP424 全景 (西南西から)



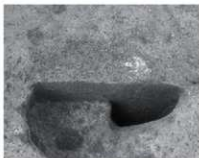
2. SP428(右)・430 全景 (西南西から)



3. SP429 土層断面 (南から)



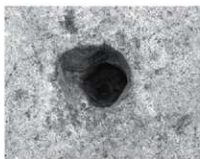
4. SP431 土層断面 (南から)



5. SP433 土層断面 (東南東から)



6. SP434 土層断面 (南から)



7. SP435 全景 (北東から)



8. SP436 土層断面 (南南東から)



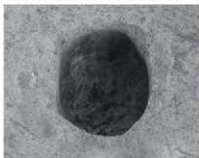
9. SP437(右)・438 全景 (南南東から)



10. SP438 土層断面 (南南西から)



11. SP439 土層断面 (東から)



12. SP440 全景 (北北西から)



13. SP441 土層断面 (南南東から)



14. SP443 全景 (南南東から)



15. SP444 全景 (南南東から)

第 492 図 SP424・428・429・430・431・433・434・435・436・437・438・439・440・441・443・444 写真



1. SP446 全景(北から)



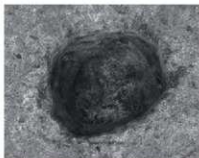
2. SP447 全景(南から)



3. SP449 全景(西南西から)



4. SP451 全景(南から)



5. SP453 全景(南南東から)



6. SP455 土層断面(東北東から)



7. SP457 土層断面(南西から)



8. SP458 土層断面(南南東から)



9. SP459 土層断面(西南西から)



10. SP460 全景(北北西から)



11. SP461 全景(西南西から)



12. SP464 土層断面(西南西から)



13. SP467 全景(西南西から)



14. SP468 全景(東から)

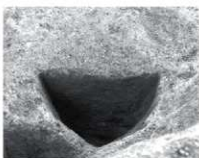


15. SP469 全景(北北西から)

第493図 SP446・447・449・451・453・455・457・458・459・460・461・464・467・468・469写真



1. SP470 土層断面 (南南東から)



2. SP471 土層断面 (南南西から)



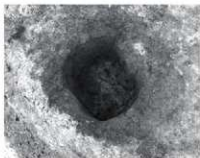
3. SP472 土層断面 (南西から)



4. SP473 全景 (南南西から)



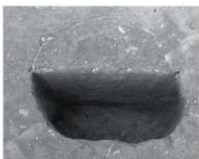
5. SP476 土層断面 (南から)



6. SP476 全景 (南から)



7. SP480 土層断面 (南南西から)



8. SP481 土層断面 (南南西から)



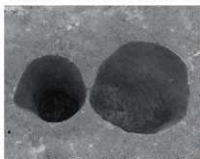
9. SP482 土層断面 (北北西から)



10. SP483 土層断面 (北東から)



11. SP484 全景 (南南西から)



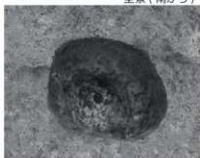
12. SP485・486(右:掘立柱建物跡B)
全景 (南から)



13. SP487 土層断面 (南から)



14. SP488 土層断面 (南西から)



15. SP488 全景 (南西から)

第 494 図 SP470・471・472・473・476・480・481・482・483・484・485・486・487・488 写真



1. SP492 土層断面 (南南西から)



2. SP493 全景 (南南東から)



3. SP494 全景 (南南西から)



4. SP495 全景 (南南東から)



5. SP500(左)・501 全景 (南東から)



6. SP502 全景 (南南東から)



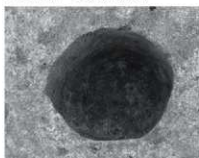
7. SP504 全景 (南から)



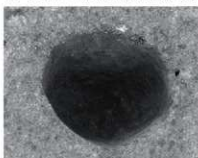
8. SP505 土層断面 (南南東から)



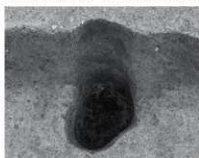
9. SP506(左)・507 土層断面 (南南西から)



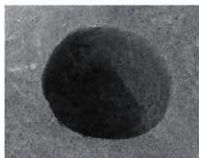
10. SP509 全景 (南南西から)



11. SP510 全景 (南から)



12. SP511 全景 (西南西から)



13. SP512 全景 (南南西から)



14. SP513 全景 (北北西から)



15. SP514 土層断面 (西南西から)

第 495 図 SP492・493・494・495・500・501・502・504・505・506・507・509・510・511・512・513・514 写真



1. SP515 全景 (南南東から)



2. SP518 土層断面 (南西から)



3. SP519 全景 (南南東から)



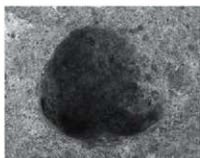
4. SP520(左)・521 全景 (北西から)



5. SP522 土層断面 (西南西から)



6. SP523 土層断面 (南から)



7. SP524 全景 (南南西から)



8. SP525 土層断面 (北西から)



9. SP529 土層断面 (南南東から)



10. SP532 土層断面 (南南東から)



11. SP533 土層断面 (南南東から)



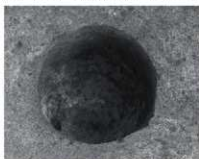
12. SP534 土層断面 (南南東から)



13. SP535 全景 (南南東から)



14. SP536 土層断面 (南南東から)



15. SP537 全景 (北北西から)

第 496 図 SP515・518・519・520・521・522・523・524・525・529・532・533・534・535・536・537 写真



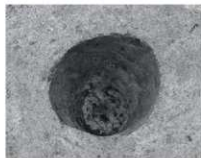
1. SP538 土層断面 (南から)



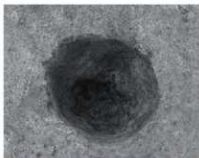
2. SP539 土層断面 (南から)



3. SP540(左)・541 全景 (北北西から)



4. SP543 全景 (南南東から)



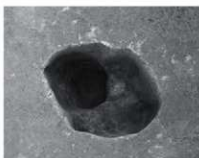
5. SP544 全景 (東北東から)



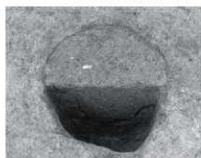
6. SP545 土層断面 (西南西から)



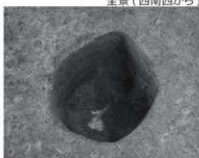
7. SP547 土層断面 (南南東から)

8. SP547(右:浅い)・550
全景 (西南西から)

9. SP548 土層断面 (南西から)



10. SP552 土層断面 (南南東から)



11. SP556 全景 (東から)



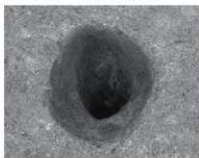
12. SP562 全景 (南西から)



13. SP563 土層断面 (南南東から)



14. SP564(右)・565 全景 (東北東から)



15. SP566 全景 (東から)

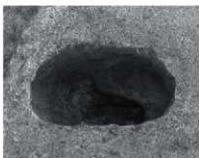
第 497 図 SP538・539・540・541・543・544・545・547・548・550・552・556・562・563・564・565・566 写真



1. SP567(左)・568 全景(南東から)



2. SP569 全景(南南東から)



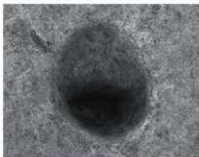
3. SP570 全景(北東から)



4. SP571 全景(東から)



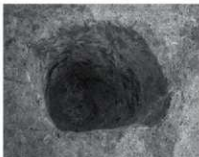
5. SP573 全景(東北東から)



6. SP574 全景(南から)



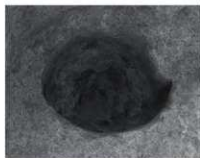
7. SP578 土層断面(西南西から)



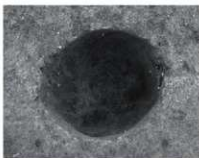
8. SP581 全景(東南東から)



9. SP582 土層断面(西南西から)



10. SP588 全景(東北東から)



11. SP592 全景(南から)



12. SP597 土層断面(南南西から)



13. SP601 土層断面(南東から)



14. SP607 土層断面(東南東から)



15. SP601(左・浅い)・607 全景(北北東から)

第 498 図 SP567・568・569・570・571・573・574・578・581・582・588・592・597・601・607 写真



1. SP602 全景 (南から)



2. SP605 土層断面 (東南東から)



3. SP609 全景 (南南東から)



4. SP612 土層断面 (西南西から)



5. SP612(右)・613 全景 (東北東から)



6. SP615 土層断面 (北西から)



7. SP620 全景 (南南東から)



8. SP626 土層断面 (北北西から)



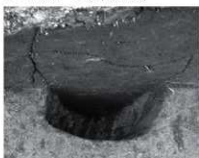
9. SP626 全景 (東から)



10. SP627 土層断面 (南南東から)



11. SP627 全景 (南南東から)



12. SP630 全景 (南南東から)



13. SP1060 全景 (東北東から)



14. SX21 土層断面 (西から)



15. SX21 全景 (西から)

第 499 図 SP602・605・609・612・613・615・620・626・627・630・1060、SX21 写真

第 54 表 古代～中世ビッター一覧表 (1)

遺構名	グリッド	採掘番号		形態	規模 (cm)			検出面	遺物	時代	備考 (重複関係等)	
		調査	写真		平面	断面	長軸					短軸
SP404	30P-44	第 478 回	第 491 回	扇形	B	(32)	(27)	(24)	SKK137 底面(目)	無し	古代	SKK137に切られる。
SP405	30P-45	第 478 回	第 491 回	円形	B	(39)	(37)	(40)		無し	古代	SKK137に切られる。
SP406	30P-45	第 478 回	第 491 回	(楕円形)	A	(35)	(27)	33	SK58 底面(目)	礎 I	古代～中世	SK58を切る。
SP407	30P-54	第 478 回	第 491 回	扇形	B	34	29	39		無し	古代	
SP408	30P-33・43	第 478 回	第 491 回	方形	B	42	40	62	目	無し	古代	調査区東西ベルトにかかる。 SKK245に切られる。
SP409	30P-53	第 478 回	第 491 回	扇形	A	33	28	37	目	無し	古代	
SP410	30P-52	第 478 回	第 491 回	楕円形	A	(32)	24	42	目	無し	古代	SKK101に切られる。
SP411	30P-44	第 478 回	第 491 回	多角形	B	(40)	(38)	(104)	目	無し	古代	SKK112に切られる。
SP413	30P-34	第 478 回	第 491 回	多角形	B	(24)	(23)	(30)	SKD25 底面(目)	無し	古代	SKD25に切られる。
SP414	30P-34	第 479 回	第 491 回	扇形	B	(42)	(34)	(35)	SKD25・ SKK144 底面(目)	無し	古代	SKD25、SKK144に切ら れる。
SP415	30P-26	第 469 回	第 471 回	扇形	D	41	37	55	目	礎 I	古代	
SP416	30P-28-38	第 479 回	第 491 回	扇形	B	39	33	28	目	無し	古代	
SP419	30P-48	第 479 回	第 491 回	円形	A	31	27	(38)	覆瓦内 (目)	無し	古代～中世	
SP420	30P-40	第 479 回	第 491 回	円形	A	26	26	(40)	覆瓦内 (目)	無し	古代～中世	
SP421	30P-35	第 479 回	第 491 回	(扇形)	A	(26)	(24)	55	目	無し	古代	覆瓦に切られる。
SP422	30P-36	第 479 回	第 491 回	方形	B	(33)	(30)	50	目	無し	古代	SK21を切る。SK3に切ら れる。
SP424	310-76-86	第 479 回	第 492 回	方形	B	(28)	(27)	(43)	SK21底面 弥生土器 I 礎 I	礎 I	古代	
SP425	30P-35	第 469 回	第 471 回	扇形	C	31	25	19	目	無し	古代	
SP426	30P-35	第 469 回	第 471 回	円形	C	(47)	(40)	79	目	土師器 I 須恵器 I 礎 I	古代	SP427・432、SKK144に 切られる。
SP427	30P-35	第 469 回	第 471 回	扇形	C	52	(44)	81	目	無し	古代	SP426を切る。SP432に 切られる。
SP428	30P-64	第 479 回	第 492 回	円形	A	31	28	(23)	目	無し	古代	
SP429	30P-64	第 480 回	第 492 回	扇形	B	38	35	37	目	無し	古代～中世	
SP430	30P-64	第 480 回	第 492 回	扇形	C	49	40	29	目	無し	古代～中世	
SP431	30P-43	第 480 回	第 492 回	扇形	C	34	25	17	目	無し	古代	
SP432	30P-35	第 469 回	第 471 回	扇形	C	(41)	(31)	70	目	無し	古代	SP426・427を切る。
SP433	30P-54-64	第 480 回	第 492 回	不整形	D	60	51	46	目	縄文土器 2 土師器 2	古代	
SP434	30P-64	第 480 回	第 492 回	扇形	C	30	25	14	目	無し	古代	
SP435	30P-64	全体図のみ	第 492 回	扇形	B	26	20	32	目	無し	古代	
SP436	30P-64	第 480 回	第 492 回	扇形	A	34	21	27	目	無し	古代～中世	
SP437	30P-65	第 480 回	第 492 回	円形	C	32	(28)	28	目	土師器 I	古代	SKK148に切られる。
SP438	30P-65	第 480 回	第 492 回	円形	B	30	30	24	目	無し	古代～中世	
SP439	30P-64	第 481 回	第 492 回	円形	C	40	(36)	31	目	無し	古代	SK54に切られる。
SP440	310-95	第 481 回	第 492 回	円形	C	30	26	41	目	弥生土器 I	古代～中世	
SP441	31P-6	第 481 回	第 492 回	(扇形)	B	(26)	(23)	(23)	目	須恵器 I	古代	SKK226に切られる。
SP443	310-87-97	第 481 回	第 492 回	(楕円形)	A	26	(20)	13	目	無し	古代～中世	SK102を切る。
SP444	310-83	第 481 回	第 492 回	(扇形)	B	31	(24)	40	目	礎 I	中世～近世	調査区東西ベルトにかか る。 調査は新から。
SP446	30P-45	第 481 回	第 493 回	楕円形	C	47	31	66	目	土師器 I 礎 2	古代～中世	SK23に近接。
SP447	30P-35	第 481 回	第 493 回	扇形	B	(42)	(29)	74	目	土師器 I 礎 I	古代	SKK144に切られる。
SP448	30P-35	第 469 回	第 471 回	扇形	C	43	35	63	目	礎 3	古代	
SP449	30P-57	第 481 回	第 493 回	扇形	A	21	17	24	目	無し	古代～中世	
SP450	30P-36	第 469 回	第 471 回	楕円形	D	45	34	56	目	無し	古代	
SP451	30P-36	第 482 回	第 493 回	円形	A	24	23	49	目	無し	古代～中世	
SP453	310-91	第 482 回	第 493 回	扇形	A	23	21	28	目	弥生土器 I	古代～中世	
SP455	310-84	第 482 回	第 493 回	(楕円形)	D	29	(21)	24	目	須恵器 I	古代	
SP457	310-84	第 482 回	第 493 回	円形	A	32	26	30	目	弥生土器 I 須恵器 I	古代	
SP458	310-84	第 482 回	第 493 回	三角形	B	43	42	13	目	須恵器 I	古代	
SP459	310-85	第 482 回	第 493 回	多角形	C	31	31	34	目	無し	古代	
SP460	310-74	全体図のみ	第 493 回	扇形	E	(45)	44	45	目	無し	古代	
SP461	310-84	第 482 回	第 493 回	円形	A	36	34	69	目	無し	古代	
SP464	310-85	全体図のみ	第 493 回	円形	C	21	20	9	目～IV	無し	古代～中世	

第 54 表 古代～中世ビッター一覧表 (2)

遺構名	グリッド	探検番号		形態	規模 (cm)				検出品	遺物	時代	備考 (重複関係等)
		図面	写真		平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP466	310-86	全体図のみ	—	円形	A	21	19	26	—	無し	古代	
SP467	30P-34	第 482 図	第 494 図	円形	A	(30)	(26)	(62)	SKK270 底面 (Ⅱ)	無し	古代～中世	SKK270 に切られる。
SP468	30P-34	第 482 図	第 493 図	扇形	A	(32)	(25)	(43)	SKK270 底面 (Ⅱ)	無し	古代～中世	SKK270 に切られる。
SP469	30P-33	第 483 図	第 493 図	円形	A	(44)	(39)	81	—	碑 1	古代	SKK247 に切られる。
SP470	310-69	第 483 図	第 494 図	(円形)	B	(40)	(27)	45	—	無し	古代	SKK339 に切られる。
SP471	310-68	第 483 図	第 494 図	楕円形	C	(27)	(23)	(24)	SKK336 底面 (Ⅱ)	無し	古代	SKK336 に切られる。
SP472	310-60	第 483 図	第 494 図	(扇形)	C	(34)	(23)	54	SI31 層土	無し	古代	SI31 を切る。
SP473	30P-6	第 483 図	第 494 図	扇形	A	(28)	(23)	(59)	SKK297 底面 (Ⅱ)	土師器 1	古代	SKK297 に切られる。
SP474	30P-24	第 469 図	第 471 図	円形	C	28	27	23	—	無し	古代～中世	
SP475	310-55	第 473 図	第 472 図	方形	B	34	34	39	—	弥生土器 1 土師器 3 須恵器 3 碑 1	古代～中世	
SP476	310-64+65	第 483 図	第 494 図	方形	C	45	41	40	—	弥生土器 2 土師器 7 埴成粘土 1 碑 1	古代	SI29 近縁。
SP477	310-56	第 473 図	第 472 図	円形	C	34	32	55	—	弥生土器 1 土師器 3 須恵器 1	古代～中世	
SP478	310-56	第 473 図	第 472 図	扇形	C	28	26	50	—	土師器 2 須恵器 1	古代～中世	
SP480	310-56	第 483 図	第 494 図	円形	C	47	46	36	—	無し	古代～中世	SF3 に切られる。
SP481	310-55	第 483 図	第 494 図	扇形	C	49	42	26	—	土師器 2 埴成粘土 1 碑 1	古代～中世	
SP482	310-58	第 484 図	第 494 図	楕円形	A	40	29	64	—	無し	古代	
SP483	30P-25	第 484 図	第 494 図	扇形	A	(26)	(23)	(38)	SI2 層土 底面 (Ⅱ～Ⅴ)	無し	古代	SI2 を切る。
SP484	310-65+66	第 484 図	第 494 図	隅丸方形	D	51	45	30	—	土師器 3 須恵器 1 碑 2	古代	
SP485	310-65	第 484 図	第 494 図	円形	C	49	45	34	—	弥生土器 1	古代～中世	
SP486	310-65	第 473 図	第 472 図 第 494 図	円形	C	36	32	47	—	弥生土器 1 土師器 1	古代～中世	
SP487	310-66	第 484 図	第 494 図	楕円形	C	74	52	34	—	須恵器 1 碑 1	古代～中世	
SP488	310-66	第 484 図	第 494 図	円形	E	74	60	41	—	無し	古代～中世	SI25 近縁。
SP489	310-56	第 473 図	第 472 図	円形	C	30	30	43	—	無し	古代～中世	
SP490	310-56	第 473 図	第 472 図	扇形	C	36	30	78	—	土師器 4 碑 2	古代～中世	
SP491	310-55	第 473 図	第 472 図	扇形	A	30	30	56	—	弥生土器 1 須恵器 1 碑 1	古代～中世	
SP492	310-76+77	第 484 図	第 495 図	円形	B	28	25	38	SI3 底面 (Ⅱ)	須恵器 1	古代～中世	SI3 に切られる。
SP493	310-59	全体図のみ	第 495 図	楕円形	C	28	22	36	—	無し	古代	
SP494	30P-6	第 484 図	第 495 図	扇形	D	49	33	29	—	土師器 2 須恵器 1	古代	
SP495	30P-6	第 484 図	第 495 図	楕円形	E	43	22	34	—	土師器 1 須恵器 1	古代	
SP496	30P-25+26	第 469 図	第 471 図	円形	E	39	38	53	—	埴成粘土 2 碑 1	古代	
SP497	30P-25	第 469 図	第 471 図	円形	A	41	34	32	—	碑 1	古代	
SP498	30P-25	第 469 図	第 471 図	扇形	A	35	26	50	—	無し	古代	
SP499	30P-35	第 469 図	第 471 図	扇形	A	35	29	39	—	無し	古代	
SP500	30P-5	第 484 図	第 495 図	扇形	C	16	13	22	—	無し	古代～中世	
SP501	30P-5	第 484 図	第 495 図	扇形	A	25	19	19	—	無し	古代～中世	
SP502	30P-5	第 484 図	第 495 図	楕円形	A	43	31	39	—	無し	古代～中世	
SP504	310-50	第 484 図	第 495 図	扇形	C	32	26	22	Ⅱ3	無し	古代～中世	
SP505	320-41+42	第 485 図	第 495 図	円形	D	39	35	40	Ⅱ3	碑 1	古代	
SP506	310-50	全体図のみ	第 495 図	円形	E	26	25	17	Ⅱ3	無し	中世～近世	
SP507	310-50	全体図のみ	第 495 図	方形	D	26	21	14	Ⅱ3	土師器 1	中世～近世	
SP509	320-51	第 485 図	第 495 図	円形	C	26	25	36	—	無し	古代～中世	
SP510	320-42	第 485 図	第 495 図	円形	A	22	22	27	—	無し	古代～中世	
SP511	310-77	第 485 図	第 495 図	楕円形	A	39	23	75	—	土師器 1	古代	

第 54 表 古代～中世ビット一覧表 (3)

遺構名	グリッド	採掘番号		平面	断面	長軸	短軸	深さ	検出	遺物	時代	備考(重複関係等)
		調査	写真									
SP512	320-44	第 485 区	第 495 区	円形	B	43	42	35	■	弥生土器 I	古代	
SP513	310-49	第 485 区	第 495 区	円形	B	28	25	63	■	無し	古代	東西ベルト上。
SP514	310-20-320-11	第 485 区	第 495 区	(円形)	C	(36)	(32)	51	■	無し	古代	
SP515	323N-63	第 485 区	第 496 区	円形	B	37	29	39	■	無し	古代～中世	
SP518	323N-58	第 485 区	第 496 区	楕円形	D	71	40	16	■	縄文土器 I (器)	古代～中世	縄文土器 I 出土。
SP519	323N-47	第 486 区	第 496 区	円形	A	46	43	15	■	弥生土器 I	古代	
SP520	323N-50	全体区のみ	第 496 区	円形	D	(53)	49	20	■	無し	古代	SKK88 に切られる。
SP521	323N-50	全体区のみ	第 496 区	円形	E	48	45	12	■	無し	古代	
SP522	323N-55-65	第 486 区	第 496 区	楕円形	C	47	38	37	■	弥生土器 I	古代	
SP523	323N-85	第 486 区	第 496 区	円形	C	19	17	29	■	縄文土器 I	古代～中世	
SP524	320-16	第 486 区	第 496 区	円形	B	39	36	17	■	弥生土器 I 須恵器 I	古代～中世	
SP525	323N-94-330-4	第 486 区	第 496 区	方形	D	36	30	55	■	無し	古代～中世	
SP529	323N-68	第 486 区	第 496 区	円形	C	45	41	33	■	弥生土器 I	古代～中世	
SP532	323N-86	第 486 区	第 496 区	円形	A	42	36	52	■	無し	古代～中世	
SP533	320-53	第 486 区	第 496 区	円形	A	34	(31)	17	■	無し	古代	SKK406 に切られる。
SP534	323N-76	第 486 区	第 496 区	楕円形	A	41	30	32	■	無し	古代～中世	
SP535	320-43	第 486 区	第 496 区	円形	A	29	26	28	■	無し	古代～中世	
SP536	320-33	全体区のみ	第 496 区	円形	C	31	28	17	■	無し	古代～中世	
SP537	320-45	第 486 区	第 496 区	円形	C	40	40	46	■	須恵器 I	古代～中世	
SP538	320-46	全体区のみ	第 497 区	円形	C	30	29	29	■	無し	古代～中世	
SP539	323N-77-78	第 487 区	第 497 区	円形	A	38	33	24	■	弥生土器 I	古代	
SP540	323N-78	第 487 区	第 497 区	円形	C	37	30	23	■	弥生土器 2 器 I	古代	
SP541	323N-78	第 487 区	第 497 区	円形	A	35	32	14	■	無し	古代	
SP542	323N-68	第 487 区	第 497 区	円形	C	30	28	32	■	無し	古代～中世	
SP543	323N-76-77	第 487 区	第 497 区	円形	B	44	39	47	■	無し	古代～中世	
SP544	323N-84	全体区のみ	第 497 区	円形	D	28	24	34	■	無し	古代	
SP545	323N-78-79	第 487 区	第 497 区	楕円形	D	48	(32)	80	■	縄文土器 I 弥生土器 I 土師器 1 器 2	古代	縄文土器 I 出土。
SP547	323N-54	第 487 区	第 497 区	円形	C	(39)	(35)	23	■	無し	古代	SP550 を切る。
SP548	323N-45	第 487 区	第 497 区	円形	A	37	31	26	■	無し	古代	
SP549	320-22	第 487 区	—	楕円形	D	34	24	49	■	無し	古代	
SP550	323N-54	第 487 区	第 497 区	三角形	A	(29)	(28)	65	■	無し	古代	SP547 に切られる。
SP552	320-11	第 488 区	第 497 区	円形	B	32	27	24	■	無し	古代～中世	
SP553	320-11	第 475 区	第 477 区	円形	C	41	34	35	■	無し	古代～中世	
SP554	320-11	第 475 区	第 477 区	円形	C	36	30	28	■	無し	古代～中世	
SP555	320-11	第 475 区	第 477 区	円形	A	27	27	28	■	弥生土器 I 土師器 1	古代～中世	
SP556	320-1	第 488 区	第 497 区	円形	C	43	39	35	■	無し	古代～中世	
SP557	320-2	第 475 区	第 477 区	円形	C	36	35	35	■	無し	古代～中世	
SP558	320-2	第 475 区	第 477 区	円形	C	45	38	37	■	器 I	古代～中世	
SP559	320-12	第 475 区	第 477 区	円形	A	39	37	36	■	無し	古代～中世	
SP562	34N-24	第 488 区	第 497 区	円形	A	44	31	(81)	■	土師器 1	古代～中世	中世か。
SP563	34N-23-24	第 488 区	第 497 区	円形	D	(43)	(28)	(40)	■	弥生土器 2	古代～中世	SK170 を切る。SKK803・804 に切られる。
SP564	34N-54	全体区のみ	第 497 区	円形	B	37	33	47	■	無し	中世～近世	
SP565	34N-54	全体区のみ	第 497 区	楕円形	D	32	24	21	■	無し	中世～近世	
SP566	34N-54	第 488 区	第 497 区	円形	D	32	28	55	■	無し	古代～中世	
SP567	34N-54	全体区のみ	第 498 区	円形	A	32	28	55	■	無し	古代～中世	
SP568	34N-54	全体区のみ	第 498 区	円形	B	38	35	79	■	無し	古代～中世	
SP569	34N-44-54	全体区のみ	第 498 区	円形	D	(39)	(30)	(35)	■	縄文土器 I (器)	古代～中世	中世か。縄文土器 I。
SP570	34N-44	第 488 区	第 498 区	円形	B	45	28	67	■	無し	古代～中世	
SP571	34N-44	全体区のみ	第 498 区	円形	B	41	41	56	■	無し	中世～近世	
SP572	34N-13	全体区のみ	—	円形	C	16	14	23	■	土師器 2	古代～中世	SP52 を切る。
SP573	34N-13	第 488 区	第 498 区	円形	E	(28)	25	(50)	■	縄文土器 I 弥生土器 I	古代～中世	SP52 のベルトで輸出。SKK787 に切られる。
SP574	34N-36-46	全体区のみ	第 498 区	円形	A	35	25	22	■	無し	古代～中世	
SP578	34M-94	第 488 区	第 498 区	円形	E	44	39	49	■	弥生土器 I	古代	SP3 を切る。
SP581	323N-30-40	第 488 区	第 498 区	楕円形	A	34	26	55	■	無し	古代～中世	
SP582	34N-22	第 489 区	第 498 区	円形	B	(42)	(34)	70	■	無し	中世～近世	縄文土器 I 出土。
SP588	34N-3	第 489 区	第 498 区	円形	B	(24)	(21)	(45)	■	SKK723 底面 (器)	無し	SKK723 に切られる。
SP592	34N-37	第 489 区	第 498 区	円形	C	24	21	24	■	無し	古代～中世	
SP597	34N-35-45	第 489 区	第 498 区	円形	A	(26)	(21)	(49)	■	SKK837 底面 (器)	無し	SK56 を切る。SKK837 に切られる。

第 54 表 古代～中世ビッター一覧表 (4)

遺構名	グリッド	探検番号		平面	断面	規模 (cm)			検出面	遺物	時代	備考 (重要関係等)
		図面	写真			長軸	短軸	深さ				
SP601	34N-24-34	第 489 図	第 498 図	円形	C	(38)	36	47	Ⅲ	無し	中世～近世	SP607 を切る。
SP602	34N-15	第 489 図	第 499 図	円形	C	(37)	32	11	Ⅲ	弥生土層 I	古代	SD11 に切られる。
SP605	33N-40-50	第 489 図	第 499 図	円形	C	35	34	30	Ⅲ	無し	古代～中世	中世以降か。SP601 に切られる。
SP607	34N-24-34	第 489 図	第 498 図	円形	C	(30)	(28)	65	Ⅲ	無し	古代～中世	
SP609	34N-25	第 490 図	第 499 図	円形	A	40	36	74	Ⅲ	弥生土層 I 礎 1	古代～中世	
SP612	34M-95-96	第 490 図	第 499 図	多角形	C	50	39	54	Ⅲ	無し	古代～中世	
SP613	34M-96, 34N-6	全体図のみ	第 499 図	円形	D	44	33	66	Ⅲ	無し	古代～中世	中世以降か。
SP615	34N-23	第 490 図	第 499 図	円形	A	(25)	21	10	Ⅲ～IV	弥生土層 I	古代～中世	中世以降か。SP52 を切る。
SP620	34N-2-3	全体図のみ	第 499 図	(隅丸方形)	D	31	(28)	(54)	Ⅲ	弥生土層 I 須恵器 I 礎 1	古代～中世	調査区北壁で検出。中世以降か。
SP623	320-12	第 475 図	第 477 図	円形	A	36	35	30	Ⅲ	無し	古代～中世	中世以降か。
SP624	320-1-2	第 475 図	第 477 図	円形	D	36	34	59	Ⅲ	無し	古代～中世	
SP625	320-1	第 475 図	第 477 図	円形	C	39	37	50	Ⅲ	無し	古代～中世	
SP626	34N-4	第 490 図	第 499 図	隅丸長方形	C	70	39	69	Ⅲ	弥生土層 I	古代～中世	
SP627	34M-96	第 490 図	第 499 図	(楕円形)	C	(74)	59	49	Ⅲ	土師器 I	古代	調査区東西ベルトにかかる。
SP630	34N-3	第 490 図	第 499 図	(方形)	D	(23)	(13)	62	Ⅲ	無し	古代～中世	調査区北壁で検出。視度には切られる。
SP1060	30P-41	第 490 図	第 499 図	(楕円形)	B	(35)	(27)	83	Ⅲ	無し	古代	調査区西壁で検出。
SK21	30P-64	第 490 図	第 499 図	円形	D	43	36	49	Ⅲ	土師器 10 礎 3	古代	

※平面・規模の()内は、調査範囲・遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物層の弥生土層としたものには古墳時代前期の土師器も含む。

底面は、北側が一段深くなっている。

SK21 焼土跡として調査を行ったが、形状からビッターと判断し、本項に掲載した。3 層の覆土のうち、上部の 1 層に焼土粒子を多く含んでいる。柱を抜き取った後に焼土を含有する土壌で埋め戻しを行ったものと想定される。土師器 10 点、礫 3 点が出土した。土師器はいずれも小片で、古代の甕胴部とみられる。

C 溝

溝は、2022 年報告分からの続番とし、6 から番号を付して調査を行った。遺構略号は SD である。そのうち、SD6・8 は道路跡 SF3 の一部とみなし、また SD7 は発掘調査中に溝ではなく土坑と判断して SK67 に名称を変更したため、欠番となっている。そのため、ここで報告するのは SD9～11 の 3 条である。

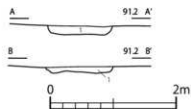
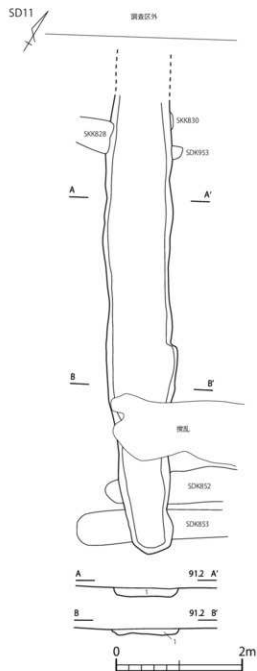
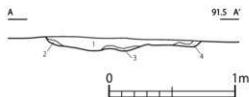
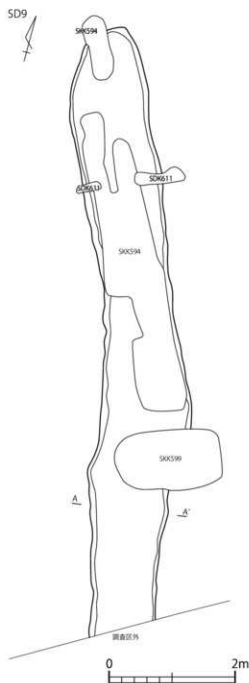
いずれも遺物からは帰属時期を明確にし得なかったが、覆土の様相等から古代～中世のいずれかに帰属すると判断し、当項にて扱うこととする。

SD9 (第 500・502 図)

調査区中央部の 32N-100、320-10・20、330-1・11 グリッドに位置する浅い溝である。検出面はⅢ層上で、弥生時代終末期の SI48 を切っており、近世以降の SKK594・599、SDK611 に切られている。溝の南端は調査区外へと続いており、北端は浅くなって途切れている。調査範囲内での長さは 969cm、最大幅 145cm、検出面からの深さは 24cm と浅い。主軸方向は N-15°-W を指す。

覆土は 4 層からなるが、覆土の大部分を占める黒色土の 1 層と、底面で確認される黒褐色土の 2～4 層とに分けられる。底面中央部に見られる 3 層の締りがやや強いが、他はやや弱い。

出土遺物は、須恵器小片 3 点の他、古墳時代前期の SI48 に伴っていたと考えられる弥生土器・古墳時代前期の土師器 5 点、縄文土器と黒曜石の剥片が各 1 点ずつ、礫が 2 点の計 12 点である。



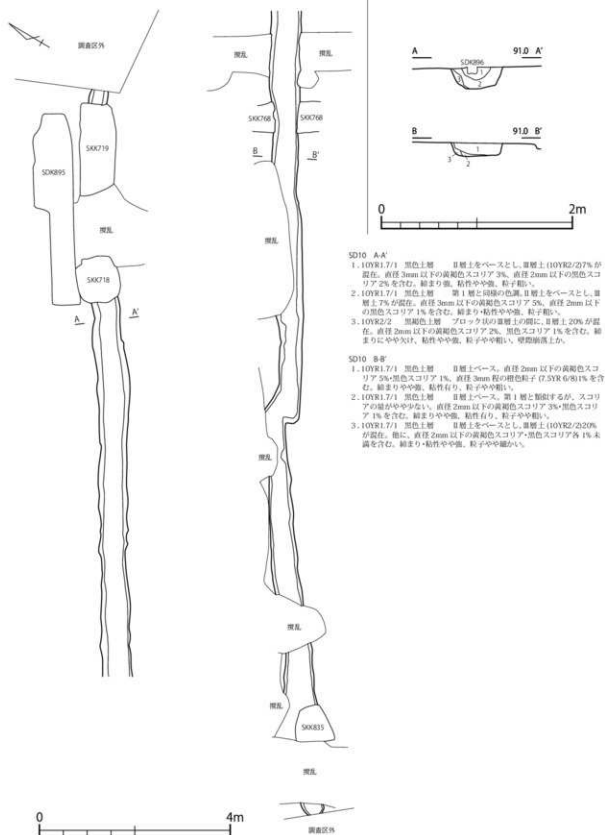
SD9

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%, 直径 1mm の赤色スコリア 1%・黒色スコリア 4% 未満, 直径 2 ~ 4mm の炭化物粒子 1% 未満を含む。結まりやや弱。粘性強。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満, 直径 1mm の黒色スコリア 1% 未満を含む。結まりやや弱だが 1 層より有り。粘性やや弱。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満, 直径 2mm の赤色スコリア 1% 未満, 直径 1mm の黒色スコリア 4% 未満を含む。結まりやや強。粘性やや弱。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% 未満を含む。結まり・粘性やや弱。

SD11

1. 10YR2/1 黒色土層 非層上ベース。直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%, 直径 2mm 以下の黒色スコリア 7% を含む。結まり強。粘性に欠く。粒子やや粗い。

第 500 図 SD9・11(1/60・1/30)



第501図 SD10(1/80・1/40)



1. SD9 土層断面 (南南東から)



2. SD9 全景 (南南東から)



3. SD10 土層断面 A-A' (南西から)



4. SD10 土層断面 B-B' (南西から)



5. SD10 全景 (北東から)



6. SD11 土層断面 B-B' (南南東から)



7. SD11 全景 (南東から)

第 502 図 SD9・10・11 写真

帰属時期は、出土遺物と覆土の様相から古代～中世と考えた。

SD10 (第501・502図)

調査区北東部の34N-18・26・27・28・34・35・36・43・44グリッドに位置する、西南西から東北東に延びる溝である。検出面はⅢ層上で、古代の堅穴建物跡SI53を切っており、近世以降の土坑SKK718・719・768・835及び攪乱に切られている。溝の両端は調査区外へと続いており、北端は船底状の形状を呈し途切れている。調査範囲内での長さは29.13m、最大幅70cm、深さは22cmである。主軸は方向はN-59°-Eを指す。南西端と北東端の比高差は約20cmで、北東端がわずかに低くなっている。

北東から南西にかけて直線的に延びているが、調査範囲内の中心部より西寄りでは、鉤状に屈曲した部分がある。断面形態は箱状もしくは逆台形状で、場所により異なっている。底面は比較的平坦である。

覆土は3層からなり、土層断面A-A'の3層はⅢ層土ブロックの隙間にⅡ層土が入った土壌で、それ以外はⅡ層土をベースとし、黒色スコリアを含み、Ⅲ層土が混在した土壌である。

出土遺物は土師器10点、須恵器3点の他、弥生土器・古墳時代前期の土師器9点、縄文土器3点（五領ヶ台式）、陶磁器2点、礫1点である。土師器、須恵器はいずれも小片である。また、陶磁器は近世以降のものであるが、攪乱付近から出土しており、攪乱からの混入と判断した。

当遺構の帰属時期は、覆土の様相から古代の可能性が考えられ、切り合い関係から平安時代のSI53より新しいと言える。

SD11 (第500・502図)

調査区北東部の34M-94、34N-4・5・15グリッドに位置する、南東から北西に直線状に延びる溝である。検出面はⅢ層上で、古代のSP602を切っており、近世以降の溝SDK852・853・953、同じく近世以降の土坑SKK828・830及び攪乱に切られている。溝の南東端は内湾して立ち上がって途切れている。北西端は調査区外へと延びているものと想定して調査を実施したが、調査区北壁では確認できなかったことから、SZ3の周溝より手前で途切れていたものと思われる。調査範囲内での長さは最大で730cm程度、幅121cm、深さは19cmである。主軸は方向はN-31°-Wを指す。

底面は、南東側は凹凸を有しているが、それ以外は比較的平坦である。壁は内湾気味に立ち上がっている。

覆土は単層で、Ⅱ層土をベースとし、黒色スコリアを多く含んでいる。

遺物は土師器6点の他、弥生土器の小片24点、縄文土器1点、礫4点の計35点が出土した。土師器は、いずれも甕の小片である。

当遺構の帰属時期は、出土遺物と覆土の様相から、古代の可能性が考えられる。

D 土坑 (第278～280、503～541図、第55表)

土坑は、調査区内の各所において110基が検出された。遺構略号はSKである。調査区内の各所で検出されているが、調査区南西部(調査区南西端～SI19・20付近)、調査区中央部(320グリッド付近)、調査区北東寄り(33Nグリッド付近)にやや纏まっているようにみえる。

前述の通り、出土遺物から帰属時期を特定することが困難であることが多いため、覆土の様相から、黒色スコリアを含む等、覆土が古代の堅穴建物跡に類似したものを古代、黒色スコリアの少ないⅡI

層系の覆土を有するものを古代～中世のいずれかに帰属するものとして、帰属時期を推定した。

土坑には、隅丸長方形や楕円形のものの他、いわゆる「円形土坑」とされるものが一定数確認されている。その分布についても、前述した3箇所のやや纏まった範囲それぞれで確認することができる。また、調査区中央部の土坑がやや纏まった範囲においては、多量の炭化材が検出されたSK155をはじめ、円形土坑以外の土坑の多くに炭化物の混入が認められることも、一つの特徴である（SK124・125・128・129・156・157等）。

なお、SK69・154・156・157・170については、個別の図は割愛した。

各土坑の詳細は第55表に記載しているので、以下には各土坑の概略のみを記す。

SK53 方形を呈すると見られる土坑。南側は調査区外へと続いており、日野市教育委員会が調査を実施している。底面は比較的平坦である。

SK54 長方形を呈する。焼土跡SX20を切っており、北側にSK55が隣接する。覆土は4層に分かれ、1～2層は黒色スコリアを多く含んでいる。土師器・須恵器片が多数出土した。

SK55 焼土跡SX20を切っており、南側にSK54が隣接する。覆土は単層で、黄褐色・橙色スコリアや黒色スコリアを多く含む。

SK56 長方形を呈する。覆土は2層に分けられ、いずれも黄褐色・橙色スコリアや黒色スコリアを多く含む。

SK57 円形土坑。底部には小さな凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がっている。覆土に黒色スコリアを多く含む。

SK58 楕円形を呈する。SP406及びSPK76に切られる。底面は小さな凹凸を有し、壁は内湾しながら立ち上がる。

SK59 円形土坑。検出面からの深さは59cmを測り、底面はV層に達している。4層に分けられる覆土のうち、黒色土層の2層には直径30mm以下の黒褐色土ブロックが多く含まれている。

SK60 隅丸長方形を呈する。壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK61 やや歪な円形を呈する。検出面からの深さは17cmと浅く、底部はやや凹凸が目立つ。土師器や須恵器の小片が出土。

SK62 円形土坑。弥生時代終末期のSI24の覆土及び床面を切って構築される。覆土の粒子はやや粗いが、黒色スコリアの含有は少ない。

SK63 やや歪な円形土坑。弥生時代終末期のSI24を切る。検出面からの深さは13cmと非常に浅い。黒色スコリアは少ない。

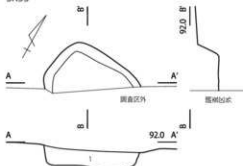
SK64 円形土坑。東西ベルト断面で検出した。Ⅱ1層より掘り込まれていることが分かる。2層からなる覆土は、いずれも粒子が粗い。

SK65 南側半分は調査区外で、日野市教育委員会が調査を実施している。円形を呈するものと思われる。

SK66 南壁を攪乱に切られている。検出面からの深さは41cmを測り、底面はⅣ層に達している。5層の覆土のうち、1、3、4に比較的多くの黒色スコリアを含む。

SK67 溝状の土坑。調査時は溝（SD7）としていたが、後に土坑に振り替えた。縄文時代のSK82

SK53



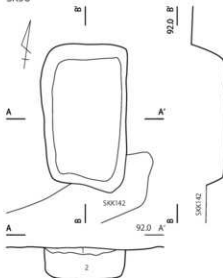
SK53

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 7%、黒色スコリア 10%を含む。直径 5～20mm の黒色土 (2.5Y2/1)20%が塊状に散じる。結まりやや弱、粘性有り、粒子細かい、B 層土主体。

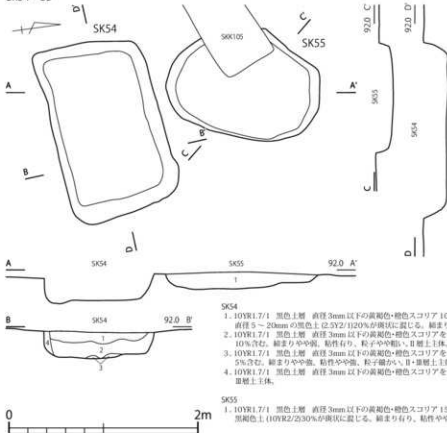
SK56

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 15%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (2.5Y3/2)30%が塊状に散じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい、B 層相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 15%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 15%を含む。黒褐色土 (2.5Y3/1)20%が塊状に散じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い、B 層土主体。

SK56



SK54・55



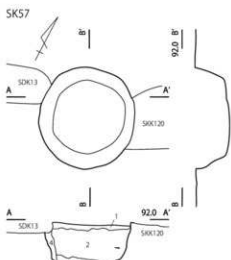
SK54

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 10%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 15%を含む。直径 5～20mm の黒色土 (2.5Y2/1)20%が塊状に散じる。結まりやや弱、粘性有り、粒子やや粗い、B 層土主体。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリアを 7%含む。直径 3mm 以下の黒色スコリアを 10%含む。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、B 層土主体。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリアを 7%含む。直径 3mm 以下の黒色スコリアを 5%含む。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい、B・B 層土主体。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリアを 5%含む。結まりやや強、粘性有り、粒子細かい、B 層土主体。

SK55

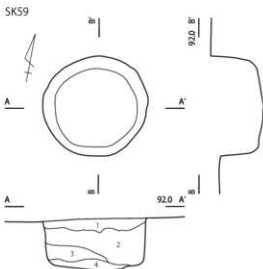
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・棕色スコリア 15%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)30%が塊状に散じる。結まり有り、粘性やや強、粒子やや粗い、B 層土主体。

第 503 図 SK53・54・55・56(1/40)



5K57

- 3) 10YR7/1 黒色スチ 直経 3mm 以下の黄褐色スチア 10YR5/8 褐色スチア 10YR5/8 褐色スチ 直経 3mm 以下の黒色スチア 15% を含む。黒色スチ 25.5/3(20%)が顕微鏡に現れる。細まじり、粘性やや強、粘子ややねれ、口湿土
- 4) 10YR7/1 黒色スチ 直経 3mm 以下の黄褐色スチア 褐色スチア 10%、直経 3mm 以下の黒色スチア 15% を含む。黒色スチ 25.5/17(7%)が顕微鏡に現れる。細まじりやや強、粘子ややねれ、口湿土
- 5) 10YR7/1 黒色スチ 直経 3mm 以下の黄褐色スチア 褐色スチア 10%、直経 3mm 以下の黒色スチア 15% を含む。黒色スチ 25.5/17(7%)が顕微鏡に現れる。細まじりやや強、粘子ややねれ、口湿土
- 6) 10YR7/1 黒色スチ 直経 3mm 以下の黄褐色スチア 褐色スチア 10%、直経 3mm 以下の黒色スチア 15% を含む。黒色スチ 25.5/17(7%)が顕微鏡に現れる。細まじりやや強、粘子ややねれ、口湿土
- 7) 10YR7/1 黒色スチ 直経 2mm 以下の黒色スチア 1% を含む。細まじり粘性やや強、粘子ややねれ、口湿土

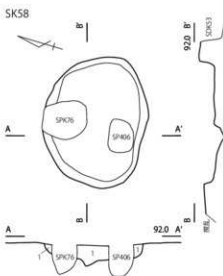


SK59

- ①、IOYK3① 黒色上層 直径3mm以内の暗褐色スフィア。直径20mmの黒色スコリア各1%未満、細粒性や中粒性。
- ②、IOYK2① 黒色上層 直径2mm以内の暗褐色スフィア。直径20mmの黒色スコリア各1%未満、直径5～30mmの黒色土ブロック(IOYK3①)15%を含む。細まじ・粘性や中粒性。
- ③、IOYK2① 黒色上層 直径3mm以下の暗褐色スフィア。直径20mmの黒色スコリア各1%未満、暗褐色土(IOYK3②)を含む。細まじ・粘性や中粒性。
- ④、IOYK2① 黒色上層 直径2mm以下の暗褐色スフィア。直径20mmの黒色スコリア各1%未満、直径3～30mmのロームブロック2%、暗褐色土(IOYK3②)10%を含む。細まじ・粘性や中粒性。

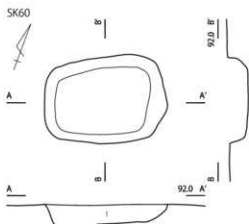
5861

1. 10YR17/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色~橙色スコリア 10%、直径3mm以下の黒色スコリア7%を含む。黒褐色土(10YR2/2)20%が表状に混じる。結まりや粘り、稜子やや粗い。土層土主体。
2. 10YR17/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色~橙色スコリア 5%を含む。暗褐色土(10YR3/3)3%が表状に混じる。結まりやや細。粘性有り。稜子細かく、土層土主体。



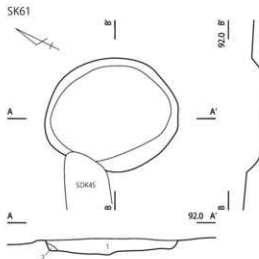
5K58

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黒褐色スコリア1%未満・ローム粒子3%、直径2～5mmの塊土粒子2%、黒褐色土(10YR2/2)10%を含む。細まり・粘性ややぶ、粒子粗い。

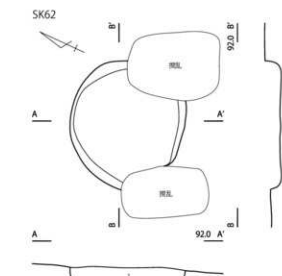


\$5060

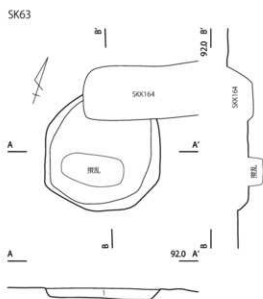
1. 10YR1.7/1 黒色土壌 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア7%、直径2mm以下の黒色スコリア10%を含む。暗褐色土(10YR3/4)1%が裏面に混じる。粘まり・粘性やや弱、粒子細い。II層上土体。



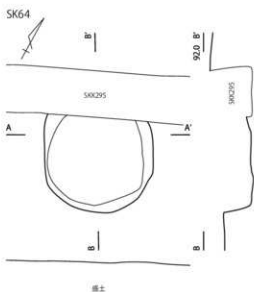
第 504 図 SK57・58・59・60・61(1/40)



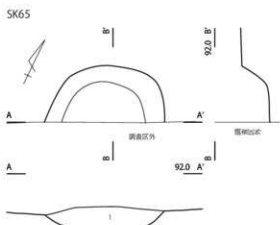
SK62
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm の黒色スコリア 3%を含む。結まり・粘性やや強、粒子やや粗い。



SK63
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm の黒色スコリア 1%未満、直径 7mm 以下のローム粒子 1%を含む。結まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。



SK64
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黄褐色土 (10YR2/2) 10%が塊状に散じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い、B層上主体。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア各 10%を含む。黄褐色土 (10YR2/2) 15%が塊状に散じる。下部にいくにつれて含有量が増える。結まりやや有り、粘性有り、粒子粗い、B層上主体。



SK65
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア各 10%を含む。互層土 10%が塊状に散じる。結まりやや弱、粘性有り、粒子粗い、B層上主体。



を切っている。6層に分けられる覆土のうち、1層はⅡ層相当土をベースとし、炭化物が集中して検出された。また、6層はロームブロックを多く含んでいる。

SK68 円形土坑。壁は内湾気味に開きながら立ち上がっている。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK69 不整楕円形を呈し、検出面からの深さは浅く10cmである。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK70 円形土坑。近世以降のSDK78に切られている。底面は凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでいる。

SK71 円形土坑。底面は比較的平坦で、壁はやや内湾気味に立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK72 SI19の覆土上で検出された円形土坑。検出面から底面までは浅く、12cmを測る。底部は凹凸が激しい。

SK73 円形土坑。上部はSDK130～132に切られている。壁はやや内湾気味に立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK74 やや不整形な円形土坑。壁は内湾して立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

SK75 やや不整形な円形土坑。壁は開き気味に立ち上がり、検出面からの深さは40cmを測る。3層からなる覆土は、いずれもⅡ層土がベースとなっている。

SK76 円形土坑。上部の大半を攪乱により破壊されている。覆土には黒色スコリアを多く含んでいる。

SK77 円形を呈するとみられる。南側の大半が調査区外に続いており、当該部分は日野市教育委員会が調査を実施している。

SK78 楕円形の土坑。SI19の覆土上で検出された。北側は近世以降の溝に切られているが、小判形を呈するものと思われる。遺物のうち土師器片の1点は、SI19出土から出土した土師器の相模型坏と接合している。

SK80 南側は調査区外へと続いている。壁は垂直気味に立ち上がる。覆土上層の1層はⅡ層土をベースとし、黒色スコリアを多く含んでおり粗い。下層の2層はⅢ層土をベースとしている。

SK81 南側は調査区外へと続いており、当該部分は日野市教育委員会が調査を実施している。壁は内湾して立ち上がる。覆土は4層からなり、最下層の4層はⅢ層土が再堆積したものと思われる。

SK85 小型の円形土坑と思われるが、南側をSKK250に切れ、不明である。検出面からの深さは10cmと浅い。

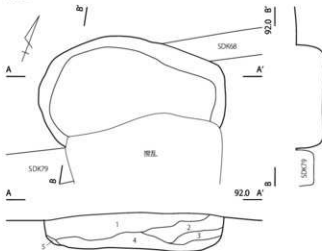
SK86 楕円形を呈し、南側はSKK247・250・299に切られている。覆土の粒子は粗い。

SK87 不整長方形の土坑。検出面からの深さは14cmと浅い。底面は比較的平坦である。

SK88 不整楕円形を呈する。Ⅱ3層上で検出。底面は凹凸が多く、検出面からの深さは6cmと非常に浅い。

SK89 不整形な円形土坑。上部は近世以降の遺構群に切られている。底面は不整形で、壁は内湾して立ち上がる。覆土は黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

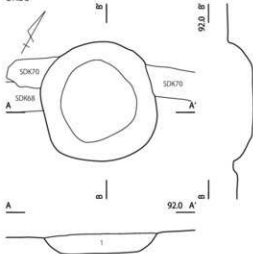
SK66



SK66

1. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 10% を含む。黒褐色土 (IOYR2/2) 10% が痕跡に散じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子やや粗い、B 層上主床。
2. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 10% を含む。黒褐色土 (IOYR2/4) 各 20% が痕跡に散じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子細かい、B 層上主床。
3. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア・黒色スコリア 各 7% を含む。暗褐色土 7%、黒褐色土 10% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい、B 層上主床。
4. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 10% を含む。暗褐色土 25%、黒褐色土 15% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粘性有り、粒子細かい、B 層上主床。
5. IOYR2/3 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 1% を含む。黒色土 (IOYR1.7/1) 30% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子細かい、B 層上主床。

SK68



SK68

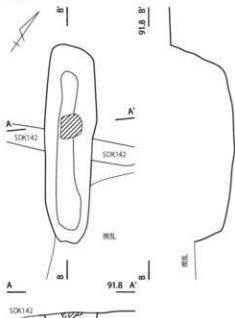
1. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア、黒色スコリア 各 10% を含む。黒褐色土 (IOYR2/2) 10% が痕跡に散じる。締まり有り、粘性やや弱、粒子やや粗い、B 層上主床。

SK70

1. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%、黒色スコリア 10% を含む。黒褐色土 (IOYR2/2) 10% が痕跡に散じる。締まり・粘性やや弱、粒子細かい、B 層上主床。



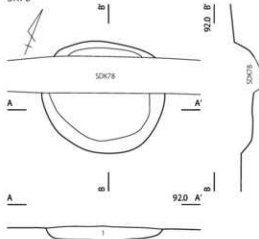
SK67



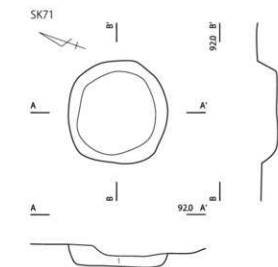
SK67

1. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 20%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%、長さ 5 ~ 10mm 程の炭化物 30% を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい、炭化物集中範囲、B 層上主床。
2. IOYR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 20%、直径 10mm 程の赤褐色スコリア 3%、長さ 2 ~ 10mm 程の炭化物 15% を含む。暗褐色土 (IOYR3/4) 10% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性やや弱、粒子細かい、B 層上主床。
3. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15% を含む。黒褐色土 (IOYR4/6) 5%、暗褐色土 (IOYR3/4) 10% が痕跡に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい、B 層上主床。
4. IOYR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 7% を含む。褐色土 (IOYR4/6) 40% が痕跡に散じる。締まり・粘性有り、粒子やや粗い、B 層上主床。
5. IOYR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 7%、直径 30mm 以下のロームブロック 15% を含む。ローム 20% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性有り、粒子粗い。
6. IOYR1.7/1 黒色土層 直径 2 ~ 5mm 程のロームブロック混合土層。直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 10% を含む。締まり弱、粘性有り、粒子極めて粗い。

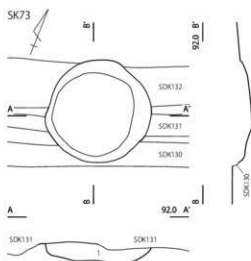
SK70



第 506 図 SK66-67-68-70(1/40)

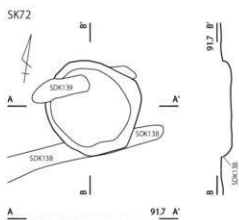


SK71
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%, 黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%, 暗褐色土 (10YR3/3) 7%が混在に散じる。細まりやや強。粘性有り。粒子粗い。B層上主体。

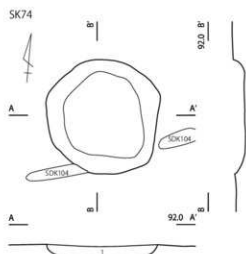


SK73
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 15%を含む。褐色土 (10YR4/6) 5%, 黒褐色土 (10YR2/2) 15%が混在に散じる。細まりやや強。粘性やや弱。粒子細かい。B層上主体。

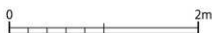
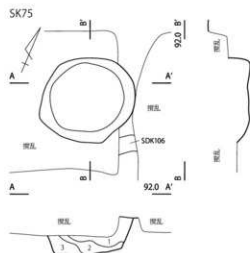
SK75
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 15%を含む。褐色土 (10YR4/6) 5%, 黒褐色土 (10YR2/2) 15%が混在に散じる。細まりやや強。粘性やや弱。粒子細かい。B層上主体。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%が混在に散じる。細まり・粘性やや強。粒子やや粗い。B層上主体。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 10%を含む。褐色土 (10YR4/6) 10%がブロック状に散じる。下部にいくにつれて含有量が増える。細まりやや強。粘性有り。粒子やや粗い。B層上主体。



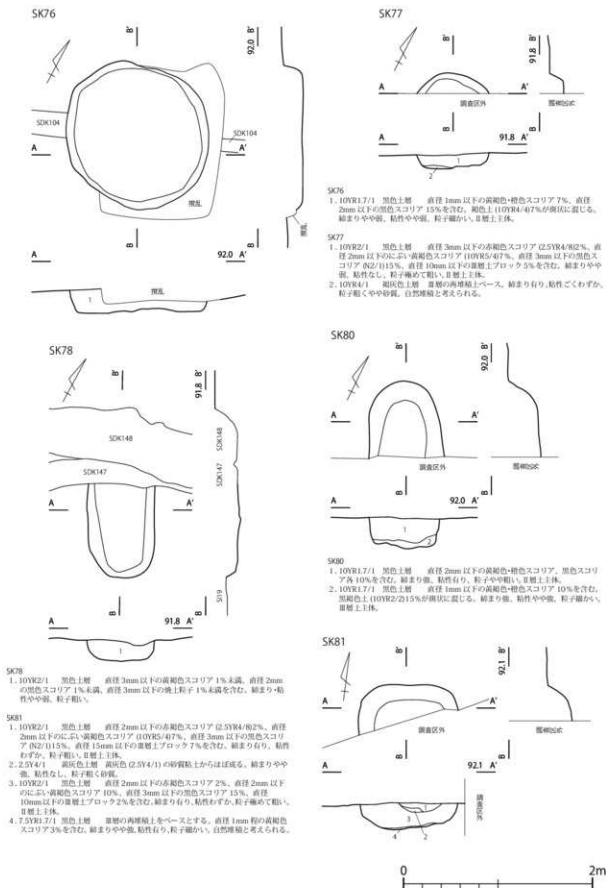
SK72
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満。直径 2mm の黒色スコリア 5%。直径 3mm 以下の塊上粒子 1%未満を含む。細まり・粘性やや強。粒子粗い。



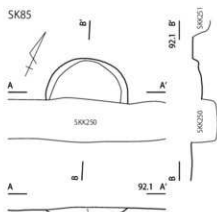
SK74
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア。黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10%が混在に散じる。細まり有り。粘性やや強。粒子やや粗い。B層上主体。



第 507 図 SK71・72・73・74・75(1/40)

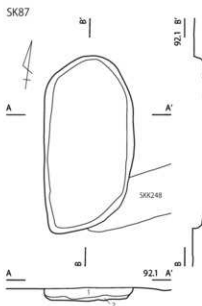


第 508 図 SK76・77・78・80・81(1/40)



SK85

1. 10YR1.7/1 黒色土層 同色より明暗がある。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 10%未満、直径 3mm 以下の黒色スコリア (N2/1) 7%未満、粘土粒子 1%未満、直径 2mm 以下の砂礫 1%未満を含む。結まり有り、粘性ごくわずか、粒子極めて粗い、B 層土主体。



SK87

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%未満を含む。結まりやや弱、粘性弱、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm の赤色スコリア 1%未満、直径 5～10mm の重層土ブロック 1%を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。

SK88

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%、直径 15mm のB～Mブロック 1%未満を含む。結まり・粘性やや弱、粒子粗い。

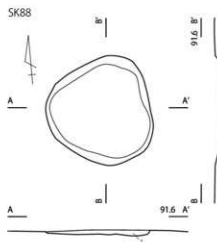
SK89

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/1) 3%が表層に露出。結まり・粘性有り、粒子やや粗い、B 層土主体。

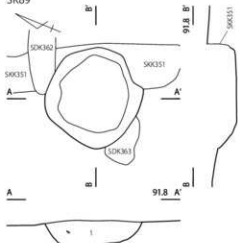


SK86

1. 10YR1.7/1 黒色土層 SK85 の 1 層に類似するが同色より明暗がある。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (10YR5/3) 15%・赤色スコリア (10YR4/8) 1%未満、直径 3mm 以下の黒色スコリア (N2/1) 7%を含む。結まり有り、粘性ごくわずか、粒子極めて粗い、B 層土主体。
2. 7.5YR3/1 黄褐色土層 B 層土と重層土が混在。直径 1mm 粒以下の赤褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。



SK89



第 509 図 SK85・86・87・88・89(1/40)

SK90 円形土坑。方形周溝墓 SZ2 を切っている。底面には小さな凹凸を有し、壁は内湾して立ち上がる。

SK91 楕円形を呈する。中心の大部分を SKK255 に切られている。覆土には焼土粒子やⅢ層土ブロックを微量含んでいる。

SK92 小型の円形土坑。弥生時代終末期の SI34 覆土上で検出した。壁は垂直に立ち上がり、覆土には黒色スコリアを多く含んでいる。

SK94 やや不整形な小型の円形土坑。底面には凹凸があり、検出面からの深さは 12cm と非常に浅い。

SK95 隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは 8cm と非常に浅い。覆土には小礫を少量含んでいる。

SK96 楕円形を呈する。底面は比較的平坦で、Ⅲ層土ブロックを含む黒色土が敷き均されたようになっている。壁は、東壁が開きながら立ち上がる他は、垂直に立ち上がっている。

SK97 不整形な楕円形を呈する。検出面からの深さは 7cm と非常に浅く、壁は開きながら立ち上がる。

SK98 小型の円形土坑。検出面からの深さも浅く、11cm を測る。底面には細かな凹凸を有する。覆土には小礫を少量含んでいる。

SK99 小型の円形土坑。底面はレンズ状に中央がやや窪んでおり、壁は内湾して立ち上がる。

SK100 やや不整形な円形土坑。底面は、中央がわずかに窪んでおり、検出面からの深さは 12cm と浅い。

SK101 やや不整形な隅丸長方形を呈する小型の土坑。検出面からの深さは 4cm と極めて浅い。

SK102 楕円形を呈する。SP443 に切られている。底面には段差を有している。覆土は 6 層に分けられ、最下層の 6 層は、V 層土が主体となっている。調査時はビット (SP442) としていたが、後に土坑に改めた。

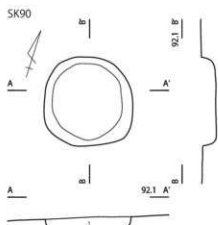
SK103 近世以降の SDK454・455・456 上部を削平されており不整形だが、本来は楕円形を呈していたと思われる。底面は中央が窪み、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土には黒色スコリアをやや多く含む。

SK104 隅丸方形を呈する。側壁の一部では、工具痕と思われる凹凸を確認した。覆土は 4 層からなり、3 層を除いて、焼土や炭化物の粒子を少量含んでいる。遺物の出土も比較的多く、弥生土器・古墳時代前期の土師器 7 点、古代の土師器 15 点、須恵器 2 点、焼成粘土塊 1 点、石器 (剥片) 1 点、礫 21 点が出土した。

SK105 隅丸長方形の土坑。底面は比較的なだらかで、壁は垂直に立ち上がっている。遺物を複数包含しており、弥生土器・古墳時代前期の土師器 4 点、古代の土師器 11 点、須恵器 5 点、石器 1 点、礫 4 点が出土した。なお、石器は縄文時代の石匙である (第 1 分冊第 64・71 図 16)。

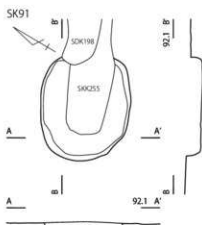
SK106 小規模な円形の土坑。Ⅱ3 層上で検出された。底面には緩やかな凹凸を有し、覆土には炭化物を微量に含んでいる。

SK108 本来は SI26 を切っていたと思われるが、先行して SI26 の調査を実施したため、北側部分は湮滅してしまった。底面はやや不整形で、壁は内湾して立ち上がる。



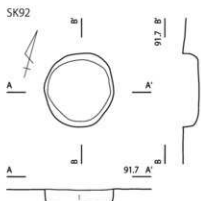
SK90

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満、砂粒 3%を含む。結まり・粘性弱、粒子粗い。



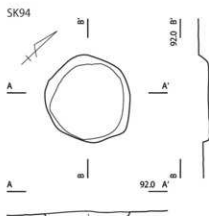
SK91

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア各 1%未満、直径 3～20mm の黄褐色アブロック 1%、直径 1mm の焼土粒子 1%未満、砂粒 3%を含む。結まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。



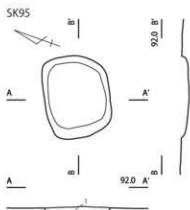
SK92

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%が混入している。結まりやや弱、粘性有り。粒子やや粗い。B 層上土体。



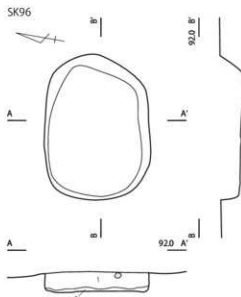
SK94

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア・黒色スコリア各 1%未満を含む。結まり弱、粘性なし。粒子粗い。



SK95

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満・黒色スコリア 3%、直径 2～5mm の小礫 3%含む。結まりやや弱、粘性弱、粒子粗い。

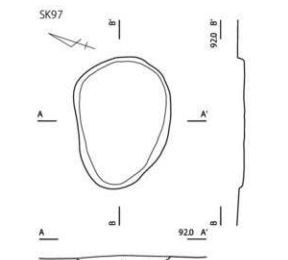


SK96

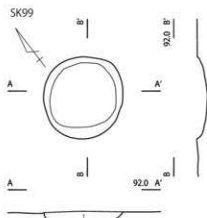
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 3%、直径 2mm の炭化物粒子 1%未満を含む。結まり・粘性弱、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3～20mm の黄褐色アブロック 5%を含む。結まりやや弱、粘性弱。



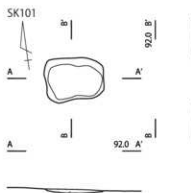
第 510 図 SK90・91・92・94・95・96(1/40)



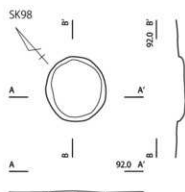
SK97
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの黄褐色スコリア1%・黒色スコリア3%を含む。細まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。



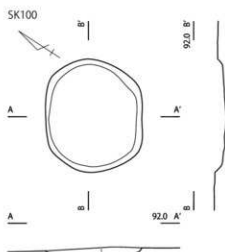
SK99
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%未満、直径2～7mmの粘土粒子(2.5Y6/2)1%、直径3mm以下の焼土粒子1%未満、砂粒3%を含む。細まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。



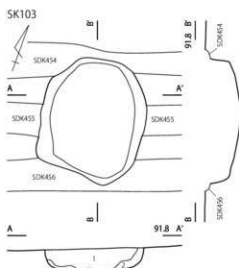
SK101
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの黄褐色スコリア1%未満・黒色スコリア3%を含む。細まり・粘性弱、粒子やや粗い。



SK98
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの黄褐色スコリア1%未満・黒色スコリア3%、直径2～4mmの小礫3%を含む。細まり・粘性弱、粒子やや粗い。

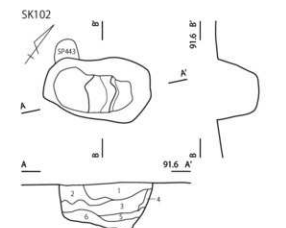


SK100
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mmの赤色スコリア1%未満、直径1mmの黒色スコリア3%を含む。細まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。



SK103
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・赤色スコリア各1%未満、直径2mmの黒色スコリア5%を含む。細まり・粘性やや弱、粒子粗い。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア1%、黒褐色土(10YR2/1)10%を含む。細まりやや弱、粘性やや弱。

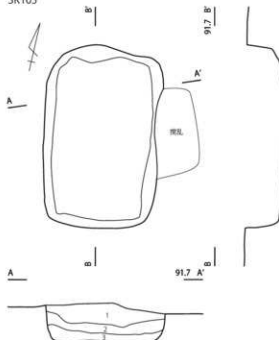
第511図 SK97・98・99・100・101・103(1/40)



SK102

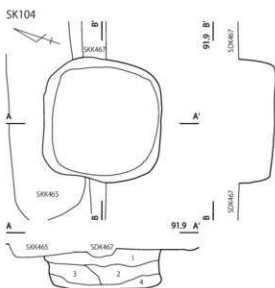
1. 10YR17/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 15%、直径 1mm 程の黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10%が混在に混じる。結まり・粘性やや弱、粒子細かい。中層土上体。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 10%を含む。直径 5～10mm の黒褐色土 (10YR4/6) 3%が混在に混じる。結まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。
3. 10YR17/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 7%を含む。直径 5～10mm の黒色土 3%が混在に混じる。結まり有り、粘性やや弱、粒子細かい。下層土上体。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒色土 (10YR17/1) 20%が混在に混じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。中層土上体。
5. 10YR17/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色・褐色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10%が混在に混じる。直径 10～20mm の黒褐色土 20%がブロック状に混じる。結まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。中・下層混在土層。
6. 10YR4/6 褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 15%を含む。黒色土 20%、黄褐色土 23%が混在に混じる。結まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。V層土上体。

SK105



SK105

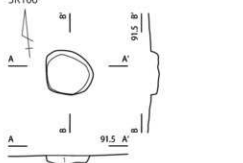
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%、直径 3～10mm の黒褐色土ブロック 1%を含む。結まりやや弱、粘性弱。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%・黒色スコリア 1%未満、直径 3～30mm の黒褐色土ブロック 2%を含む。結まりやや弱・粘り弱。粘性弱、粒子やや粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1%未満、直径 5～15mm の黒褐色土ブロック 5%を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粒子粗い。



SK104

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア 各 1%未満、直径 3～40mm の黒褐色土ブロック 2%、直径 30mm 以下の粘土粒子 1%未満、直径 2～7mm の焼土粒子 1%未満、長さ 10mm の炭化物 1%未満を含む。結まり・粘性弱、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア 各 1%未満、直径 3～30mm の黒褐色土ブロック 5%、直径 1mm の焼土粒子 1%未満を含む。結まり弱く 1層より弱、粘性弱、粒子粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア 各 1%未満、直径 5mm 以下のローム粒子 1%未満、直径 3～15mm の黒褐色土ブロック 3%、直径 1mm の焼土粒子 1%未満を含む。結まり・粘性弱、粒子粗い。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色・褐色スコリア 各 1%未満、直径 3～20mm の黒褐色土ブロック 3%、直径 1mm の焼土粒子 1%未満、長さ 5～10mm の炭化物 1%未満を含む。結まり・粘性やや弱、粒子やや粗い。

SK106



SK106

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%・黒色スコリア 1%未満、長さ 2～10mm の炭化物 1%未満を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粒子粗い。



SK109 円形土坑。壁は垂直気味に立ち上がる。4層からなる覆土のうち1層はⅢ層土のブロックを多く含み、粒子が粗い。3・4層は薄く堆積し、締まりがやや強い。

SK110 円形土坑。壁は垂直に立ち上がる。覆土は上下2層で、下層の2層は、Ⅲ層土のブロックを含む黒褐色土である。上部は、現代の攪乱に伴う転圧により硬化していた。

SK112 小型の土坑。本来は弥生時代終末期のSI34を切っていたと思われるが、先行してSI34を調査したため、調査時には北側部分は渾滅していた。底面はやや不整形で、壁は内湾して立ち上がる。

SK114 不整楕円形を呈する小型の土坑。北側部分を除き、上部を包含層掘削時に削平してしまったため、検出面からの深さは浅くなっている。

SK115 やや小型の円形土坑。検出面からの深さは11cmと浅い。2層からなる覆土のうち、下層はⅢ層土のブロックを多く含んでいる。底面からは縄文時代の打製石斧（第1分冊第65・72図20）が出土した。

SK117 円形土坑。検出面からの深さは34cmを測り、壁は開き気味に立ち上がる。工具痕が認められた。遺物は縄文土器1点、弥生土器・古墳時代前期の土師器2点、古代の土師器9点、須恵器10点、礫3点が出土した。

SK118 小型で楕円形を呈する。底面は不整形で凹凸を有する。覆土はⅢ2層土がベースで、炭化物をやや多く含んでいる。

SK119 円形土坑。検出面からの深さは33cm、底面は比較的平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がっている。

SK120 楕円形を呈する。中央に近世以降のSKK403があり、南北に分断されている。検出面からの深さは43cm、底面は比較的平坦で、壁は内湾したのち、垂直に立ち上がっている。覆土からは縄文土器片（第1分冊第56・62図120）が出土した。

SK121 円形土坑。南東部はSKK526に切られる。底面には緩やかな凹凸がある。覆土には炭化物粒子が微妙に含まれる。

SK122 円形土坑。SI40の覆土上で検出された。検出面からの深さは55cmを測り、比点較的深い。壁は内湾したのち、垂直に立ち上がっている。覆土は5層に分けられる。遺物は弥生土器・古墳時代前期の土師器2点、古代の土師器8点、須恵器12点等が出土した。

SK123 円形土坑。西側部分は包含層掘削時に削平してしまったため、確認し得なかった。底面は中央がやや窪み、壁は内湾して立ち上がる。遺物は土師器と須恵器が2点ずつ出土した。

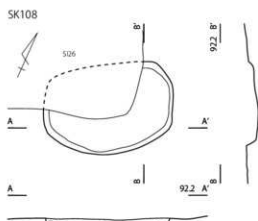
SK124 包含層掘削時に上部を削平したため、検出時の深さは11cmと浅い。壁は内湾して立ち上がり、底面は凹凸を有する。覆土には炭化物を少量含んでいる。

SK125 平面形態・底面共に不整形な土坑。壁は内湾気味に立ち上がる。覆土には炭化物を少量含んでいる。

SK126 やや不整形な円形土坑。包含層掘削時に上部を削平したため、検出面からの深さは13cmと浅い。底面は凹凸が激しい。

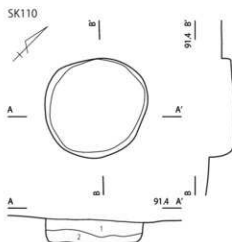
SK127 やや不整形な円形土坑。壁は垂直気味に立ち上がり、底面の凹凸は激しい。2層に分けられる覆土のうち、上層の1層は炭化物を少量含んでいる。

SK128 やや小型で楕円形を呈する。底面は不整形で、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土には炭化



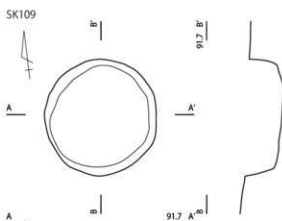
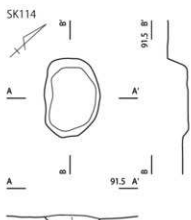
SK108

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色・赤色スコリア 1% 未満、直径 3 ~ 10mm の黒褐色土ブロック (10YR3/2) 2% を含む。結まりやや強、粘性弱、砂子粗い。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%、黒色土 (10YR2/1) 20% を含む。結まりやや強、粘性やや強。



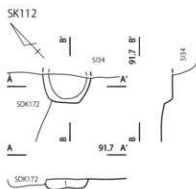
SK110

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未満・赤色スコリア 3%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1% 未満、直径 3mm の炭化物粒子 1% 未満を含む。結まりやや強、粘性弱、砂子やや粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色・黒色スコリア各 1% 未満、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1% 未満、直径 3 ~ 30mm の黒褐色土ブロック 10% を含む。結まりやや強、粘性やや強。



SK109

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直径 5mm 以下のローム粒子 3%、直径 5 ~ 20mm の黒褐色土ブロック 2% を含む。結まり・粘性弱、砂子粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア 1% 未満、直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 3 ~ 30mm のロームブロック 3%、直径 5 ~ 20mm の黒褐色土ブロック 2% を含む。結まりやや強、粘性弱、砂子粗い。
3. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm の赤色スコリア 1%、直径 2 ~ 10mm のロームブロック 3% を含む。結まり・粘性やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2 ~ 4mm の赤色スコリア 1%、直径 3 ~ 30mm のロームブロック 10% を含む。結まり・粘性やや強。



SK112

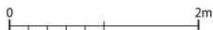
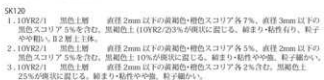
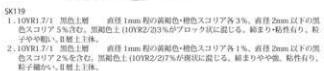
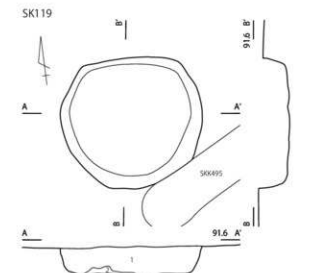
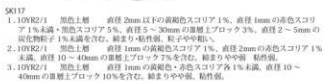
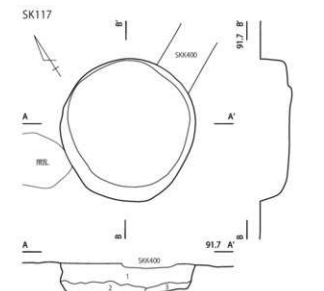
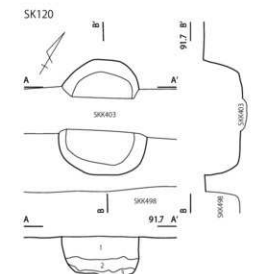
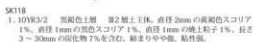
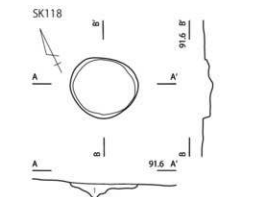
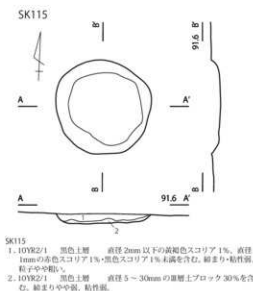
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直径 1mm 程度の赤色スコリア 5% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3% が散在に混じる。結まりやや強、粘性やや強、砂子やや粗い。

SK114

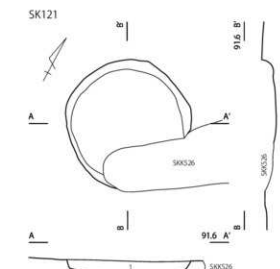
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・黒色スコリア各 5%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 3% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 7% が散在に混じる。砂子粗い。結まり有り、粘性やや強、黒褐色土層。



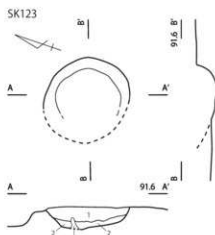
第 513 図 SK108・109・110・112・114(1/40)



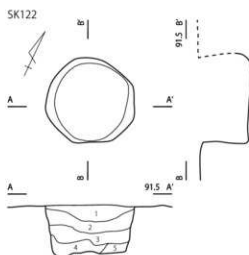
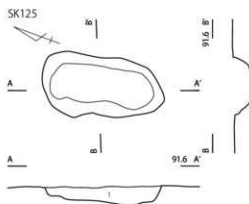
第514図 SK115・117・118・119・120(1/40)



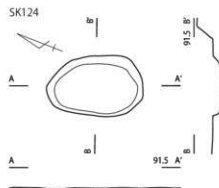
- SK121
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・橙色スコリア各 7%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 7%、直径 3mm 以下の炭化物 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 2%が微量に混じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い、目 1 層上土体。



- SK123
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の赤色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満を含む。結まりやや弱、粘性弱、粒子粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm の赤色スコリア 1%、直径 1mm の黒色スコリア 1%未満、砂粒 3%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粒子やや粗い。



- SK122
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・橙色スコリア各 5%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR3/1) 2%が微量に混じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い、目 1 層上土体。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・橙色スコリア各 2%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 5%を含む。結まり有り、粘性やや強、粒子細か。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・橙色スコリア 1%・黒色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3%が微量に混じる。結まりやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 1mm の黒色スコリア 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。結まりやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・橙色スコリア各 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%が微量に混じる。結まりやや弱、粘性やや強、粒子やや粗い。



- SK124
1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1%・黒色スコリア 1%未満、直径 2mm の焼土粒子 1%、長さ 3～40mm の炭化物 3%、黒褐色土 (10YR2/1) 30%を含む。結まり弱、粘性なし。

- SK125
1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア 1%・黒色スコリア 1%未満、直径 2mm の焼土粒子 1%、長さ 3～40mm の炭化物 5%、黒褐色土 (10YR2/1) 30%を含む。結まり弱、粘性なし。



第 515 図 SK121・122・123・124・125(1/40)

物や焼土を少量含んでいる。

SK129 やや小型で小判形を呈する。底面には細かな凹凸を有し、壁は開き気味に立ち上がる。覆土には炭化物を含む。

SK130 不整形な円形土坑。底面には凹凸が目立ち、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は2層からなる。覆土には炭化物を少量含んでいる。

SK131 不整形な円形土坑。古墳時代前期のSI45を切っている。検出面からの深さは9cmと浅く、底面に大小の凹凸を有する。

SK132 楕円形を呈する。底面には段差を有しており、西側がわずかに深い。覆土には黒色スコリアをやや多く含んでいる。

SK134 隅丸長方形を呈する比較的大型の土坑。北側は攪乱に大きく切られ、西側は上部をSKK678に切られている。底面には凹凸や段差を有する。覆土は上下2層に分けられ、上層の1層は黒色スコリアをやや多く含み、粒子は粗い。

SK135 円形土坑。一部をSKK665に削平されている。3層からなる覆土のうち、2層は硬化した黒褐色土のブロックを含み、下層の3層は、堆積は薄く、締まりがやや強い特徴を有している。

SK136 円形土坑。底面は中央がやや窪み、凹凸を有している。壁は開きながら立ち上がっている。覆土は黒色スコリアを多く含有する。

SK137 円形土坑。底面は比較的平坦で、壁は開きながら立ち上がっている。覆土は4層からなるが、いずれも黒色土で、黒色スコリアを含んでいる。遺物は土師器38点、須恵器1点等が出土した。

SK138 円形土坑。底面にはやや凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。2層からなる覆土のうち、2層には硬化した黒褐色土のブロックが含まれている。

SK139 やや歪な楕円形を呈する。底面も不整形で、凹凸を有している。壁は内湾気味に立ち上がる。覆土下層の2層は、堆積は薄く、やや強く締まっている。

SK140 やや小型の円形土坑。底面は中央がわずかに窪み、壁は垂直気味に立ち上がっている。覆土は黒色スコリアを含有する。

SK141 やや小型の円形土坑。底面は緩やかな凹凸があり、壁は垂直気味に立ち上がっている。黒色スコリアを少量含有する。

SK142 円形を呈する。底面は不整形で段差を有する。壁は内湾して立ち上がっている。覆土には黒色スコリアをやや多く含まれる。

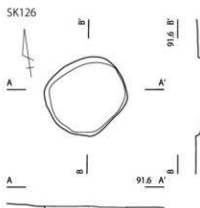
SK143 円形土坑。検出面からの深さは40cmを測り、壁は垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。黒色スコリアを含有する。

SK144 円形土坑。底面には凹凸があり、壁は垂直に立ち上がっている。3層からなる覆土のうち最下層の3層は、薄く堆積し硬化面を形成している。

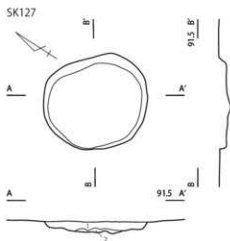
SK145 隅丸長方形を呈する。中央が攪乱によって大きく切られているが、南北の壁は良好に遺存していた。古墳時代前期のSI47を切っている。

SK146 やや歪な楕円形を呈し、底面は比較的平坦である。古墳時代前期のSI50検出時に同遺構覆土上で検出された。

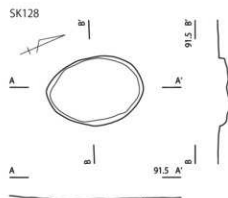
SK147 調査区東西ベルトにかかる位置で検出された。ベルトの土層断面の観察により、SK147は



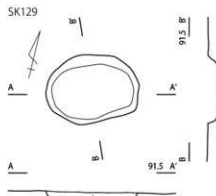
SK126
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mmの赤色スコリア1%、直径1mmの黒色スコリア1%、長さ2～20mmの炭化物2%を含む、細まりやや強、粘性弱。



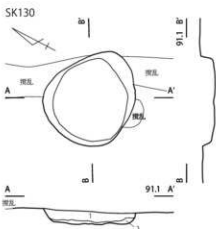
SK127
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア1%、直径2mm以下の黒色スコリア1%、長さ2～10mmの炭化物3%未満を含む、細まり・粘性やや強、粘子細かい。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 厚層土ベース。直径3mm以下の黄褐色スコリア1%、細まり強、粘性やや強。



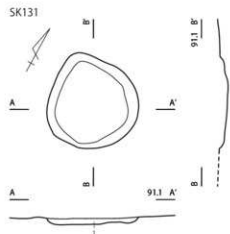
SK128
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の黒色スコリア1%、直径5mm以下の機土粒子1%、直径2～5mmの炭化物粒子3%を含む、細まりやや強、粘性弱、粘子細かい。



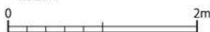
SK129
1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色・黒色スコリア各1%未満、長さ2～10mmの炭化物7%、黒色土(10YR2/1)15%を含む、細まり・粘性強、粘子細かい。



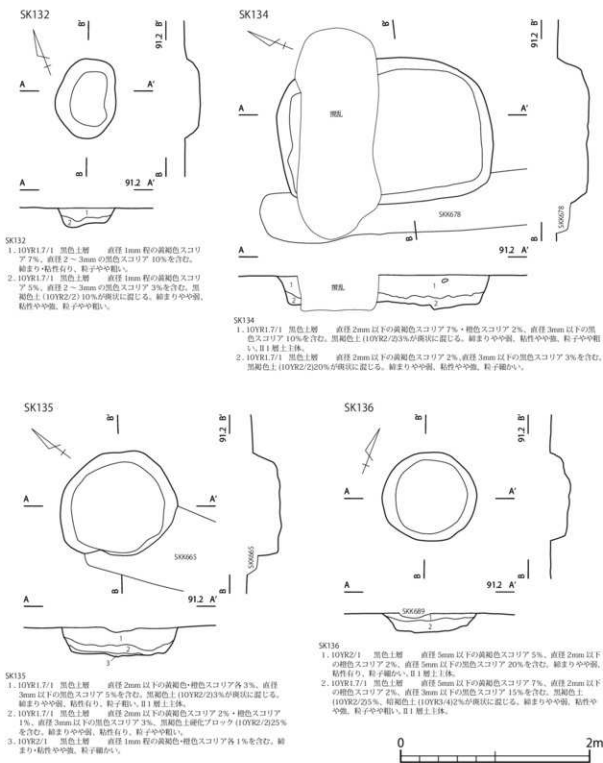
SK130
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程の黄褐色・褐色スコリア各3%、直径2mm以下の黒色スコリア3%を含む、細まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。B層上主体。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程の黄褐色・褐色スコリア各2%を含む、黒褐色土(10YR2/2)7%が縦状に混じる。細まりやや強、粘子細かい。B層上主体。



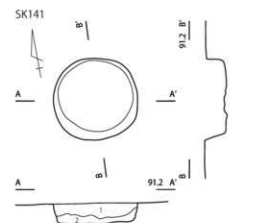
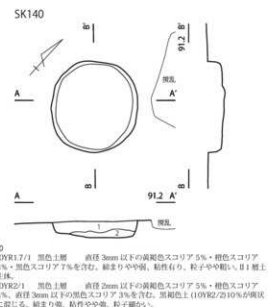
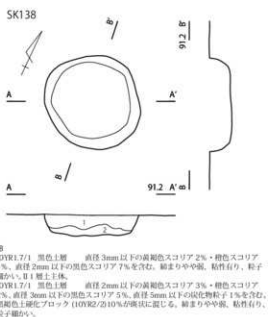
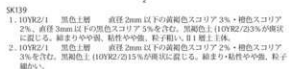
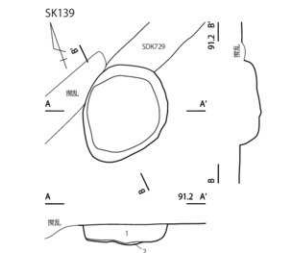
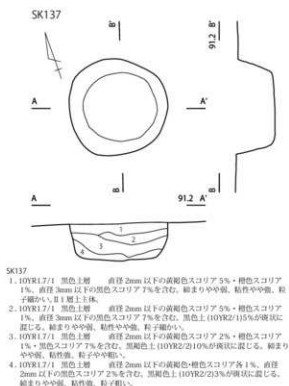
SK131
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程の黄褐色・褐色スコリア各1%、直径1mm程の黒色スコリア2%を含む、黒褐色土(10YR2/2)2%が縦状に混じる。細まりやや強、粘性やや強、粘子細かい。B層上主体。



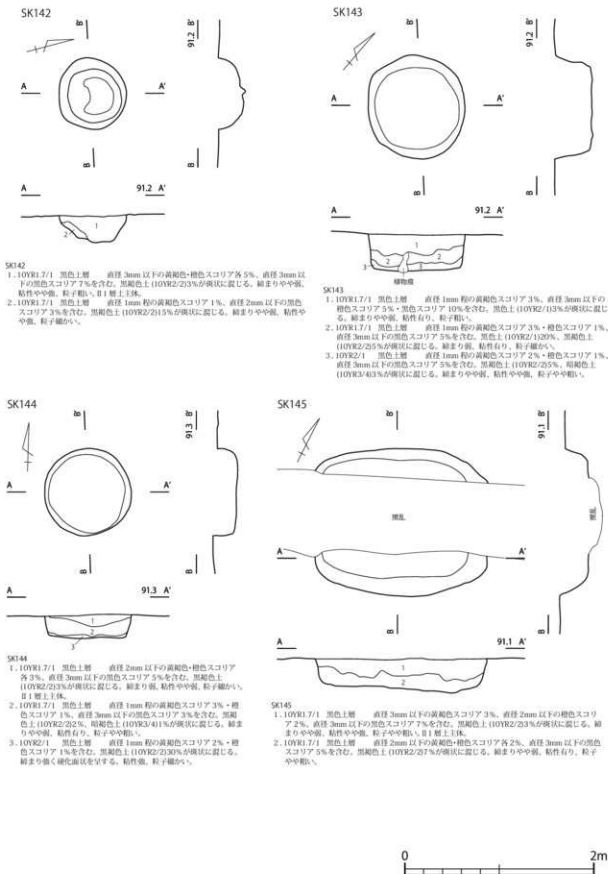
第516図 SK126・127・128・129・130・131(1/40)



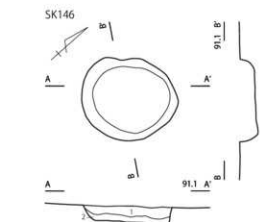
第 517 図 SK132・134・135・136(1/40)



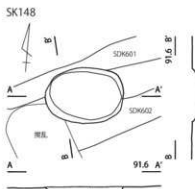
第 518 図 SK137・138・139・140・141(1/40)



第 519 図 SK142・143・144・145(1/40)

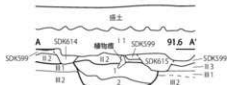
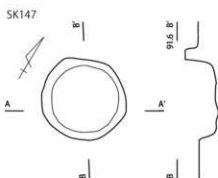


- SK146
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 5%・橙色スコリア 2%・黒色スコリア 10%・同化物 1%を含む。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。B1層上主体。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 2%・黒色スコリア 5%を含む。暗褐色土(10YR2/1)3%が塊状に散在。結まり・粘性有り、粒子細かい。

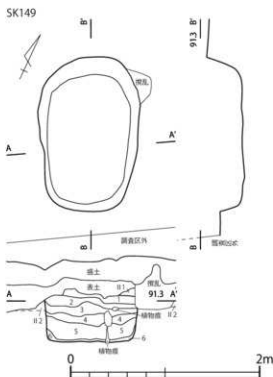


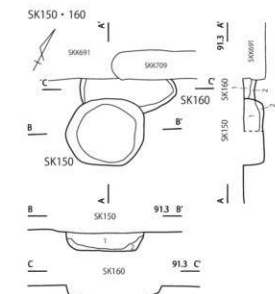
- SK148
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 2%・直径3mm以下の黒色スコリア 5%・直径1mm程のふいふ黄褐色粒子 2%・直径3mm以下の同化物 2%を含む。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。B2層上主体。

- SK149
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 1%・直径3mm以下の黒色スコリア 3%を含む。黒色土(10YR2/1)7%が塊状に散在。結まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 1%・黒色スコリア 2%を含む。暗褐色土(10YR3/3)2%が塊状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 3. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 1%を含む。暗褐色土(10YR3/3)1%が塊状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 4. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 2%・橙色スコリア 1%を含む。暗褐色土(10YR3/3)1%が塊状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 5. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 5%・橙色スコリア 2%を含む。暗褐色土(10YR2/2)5%・暗褐色土(10YR3/3)3%が塊状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 6. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 各1%を含む。暗褐色土(10YR3/3)30%が塊状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。



- SK147
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 3%・橙色スコリア 2%・直径3mm以下の黒色スコリア 7%を含む。暗褐色土(10YR2/2)5%が塊状に散在。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。B2層上主体。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア 各1%・直径3mm以下の黒色スコリア 3%を含む。暗褐色土(10YR3/3)2%が塊状に散在。結まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。



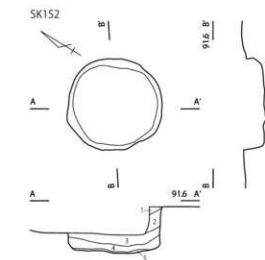


SK150

1. IOYR2.5/1 黒褐色土層 Ⅱ2層土に黒褐色土が混在。直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア3%。直径3mm以下の黒色スコリア10%を含む。Ⅱ2層相当土。粘り弱、粘性わずか、粒子細かい。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 遺構土をベースとし、Ⅱ2層土が混在。直径1mm以下の赤い黄褐色スコリア1%。直径2mm以下の黒色スコリア2%を含む。粘り有り、粘性強。粒子比較の細かい。

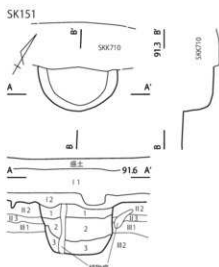
SK160

1. IOYR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア5%。直径3mm以下の黒色スコリア15%を含む。Ⅱ2層相当土。粘り強、粘性なし、粒子細かい。
2. IOYR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア10%。直径3mm以下の黒色スコリア15%を含む。Ⅱ2層相当土。粘りやや中強、粘性わずか、粒子細かい。



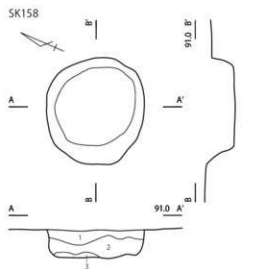
SK152

1. IOYR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm程の赤い黄褐色スコリア(10YR5/6.2%)。直径3mm以下の黒色スコリア(10YR5/6.2%)を含む。Ⅱ1層土に近いが、Ⅱ2層土に黒褐色土が混在しているような質感もある。粘りやや中強、粘性わずか、粒子やや細かい。
2. IOYR2/1 黒色土層 直径1mm程の赤い黄褐色スコリア5%。直径3mm以下の黒色スコリア10%を含む。Ⅱ2層土主体。粘りやや中強、粘性比較の細かい。
3. IOYR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm程の赤い黄褐色スコリア3%。直径3mm以下の黒色スコリア7%。直径7mm以下の灰褐色ブロック1%未検を含む。Ⅱ2層相当土。粘り・粘性弱。粒子比較の細かい。
4. IOYR1.7/1 黒色土層 直径1mm程の赤い黄褐色スコリア2%。直径3mm以下の黒色スコリア5%を含む。Ⅱ2層相当土。粘りは3層より強く、粘性強。粒子比較の細かい。
5. IOYR3/2 黒褐色土層 遺構土をベースとし、直径1mm程の赤い黄褐色スコリア2%。Ⅱ層土粒子10%。直径7mm以下の灰褐色ブロック3%を含む。粘りやや中強、粘性有り。粒子細かい。



SK151

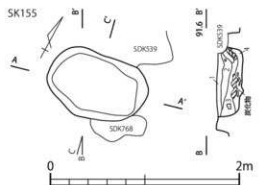
1. IOYR2.5/1 黒褐色土層 直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア5%。直径3mm以下の黒色スコリア15%を含む。Ⅱ層土主体。粘りやや中強、粘性なし、粒子細かい。
2. IOYR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア7%。直径3mm以下の黒色スコリア20%。長さ10mm以下の炭化材1%未検を含む。Ⅱ2層土主体。粘り・粘性弱。粒子細かい。
3. 7.5YR2/2 黒褐色土層 遺構土をベースとし、Ⅱ2層土が少し混在。直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア3%。直径2mm以下の黒色スコリア1%を含む。粘りなし、粘性弱。粒子比較の細かい。



SK158

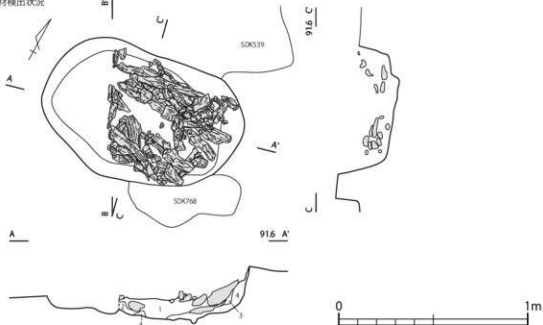
1. IOYR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%。黒色スコリア7%を含む。粘りやや中強、粘性有り、粒子細かい。Ⅱ1層土主体。
2. IOYR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア1%。直径3mm以下の黒色スコリア7%を含む。粘りやや中強、粘性有り、粒子やや細かい。
3. IOYR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色・褐色スコリア各3%。直径3mm以下の褐色スコリア1%を含む。粘りやや中強、粘性有り、粒子細かい。





- SK155
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粒子細かい。1層以上堆積。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・黒色スコリア 7%、長さ 30mm 以下の炭化物 7%を含む。締まりは 1層より弱くやや弱、粘性有り、粒子やや粗い。
 3. 10YR1.7/1 黒色土層 2層よりも黒色味が強い。直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・黒色スコリア 5%、長さ 50mm 以下の炭化物 50%を含む。締まり弱、粘性有り、粒子やや粗い。
 4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 5%、長さ 30mm 以下の炭化物 50%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 7%が縦状に散じる。締まり弱、粘性有り、粒子細かい。

炭化材検出状況



第 522 図 SK155(1/40-1/20)

Ⅲ 1 層上から掘り込まれ、Ⅱ 1 層に覆土上部を覆われていることが分かった。

SK148 楕円形を呈する。底面はやや不定形で、中央が窪んでいる。覆土に炭化物を少量含んでいる。

SK149 調査区東西ベルトにかかる位置で検出された小判形の土坑。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

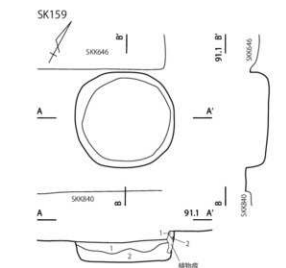
SK150 円形土坑。SK160 を切っている。底面は中央がわずかに窪んでおり、壁は開き気味に立ち上がる。

SK151 調査区東西ベルトにかかる位置で検出された。ベルトの土層断面の観察によると、Ⅱ 2 層上から掘り込まれて、覆土上部はⅡ 2 層に覆われている。

SK152 円形土坑。包含層の掘削中に検出された。平坦な底面と垂直に立ち上がる壁を有する。最下層の 5 層はⅢ 層土をベースとし、やや強く締まっている。

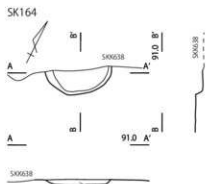
SK154 攪乱により激しく破壊されているが、本来の平面形態は円形もしくは楕円形であったと思われる。検出面からの深さも 6cm と浅い。

SK155 調査区中央部で検出され、楕円形を呈する。長軸 107cm、短軸 70cm、検出面からの深さ



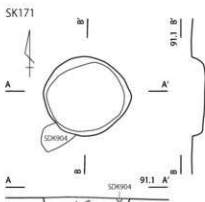
SK159

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 15%を含む。結まり有り、粘性わずか、粒子細かい。Ⅱ2 層土主体。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 Ⅱ層土をベースとし、Ⅱ2 層土が露出。直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%、直径 30mm 以下の黒土ブロック 5%を含む。結まり弱、粘性わずか、粒子粗い。



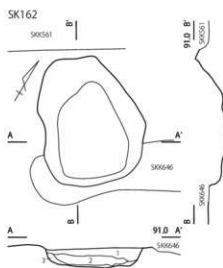
SK164

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 20mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 3%、褐色土 (10YR4/6) 2%が露出に露出。結まり弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。(やや砂質)。



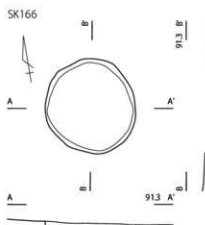
SK171

1. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土をベース。直径 20mm 以下の黄褐色・黒色スコリア 各 3%、直径 5mm 以下の風化・変化したスコリアと思われる黄褐色粒子 (10YR5/6) 2%、黒褐色土 (10YR2/2) 5%を含む。結まり弱、粘性有り、粒子やや粗い。



SK162

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の黄褐色スコリア 10%・褐色スコリア 7%、直径 20mm 以下の黒色スコリア 3%、直径 5mm 以下の黄灰色粘土粒子 0.5%・13%、直径 20mm 以下の黒土粒子 2%、長さ 10mm 以下の風化物 20%を含む。結まり・粘性有り、粒子粗い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 30mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 2%・黄灰色粘土粒子 7%、長さ 10mm 以下の風化物 7%を含む。結まり有るが部分所はやや弱、粘性やや弱、粒子粗い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 30mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1%・黄灰色粘土粒子 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%が露出に露出。結まりやや弱、粘性有り、粒子粗い。

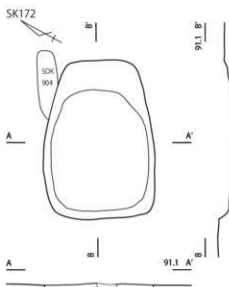


SK166

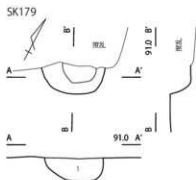
1. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土をベース。直径 10mm 以下の黄褐色・明赤褐色スコリア 各 1%、直径 20mm 以下の黒色スコリア 1%・ローム粒子 2%、Ⅱ層土 (10YR2/2) 10%を含む。結まり極めて弱、粘性弱、粒子粗い。



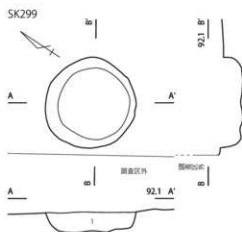
第 523 図 SK159・162・164・166・171(1/40)



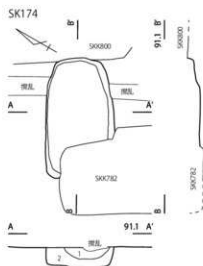
SK172
1. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。直径2mm以下の黄褐色スコリア4%・黒色スコリア3%を含む。Ⅱ層土(10YR2/2)5%を含む。下部にやや集中する。結まり・粘性有り。粒子細かい。



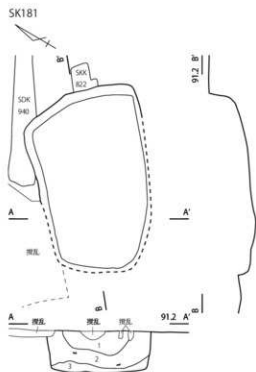
SK179
1. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。直径1mm程度の黄褐色スコリア1%・焼土粒子1%未満を含む。結まり強。粘性はやや強。粒子細かい。



SK299
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)7%。直径7mm以下の黒色スコリア3%。直径5mm以下の焼土粒子1%を含む。Ⅱ層土相当土を直径300mm以下のブロック状に1%含む。結まりやや有り。粘性有り。粒子やや細かい。

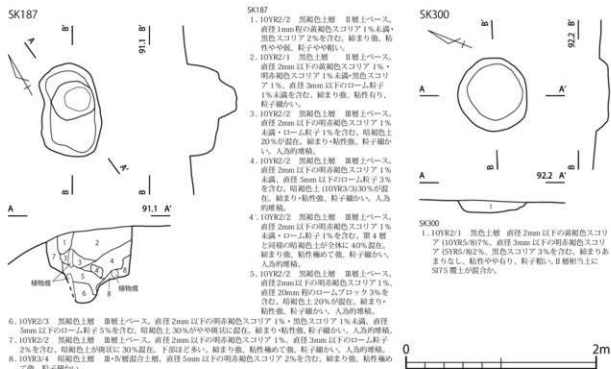


SK174
1. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。直径2mm以下の黄褐色・黒色スコリア各2%。直径5mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/6)1%・焼土粒子(10YR4/6)各1%を含む。結まりやや強。粘性にやや強い。粒子やや細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。第1期よりやや強い。直径2mm以下の黄褐色スコリア2%・黒色スコリア4%。直径5mm以下の焼土粒子1%未満を含む。結まりやや強。粘性にやや強い。粒子やや細かい。



SK181
1. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。直径3mm以下の黄褐色スコリア5%。直径1mm以下の明赤褐色スコリア1%。直径2mm以下の黒色スコリア1%未満を含む。結まり強。粘性有り。粒子細かい。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。直径2mm以下の黄褐色スコリア3%。直径1mm以下の明赤褐色スコリア1%未満。直径2mm以下の黒色スコリア2%。直径4mm以下のローム粒子(7.5YR5/6)1%未満。黒色土(10YR2/1)30%を含む。結まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 Ⅱ層土ベース。遺跡中最も褐色。直径2mm以下の黄褐色スコリア2%。黒色スコリア3%。直径20mm程度のⅡ層土ブロック(10YR2/2)25%を含む。結まり・粘性有り。粒子細かい。





第525図 SK187・300(1/40)

は32cmを測る。包含層を掘削している際に検出されたため、西側半分は、上部を大きく削平してしまっている。

覆土は4層に分けられ、下部の3・4層は炭化材が主体で、その隙間に黒色土が入り込んでいる状況である。

遺構の全面にわたって炭化材が検出された。出土した炭化材は自然科学分析を実施しており、樹種同定の結果、分析した資料5点はいずれもクリ材で、放射性炭素年代測定の結果、7世紀前半から8世紀中頃であることが明らかとなった(第V章第1節参照)。

SK156 不整楕円形の土坑。攪乱に切られている。覆土に炭化材を含んでいる。

SK157 不整長方形を呈する。覆土に炭化材を多く含んでいる。

SK158 やや不整形な円形土坑。底面は比較的平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は3層に分けられ、いずれも黒色スコリアを含んでいる。

SK159 円形土坑。底面は比較的平坦で、壁は内湾したのち垂直に立ち上がる。黒色スコリアをやや多く含んでいる。

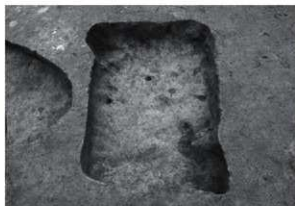
SK160 SK150やSKK691・709に切られているが、平面形は小判形と想定される。検出面からの深さは浅く、15cmを測る。

SK162 不整長方形で底面も凹凸が激しい。3層に分けられる覆土はいずれも砂質粘土粒子を含んでおり、上層の1層は炭化物を多く含んでいる。

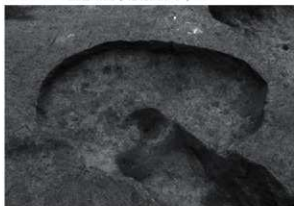
SK164 SKK638に切られているが、円形を呈すると思われる。検出面からの深さは7cmと非常に浅い。底面には細かな凹凸を有する。



1. SK53 土層断面 (北北西から)



2. SK54 全景 (西から)



3. SK55 全景 (西から)



4. SK56 全景 (南から)



5. SK57 土層断面 (南南東から)



6. SK57 全景 (西南西から)



7. SK58 全景 (南南東から)



8. SK59 土層断面 (南から)

第 526 図 SK53・54・55・56・57・58・59 写真



1. SK60 土層断面 (南南東から)



2. SK60 全景 (南南東から)



3. SK61 土層断面 (西南西から)



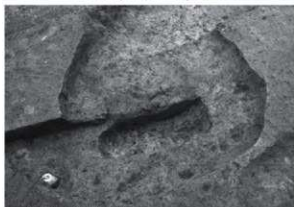
4. SK61 全景 (西南西から)



5. SK62 土層断面 (西南西から)



6. SK62 全景 (南南東から)



7. SK63 全景 (南から)



8. SK64 全景 (南南東から)

第 527 図 SK60・61・62・63・64 写真



1. SK65 全景 (南南東から)



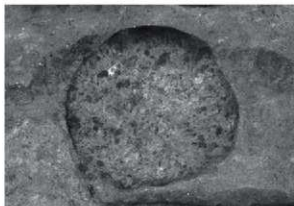
2. SK66 全景 (南から)



3. SK67 土層断面 (南南東から)



4. SK67 全景 (東北東から)



5. SK68 全景 (南南東から)



6. SK69 全景 (南南東から)



7. SK70 全景 (南南東から)



8. SK71 全景 (西南西から)

第 528 図 SK65・66・67・68・69・70・71 写真



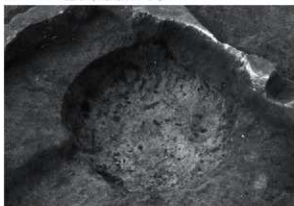
1. SK72 土層断面 (南から)



2. SK73 全景 (南南東から)



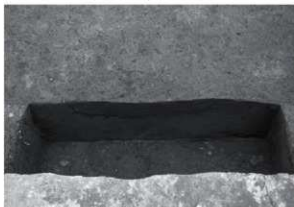
3. SK74 全景 (南南東から)



4. SK75 全景 (南西から)



5. SK76 全景 (南東から)



6. SK77 土層断面 (南南東から)

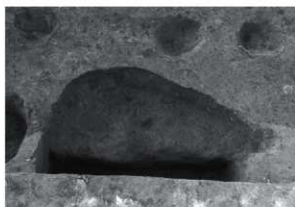


7. SK78 土層断面 (南南東から)



8. SK80 全景 (南南東から)

第 529 図 SK72・73・74・75・76・77・78・80 写真



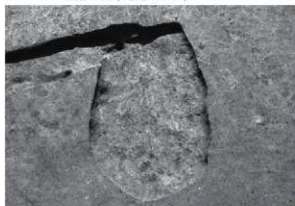
1. SK81 全景 (南南東から)



2. SK85 土層断面 (南南東から)



3. SK86 全景 (南南東から)



4. SK87 全景 (北北西から)



5. SK88 全景 (南西から)



6. SK89 全景 (東北東から)

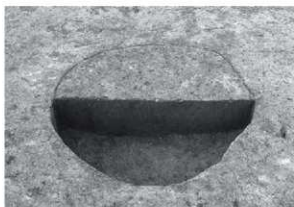


7. SK90 全景 (南から)



8. SK91 全景 (南から)

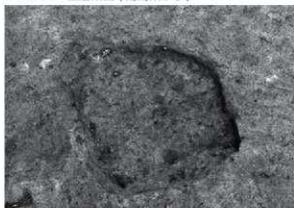
第 530 図 SK81・85・86・87・88・89・90・91 写真



1. SK92 土層断面 (南南東から)



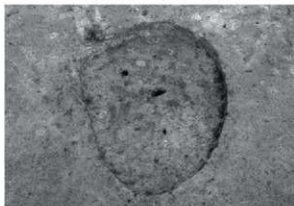
2. SK94 全景 (南から)



3. SK95 全景 (西南西から)



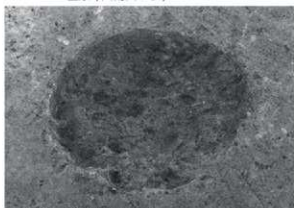
4. SK96 全景 (西から)



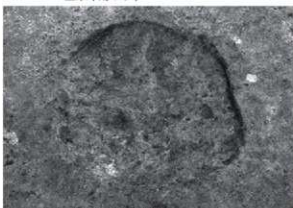
5. SK97 全景 (西南西から)



6. SK98 全景 (南から)



7. SK99 全景 (南西から)



8. SK100 全景 (西南西から)

第 531 図 SK92・94・95・96・97・98・99・100 写真



1. SK101 土層断面 (南から)



2. SK102 全景 (南東から)



3. SK103 土層断面 (南南東から)



4. SK104 土層断面 (西南西から)



5. SK105 土層断面 (南南西から)



6. SK105 全景 (南南東から)



7. SK106 全景 (南南西から)

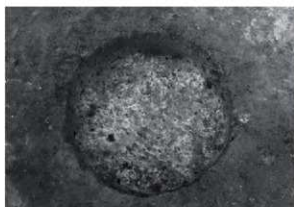


8. SK108 全景 (南南東から)

第 532 図 SK101・102・103・104・105・106・108 写真



1. SK109 土層断面 (南から)



2. SK109 全景 (南から)



3. SK110 全景 (北西から)



4. SK112 全景 (北西から)



5. SK114 全景 (北東から)



6. SK115 全景・遺物出土状況 (南から)



7. SK117 土層断面 (西南西から)

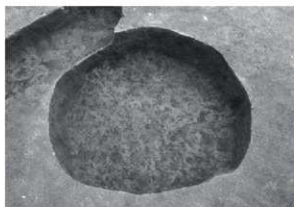


8. SK118 全景 (北北東から)

第 533 図 SK109・110・112・114・115・117・118 写真



1. SK119 土層断面(南から)



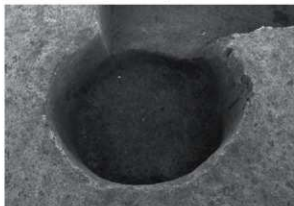
2. SK119 全景(北から)



3. SK120 全景(西南西から)



4. SK121 土層断面(南南東から)



5. SK122 全景(南南東から)



6. SK123 土層断面(西南西から)

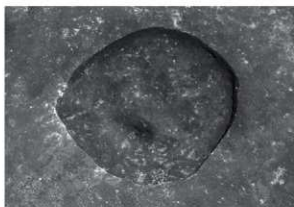


7. SK124 全景(西南西から)

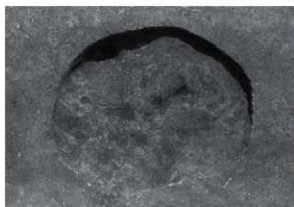


8. SK125 全景(西南西から)

第 534 図 SK119・120・121・122・123・124・125 写真



1. SK126 全景 (南から)



2. SK127 全景 (東北東から)



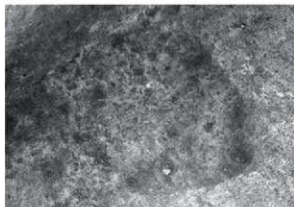
3. SK128 全景 (南南東から)



4. SK129 土層断面 (北北西から)



5. SK130 土層断面 (東北東から)



6. SK131 全景 (北から)



7. SK132 土層断面 (南南西から)



8. SK134 全景 (南西から)

第 535 図 SK126・127・128・129・130・131・132・134 写真



1. SK135 土層断面 (南西から)



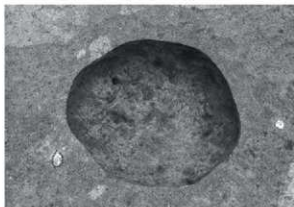
2. SK135 全景 (南西から)



3. SK136 土層断面 (南南東から)



4. SK137 全景 (北北東から)



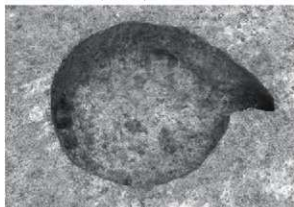
5. SK138 全景 (南南東から)



6. SK139 全景 (北から)



7. SK140 全景 (南南東から)



8. SK141 全景 (北から)

第 536 図 SK135・136・137・138・139・140・141 写真



1. SK142 土層断面 (東南東から)



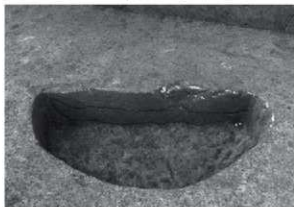
2. SK143 土層断面 (南東から)



3. SK144 土層断面 (南西から)



4. SK145 全景 (北北西から)



5. SK146 土層断面 (南東から)



6. SK147 土層断面 (南南東から)



7. SK148 土層断面 (南から)

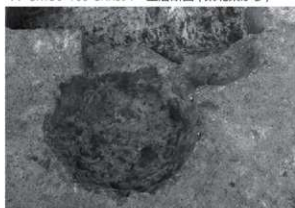


8. SK149 土層断面 (西北西から)

第 537 図 SK142・143・144・145・146・147・148・149 写真



1. SK150・160・SKK691 土層断面 (東北東から)



2. SK150・160(上) 全景 (南南東から)



3. SK151 土層断面 (南南東から)



4. SK152 全景 (北北西から)



5. SK156 土層断面 (西南西から)



6. SK157 土層断面 (南南東から)



7. SK158 土層断面 (西南西から)

第 538 図 SK150・160・SKK691・151・152・156・157・158 写真



1. SK155 炭化材検出状況 上層(南南東から)



2. SK155 炭化材検出状況 下層(南南東から)



3. SK155 全景(南南東から)



4. SK155 土層断面 A-A'(南南東から)



5. SK155 土層断面 B-B'(西南西から)

第 539 図 SK155 写真



1. SK159 土層断面(南南東から)



2. SK159 全景(南南東から)



3. SK162 全景(南南東から)



4. SK164 全景(南南東から)



5. SK166 土層断面(南から)



6. SK170 全景(西南西から)



7. SK171 全景(南から)



8. SK172 全景(西南西から)

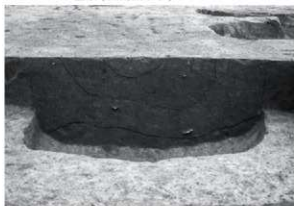
第 540 図 SK159・162・164・166・170・171・172 写真



1. SK174 全景 (西南西から)



2. SK179 全景 (東北東から)



3. SK181 土層断面 (西南西から)



4. SK181 全景 (南東から)



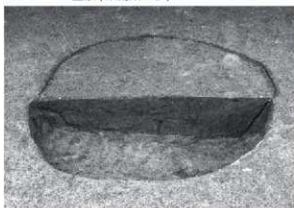
5. SK187 土層断面 (西北西から)



6. SK187 全景 (東南東から)



7. SK299 土層断面 (東北東から)



8. SK300 土層断面 (東北東から)

第 541 図 SK174・179・181・187・299・300 写真

第55表 古代～中世土坑一覧表(1)

遺構名	グリッド	採掘番号		形態	規模 (cm)				検出面	遺物	時代	備考(重複関係等)	
		図面	写真		平面	断面	長軸	短軸					深さ
SK53	30P-74	第503図	第526図	(方形)	C		102	(52)	27	■	弥生土層1 土師器2	古代～中世	
SK54	30P-64	第503図	第526図	隅丸長方形	C		186	120	31	■	弥生土層1 土師器25 須恵器4 礎5	古代～中世	SP439, SX20を切る。
SK55	30P-64	第503図	第526図	櫛形	C		162	118	19	■	弥生土層2 土師器8 礎1	古代～中世	SX20を切る, SKK105に切られる。
SK56	30P-55	第503図	第526図	隅丸長方形	C		157	91	36	■	土師器6 須恵器1 礎2	古代～中世	SKK142に切られる。
SK57	30P-45	第504図	第526図	円形	C		108	101	45	■	縄文土層1 土師器2 礎1	古代	SDK13, SKK120に切られる。
SK58	30P-45+46	第504図	第526図	櫛形	E		138	110	26	■	土師器3 礎3	古代	SP406, SPK76に切られる。
SK59	30P-46+56	第504図	第526図	円形	C		110	105	56	■	弥生土層1 土師器5 須恵器1 礎7	古代～中世	
SK60	30P-42+43+52	第504図	第527図	隅丸長方形	C		130	93	23	■	土師器1 土師器6 須恵器2 礎2	古代	
SK61	30P-57	第504図	第527図	円形	C		143	121	17	■		古代	SDK45に切られる。
SK62	30P-38+48	第505図	第527図	円形	C		(137)	121	21	■	弥生土層2 土師器1 礎1	古代	SI24を切る, 龍瓦に切られる。
SK63	30P-38	第505図	第527図	円形	C		124	(97)	13	■	土師器2	古代	SI24を切る, SKK164に切られる。
SK64	30P-26+27	第505図	第527図	円形	C		153	(100)	48	■	土師器6 石器2 礎7	古代～中世	東西へ傾斜にかかると推定される。 SKK295に切られる。 調査は直観から。
SK65	30P-49	第505図	第528図	(円形)	C		127	(60)	30	■	無し	古代	
SK66	30P-18	第506図	第528図	小判形	C		197	(111)	41	■	無し	古代	SDK68, 龍瓦に切られる。
SK67	31Q-93	第506図	第528図	隅丸長方形	C		209	55	67	■	無し	古代～中世	SKK82を切る, SKK142, 龍瓦に切られる。
SK68	30P-18+19	第506図	第528図	円形	C		126	(116)	27	■	無し	古代	SDK68+70に切られる。
SK69	30P-40+31P-31	全体図のみ	第528図	不整形櫛形	C		(65)	(56)	(10)	■	土師器1 礎1	古代～中世	龍瓦に切られる。
SK70	31P-11+21	第506図	第528図	円形	C		130	118	21	■	土師器2 須恵器1	古代	SDK78に切られる。
SK71	31Q-91+92+ 31P-1+2	第507図	第528図	円形	C		109	105	25	■	礎1	古代	
SK72	31P-2	第507図	第529図	円形	C		103	97	12	■	SI19甕土 土師器2	古代	SI19を切る, SKK138+139に切られる。
SK73	31P-2+3	第507図	第529図	円形	C		(107)	(106)	23	■	土師器1 須恵器2	古代	SKK130+131+132に切られる。
SK74	31P-23	第507図	第529図	円形	C		127	117	15	■	縄文土層1	古代	SKK104に切られる。
SK75	31P-13	第507図	第529図	円形	C		(106)	(93)	40	■	縄文土層1	古代	龍瓦に切られる。
SK76	31P-23	第508図	第529図	円形	C		(162)	(145)	26	■	縄文土層1 土師器3 石器1 礎1	古代～中世	SKK104, 龍瓦に切られる。
SK77	31P-15	第508図	第529図	(円形)	C		76	(22)	17	■	無し	古代	
SK78	31Q-92	第508図	第529図	(小判形)	C		(99)	71	23	■	■・ SI19甕土 土師器2 礎2	古代	SI19を切る, SKK147+148に切られる。
SK80	30P-65	第508図	第529図	(小判形)	C		(80)	80	34	■	土師器1 礎1	古代	
SK81	31P-24	第508図	第530図	(隅丸長方形)	C		104	(45)	29	■	縄文土層1	古代	
SK85	30P-34	第509図	第530図	(円形)	C		86	(43)	10	■	無し	古代	SKK250に切られる。
SK86	30P-33	第509図	第530図	櫛形	C		133	(71)	24	■	土師器2 礎1	古代	SKK247+250+299に切られる。
SK87	30P-32	第509図	第530図	不整形長方形	C		186	96	14	■	無し	古代	SKK248に切られる。
SK88	31Q-50+60	第509図	第530図	不整形円形	C		114	113	6	■	弥生土層1 土師器2 礎1	古代～中世	SKK362+363, SKK351に切られる。
SK89	31Q-59+60+69	第509図	第530図	不整形円形	C		(106)	104	27	■	土師器2 礎1	古代	SI2を切る。
SK90	30P-24	第510図	第530図	円形	C		94	93	16	■	無し	古代	SDK198, SKK255に切られる。
SK91	30P-23	第510図	第530図	櫛形	C		(103)	95	17	■	無し	古代	
SK92	31Q-78	第510図	第531図	円形	C		78	74	19	■	SI34甕土 土師器1	古代	SI34を切る。

第55表 古代～中世土坑一覧表(2)

遺構名	グリッド	探検番号		形状	規模 (cm)				検出面	遺物	時代	備考(重複関係等)	
		図面	写真		平面	断面	長軸	短軸					深さ
SK94	300-88	第510図	第531図	円形	C		94	89	12	■	須恵器 1 石葺 1 礎 1	古代	
SK95	300-98	第510図	第531図	隅丸長方形	C		87	69	8	■	無し	古代	
SK96	300-98・30P-8	第510図	第531図	楕円形	C		154	110	24	■	弥生土器 1 土師器 4 須恵器 1 礎 4	古代～中世	
SK97	30P-8	第511図	第531図	楕円形	C		141	104	7	■	土師器 3 須恵器 1	古代	
SK98	300-99	第511図	第531図	円形	C		68	64	11	■	無し	古代	
SK99	300-100	第511図	第531図	円形	A		87	84	13	■	無し	古代	
SK100	300-98-99	第511図	第531図	円形	C		120	102	12	■	土師器 1 須恵器 1	古代	
SK101	300-88-89	第511図	第532図	隅丸長方形	C		63	47	4	■	無し	古代	
SK102	310-87-97	第512図	第532図	不整楕円形	C		112	67	51	■	弥生土器 2 土師器 1	古代	SK443に切られる。
SK103	310-71・72	第511図	第532図	不整楕円形	C	(127)	(110)	(32)	■	土師器 8 礎 2	古代	SK454・455・456に切られる。	
SK104	310-82	第512図	第532図	隅丸方形	C	(130)	(124)	(44)	■	弥生土器 7 土師器 15 須恵器 2 埴成粘土 1 石葺 1 礎 21	古代～中世	SK467,SK465に切られる。	
SK105	310-28-38	第512図	第532図	長方形	C		194	123	42	■	弥生土器 4 土師器 11 須恵器 5 石葺 1 礎 4	古代	履瓦に切られる。
SK106	310-50	第512図	第532図	円形	C		51	46	11	■ 3	無し	古代	
SK108	30P-15・25	第513図	第532図	小円形	C		137	(95)	18	■	無し	古代	SK26を切る。
SK109	310-65	第513図	第533図	円形	C		123	118	40	■	土師器 2 須恵器 1 礎 3	古代～中世	
SK110	310-29-30	第513図	第533図	円形	C		111	104	27	■	礎 1	古代	
SK112	310-78	第513図	第533図	(円形)	C		51	(30)	12	■	無し	古代	SK34を切る,SK172に切られる。
SK114	320-41	第513図	第533図	不整楕円形	C		85	59	22	■ 3～■	無し	古代	
SK115	320-18	第514図	第533図	円形	C		104	98	11	■	須恵器 1 石葺 1	古代	
SK117	320-33・43	第514図	第533図	円形	C		151	143	(34)	■	縄文土器 1 弥生土器 2 土師器 9 須恵器 10 礎 3	古代～中世	SK400,履瓦に切られる。
SK118	320-43	第514図	第533図	円形	E		70	64	17	■	無し	古代～中世	
SK119	320-24	第514図	第534図	円形	C	(150)	150	33	■	土師器 1	古代～中世	SK495に切られる。	
SK120	320-34・44	第514図	第534図	楕円形	C	121	(94)	43	■	縄文土器 1	古代	SK403に切られる。	
SK121	320-22	第515図	第534図	円形	C	(134)	132	16	■	弥生土器 1	古代～中世	SK4526に切られる。	
SK122	320-3・13	第515図	第534図	円形	C		94	89	55	■ 40履土	須恵器 12 埴成粘土 1 礎 2	古代	SK40を切る。
SK123	320-5	第515図	第534図	(円形)	A	(94)	(85)	24	■	土師器 2 須恵器 2	古代～中世		
SK124	320-5・15	第515図	第534図	小円形	C		102	65	11	■	礎 1	古代～中世	
SK125	320-5・6	第515図	第534図	不整長方形	A		132	67	21	■	無し	古代～中世	
SK126	320-6	第516図	第535図	円形	C		86	77	13	■	無し	古代～中世	
SK127	32N-95・96・ 320-5・6	第516図	第535図	円形	E		113	100	13	■	無し	古代～中世	
SK128	32N-96	第516図	第535図	楕円形	A		101	72	11	■	無し	古代～中世	
SK129	320-7	第516図	第535図	小円形	C		99	73	13	■	無し	古代～中世	
SK130	33N-52	第516図	第535図	円形	C	(103)	(90)	17	■	礎 1	古代～中世	履瓦に切られる。	
SK131	33N-63	第516図	第535図	円形	C		104	98	9	■	無し	古代	SK45を切る。
SK132	33N-49・50	第517図	第535図	不整楕円形	C		84	64	21	■	無し	古代	
SK134	33N-49・59	第517図	第535図	隅丸長方形	C		226	(154)	37	■	縄文土器 3 土師器 1 礎 2	古代～中世	SK467,履瓦に切られる。

第55表 古代～中世土坑一覧表(3)

遺構名	グリッド	探検番号		形状	規模 (cm)				検出面	遺物	時代	備考(重複関係等)
		調査	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ				
SK135	33N-57・58	第517回	第536回	円形	C	127	(109)	31	■	縄文土器1 弥生土器2 土師器1	古代～中世	SKK665に切られる。
SK136	33N-50	第517回	第536回	円形	C	100	94	22	■	無し	古代～中世	SKK689に切られる。
SK137	33N-77	第518回	第536回	円形	C	106	104	41	■	縄文土器6 弥生土器9 土師器38 須恵器1 徳成粘土甕1 罐45	古代	
SK138	33N-59・60	第518回	第536回	円形	C	108	99	24	■	罐1	古代	
SK139	33N-69	第518回	第536回	楕円形	C	(110)	(87)	22	■	土師器1	古代～中世	SKK729, 履足に切られる。
SK140	33N-58・68	第518回	第536回	円形	C	96	92	18	■	無し	古代～中世	
SK141	33N-77	第518回	第536回	円形	C	89	86	24	■	須恵器1	古代	
SK142	33N-56	第519回	第537回	円形	A	77	73	29	■	無し	古代～中世	
SK143	33N-64・74	第519回	第537回	円形	C	110	105	40	■	弥生土器1 罐1	古代～中世	
SK144	33N-83	第519回	第537回	円形	C	92	92	26	■	弥生土器1	古代～中世	
SK145	33N-66・76	第519回	第537回	隅丸長方形	C	(183)	157	(37)	■	土師器1 須恵器2	古代～中世	SK47を切る。履足に切られる。
SK146	33N-56	第520回	第537回	円形	C	102	88	20	■	S150 甕土 弥生土器1	古代	SK50を切る。
SK147	320-7	第520回	第537回	円形	C	91	85	35	■	須恵器1	古代	SKS599・614・615に切られる。
SK148	320-6・7	第520回	第537回	楕円形	A	(82)	(59)	11	■	無し	古代～中世	SKR601・602, 履足に切られる。
SK149	330-2	第520回	第537回	小判形	C	163	107	(45)	■	縄文土器1 弥生土器1 土師器1	古代～中世	履足に切られる。
SK150	33N-72	第521回	第538回	円形	C	83	70	22	■	無し	古代	SK160を切る。
SK151	33N-63・73	第521回	第538回	(円形)	C	84	(47)	54	■2	無し	古代～中世	調査区東内へルトに力かる。 SKK710に切られる。 調査は重複から。
SK152	330-23	第521回	第538回	円形	C	100	96	49	■	土師器2 石製品1 罐1	古代	
SK154	32N-70・80	全体図のみ	—	円形か	C	(84)	(21)	(6)	■	無し	古代	
SK155	32N-98	第522回	第539回	不整形楕円形	E	107	70	32	■	土師器2 須恵器1 罐1 炭化物126	古代	SKR539・768に切られる。 炭化物の分析を実施。
SK156	32N-98	全体図のみ	第538回	長方形	C	(75)	62	13	■	縄文土器1	古代	履足に切られる。
SK157	32N-88	全体図のみ	第538回	不整形長方形	D	75	54	16	■	無し	中世～近世	SK156に近接, SKR536に切られる。
SK158	33N-69	第521回	第538回	円形	C	113	103	30	■	土師器1 罐1	古代～中世	
SK159	33N-47・48	第523回	第540回	円形	C	105	101	33	■	縄文土器2 須恵器1 罐1	古代	
SK160	33N-72	第521回	第538回	(小判形)	C	102	(36)	15	■	罐1	古代	SK150, SKK691・709に切られる。
SK162	33N-46・56	第523回	第540回	不整形長方形	C	(138)	112	33	■	弥生土器1 炭化物1	古代	SKR646に切られる。
SK164	33N-63	第523回	第540回	(円形)	C	(71)	(25)	(7)	■	無し	古代～中世	SKK638に切られる。
SK166	32N-95	第523回	第540回	円形	C	102	95	16	■	縄文土器1 弥生土器4 土師器12 須恵器9 罐6	古代	
SK170	34N-13・23・24	全体図のみ	第540回	不整形長方形	C	291	(113)	(14)	■	縄文土器1 土師器1	古代～中世	SP563, SKR796・798・799・803・804, 履足に切られる。
SK171	34N-27・37	第523回	第540回	円形	C	93	84	16	■	縄文土器1 弥生土器2 土師器1 須恵器1	古代	SKR904に切られる。
SK172	34N-28	第524回	第540回	隅丸長方形	C	168	118	18	■	縄文土器1 弥生土器1 土師器5 須恵器2 罐1	古代～中世	SKR904, 履足に切られる。

第55表 古代～中世土坑一覧表(4)

遺構名	グリッド	探図番号		形態	規模 (cm)				検出面	遺物	時代	備考(重複関係等)
		図面	写真		平面	断面	長軸	短軸				
SK173	34M-96・97	第565図	第566図	長方形	C	(205)	(63)	46	■	弥生土層1 土師器3 金環1	中世	堀込に切られる。
SK174	34M-97	第524図	第541図	長方形	C	(122)	(73)	22	■	無し	古代～中世	SKK782・800、堀込に切られる。
SK179	34N-28	第524図	第541図	(楕円形)	A	896	(32)	25	■	礎1	古代～中世	堀込に切られる。
SK181	34N-3・13	第524図	第541図	不整形長方形	C	(198)	(127)	(49)	■	縄文土層1 弥生土層54 須恵器3 礎3	古代	SI52を切る。SK8940、SK8822、堀込に切られる。
SK187	34M-86・96	第525図	第541図	不整形楕円形	E	99	65	81	■	縄文土層1 弥生土層3 土師器1	古代～中世	
SK299	30P-41	第524図	第541図	円形	C	98	94	24	■	土師器2 礎5	古代～中世	
SK300	30P-31・41	第525図	第541図	円形	C	77	73	14	■	土師器2 須恵器1 礎4	古代～中世	SI75を切る。

※形態・規模の()内は、調査範囲・遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄の弥生土層としたものは古墳時代前期の土師器も含む。

SK166 円形土坑。覆土は単層で、締まりが極めて強い。土師器12点、須恵器9点等、遺物が多数出土した。

SK170 浅く、やや大型の土坑。SP563や複数の近世以降の遺構に切られる。縄文土器片(第1分冊第52・58図20)が出土している。

SK171 やや小型の円形土坑。底面は比較的平坦で中央がわずかに窪み、壁は内湾気味に立ち上がっている。

SK172 隅丸長方形を呈するやや大型の土坑。壁は内湾しながら立ち上がっている。覆土はⅡ層土がベースで、下部にⅢ層土がみられる。遺物は、土師器5点、須恵器2点等が出土した。

SK174 SKK782に一部を切られているが、長方形を呈するものとみられる。壁は垂直に立ち上がる。覆土には砂質粘土粒子が微量含まれる。

SK179 北側を掘込に切られ全容は不明だが、楕円形の形状が想定される。検出面からの深さは25cmを測る。覆土には焼土粒子が微量に含まれる。

SK181 不整形な長方形を呈する。SI52を切っており、プランの検出が困難であった。壁は垂直に立ち上がっている。遺物は61点が出土しているが、うち54点が弥生土器・古墳時代前期の土師器で、SI52に伴っていたものと考えられる。

SK187 当初はビット(SP614)として調査したが、精査後に土坑に変更した。やや不整形な楕円形を呈し、底面の北寄りには一段深いビット状の掘り込みを有している。検出面からの深さは81cmを測る。約140cm南側に隣接して、比較的類似した形状のビットSP627が位置しており、当土坑は、SP627と同一の目的で構築されたものの可能性が考えられる。

SK299 円形土坑。やや凹凸が目立つ底面から、壁は内湾しながら立ち上がり、検出面からの深さは24cmを測る。覆土にはブロック状のⅢ層土を少量含んでいる。

SK300 円形土坑。底面は比較的平坦で、壁は開き気味に立ち上がっている。古代のSI75の検出時に覆土上で検出された。覆土はⅡ層土とSI75の覆土が混合したものと思われる。遺物は土師器2点、須恵器1点等で、これらはSI75に伴っていた可能性が考えられる。

E 集石 (第542～545図、第56・59表)

古代の集石（遺構略号はSS）は、調査区中央部北寄りで2基が検出された。2基間の距離は740cmと比較的近接している。覆土の様相と出土遺物から、古代～中世に帰属すると思われる。

SS8 (第542～545図、第56表)

320・11・12グリッドに位置する。切り合い関係はないが、掘立柱建物跡Cの範囲内に位置している。

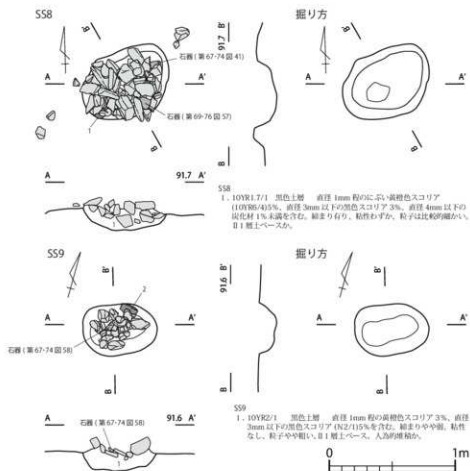
平面形態は不整形円形で、長軸75cm、短軸60cm、検出面からの深さは20cmを測る。側面は内湾しながら立ち上がり、底面は比較的平坦で、緩やかなカーブを描いている。

覆土はⅡ1層土ベースとみられる黒色スコリアを少量含有する土壌で、炭化材の小片が微量に含まれている。

掘り方内部には68点の礫が充填されており、65点が砂岩で残りの3点は礫岩である。その他、土器8点（土師器1、須恵器4、弥生土器・古墳時代前期の土師器1、縄文土器1、不明1）、石器5点が出土した。石器のうち2点（敲石、磨石）は縄文時代に帰属するものである（第1分冊第67・74図41、第69・76図57）。

第544・545図1は須恵器甕の頸部から胴部上半が遺存する。口頸部と胴部の境はくびれ、胴部は膨らむ。器壁は厚く、重厚なつくりである。推定生産地は東金子窯である。

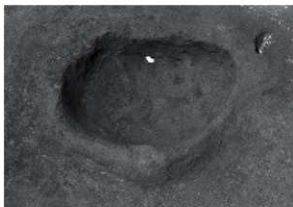
また、土壌の水洗選別を実施した結果、ブドウ属とヒエ属、イネ、アワ、コムギの炭化種子が検出



第542図 SS8・9(1/30)



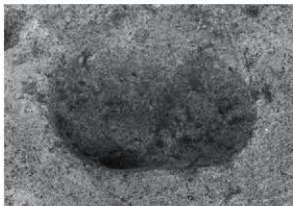
1. SS8 検出状況 (南南東から)



2. SS8 全景 (南南東から)



3. SS9 検出状況 (北西から)



4. SS9 全景 (南南東から)

第 543 図 SS8・9 写真

された(第V章第4節参照)。

須恵器甕は9世紀代の所産と思われることから、遺構の帰属時期も同時期と想定される。

SS9(第542～545図、第59表)

320-3グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、長軸59cm、短軸41cm、検出面からの深さ18cmを測る。側面は開き気味に立ち上がり、底面は凹凸を有する。

単層の覆土はSS8と同様にⅡ層土を基調とし、人為的に堆積したものと思われる。炭化材の含有は確認されていない。

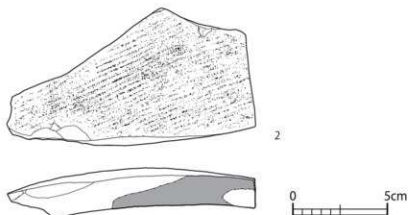
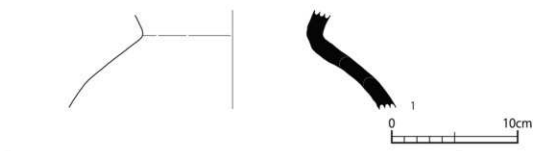
掘り方内部からは31点の遺物が出土した。そのうちの26点が礫で、全て砂岩である。その他は土器4点(土師器2、須恵器1、弥生土器・古墳時代前期の土師器1)、石器1点で、石器は縄文時代の敲石である(第1分冊第67・74図44)。

第544・545図2は摩滅面を有する須恵器甕の胴部片で、須恵器研磨片として掲載した。幅12.8cm、厚さ1.1cmで、須恵器甕の長辺の一側面に比較的明瞭な摩滅痕が観察された。因みに、須恵器甕は東金子窯産である。小片のため、詳細な時期はわからない。

F 焼土跡(第546・547図)

焼土跡は調査区南西端で近接して検出された。遺構略号はSXである。

調査時にはSX18～21の4基であったが、SX21については、形状からピットと判断し、報告はピットの項に掲載した。検出面はいずれもⅢ層上である。



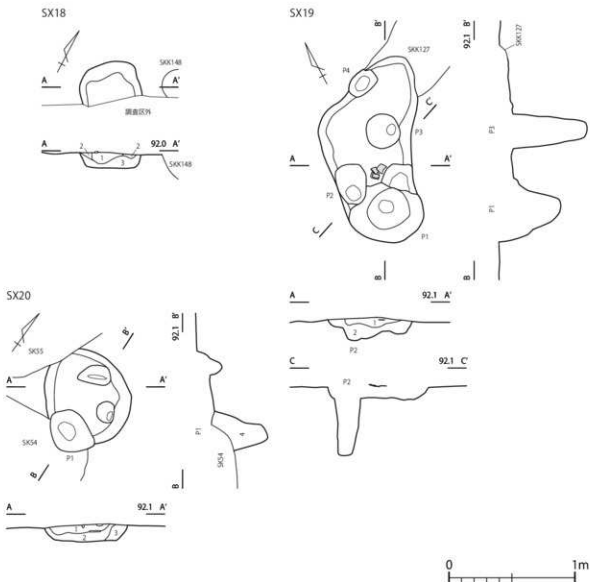
第544図 SS8・9出土遺物 (1/3・1/2)



第545図 SS8・9出土遺物写真

第 56 表 SS8 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第 544 ・ 545 図	1	甕土	— — —	胴部はれみを有し、口頸部は外上方に広がる。	外面は横方向の刻筋によるナデ調整、内面はナデ調整されている。	小礫 長石 白色粒	良好	N4/O 灰		外面と口頸部内面に降灰 東金子遺産



SX18

1. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 30mm 以下の黒色スコリア 3%, 焼土粒子 20%, 直径 100mm 以下の焼土ブロック 15% を含む。締まり強、粘性なし、粒子粗い。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 30mm 以下の黒色スコリア 3%, 焼土粒子 10% を含む。締まり強、粘性なし、粒子粗い。
3. 10YR2.5/1 黒褐色土層 黒土層をベースとし、直径 30mm 以下の黒色スコリア 2%, 焼土粒子 2% を含む。締まり有り、粘性弱、粒子やや粗い。

SX19

1. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 30mm 以下の黒色スコリア 5%, 焼土粒子 10%, 直径 150mm 以下の焼土ブロック 10%, 灰褐色砂質粘土粒子 (2.5Y6/2/7%, 直径 100mm 以下の砂質粘土ブロック 3%, 直径 200mm 以下の黒色スコリア 3%, 炭化物粒子 2%, 長さ 5mm 以下の炭化材 2% を含む。締まり強、粘性わずか、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 黒土層をベースとし、直径 30mm 以下の黒色スコリア 2%, 焼土粒子 2% を含む。締まり有り、粘性弱、粒子やや粗い。

SX20

1. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径 30mm 以下の黒色スコリア 2%, 焼土粒子 20%, 直径 150mm 以下の焼土ブロック 10%, 炭化物粒子 1% を含む。他に、直径 150mm 以下の灰褐色砂質粘土ブロック (2.5Y6/2/5% が一か所にやや集中。扁平な円盤を下部に含む。締まり有り、粘性なし、粒子やや粗い。焼成粘土塊出土。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 黒土層をベースとし、焼土粒子 5% を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子やや粗い。
3. 7.5YR1/7 黒褐色土層 黒土層をベースとし、直径 30mm 以下の焼土ブロック 1% を含む。締まりやや強、粘性弱、粒子やや粗い。
4. 7.5YR2/1 黒褐色土層 黒土層をベースとし、直径 100mm 以下の焼土ブロック 1% を含む。焼土粒子の含有率は、部分によって 1~7% と差が認められる。締まりに欠け、粘性弱、粒子粗い。

第 546 図 SX18・19・20(1/30)



1. SX18 土層断面 (北北西から)



2. SX18 全景 (南南東から)



3. SX18・19 検出状況 (東北東から)



4. SX19 土層断面 (南南西から)



5. SX19 遺物出土状況 (西北西から)



6. SX19 全景 (西北西から)



7. SX20 土層断面 (南東から)



8. SX20 全景 (南から)

第 547 図 SX18・19・20 写真

覆土の様相と切り合い関係、出土遺物から、遺構の帰属時期は古代とした。

SX18 隅丸方形もしくは隅丸長方形の掘り方を有する。南側は調査区外へと続いていて全容は不明だが、検出範囲内では東西 48cm、南北 32cm 以上を測る。底面は平坦で、側面は聞き気味に立ち上がる。

覆土は 3 層に分けられ、そのうち上部中央の 1 層に焼土粒子 20% と焼土ブロック 15%、1 層を囲むように検出された 2 層に 10% の焼土粒子を含んでいる。

遺物は古代の土師器甕の小片 2 点が出土した。

SX19 不整形な楕円形を呈し、SKK127 に切られている。大小 4 基のビット (P 1～4) を伴う。底面は凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がっている。全体の規模は南北 146cm、東西 82cm を測る。

覆土は 2 層に分けられ、上層の 1 層に焼土粒子と同ブロックをそれぞれ 10% ずつ含んでいる

遺物は土師器 16 点、須恵器 1 点、焼成粘土塊 1 点、礫 1 点の計 19 点が出土している。検出面に近い覆土の 1 層からは、土師器片が纏まって検出されている。

SX20 楕円形を呈し、古代～中世の土坑 SK54・55 に切られている。ビットを 1 基伴うほか、底面には凹凸を有している。規模は南北 85cm、東西 69cm を測る。

4 層に分けられる覆土はいずれも焼土を伴っている。そのうち 1 層は、焼土粒子 20% と焼土ブロック 15% を含有しているほか、砂質粘土ブロックや炭化物粒子を含んでいる。

遺物は 4 点のみで、焼成粘土塊が 3 点と礫が 1 点である。

2) 遺構外出土遺物

A 土師器・須恵器 (第 548・549・551・552 図、第 57 表)

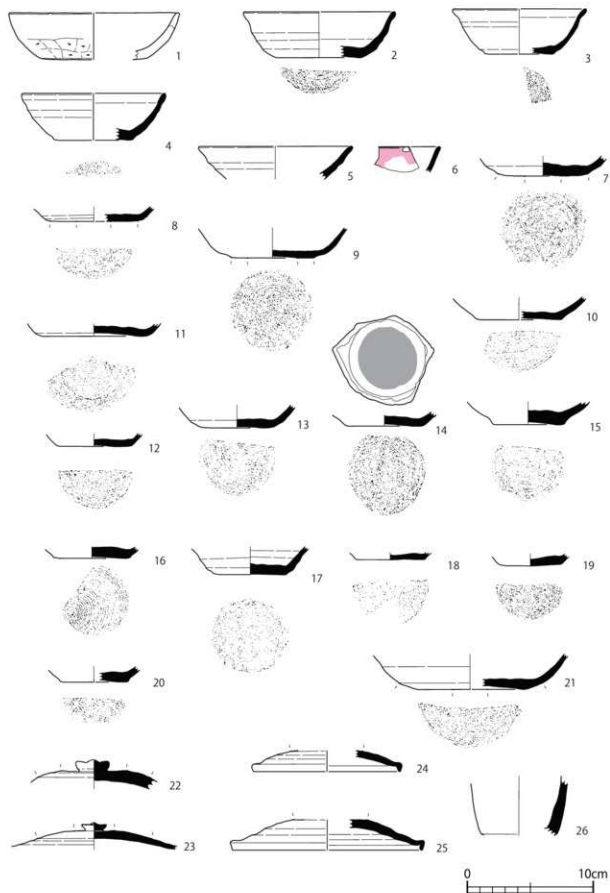
第 548・551 図 1 は土師器環である。平底形態で、体部にヘラケズリ調整が施されており、胎土・焼成の特徴からも相模型環と思われる。

2～4 は全体の器形がわかるまで復元実測ができた須恵器環である。底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。5・6 は須恵器環の口縁部片で、5 の推定口径は 11.9cm、6 の外面には朱の痕跡が観察されている。7～9 は底部が遺存する須恵器環で、底部は回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラケズリ調整が施されている。10～20 も底部が遺存する須恵器環である。底径は 10・12・14～18 が 6cm 台、13・19・20 は 5cm 台を測る。14 は底部内面に摩滅痕が観察され、転用皿として利用された可能性がある。21 は大振りの器形の須恵器碗と思われる。体部下端が底部に回転ヘラケズリ調整されるが、中央には回転糸切り痕が残っている。

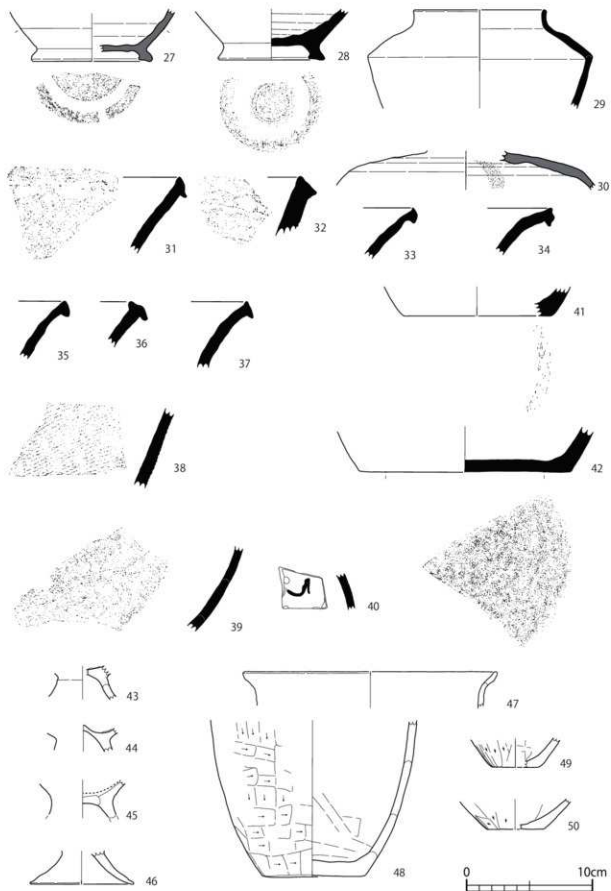
22～25 は須恵器蓋である。23・24 の天井部には扁平な擬宝珠形のつまみが付き、24・25 の口縁端は短く屈曲する形態で、大型の 25 の口径は 15.1cm を測る。

26 は須恵器コップ形の体部片と思われる。下端は沈線状の窪みが巡っている。

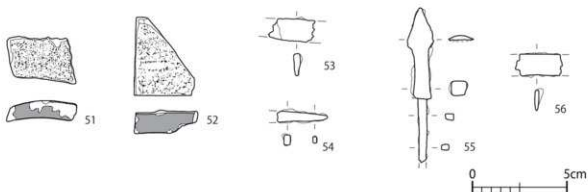
第 549・551 図 27 は緻密な胎土で、精巧なつくりの灰釉陶器長頸瓶の脚部片である。胴部下端から底部に回転ヘラケズリ調整を施し、高台を取り付け、ナデ調整を加えている。28 も 27 と焼成の質感や調整技法は似ているが、器壁が厚くなっている。東金子窯産の須恵器長頸瓶となろう。29 は須恵器短頸壺で、胴部の肩が張り、口縁部は直立気味に立ち上がる。南多摩窯産須恵器の可能性がある。30 は灰釉陶器長頸瓶の肩部片と思われる。外面に淡緑色の釉が掛かり、内面には深緑色の釉の垂下がみられる。



第548図 遺構外出土遺物(1)(1/3)



第549図 遺構外出土遺物(2)(1/3)



第550図 遺構外出土遺物(3)(1/2)

31・32は須恵器甕の口縁部片である。ともに端部が上下に肥厚し、口縁帯を形成している。31は外面に平行叩きの痕跡が残る、32の外面には列点文が配されている。33～37も須恵器甕の口縁部片である。いずれの口縁端部も上下に肥厚し、縁带状となっている。内外面とも回転ナデ調整が施され、34・36は縁帯の中央が少し盛り上がっている。第549・552図38～40は須恵器甕の胴部片である。いずれも外面に平行叩きの痕跡が残る、内面はナデ調整されている。40の外面には墨書の痕跡が残っている。41・42は底部が遺存する須恵器甕で、ともに平底である。41は胴部下端から底部外周にかけてヘラケズリ調整が施され、42も胴部下端から底部外周にヘラケズリ調整が加わるが、中央の調整は判然とせず、特に調整が施されていないようにも見える。

産地同定の検討によれば、これらの須恵器は、2・5・7・10・20・22・24・26・28・31・33・34・36・38・40・41は東金子窯産、8・9・21・23・35・39・42が南比企窯産、6・29南多摩窯産、32は湖西窯産である。なお、27の灰釉陶器長頸瓶は東海地方の猿投窯の製品と推定される。

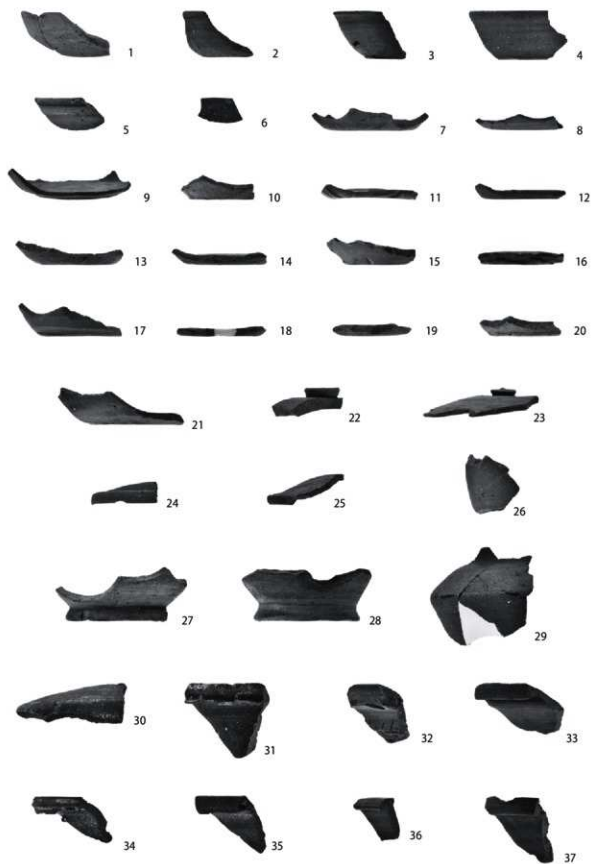
43～46は土師器台付甕の脚部片である。いずれも武蔵型甕の範疇に入るだろう。47は土師器甕の口縁部片、48～50は底部が遺存するものである。47・49・50は武蔵型甕と思われる、48は器壁が厚手で、胴部・底部の外面はヘラケズリ調整されている。

B 研磨片（第550・552図、第59表）

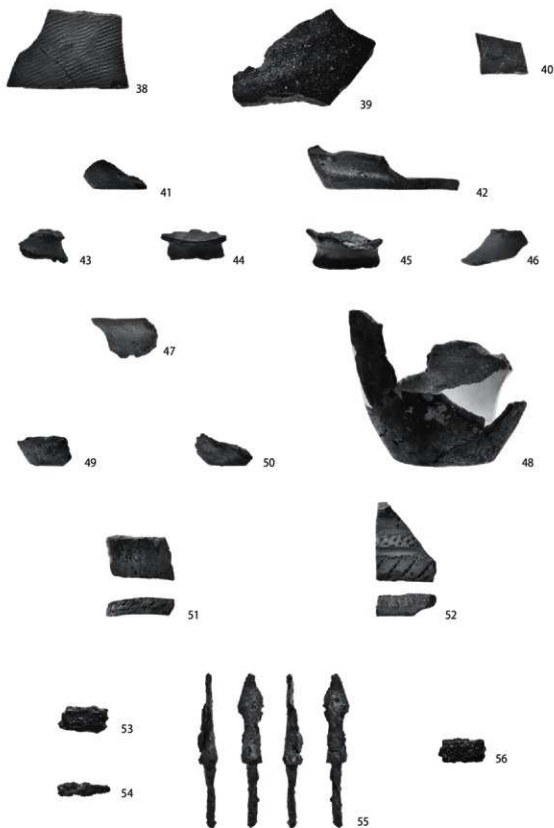
第550・552図51は土師器研磨片で、土師器甕の胴部片を利用して、断面の一侧面に摩擦痕が観察される。52は須恵器研磨片である。湖西窯産と思われる甕の口頸部を用いて、下端の一侧面が研磨されている。

C 金属製品（第550・552図、第61表）

第550・552図53・54は刀子で、53は刃部、54は茎部が遺存している。55はほぼ完存する鉄鏃で、関窪被を有する三角形鏃である。頸部の断面は方形、茎部の断面は長方形を呈している。56は穂摘具の刃部片と推定され、幅は11mmを測る。（相原）



第551図 遺構外出土遺物写真(1)



第552図 遺構外出土遺物写真(2)

第57表 遺構外出土土器観察表(1)

図 番号	層位	器種	法量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第54号 551号	1 包含層 (310-57~60) II層	土師器 杯	(13.3) 3.7 (8.5)	底部は平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はみられない。	口縁部はココナデ。体部外面はヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。	小礫 石英 白色粒	やや軟質	5YR7/4 にぶい橙	口縁部片	粗輪型杯
	2 包含層 (310-53) II層	土師器 杯	(11.5) 3.7 (6.9)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は小さく外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。底部の器壁は厚い。	石英 黒色粒 白色粒	やや軟質	10Y6/1 灰	—	東金子産
	3 包含層 (310-53) II層	土師器 杯	(11.1) 3.8 (5.9)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	長石 白色粒	良好	10BG5/1 青灰	—	東金子産
	4 包含層 (320-26) 一括	土師器 杯	(11.7) 3.9 (6.6)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部の外反はあまりみられない。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。	長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰	—	東金子産
	5 包含層 (310-46) II層	土師器 杯	(11.5) — —	口縁部の外反はほとんどみられない。	回転力利用の成形。クロコロ目顯著。	チャート 白色粒	軟質	5YR6/6 青灰	口縁部片	東金子産
	6 包含層 (310-57) II層	土師器 杯	— — —	口縁部の外反はみられない。	回転力利用の成形。	小礫 白色粒	良好	5Y4/1 灰	口縁部片	外面に朱の痕跡 尚多摩産
	7 包含層 (320-11) 一括	土師器 杯	— 7.1	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されるが、中央に糸切り痕が残る。器壁は厚い。	長石 石英 白色粒 黒色粒	やや軟質	7.5Y6/1 灰	—	底部は ほぼ完存
	8 包含層 (320-4) II層	土師器 杯	— (7.4)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転糸切り痕が残る。	海綿動物骨針 チャート	良好	10Y6/1 灰	底部片	南北企業産
	9 包含層 (34N-36) II層	土師器 杯	— 6.6	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、外周に回転ヘラケズリ調整が施される。	海綿動物骨針 白色粒	良好	5BG5/1 青灰	底部完存	南北企業産
	10 包含層 (310-79) II層	土師器 杯	— (6.8)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	長石 小礫 白色粒 黒色粒	やや軟質	5Y5/1 灰	底部片	東金子産
	11 包含層 (310-49) II層	土師器 杯	— (8.1)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	石英 白色粒	やや軟質	5Y6/1 灰	底部片	内外面に火煙痕 東金子産
	12 包含層 (310-73) II層	土師器 杯	— 6.4	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 白色粒	良好	N5/0 灰	底部片	東金子産
	13 包含層 (310-45) II層	土師器 杯	— 5.9	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。	長石 チャート 白色粒	良好	10BG4/1 暗青灰	底部片	東金子産
	14 包含層 (320-31) II層	土師器 杯	— 6.1	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。クロコロ右回転。	長石 チャート 白色粒	良好	10Y5/1 灰	底部完存	内面磨滅。転 用後の可能性 東金子産
第54号 551号	15 包含層 (310-55) II層	土師器 杯	— 6.0	底部は平底。体部下端は内湾して立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。	小礫 砂粒	やや軟質	7.5Y7/1 灰白	底部片	東金子産
	16 包含層 (310-57) II層	土師器 杯	— 6.1	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。	小礫 白色粒	良好	5Y5/1 灰	底部片	東金子産
	17 包含層 (320-22) II層	土師器 杯	— 6.6	底部は平底。体部下端にクロコロ目顯著。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。器壁は厚い。クロコロ右回転。	長石 白色粒	良好	5BG5/1 青灰	底部完存	東金子産
	18 包含層 (310-28) II層	土師器 杯	— 6.1	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。クロコロ右回転。	長石 白色粒	良好	5PB4/1 暗青灰	底部片	東金子産
	19 包含層 (310-37) II層	土師器 杯	— 5.3	底部は平底。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	チャート 白色粒	やや軟質	7.5Y5/1 灰	底部片	東金子産
	20 包含層 (310-58) II層	土師器 杯	— (5.7)	底部は平底。体部下端は内湾気味に立ち上がる。	底部は回転糸切りで切り離され、調整は施されていない。	小礫 砂粒	軟質	5Y7/2 灰	底部片	東金子産
	21 包含層 (310-37) II層	土師器 碗	— (8.5)	底部は平底。体部下端は内湾して立ち上がる。	体部下から底部にかけて回転ヘラケズリ調整が施されるが、中央に回転糸切り痕が残る。	海綿動物骨針 長石 白色粒 黒色粒	良好	N6/0 灰	底部片	南北企業産
	22 包含層 (310-50) II層	土師器 蓋	— —	扁平な梨型。表面のつまみが付く。	天月部は回転ヘラケズリ調整し、つまみを取り付けている。	長石 黒色粒	良好	N6/0 灰	つまみは ほぼ完存	東金子産

第57表 遺構外出土器観察表(2)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
第549 ~551 周	23	包含層 (320-2) II層	須恵器 蓋	—	扁平で小型の碗底形状の つまみが付く。	天井部は回転ヘラケズリ調整し、 つまみを取り付けている。	海神動物付針 石炭 チャート 白色粒 黒色粒	良好	N6/O 灰	つまみは ほぼ完好	内面に重ね焼き の面跡 南北企業産
	24	包含層 (310-65) II層	須恵器 蓋	(11.6)	口縁部は短く屈曲する。	天井部は回転ヘラケズリ調整が施 されている。	長石 チャート 白色粒	やや軟質	5Y5/1 灰		東金子産
	25	包含層 (310-47) II層	須恵器 蓋	(15.1)	口縁部は短く屈曲する。	天井部は回転ヘラケズリ調整が施 されている。	長石 チャート 白色粒	良好	10Y5/1 灰		東金子産
	26	包含層 (320-12) II層	須恵器 コップ 形	—	体部は直線的に立ち上 がる。下端は沈線状に窪む ものと思われる。	回転力利用の成形。	長石 白色粒	良好	7.5Y5/1 灰		東金子産
	27	包含層 (310-74) II層	灰釉 陶器 長頸瓶	(9.4)	高台はハ字状に外側に広 がる。接地面は高台の外 側になる。	精巧なつくり。胴部下端から底部 にかけて回転ヘラケズリ調整し、 高台を取り付け、ナデ調整を施し ている。内面はロクロ目顯著。	黒衝 黒色粒	良好	5Y5/2 灰オリーブ		底部内面に淡緑 色の釉 量投産
第549 ~551 周	28	包含層 (310-37) II層	須恵器 長頸瓶	8.3	足高の高台が付く。高台 の接地面は外側になる。	高台は器壁が厚く、重厚なつくり。 高台の胴部下端から底部に回転ヘ ラケズリ調整し、高台を取り付け、 ナデ調整を施している。内面のロ クロ目が顯著。	白色粒 黒色粒	良好	5Y5/2 灰オリーブ		底部内面に自然 釉 東金子産
	29	包含層 (34N-41) 一括	須恵器 短頸直 形	(10.2)	胴部は肩が張る。口縁部 は短く垂直気味に立ち上 がる。	回転力利用の成形。	小礫 チャート 白色粒 黒色粒	やや軟質	N6/O 灰		南多摩産
	30	包含層 (310-78) II層	灰釉 陶器 長頸瓶	—	胴部はやや丸みを待つ。	回転力利用の成形。ロクロ目が目 立つ。	小礫 白色粒 黒色粒	良好	外面 10Y6/2 オリーブ灰 内面 5Y5/1 灰		内面に釉の垂れ
	31	包含層 (310-39) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚 し、縁帯をなす。	外面は平行叩きの機、横方向の回 転ナデ調整。内面もナデ調整を施 している。	長石 チャート 白色粒	良好	N4/O 灰		口縁部片 東金子産
	32	包含層 (33N-30) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚 し、縁帯をなす。	外面には列点文が描かれ、そのす み下に沈線が通っている。	砂粒 黒色粒	良好	7.5Y6/1 灰		口縁部片 湖西産
	33	包含層 (310-56) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚 し、縁帯をなす。	内外面とも横方向の回転ナデ調整 が施される。	長石 白色粒	良好	外面 7.5Y8/2 灰黒 内面 5B4/1 暗青灰		口縁部片 東金子産
	34	包含層 (320-13) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚し 縁帯をなし、中央は隆起 する。	内外面とも横方向の回転ナデ調整 が施される。	長石 白色粒	良好	N3/O 暗灰		口縁部片 内外面に降灰 東金子産
	35	包含層 (310-36) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は下方に肥厚し 縁帯をなす。	内外面とも横方向の回転ナデ調整 が施される。	海神動物付針 小礫	やや軟質	外面 10Y86/1 暗灰 内面 N3/O 暗灰		口縁部片 内外面に降灰 南北企業産
	36	包含層 (310-64) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚 し、縁帯をなす。	内外面とも横方向の回転ナデ調整 が施される。	長石 黒色粒	良好	N6/O 灰		口縁部片 東金子産
	37	包含層 (310-46) II層	須恵器 蓋	—	口縁部は上下に肥厚 し、縁帯をなす。	内外面とも横方向の回転ナデ調整 が施される。	長石 チャート 白色粒	良好	N3/O 暗灰		口縁部片 東金子産
第549 ~552 周	38	包含層 (310- 37・47) II層	須恵器 蓋	—	胴部外面は平行叩き、内面はナデ 調整される。	小礫 黒色粒	良好	7.5Y6/1 灰		胴部片 東金子産	
	39	包含層 (310-47) II層	須恵器 蓋	—	胴部外面は平行叩きの面跡が残る。 内面はナデ調整される。	海神動物付針 小礫 白色粒 黒色粒	良好	外面 10Y84/1 暗灰 内面 5Y5/1 灰		胴部片 内外面に降灰 南北企業産	
	40	包含層 (30P-46) II層	須恵器 蓋	—	胴部外面は平行叩き、内面はナデ 調整される。	砂粒	軟質	2.5Y6/2 灰黄		胴部片 外面に判読不明 の墨書 東金子産	
	41	包含層 (310-86) II層	須恵器 蓋	(11.7)	底部は平底。	底部はヘラケズリ調整され、胴部 下端もヘラケズリ調整と思われる。	長石 チャート 白色粒	良好	外面 7.5Y5/1 灰 内面 5Y5/1 灰		底部片 東金子産

第57表 遺構外出土土器観察表(3)

図番号	層位	器種	法量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存率	備考
42	包含層 (320-23) Ⅱ層	須恵器 費	— (16.8)	底部は平底。胴部下端は直線状に立ち上がる。底径は大きい。	胴部下端から底部外周にヘラケズリ調整が施される。底部中央の調整は平坦としない。内面はナデ調整される。	長石 チャート 白色粒	良好	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 5Y5/1 灰	底部片	内面に障灰 南比奈産
43	包含層 (310-37) Ⅱ層	土師器 台付費	—	胴部は下方に広がる。	胴部の内面はナデ調整。胴部の外面は縦方向にナデ調整。内面もナデ調整される。	角閃石 チャート 白色粒	良好	2.5YR4/6 赤褐色	胴部片	武蔵型費
44	包含層 (320-33) Ⅱ層	土師器 台付費	—	胴部の内面中央が上方に	胴部の内面はヘラ状工具によるナデ調整。胴部の外面はナデ調整される。	角閃石 砂粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	胴部片	武蔵型費
45	包含層 (320-18) Ⅲ層	土師器 台付費	—	胴部下端は上方に広がる。	胴部の外面は縦方向にナデ調整。内面も縦方向にナデ調整される。胴部内面の粘土結核が立つ。	石英 雲母 白色粒 褐色粒	良好	2.5YR3/6 暗赤褐色	胴部片	胴部割の内面の 部が割落 武蔵型費
46	包含層 (310-66) Ⅱ層	土師器 台付費	— (8.1)	胴部下は腰広がり大きく開く。	内外面ともに縦方向ナデ調整される。	石英 白色粒 褐色粒	良好	5YR5/2 灰褐色	胴部片	武蔵型費
47	包含層 (310-46) Ⅱ層	土師器 費	— (22.1)	口縁部はゆるく外反し、端部は内傾気味になる。	口縁部はヨコナデ調整される。	角閃石 雲母 白色粒 褐色粒	良好	外面 2.5YR5/6 明赤褐色 内面 5YR6/4 にぶい褐色	口縁部片	武蔵型費
48	包含層 (309-74) Ⅲ層	土師器 費	— 7.8	底部は平底。胴部形。底径は大きい。	胴部下は縦方向等のヘラケズリ調整。下端は縦方向等のヘラケズリ調整が加わる。底部外面もヘラケズリ調整。内面はナデ調整される。部厚は厚手。	小礫 石英 雲母 褐色粒	良好	外面 5YR4/1 明灰 内面 2.5YR5/1 赤灰	底部は ほぼ完存	内外面にスス付 着
49	包含層 (320-11) Ⅱ層	土師器 費	— (3.8)	底部は平底。底径は小さい。	胴部外面は縦方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はヘラ状工具によるナデ調整が施される。	石英 チャート	良好	5YR5/3 にぶい赤褐色	底部片	武蔵型費
50	包含層 (300-89) Ⅲ層	土師器 費	— (4.5)	底部は平底。胴部下端は大きく開いて立ち上がる。	胴部外面は縦方向や斜方向のヘラケズリ調整。底部外面もヘラケズリ調整。内面はヘラ状工具によるナデ調整が施される。	角閃石 石英	良好	外面 7.5YR5/3 にぶい褐色 内面 10YR7/2 にぶい黄褐色	底部片	底部外面黒変 武蔵型費

第58表 古代土製品観察表

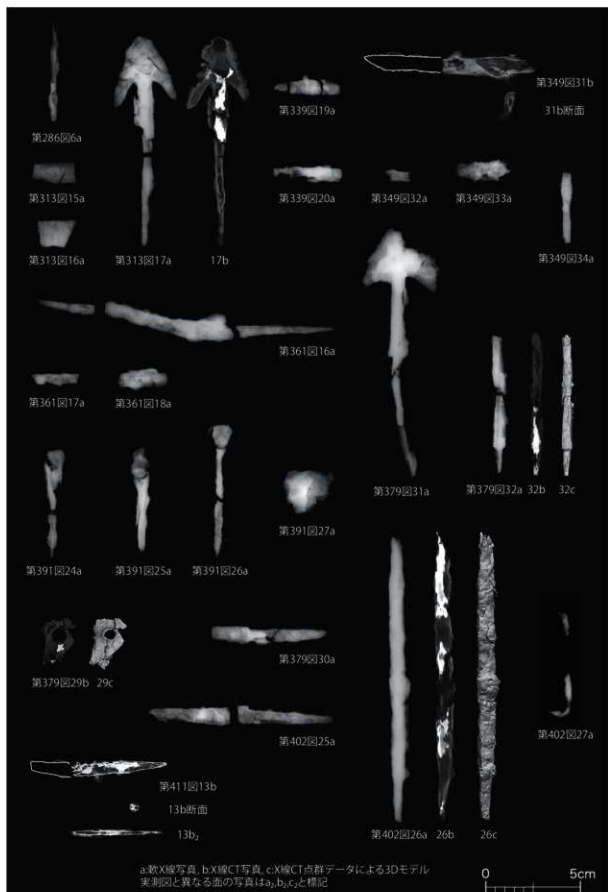
図番号	遺構名	層位	種別	法量 (cm/g)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
第378-381図27	S129	壁構内	紡錘車	4.3	4.3	2.8	53.4	
第402-403図23	S132	甕土下層(甕土内)	紡錘車	6.5	6.5	1.0	49.3	須恵器片利用
第419-421図20	S136	臥床内	紡錘車未成品	6.4	6.4	6.0	34.3	須恵器片利用
第419-421図21	S136	甕土中層	紡錘車未成品	6.2	6.2	8.0	36.2	須恵器片利用
第419-421図22	S136	甕土中層	土師	2.7	1.3	1.3	4.3	管状土師
第419-421図23	S136	甕土下層	土師	4.0	1.7	1.7	14.0	管状土師
第419-421図24	S136	甕土下層	土師	4.4	1.7	1.7	15.3	管状土師

第59表 古代研磨片観察表

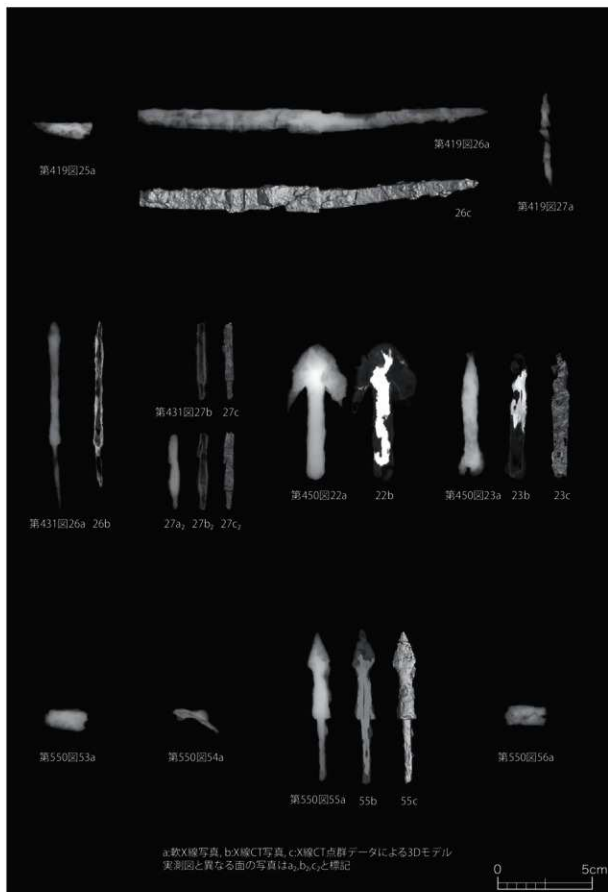
図番号	遺構名	層位	種別	法量 (cm/g)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
第544-545図2	SS9	甕土	須恵器研磨片	7.0	12.8	1.1	103.5	
第550-552図51	包含層 (310-58)	Ⅱ層	土師器研磨片	2.2	3.3	0.9	10.8	
第550-552図52	包含層 (320-43)	一括	須恵器研磨片	4.1	3.2	1.0	17.0	

第60表 古代土製品観察表

図番号	遺構名	層位	種別	石材	法量 (cm/g)				備考
					長さ	幅	厚さ	重量	
第296-297図19	S119	床面	台石	砂岩	37.4	20.1	21.5	25,000.0	下部は床面に埋没
第379-382図28	S129	床面	磨石	変質安山岩	15.3	12.5	5.5	1,632.0	
第391-393図23	S130	床面	磨石	磨石	3.9	2.8	2.5	6.6	
第402-403図24	S132	甕土下層	磨石	変質流紋岩	5.9	3.9	2.7	68.4	
第431-433図25	S140	甕土中層	有孔土製品	滑石	2.3	1.3	0.4	1.5	カマド付近で出土



第553図 金属製品軟X線・X線CT写真(1)



第554図 金属製品軟X線・X線CT写真(2)

第 61 表 古代金属製品観察表

図番号	数X線・X線CT写真	遺構名 (グラフィック)	層位	材質	器種	法量 (mm,g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重量	
第286-287図6	第553図	S18	覆土上層	鉄	釘	60.0	4.0	4.0	3.1	EDXによる元素組成分析(補正値) 銅46.1%, スズ52.9%, ヒ素0.3%, 鉛0.8%
第313-314図15		S121	床面	青銅 (位流埋)	不明	23.0	12.0	0.5以下	0.6	
第313-314図16		S121	床面	青銅 (位流埋)	不明	21.0	15.0	0.5以下	0.9	EDXによる元素組成分析(補正値) 銅48.8%, スズ50.2%, ヒ素0.3%, 鉛0.8%
第313-314図17		S121	船床内	鉄	鉄鏝	113.0	36.0	3.0	15.4	完形
第339-340図19		S125	船床内	鉄	刀子	35.0	8.5	3.0	2.1	
第339-340図20		S125	覆土上層	鉄	刀子	33.0	9.0	3.5	3.3	本質部残存
第349-351図31		S126	床面	鉄	刀子	89.5	13.0	3.0	6.8	
第349-351図32		S126	床面	鉄	刀子	16.0	7.0	3.0	0.7	
第349-351図33		S126	覆土中層	鉄	鍔柄具	31.0	10.5	2.0	2.2	
第349-351図34		S126	覆土上層	鉄	釘	44.0	5.0	5.0	3.6	
第361-363図17		S127	床面	鉄	刀子	149.0	10.0	4.5	11.2	完形
第361-363図18		S127	覆土中層	鉄	刀子	28.0	6.5	2.0	1.1	
第379-382図29		S127	覆土中層	鉄	刀子	28.0	10.0	3.0	2.2	
第379-382図30		S129	覆土中層	鉄	不明	27.0	17.0	1.0	2.4	
第379-382図31		S129	覆土中層	鉄	刀子	62.0	10.6	3.5	4.9	
第379-382図32		S129	床面	鉄	鉄鏝	136.0	42.0	5.0	23.8	ほぼ完形
第379-382図33		S129	覆土上層	鉄	鉄鏝	75.0	6.5	5.0	8.0	
第391-393図24		S130	床面	鉄	鉄鏝	57.0	11.0	5.0	5.6	
第391-393図25		S130	床面	鉄	鉄鏝	69.0	11.0	5.0	5.1	
第391-393図26		S130	床面	鉄	鉄鏝	71.0	13.0	4.0	5.7	
第391-393図27		S130	覆土下層	鉄	不明	26.0	31.0	3.0	3.6	
第402-404図25		S132	覆土下層	鉄	刀子	96.0	11.0	3.0	5.9	完形、本質部残存
第402-404図26		S132	覆土下層	鉄	不明	153.0	9.0	6.0	28.2	
第402-404図27		S132	覆土下層 カマド内	鉄	釘	(55.0)	4.0	3.0	2.1	長さは推定
第411-412図13	第554図	S133	床面	鉄	刀子	72.0	8.0	2.0	3.1	本質部残存
第419-421図25		S136	覆土下層	鉄	刀子	33.0	10.0	2.5	1.8	
第419-421図26		S136	覆土下層	鉄	刀子	187.0	14.0	5.0	23.9	
第419-421図27		S136	覆土下層	鉄	釘	44.0	4.0	4.0	2.9	
第431-433図26		S140	床面	鉄	鉄鏝	102.0	8.5	5.0	7.1	完形
第431-433図27		S140	覆土中層	鉄	鉄鏝	41.0	5.5	5.0	3.6	
第450-451図22		S153	覆土下層	鉄	鉄鏝	72.0	30.0	6.5	25.2	
第450-451図23		S153	覆土中層	鉄	不明	65.0	9.0	4.0	8.4	
第550-552図53		包含層 (30P-46)	Ⅱ層	鉄	刀子	24.5	13.5	2.5	3.1	
第550-552図54		包含層 (30O-98)	Ⅱ層	鉄	刀子	27.0	6.0	3.5	1.2	
第550-552図55		包含層 (33N-72)	Ⅱ層	鉄	鉄鏝	81.0	13.5	8.0	12.6	完形
第550-552図56		包含層 (32O-14)	Ⅱ層	鉄	鍔柄具	25.0	11.0	2.0	2.3	